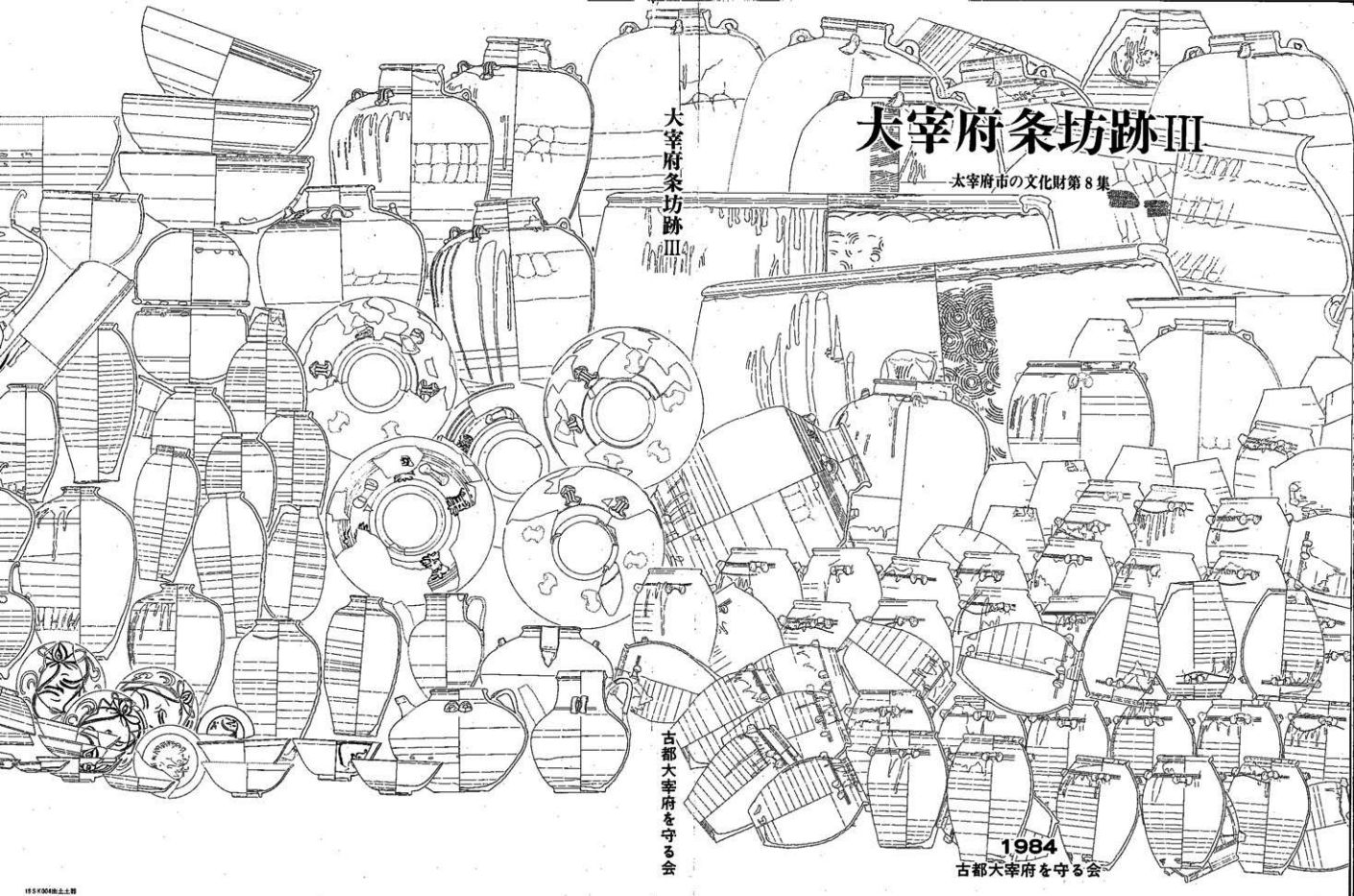


大宰府条坊跡Ⅲ

太宰府市の文化財第8集

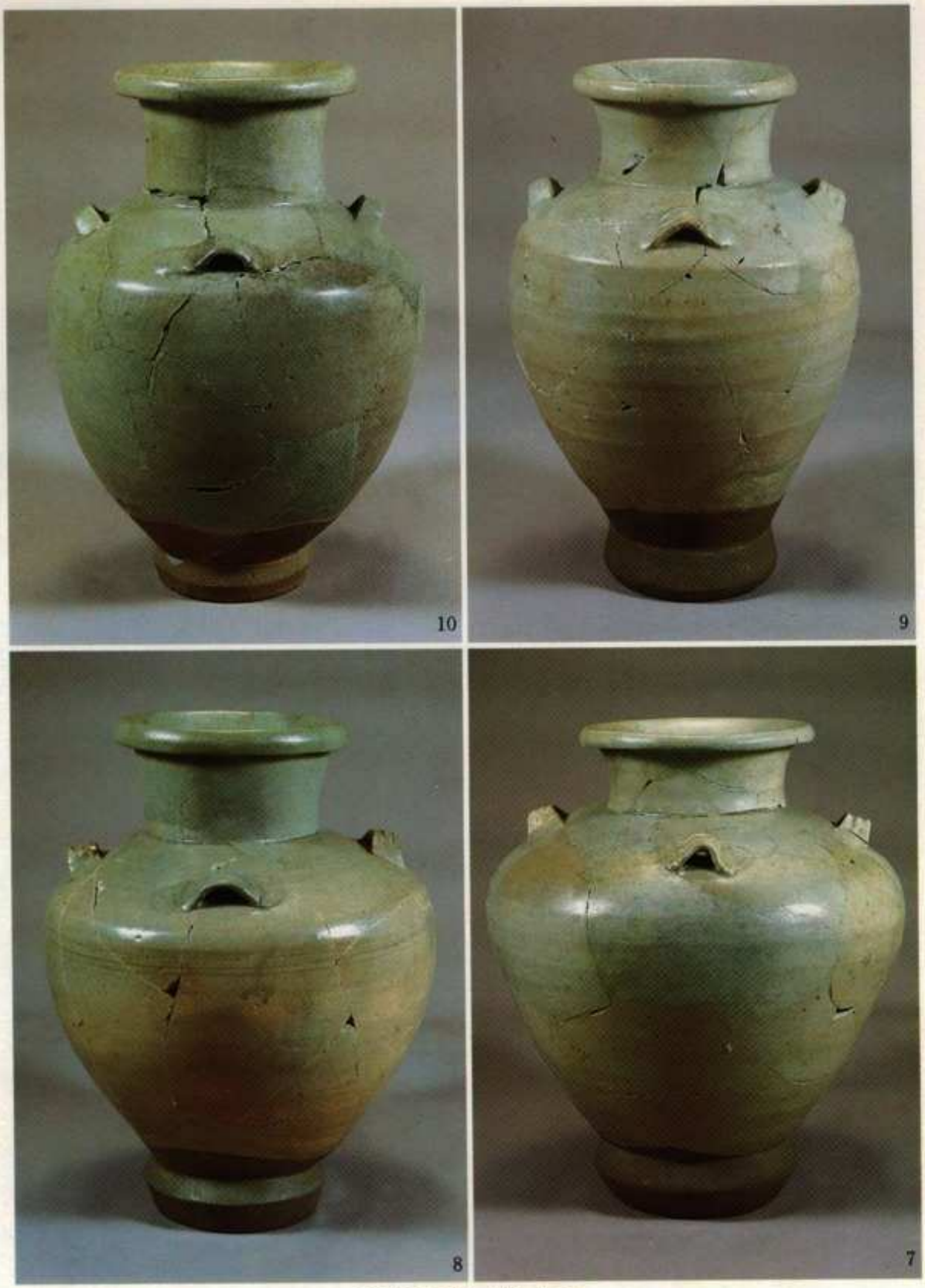
1984

古都大宰府を守る会

大宰府条坊跡Ⅲ

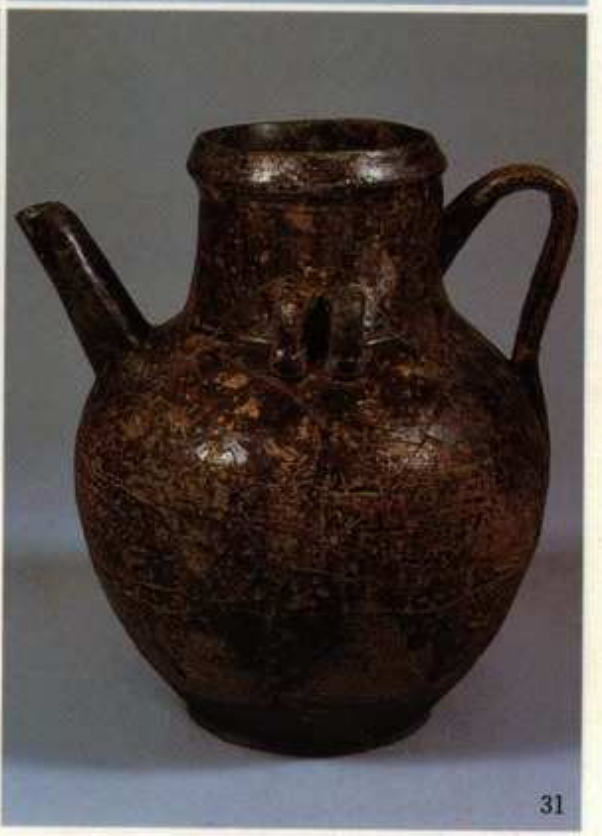
古都大宰府を守る会

185K004㈱土土舗



19SK004出土白磁四耳壺

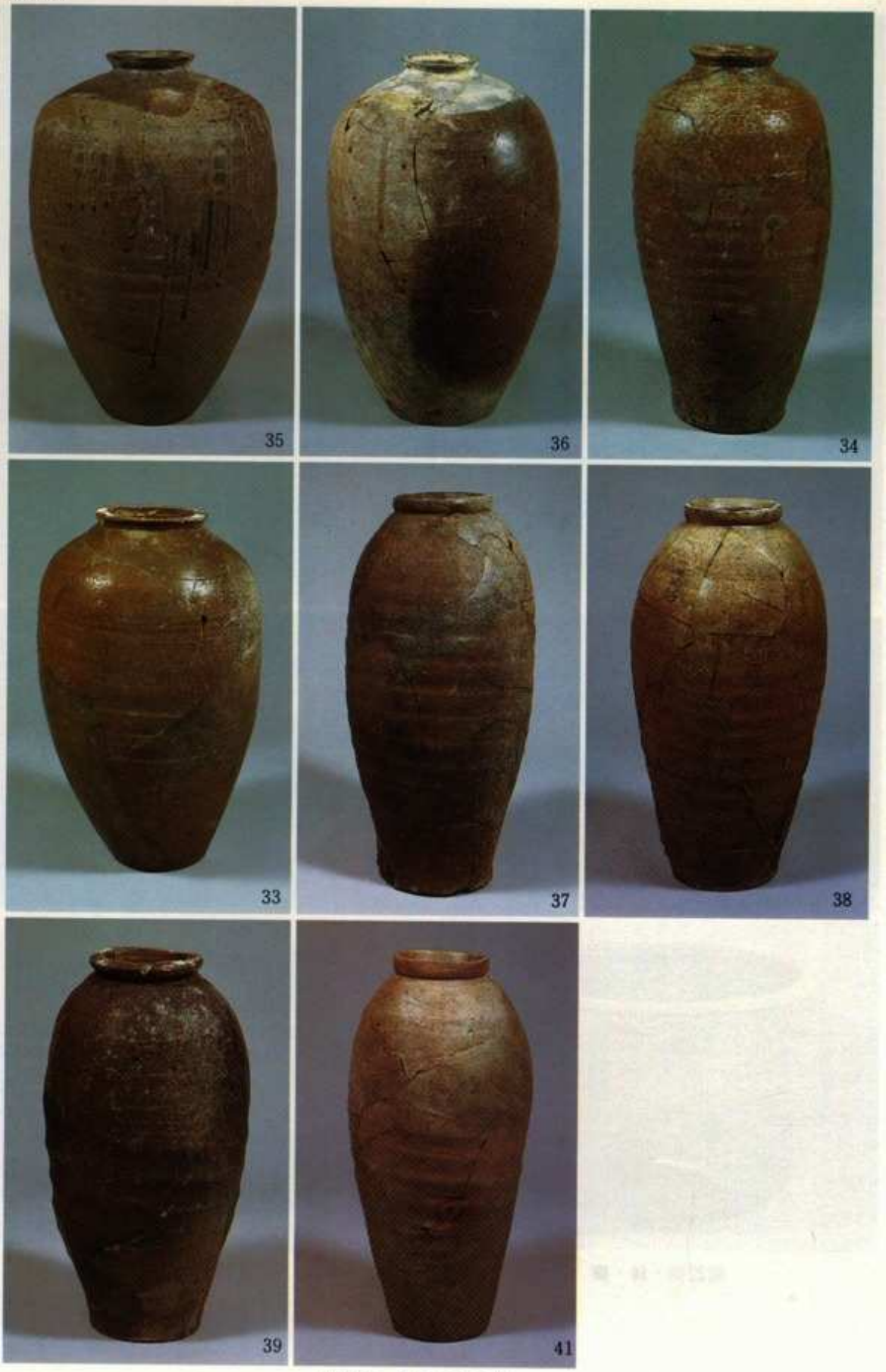
Pla. 2



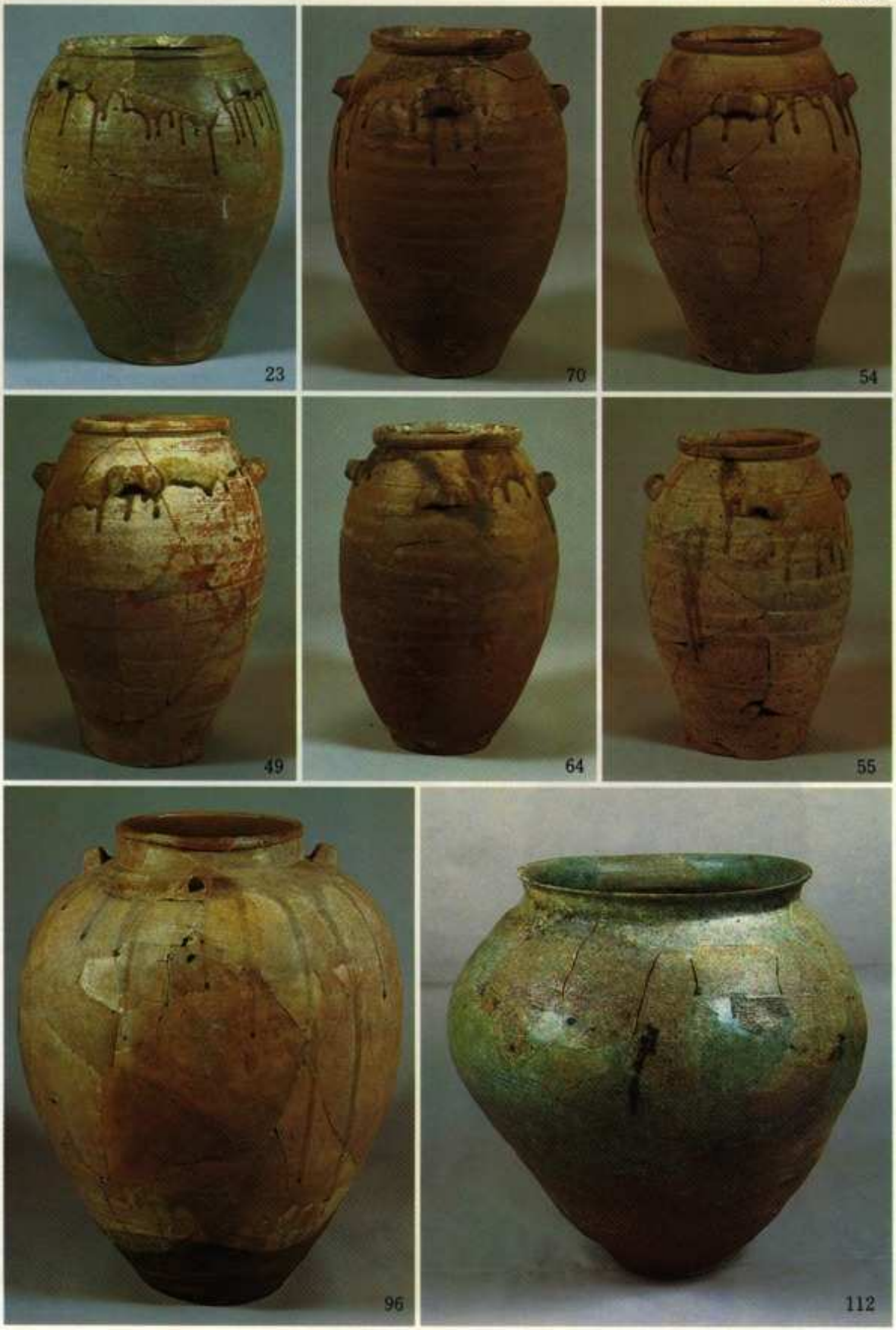
陶器水注
27：19S D001下層出土
他は19S K004出土

陶器盤・鉢・甕　25：第19次調査暗褐色土層出土　他は19ＳＫ004出土

Pla. 4

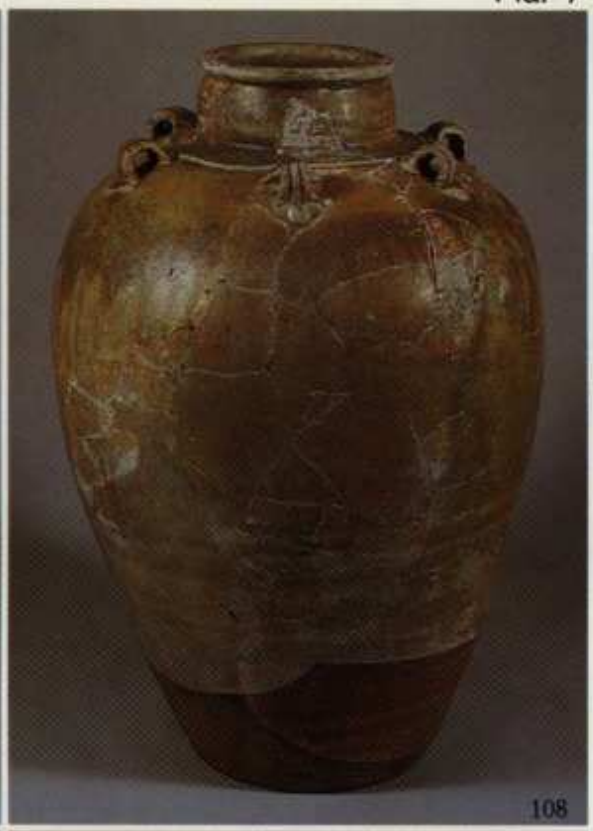


陶器壺　19ＳＫ004出土



陶器四耳壺・常滑甕　23：19ＳＤ001下層出土　他は19ＳＫ004出土

陶器四耳壺　19ＳＫ004出土



陶器六耳・双耳壺　19ＳＫ004出土

Pla. 8

陶器・青白磁燭台　32～34：19D001下層出土

螺形磬鋳型　10：第27―1次調査暗灰色粘土層出土

序　文

本書は、太宰府市が昭和54年度から実施した大宰府条坊跡調査報告の第３集にあたるものである。これまで太宰府における調査の主眼は政庁、学校院、観世音寺など当時の政治、文化を象徴する分野に注がれ、古代社会の基盤をなした一般集落の解明はややたち遅れてきた観がある。当時の社会を解明するには庶民文化の内容にメスを入れる必要がある。条坊地域の調査はこうした広義の大宰府を検証していく作業である。発掘された遺物、遺構には人々の技術、創造、生活の中の喜怒哀楽などが投影されており、私たちの感動を呼び起こす。現代社会は機械と頭脳が進歩してきたため人間自らの技術は大極的には低下し、統一体としての人間のバランスは失なわれてきつつある。こうした現代における精神世界の矛盾を克服するには、歴史を通じて人間性における価値観を見つめ直すことが必要であろう。条坊跡における土木、建築、集落構造などの系統的、具体的な解明は、今、開始されたばかりである。今後、古代の精神世界と環境を追求するにあたり、本書がこうした分野に一つの手がかりを与えてくれるならば、国民の一人として願ってもないことである。

連日の作業は地元の市民の手で完璧に終了することができ、土地所有者の方々の理解について厚くお礼申し上げる。

昭和59年３月31日

太宰府市教育委員会
教育長　陶山　直次郎

目　次

Ⅰ．序　章　　頁
調査経過と概要……1
条坊内の調査次数……2
Ⅱ．遺跡の概要
1．第17次調査……4
2．第19次調査……7
3．第20次調査……62
4．第21次調査……62
5．第22次調査……63
6．第23次調査……65
7．第24次調査……67
8．第25―1・2次調査……72
9．第26次調査……73
10　第27―1次調査……75
11．第27―2次調査……86
12．第28次調査……93
13．その他の遺物……94
14．17ＳＥ001井戸枠の樹種鑑定……103
別表1……105
別表2……110
付編Ⅰ……1
付編Ⅱ……4

例　言

1．本書は1981年度大宰府条坊跡発掘調査の概要である。調査は国、県費補助を受け実施した。

2．調査組織

調査主体　太宰府市教育委員会

総　括	教育長	陶山直次郎
庶　務	社会教育課長	西山　義則
	文化財係長	黒板　　力
	文化財係主事	岡部　大治
調査担当	文化財係技師	山本　信夫

3．本書の執筆分担

第Ⅰ章、第Ⅱ章1～12、付編Ⅰ．Ⅱ……山本　信夫
第Ⅱ章13……狭川　真一（太宰府市文化財係技師）
第Ⅱ章14……北野　信彦（元興寺文化財研究所）
編集……山本信夫
遺構実測……山本信夫、岡部大治
遺物実測……狭川真一、狭川麻子、山本信夫
製図（トレース）……狭川真一
遺構写真撮影……山本信夫
遺物写真撮影……岡紀久夫

また次のような方々に専門的ご指導をいただいた。

横田義章氏（九州歴史資料館学芸第2課・木製品保存処理）、阪田宗彦氏（奈良国立博物館、馨など金属工芸）、石松好雄・横田賢次郎・森田勉・高橋章氏（九州歴史資料館調査課・調査測量）

Ⅰ　序章

調査経過と概要（fig. 1，82）

昭和56年度の調査地域は次の３つに大きく分かれる。

（1）６ＡＹＥ、６ＡＹＩ地区……第18～32－２次調査

（2）６ＡＹＱ地区……第17次調査

（3）６ＡＹＮ－Ｂ……第16次調査（条坊Ⅱ報告済み）

（1）、（2）は昭和56年度の太宰府市土地区画整理事業に先だつ発掘調査で（3）は民間の宅地開発に伴う緊急調査である。（1）は県道関屋－吉木線の南側一帯、すなわち学校院跡、観世音寺の南側隣接地域にあたり、条坊の位置の上では最も重要な地域の一つである。これらの地域については平面発掘の必要性も考えられたが、区画整理の工事などで遺構を破壊される道路予定地についてのみ調査を実施した。

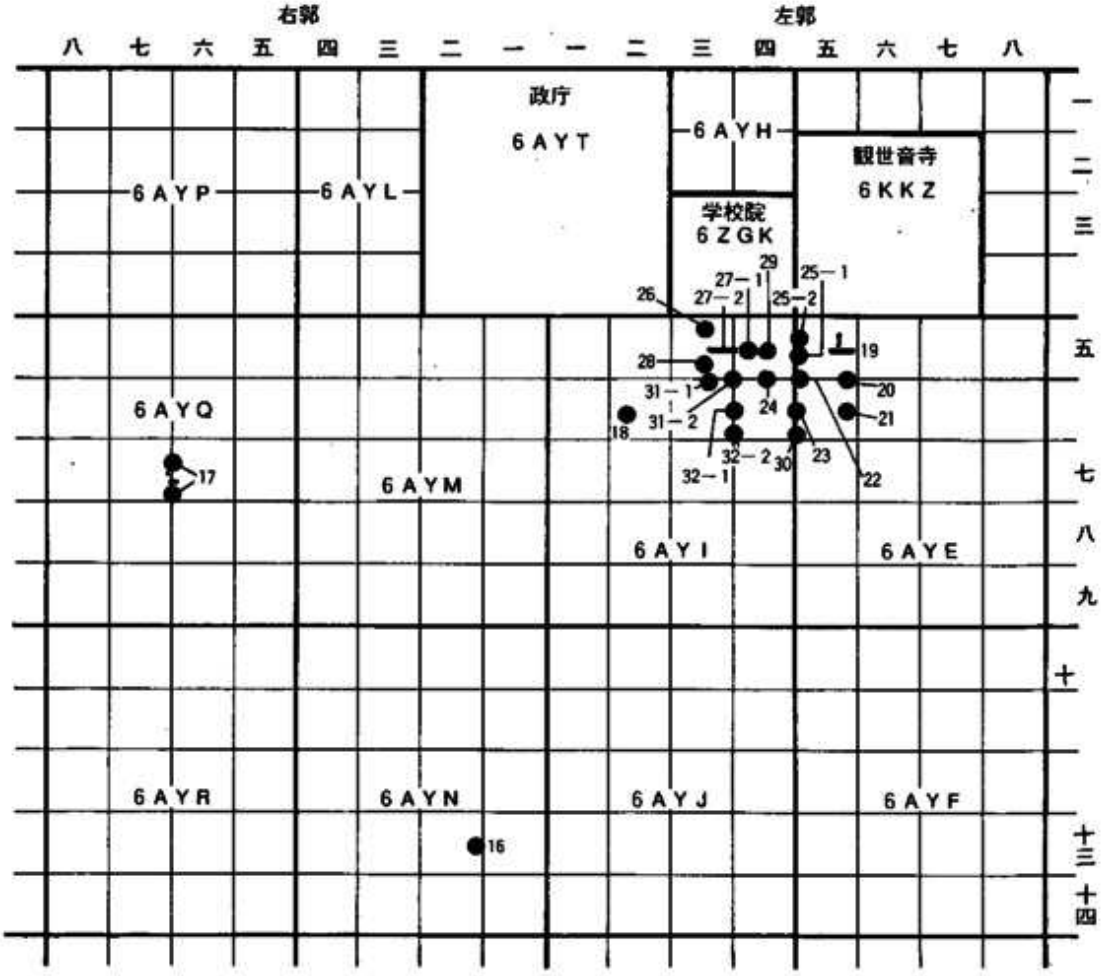


fig. 1　調査地点

条坊内の調査次数（tab. 1）

太宰府市教育委員会による条坊地域の発掘調査については、各年度のトレンチ番号などで調査位置を明らかにしてきたのであるが、今後は各地点の調査を次数番号で表示することにする。

条坊地域内の調査については、福岡県教育委員会、九州歴史資料館が行なった大宰府史跡及び南バイパス（御笠川南条坊）の報告で各々単独の次数が付けられている。これらの調査次数と混同しないように太宰府市で独自に条坊内での調査次数番号を付す。仮りに本文中で各調査次数を引用する時は、

大○○次……大宰府史跡関係

南○○次……南バイパス関係

条○○次……太宰府市、大宰府条坊調査

の略号をもって表示する。

現在までに太宰府市で行なった条坊内調査個所と次数については条坊Ⅰ、Ⅱにおいて明記していないため tab. 1 に補足した。

本文の遺構、遺物で使用する各種の略記号については付編に説明を補足した。とくに説明を加えないものについては既刊行の『大宰府条坊跡Ⅰ』および『Ⅱ』を参照されたい。遺構出土遺物の種類、点数は巻末の別表1を参照。土師器の計測値は別表2を参照。別表1、2から遺物組成の把握が可能である。

tab. 1. 調査次数一覧表

調査次数	年度	トレンチ番号	遺構番号	地割略号	推定条坊	地番	調査期間	検出遺構
1	1979	1		6AYQ−D	右郭六条八坊	大字通古賀字平田326−1	79.12.10〜12.12	
1	〃	2		〃	〃	〃 〃 312	79.12.10	
1	〃	3		〃	〃	〃 〃 325	79.12.10	
1	〃	4		6AYV−A	右郭六条九坊	〃 〃 329	79.12.10	
2	〃	5		6AYQ−D	右郭七条八坊	〃 317−1	79.12.11〜12.12	門み
2	〃	6	001	6AYQ−C	右郭七条七坊	〃 〃 283	79.12.11〜80.1.14	奈良時代、L字溝1
2	〃	7		〃	〃	〃 〃 〃	79.12.11	
2	〃	8		6AYQ−D	右郭七条八坊	〃 〃 317−1	79.12.12	
2	〃	9		6AYQ−C	右郭七条七坊	〃 〃 283	79.12.14	
2	〃	10		〃	〃	〃 〃 〃	79.12.14〜12.18	
2	〃	11		〃	〃	〃 〃 316−1	79.12.14〜12.18	
2	〃	12		〃	〃	〃 〃 283	79.12.14〜12.18	
2	〃	13	001	〃	〃	〃 〃 〃	79.12.17〜12.18	001の南延長
2	〃	14		〃	〃	〃 〃 〃	79.12.17〜12.18	001の南延長
2	〃	15	001	〃	〃	〃 〃 316−1	79.12.17〜12.18	001の西延長
2	〃	16	001	〃	〃	〃 〃 283	79.12.17〜12.26	001の南延長
2	〃	17		6AYQ−D	右郭七条八坊	〃 〃 318−1	79.12.18〜12.26	
3	〃			6AYQ−D	右郭七条八坊	〃 字手田・権入	79.12.11〜12.13	
4	〃			6AYQ−C 6AYR−D	右郭九・十条七坊	〃 字前田中・権入	79.12.13〜	
5	〃	18	005〜009	6AYR−B	右郭十条六坊	〃 字西ノ後530	79.12.20〜80.1.14	平安時代、井戸、ピット
5	〃	19	010〜015	〃	〃	〃 〃 531	79.12.20〜80.1.14	奈良時代、土壙1、平安時代、東西溝1、ピット
5	〃	20		〃	〃	〃 〃 530	79.12.20	

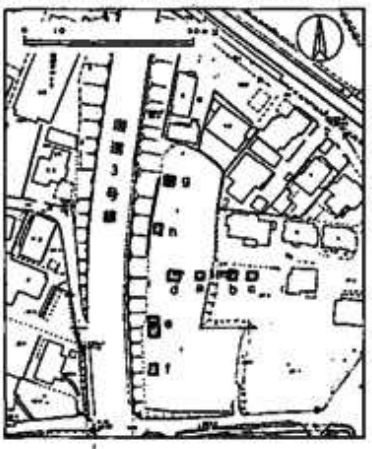
調査次数	年度	トレンチ番号	遺構番号	地割略号	推定条坊	地番	調査期間	検出遺構
5	1979	21		6AYR−B	右郭十一条六坊	大字過古賀字西ノ後552-1	79.12.20〜12.26	平安時代ピット
5	〃	22		〃	右郭十条六坊	〃 〃 554	79.12.20〜12.26	
5	〃	23		〃	右郭十一条六坊	〃 〃 553	79.12.20〜80.1.8	
5	〃	24		〃	右郭十条六坊	〃 〃 530	79.12.20〜80.1.8	
6	1980		020〜024	6AYE−B	左郭八条七坊	大字太宰府字月見山2705-1	1980.8.6〜8.11	中世、土壙3、ピット
7	1980	1		6AYQ−B	右郭七条六坊	大字過古賀字古川365-3	1980.11.27〜12.4	
7	〃	2		6AYQ−A	右郭七条五坊	〃 〃 373-8	1980.12.1〜12.4	
7	〃	3		〃	右郭八条五坊	〃 〃 373-6	1980.12.1〜12・3	
7	〃	4	030	6AYQ−B	右郭八条六坊	〃 〃 375-1	1980.12.1〜12.10	中世杭列1
7	〃	5		〃	右郭八条六坊	〃 字半田265-3	1980.12.2〜12.4	
8	〃	6		〃	右郭八条六坊	〃 字塩入255-13	1980.12.4〜12.10	
8	〃	7		〃	右郭九条六坊	〃 字北ノ橋392	1980.12.4〜12.10	
8	〃	8	031〜035	〃	右郭九条六坊	〃 〃 404	1980.12.5〜12.17	平安時代、南北溝1、ピット
9	〃	9	036〜039	6AYM−B	右郭八条二坊	〃 字丸石55-1	1980.12.10〜12.18	平安〜中世のピット群、東西溝1
10	〃	13		6AYM−D	右郭八条四坊	〃 字東蓮寺81	1981.2	
11−1	〃	10		6AYE−A	左郭五条八坊	大字観世音寺字幕切93-14	1980.1.9	
11−2	〃	11	040〜059	6AYE−A	左郭五条八坊	〃 80-1	1980.1.9〜1.21	平安〜中世、溝、土壙、ピット
12	〃	12	060〜061	6AYE−B	左郭五条七坊	〃 93-4	1980.1.13〜1.26	中世、南北溝1
13	〃		085〜086	6AYP−A・B	右郭一・二条五・六坊	大字坂本字大正府64-1.65	1980.12.17〜12.26	中世墳墓2
14	〃	14	065〜070	6AYE−C	左郭五条六坊	大字観世音寺字幕切102-1〜4 103-1〜6	1980.6.10〜7.25	平安〜中世、井戸、土壙、ピット
15	1980	15	075〜080	6AYQ−B	右郭八条六坊	大字過古賀字半田265-4	1981.3.11〜3.19	奈良〜平安時代、ピット。平安時代土壙（井戸？）2
16	1981		087〜095	6AYN−B	右郭十三条二坊	大字過古賀字鶴畑1018-1 1018-8 260	1981.6.9〜7.31	奈良〜平安時代、ピット。平安時代、溝、土壙、ピット
17	〃	1	001〜003	6AYQ−B・C	右郭七条六・七坊	大字過古賀字半田265 263	1981.9.7〜9.14	奈良時代、井戸1。平安時代、井戸1
18	〃	2		6AYI−C	左郭六条二坊	大字観世音寺字日吉259-9	1981.9.30〜10.14	
19	〃	3	001〜080	6AYE−D	左郭五条五坊	大字観世音寺字土居ノ内150 162	1981.10.14〜82.1.14	奈良時代、溝1。平安時代、溝1、土壙、ピット。鎌倉〜室町時代、溝1、土壙、ピットなど。2層の遺構面を検出。
20	〃	4		〃	左郭六条五坊	大字観世音寺字土居ノ内165-1	1981.11.19	
21	〃	5		〃	左郭六条五坊	大字観世音寺字土居ノ内124	1981.11.20	
22	〃	6	105〜107	〃	左郭六条四、五坊	大字観世音寺字土居ノ内145	1981.11.20〜12.4	平安時代、遺物包含層。中世、溝、掘立柱。
23	〃	7	100〜104	〃	〃	大字観世音寺字土居ノ内134-2	1981.11.20〜12.1	平安時代、中世、2層の遺構面を検出。
24	〃	8	108〜120	6AYI−A	左郭六条四坊	大字観世音寺字土居ノ内140-1	1981.12.5〜12.15	平安時代、土壙1、井戸1、ピット、2層の遺構面を検出。
25−1	〃	9		6AYE−D	左郭五条五坊	大字観世音寺字土居ノ内145	1981.12.9	
25−2	〃	10	121〜127	〃	〃	大字観世音寺字土居ノ内144	1981.12.9〜12.16	平安時代〜中世、土壙、ピット
26	〃	11	250〜272	6AYI−B	左郭五条三坊	大字観世音寺字五反田249-1	1981.12.9〜2.17	奈良時代、溝1。平安時代、溝2、井戸1、土壙、ピット。中世ピット、2層の遺構面を検出。
27−1	〃	12	200〜229	6AYI−A	左郭五条四坊	大字観世音寺字土居ノ内140-4	1981.12.10〜2.9	平安時代、小溝、土壙、ピット　2層の遺構面を検出
27−2	〃	13	130〜199 230〜236	6AYI−A・B	左郭六条三、四坊	大字観世音寺字五反田249-1 233	1981.12.10〜2.23	奈良時代土壙1。平安時代溝2、小溝、土壙、ピット、2層の遺構面を検出。
28	〃	14	280	6AYI−B	左郭五条三坊	大字観世音寺字五反田249-1	1982.1.27〜2.10	平安時代ピット1
29	〃	15		6AYI−A	左郭六条四坊	大字観世音寺字土居ノ内145-1	1981.12.9	中世、井戸1
30	〃	16		6AYE−D	左郭六条四・五坊	大字観世音寺字土居ノ内134-1	1981.12.10	
31−1	〃	17		6AYI−B	左郭六条三坊	大字観世音寺字五反田235	1981.12.10	
31−2	〃	18		6AYI−A・B	〃	大字観世音寺字五反田235	1981.12.10	
32−1	1981	19		6AYI−A・B	左郭六条三坊	大字観世音寺字五反田236	1981.12.10	
32−2	〃	20		〃	〃	大字観世音寺字五反田238-1	1981.12.10	

Ⅱ　遺跡の概要

1　第17次調査

土層

第17次調査は、推定右郭七条、六・七坊の境に近接する地域で、区画道路計画地にＴ字形配列の８個所のグリッドを設定した。東側ｂ、ｃグリッドは現代の盛土があり、この下の表土（耕作土）を除去すると青灰色粘質土の地山が認められた。ａ、ｄ－ｆのグリッドは耕作土を除去すると地山が認められた。地山検出面は浅く、遺構面は過去に国道３号線建設などの道路建設で削平されている。この結果ピットなどの浅い遺構は消滅しているが、井戸などの比較的深く掘りこむ遺構は残存しており、ｇ、ｅグリッドで各１基検出された。



検出遺構（fig. 2、pla. 9）

17ＳＥ001　井戸Ⅰ類。ｅグリッドで検出された。掘形は円形で長軸×短軸は2.1×2.0m、深さ1.2m。井戸側は一木の芯部をくり抜いた筒状のもので、上端は腐朽している。外径81cm、内径70cm、厚さ約５cm、高さ87cm。下端近くに方孔（いかだ穴と思われる）が２ヶ所あるが、外側から小石、土器片あるいは板材などを使って孔を埋めている。カシ材（Ｐ103参照）。

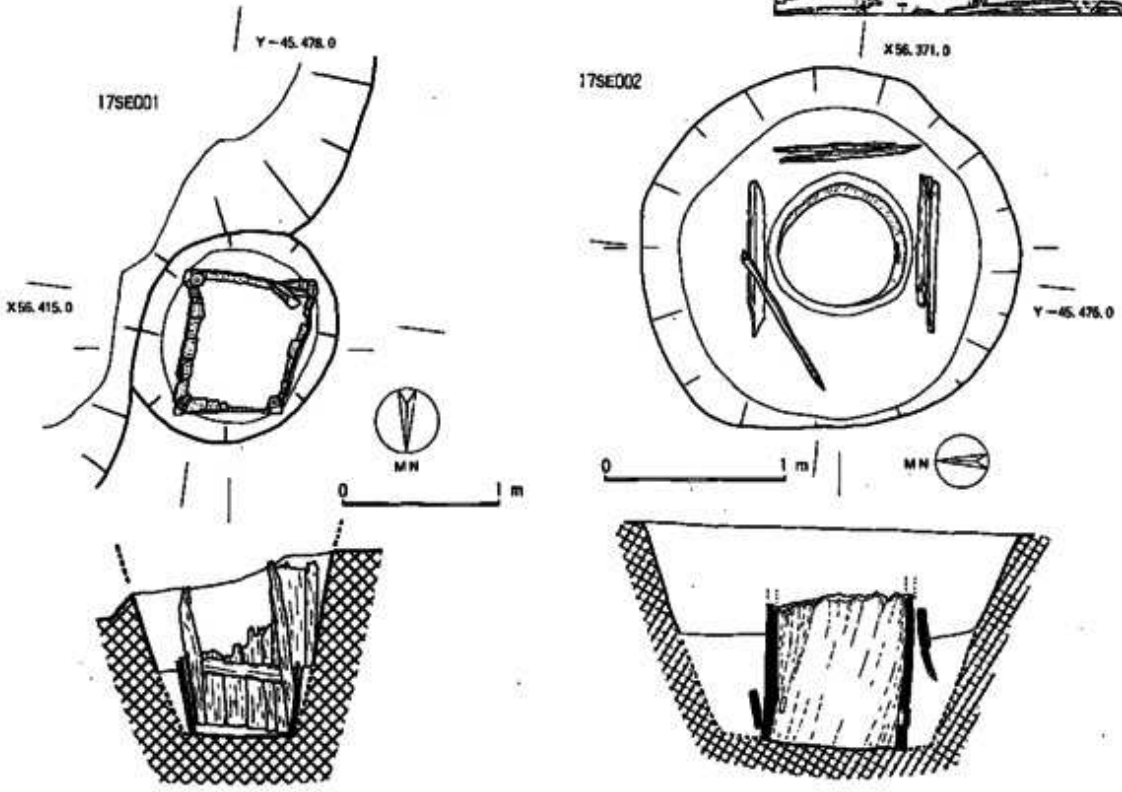


fig. 2　第17次調査17ＳＥ001、17ＳＥ002実測図、グリッド配置図

17ＳＥ002　ⅡＡ類。gグリッドで検出した。掘形の上面は円形で径1.25ｍ、深さ1.2ｍ。縦板に方形枠を組み合わせたもの。四隅に隅木を配し、南側では横桟と隅木は枘組で固定する。他の部分は横桟を欠損する。外側の縦板は前後に２枚を重ね、内側板のすきまを埋めるように外側板を少しずらして重ねている。枠は底面で南辺0.5ｍ、東辺0.75ｍ。

17ＳＸ003　17ＳＥ002より新しい落ち込み。

出土遺物

17ＳＥ001出土土器（fig. 3、別表１・２）

井戸を構築する際の井戸枠の裏込めと井戸廃絶後の井戸埋土から遺物を検出した。

土師器

杯ｄ（１）　器面はかなり風化しているが体部内外面にミガキａを加えた痕跡が認められる。底部は回転ヘラ削りされる。井戸埋土層出土　。

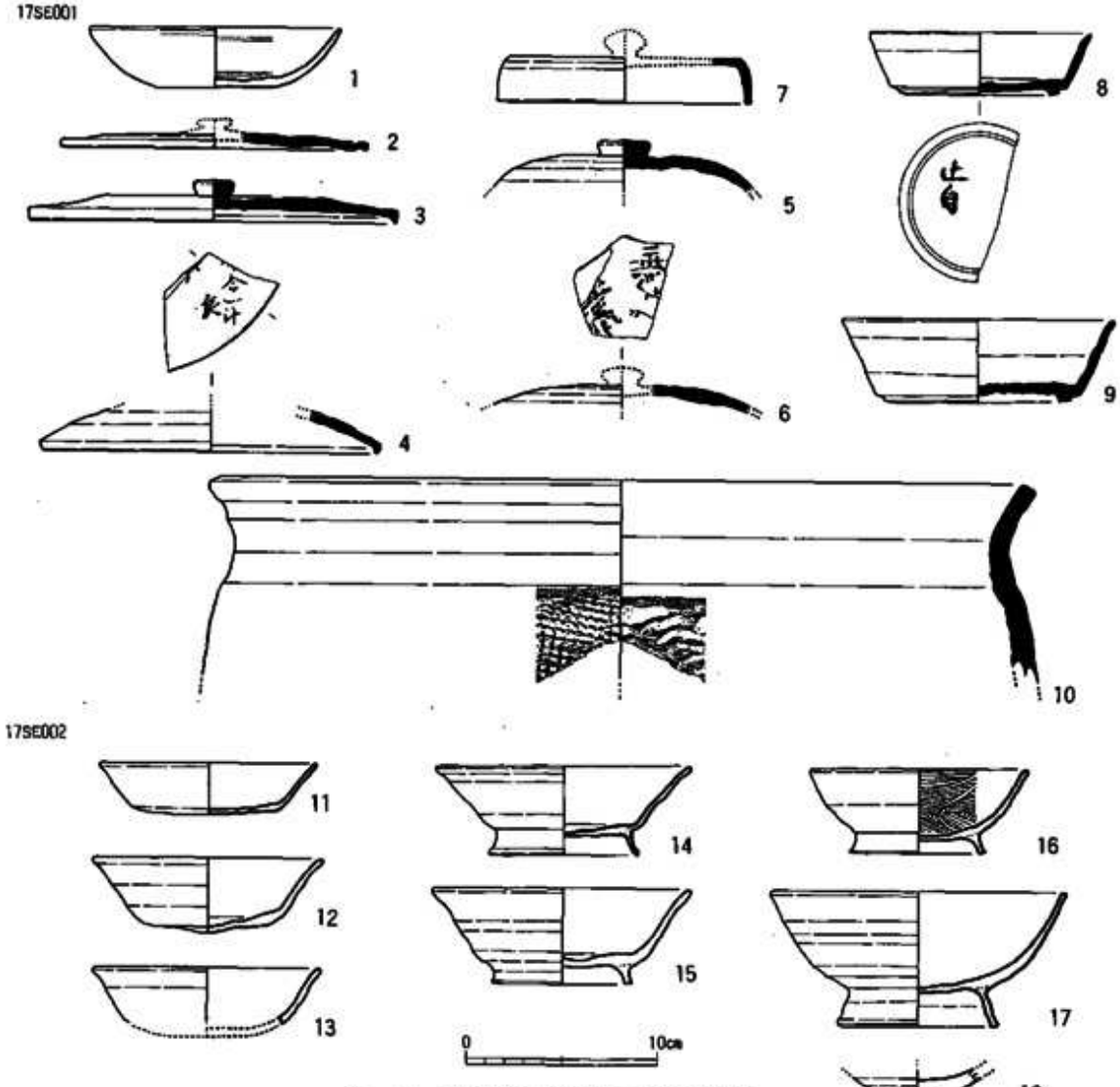


fig. 3　17SE001.002出土土器実測図

須恵器

蓋c（2～6）　3、4は端部を三角形につくるc3型で、2は丸味を帯び不明瞭な端部となった退化形のc3である。2～6の天井部は回転ヘラ削りされる。4、5、6は天井部外面に墨書される。4は「□合一汁ヵ食」と判読できるが、さらに左上にも墨書がある。6は多くの文字の痕跡を認めることができるが判読は困難である。5、6は内面に墨が付着し擦痕があり、杯蓋硯として転用されたものである。2、4、5、6は埋土層、3は裏込めから出土。

この他図示しなかったが退化形のc3型で天井部をヘラ切り離しのまま再調整を加えない蓋（杯蓋硯に使用）1点、端部が長めに屈折するc2型に近い蓋1点が裏込めから出土した。

壺蓋a（7）　天井部外面及び外縁をていねいにヘラ削りされる。埋土層出土。

杯c（8・9）　底部から直線的にたち上がる体部で下位に強い稜を有する。底部外面中央はヘラ切りのまま削り調整を加えていない。高台は断面四角で低くつくられる。蓋c3とセットをなすものと思われる。8は底部外面に「止自ヵ」の墨書がある。8は裏込め、9は埋土層出土。

鉢（10）体部外面は格子目、内面は青海波の叩きを有する。内面は叩きの上からナデ、横ナデ調整される。破片には把手の痕跡は認められないが、把手のつく類例がある。井戸埋土層出土。

以上の土器のうち3、7は大SD2340*または条2SD001型、1、2は大SK1280～SE1081型と思われる。

17SE002出土土器（fig. 3、別表1・2）

土師器

杯c（8・9）　底部から直線的にたち上がる体部で下位に強い稜を有する。底部外面中央はヘラ切りのまま削り調整を加えていない。高台は断面四角で低くつくられる。蓋c3とセットをなすものと思われる。8は底部外面に「止自ヵ」の墨書がある。8は裏込め、9は埋土層出土。

中椀c（14・15）　体部は直線的に近く開くc1で、大SK1800型。

黒色土器

椀c（16・17）　内面に燻しを加えたA類。16は中形で、体部はゆるやかなカーブで立ち上がり屈曲は強くない。内面は丁寧なみがきc.を加える。17の内面は丁寧にみがきを加えているが付着物のため器面調整が観察できない。

越州窯系青磁

椀（18）　Ⅱ1a類。体部外面から底部は施釉されず、内面の釉は灰緑色で発色が悪い。

小結

今回の調査成果は次の点に集約される。（1）後世の削平により浅く掘り込む遺構は破壊されているが、奈良、平安時代井戸の検出により条坊地域の一端を知ることができた。（2）墨書土器の出土は、この地域に文字を使用する階層がかかわっていた事を示すものであろう。当地点から西方向70mの地点において、昭和54年度、発掘調査を行なったところ8C**前半の溝条2SD001を検出している。この溝からは墨書土器のほか、武器、農工具、祭祀用具などの木製品を出土している。この地域一帯は、地理的にも条坊地域の中では比較的北側に位置する重要地域であると考えられる。

* 遺構型式略号についてはP2、付編P1・3参照

** century（世紀）の略号。以下同様に使用する。

2　第19次調査

推定左郭五条五坊の東側中央部にあたる。

土層

土層の関係は fig. 4で模式的に表わす。発掘区の東側と西側で堆積の状況が異なる。東側では、上から表土①、床土②、黒褐色土③、黒灰色土④、灰色土⑨、暗褐色土⑩、黄色粘土⑮、灰褐色砂層⑯の順に堆積する。上層遺構は⑨から、下層遺構は⑮から掘り込む。西側では灰色土、暗褐色土、黄色粘土層の堆積はなく、黒褐色土層の下はただちに灰褐色砂層に達する。このため西側では新旧の遺構が灰褐色砂層上面から混在して掘り込む。また地形は南側へ傾斜し、遺構面上を覆う黒灰色土層は南側にかけて厚く堆積する。図示しなかったが黒色粗砂層は東側床土下で⑮の上に認められた浅い凹み状の堆積土。茶色粘土層は19ＳＸ075西側で⑮の上に浅く堆積する。側溝内としたものは黒褐色土層と黒灰色土層の両方を含む。北側に延長したグリッドでは表土、床土の直下に⑮が検出され、この上面から新旧の遺構が掘りこむ。淡灰色土層が一部、遺構を覆う。

検出遺構

溝

19ＳＤ001　Ｌ字形に屈折する溝である。埋土は灰、炭化物を含む黒色土で、下層では顕著に灰が充満している。また全体にブロック状の焼土を含む（fig. 5）。溝の東端部、北端部は検出されており、長距離にわたって連続した溝ではない。排水の目的よりも、むしろ何らかの区画にもとづいてつくられた溝と考えられる。19ＳＫ004、005、045Ａ・Ｂ、050、ＳＸ034、038、054より新しく、19ＳＤ037、ＳＸ007より古い。灰色土層から掘りこむ。検出遺構の中では新期に属する上層遺構。幅1.1－2.2m、東西の長さ22m、南北の長さ16m。深さ１ｍ。14Ｃ前半代。

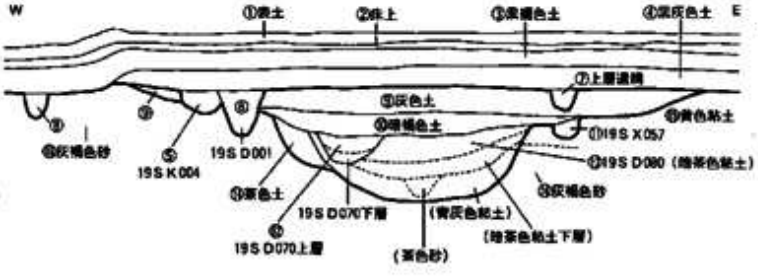


fig. 4　第19次調査土層模式図

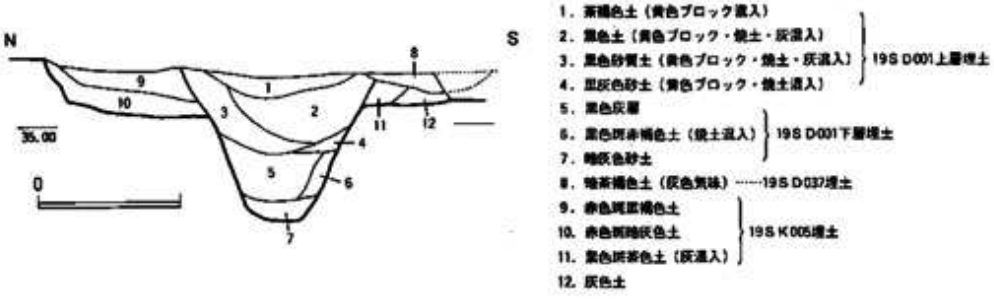


fig. 5　19ＳＤ001土層図

19ＳＤ010　南北溝と推定される。灰褐色砂層から掘り込む上層遺構。19ＳＫ012より古い。幅2.2m、深さ0.5m。近世。

19ＳＤ037　最新期に属する上層遺構。19ＳＫ004、005、ＳＤ001より新しい。幅0.7m。

19ＳＤ066　黄色粘土層から掘り込むが新期に属する東西溝である。19ＳＤ001、ＳＸ067より新しい。幅1.5m、深さ0.1m。

19ＳＤ070　下層遺構。19ＳＤ080と同方向に北東から南西へ流れる。ＳＤ080が完全に埋没した後、

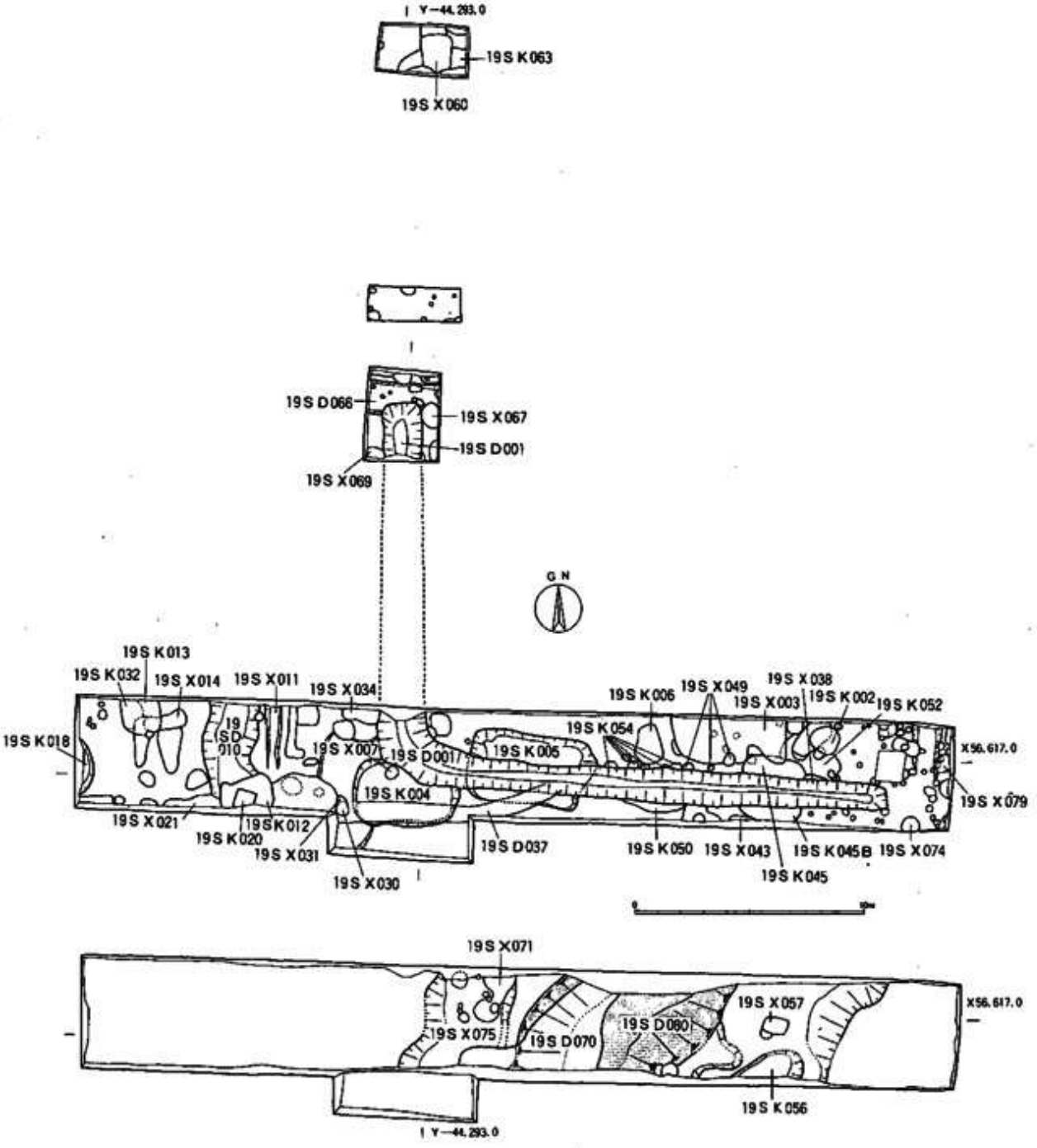


fig. 6　第19次調査遺構配置図

上から掘り込む。幅1.1～2.6m、深さ0.6m。9C前半。

19SD080　下層遺構。今回検出した中では最古期に属する大溝で、北東から南西へ流れる。埋土は上層（暗茶色粘土上層・下層、茶色砂層）と下層（青灰色粘土層、茶色土層）に分かれる（fig. 4）。幅6.5m、深さ1.0～1.3m。8C。

土壙

19SK002　不整形の土壙で、灰色土層から掘り込み、19SK052より新しい。東西1.3m。

19SK004　隅丸長方形で、埋土は灰層からなり、壙内には陶磁器が多量に廃棄された状態で出土した。灰色土層から掘り込み、19SD001、19SX007より古い。長軸4.6m、短軸2.9m、深さ0.3m。13C中頃～14C前半。

19SK005　長方形。灰色土層から掘り込む。19SD001、037より古い。長軸5.5m、短軸3.0m、深さ0.5m。13C前半～中頃か。

19SK006　不整形の土壙で、灰色土から掘り込む。南北は1.7m、東西は1.2m、深さ0.1m。

19SK012　土壙の南側は調査区外であるため全容は不明であるが隅丸方形と考えられる。灰褐色砂層より掘り込み、19SD010、19SX021より新しく19SX020より古い。東西約2.3m、深さ0.5m。近世。

19SK013　不整円形で、灰褐色砂層より掘り込む。19SK032より新しい。東西の長さは1.6m、深さは0.2m。13～14C。

19SK018　井戸の可能性がある。西側は未発掘で全容は不明であるが、平面は円形プランと思われる。灰褐色砂層から掘り込む。13～14C。

19SK032　楕円形。灰褐色砂層より掘り込み19SK013より古い。長径1.2m以上、深さは0.6m。13～14C。

19SK043　南側は発掘区外で未調査。検出した部分の東西は1.1m。灰色土層から掘りこむ。19SK045より新しい。

19SK045A・B　掘形は隅丸方形で井戸の可能性がある。中心部の落ち込み045Bが井戸枠の部分に相当するのかもしれない。灰色土層より掘り込む。19SD001、19SX003、19SX043より古い。東西2.8m、南北2.9m、深さは0.6m。045Bの東西の長さは1.1m。

19SK050　大半を19SD001に切られており形状は不明である。灰色土層より掘り込む。19SD001より古い。残存する東西の長さは2.8m、深さは0.8m。12C中頃～13C。

19SK052　不整円形で、灰色土層から掘りこみ、19SK002より古い。東西の長さは2.5m、深さは0.2m。13C以降。

19SK056　不整形プランを呈する。下層遺構で黄色粘土層から掘り込む。検出した東西の長さは3.0m、深さは0.3m。平安時代。

19SK063　井戸の可能性がある。一部分の発掘にとどまるため全容は明らかでない。黄色粘土層より掘り込み19SX060より古い。13C中頃以降。

その他の遺構

19SX003　灰色土層から掘り込む凹みで最新期の遺構に属する。

19SX007　灰色土層から掘り込み、SK004、SD001より新しい小ピット。

19ＳＸ011　灰褐色砂層から掘り込む浅い小溝。中世。

19ＳＸ014　灰褐色砂層から掘りこみ、19ＳＫ013より古いピット。13～14Ｃ。

19ＳＸ020　19ＳＫ012の上層から掘りこむピット。近世。

19ＳＸ021　灰褐色砂層より掘り込む凹み。19ＳＤ010、ＳＫ012より古い。

19ＳＸ030　灰褐色砂層より掘りこむ小ピット。11Ｃ後半～12Ｃ初頭。

19ＳＸ031　灰色土層より掘り込むピット。

19ＳＸ034　灰褐色砂層より掘り込む凹み。11Ｃ後半～12Ｃ前半。

19ＳＸ038　灰色土層から掘りこみ、19ＳＤ001より古いピット。

19ＳＸ049　灰色土層より掘りこむピット群。

19ＳＸ054　灰色土層より掘りこむピット群。19ＳＤ001より古い。中世。

19ＳＸ055　暗褐色土層の中で一括して出土した遺物のまとまり。11Ｃ後半～12Ｃ前半。

19ＳＸ057　黄色粘土層から掘りこむ下層遺構。方形プランのピット。東西の長さは1.1m、南北は0.7m、深さは0.2m。11Ｃ前半～中頃。

19ＳＸ060　溝の可能性がある。黄色粘土層から掘りこみ、19ＳＫ063より新しい。近世か。

19ＳＸ067　黄色粘土層から掘りこみ、19ＳＤ066より古い。13～14Ｃ。

19ＳＸ069　黄色粘土層から掘りこむピット。

19ＳＸ071　下層遺構のピット。黄色粘土層から掘りこみＳＸ075より新しい。

19ＳＸ074　黄色粘土層から掘りこむピット。13Ｃ初頭～前半。

19ＳＸ075　下層遺構の溝状のもの。黄色粘土層から掘りこみ、19ＳＤ080より古い。検出遺構の中では最古期のもの。８Ｃ前半～中頃。

19ＳＸ079　黄色粘土層から掘りこむピット。12Ｃ中頃。

出土遺物

19ＳＤ001出土土器

上層（fig. 7、pla. 15～16・19、別表１・２）

土師器

小皿ｂ（１）　糸切りされる。口径7.0cm、器高1.5cm。大ＳＫ830～ＳＸ1200（新）型。

小皿ｃ（２・３）　糸切りされた小皿ａに高台を付したもの。口径9.8cm、器高2.3～2.4cm。南Ⅱ１～Ⅱ３型（大ＳＥ721～ＳＫ835型）

杯ａ（別表１）　糸切り。口径14.0cm、器高2.8cmの大ＳＫ1085型１点、口径14.5～14.7cm、器高3.2～3.3cmの大ＳＫ1204型３点、口径13.1cm、器高2.6cmの大ＳＫ835～ＳＫ601型１点がある。

大杯ａ（別表１）　口径15.5cm、器高3.4cmで大ＳＫ830～ＳＸ1200型の大杯ａとして分類される。

土師器型式のうち最新のものは大ＳＫ830～ＳＸ1200型の小皿ｂ、大杯ａである。

白磁

皿（４）　Ｖ２類。胎土は灰白色。やや粗く少量の黒色粒を含む。釉は灰緑色味をおびる。体部外面下位は施釉後、釉を削り取る。やや厚めの釉。口縁部は外反し、体部下位に丸味を有する。内面みこみに体側が薄くなる段を有する。口縁部が直線的な１類に対して２類として分類する。

小椀・杯（10）口縁部外面を強く凹ませ、端部の釉を欠き取った口禿げのⅨ類。胎土は灰白色で黒色粒が入る。釉は淡緑色味。

高麗青磁

椀（pla. 19－a）　Ⅱ1類。胎土は灰色。釉は青味の暗緑色。外面に幅広の陰刻蓮弁文がある。

越州窯系青磁

椀（5）　Ⅱ1類。胎土に暗紫色粒を含む。体部外面以下は施釉せず露胎。蛇目高台。内面に目跡がある。

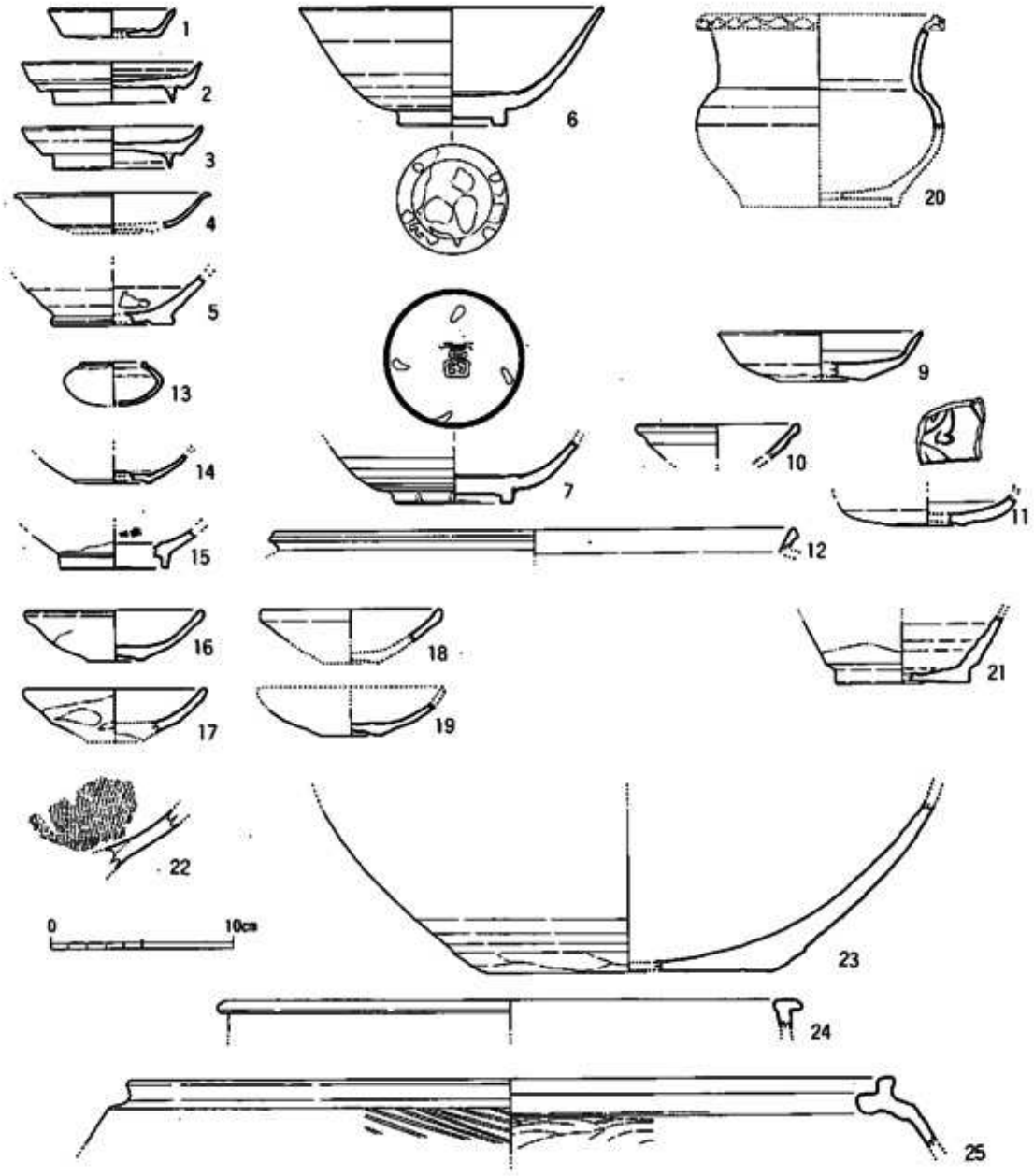


fig. 7　19SD001上層出土土器実測図

龍泉窯系青磁

椀（6・7）　6、7はⅠ1類。6は内面見こみに「金玉満堂」の陰刻文字スタンプがあり、高台畳付に4足の目跡を有する。7は内面見こみに「富ヵ」の陽刻文字スタンプがあり、4足の目跡を有する。目跡は直角に向いている。pla. 16－aはⅠ4類で底部に棒状焼台が焼付く。

皿（9）　Ⅰ1a類で体部外面下位から底部外面にかけては施釉されない。

青磁

皿（11）　胎土は灰褐色でやや粗く少量の黒色粒が入る。内外施釉後、底部外面は釉を削りとる。底部は浅く高台状につくる。外面下位は回転ヘラ削り。内面みこみにヘラ描き文を有する。

壺（12）　胎土は暗灰色。細かい白色粒、黒色粒を含む。釉は濃緑色。越州窯系あるいは高麗系に類似する釉でうすく内外に施す。口縁部は短く外反する。

青白磁

小壺（13）　口縁部は露胎で淡橙灰色に発色する。青味をおびた釉を内外面に施す。

皿（14）　全面施釉。内面見こみに凹線状の段を有する。

椀（15）　胎土は乳白色で細かい黒色粒を含みざらつく。釉は淡い草色を帯び、体部外面下位から底部は施釉されない。白磁椀Ⅶ類と類似する器形。内面見こみは一段凹む。体部内面にヘラと櫛描きによる文様がある。

合子（pla. 15－34）　黒灰色土下層から同一個体と思われる破片が出土した。52頁参照。

陶器

小皿（16～19）　釉は暗茶褐色、暗赤灰色などに発色する。内面から体部外面上位に施釉される。底部はヘラ削りされあげ底ふうにつくる。

花盆（20）　胎土は淡茶灰色で緻密。紫色粒を含む。釉は暗茶褐色B′類で内外にうすく施釉。

水注（21）　Ⅴ2類の底部。

鉢（22、23）　22は国産のすり鉢と考えられる。胎土は肌色で白色砂を含み、粗くざらつく。釉は暗紫灰色で内外面にうすく施釉される。C′－a′類。近世陶器で上層からの混入品と思われる。23はⅠa～cの底部。

盤（24）　Ⅰ3類。

甕（25）　Ⅲ類。外面は平行叩き、内面は同心円叩き目を有する。

下層（fig. 8・9、pla. 2・5・8・15・17・18、別表1・2）

土師器

小皿a（1）　糸切りされる。口径8.5cm、器高1.0cm。大SK601型。

杯、大杯a（2～6）　糸切りされる。2～4は口径14.2～14.8cm、器高3.0～3.1cm、大SK1085型の杯a。5、6は口径15.2cm、器高3.2cmで大SK1204型の杯aとも考えられるが、完形品であることから大SK830～SX1200型（南Ⅱ5類）の大杯aと考えておきたい。

白磁

椀（7）　Ⅶ2類。

壺蓋（8）　酒会壺の蓋と思われる。胎土は灰白色で緻密。釉はやや灰緑色味で外面のみに施釉さ

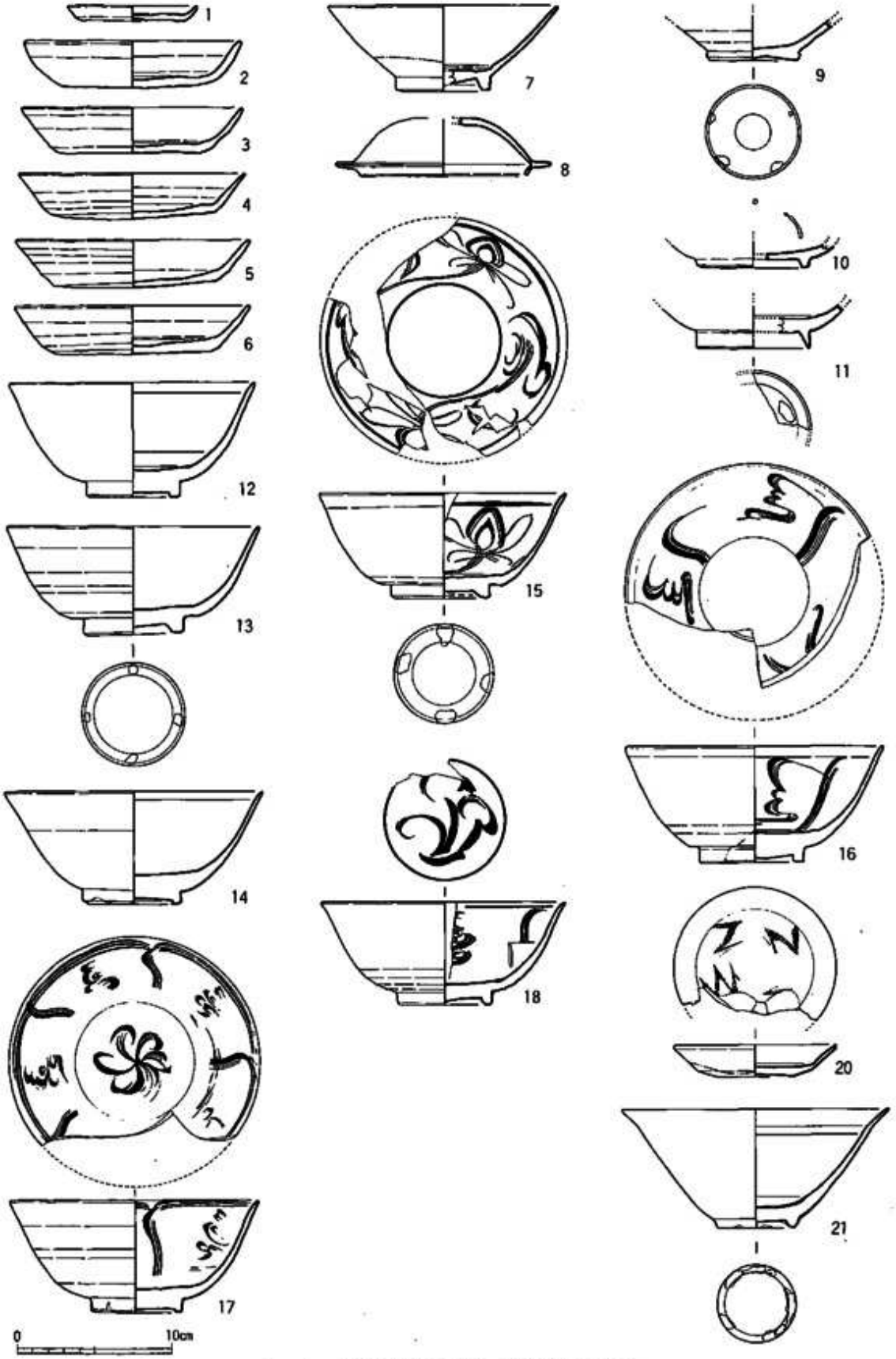


fig. 8　19SD001下層出土土器実測図（Ⅰ）

れる。口縁内に身うけの返りを有する。

越州窯系青磁

椀（9、11）　9はⅠ1a類。全面施釉されるが、高台内部の刳りは雑である。高台畳付に5個前後の目跡がある。11はⅢa類。高台部見こみに目跡を有する。

皿（10）　Ⅰ類。全面施釉され、内面見こみと高台畳付に目跡がある。

龍泉窯系青磁

椀（13～18）　12－14はⅠ1類で、内面見こみに文字の方形印文が浅く押される。文字は不明瞭である。13は高台畳付に4足の目跡がある。15は内面に2単位の片刀、櫛刀花文を配するⅠ2a′（3単位は2a）類。高台畳付に4足の目跡がある。16～18はⅠ4a類。18は高台畳付に4足の目跡がある。

同安窯系青磁

皿（20）　Ⅰ1b類。

高麗青磁

椀（21）　Ⅰ2Bb類。胎土は灰色で白色粒が入る。釉は青味をおびた暗緑色で、大きな貫入がある。厚めに全面施釉されるが畳付一部は施釉されない。体部は大きく開き口縁部は長めに外反する。内面見こみは一段凹む。体部内面上位に横沈線がある。高台畳付に5足の白色耐火土の目跡がある。

陶器

四耳壺（22、23）　22はⅦ類と思われる。釉は暗黄緑色味に発色し内外面に薄く施釉される。畳付は幅広く蛇目ふうにつくられる。23はⅦ類。胎土には白色砂を含み緻密。釉は灰緑色で底部外面をのぞき内外面にうすく施される。体部上位に茶褐色釉を流す。底部外面は露胎で橙灰色を呈する。口縁部は短く外反する。内面から体部外面上半は横ナデ、下半は回転ヘラ削りされる。胴部上位に横沈線、波状沈線を有する。口縁部内面に目跡がある。

壺（24～26）　24はⅣ1類。25はⅣa類で底部外面に大きな3個の目跡がある。26はA′－a類。胎土には少量の白色粒を含みやや粗い。釉は灰緑色で、発色悪く表面がくすんでいる。底部外面を除き施釉される。底部は焼成時に気泡ができたため膨らんで変形する。体部外面下位はヘラ削りされる。

水注（27）　Ⅷ類。胎土は暗茶色。細かい白色粒を少量含む。釉は暗茶褐色で、底部外面を除きうすく施釉される。底部外面の露胎部分は橙色をなす。器形は四耳壺Ⅶに類似する。口縁部は短く外反し、肩部には横耳を対称位置に付け、90°回転させた位置に把手と注口を貼付けるものであるが、大きく欠損する。胴部上位に1条の横沈線を有する。口縁部内面に目跡がある。

鉢（28～30）　28はⅠ1c類。29はⅠ1b類。28、29は無釉陶器で粗い白色砂を多量に含む。30はⅣ1類。釉は暗茶褐色で口縁部一部を除き内外施釉される。

緑釉陶器

皿（31）　胎土は淡黄灰色を呈し土師質であるが堅緻に焼成されている。釉は淡緑色で全面施釉される。高台部は円盤状に回転ヘラ削りされる。

特殊な陶磁器

燭台（32、33）　32は褐釉陶器。胎土は淡橙灰色をなすが、口縁部では淡灰色、台部は部分的に灰色をなし一定しない。白色粒や暗茶色粒（0.5～2㎜）を含み緻密である。釉は暗茶褐色でつやはなく、

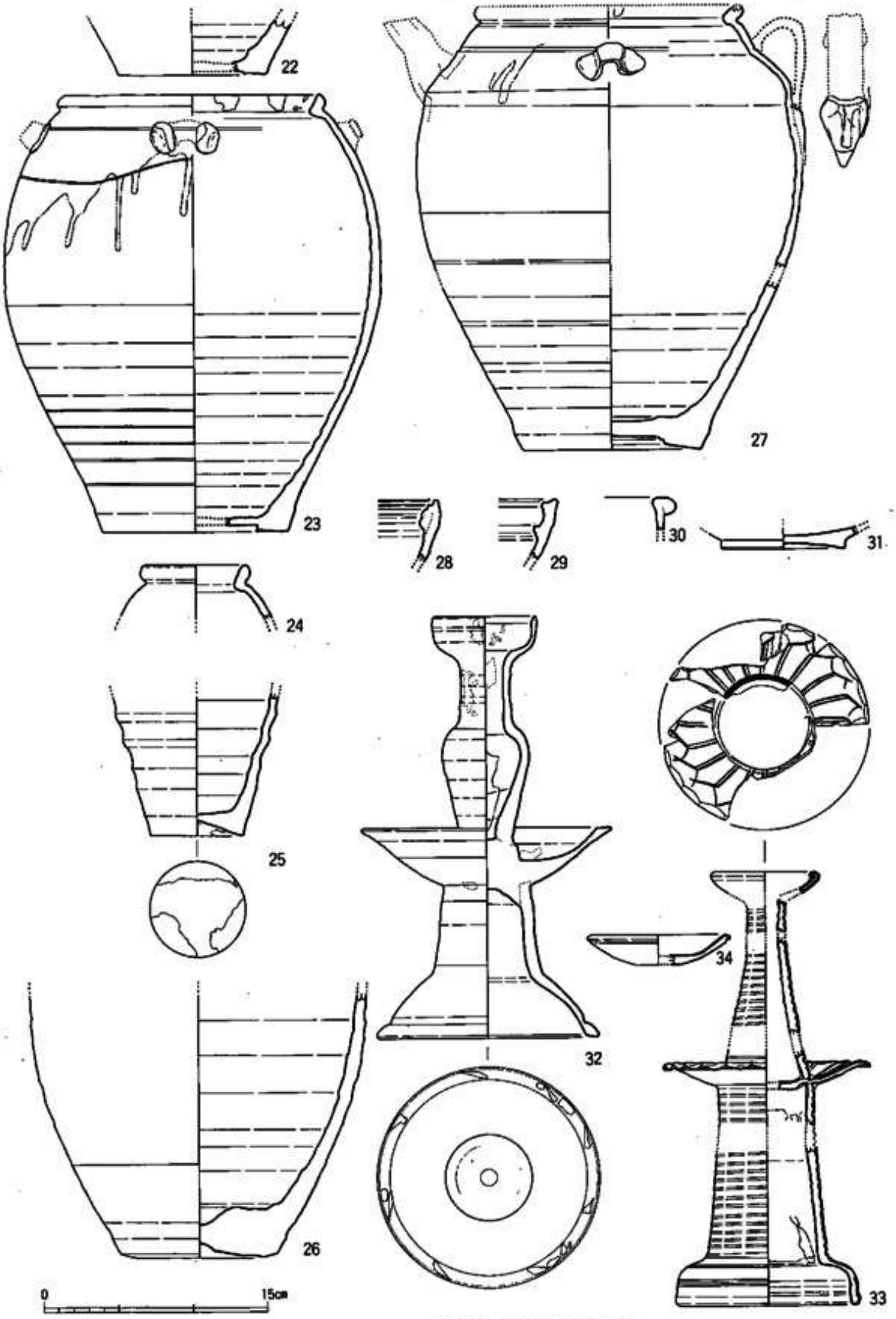


fig. 9　19SD001下層出土土器実測図（Ⅱ）

内外面にうすく施釉されるが、水瓶形の内面下部は露胎である。器形は３つの部分を接合している。裾広がりの台部を持つ支柱に皿形を乗せ、その中心に水瓶形の上部を置く。水瓶形の口縁部は皿状をなし内湾する。各接合部分は接合後に横ナデされる。水瓶形の口縁部内面から外面は横ナデ。皿部の体部外面はヘラ削りされ、台部支柱との接合部は断面三角の削り出しがある。台部は筒形部分のヘラ削りの後、底部内外を横ナデする。台部畳付に８足の目跡がある。器高28.4cm、上部口径6.8cm、胴部径5.9cm、皿部口径16.9cm、台部上径6.0cm、底径15.0cm。上部、皿部、台部は破損後、漆付けを行ない補修した跡がある。

33は青白磁で32と類似した器形である。裾広がりの台部、中央の皿部、口縁の内湾する筒状の上部からなる。胎土は乳白色。釉は水色で細かい気泡があるため黒斑状に見える。大きな貫入がある。外面は全体に施釉される。内面は部分で異なる。上部は口縁部内面と筒状の下位に施釉。この間は露胎。皿部は内面も施釉。台部の内面は上位のみ施釉され、それ以下は露胎。上部、皿部、台部の各接合部は釉をつけて接着する。口縁部は内側に丸める。皿部はみこみに段をつくり、上部、台部の接合面を削り取る。上部と台部は当初一体に製作されたもので、中央を横に切断し、間に皿部をはさんで接合している。筒状の外面は回転させながら鎬をつくる。上部内面は横ナデ、台部上位内面はヘラ削り。皿部内面には２又櫛刀で蓮弁（19～20弁に復原される）を描き、先端部は外上方から押して花弁状につくる。上部口径7.4cm、皿部径14.0cm、器高29cm前後、台部底径12.5cm。

34は33と胎土、釉は全く同一であり、おそらくセットとして制作されたと考えられる。破片から復原すると33の一部をなすものとは考えられないことから、蓋として復原した。釉は内面全体と口縁部外面に厚く施される。外面は施釉されず露胎。外面はヘラ削りされる。口縁部外面のすぐ下に円形の焼台跡があり砂がつく。口径9.6cm、器高2.0cm。

pla. 15－ａは輸入緑釉陶器である。胎土は橙色で茶色粒を含み軟質（土師質）である。内面に褐色味をおびる緑釉を施すが、外面は剝落している。釉下、化粧土があり、沈線文を施す。

19ＳＫ004出土土器（fig. 10－26、pla. 1－7、16・19－21　別表１．２）

土師器

土師器は細片化したものが大半であり、いずれも古期のものが混入したと考えられる。

小皿ａ（１）　糸切り。口径9.0cm、器高1.0cm。大ＳＫ1204～835型。他３点は大1204型。

他に杯ａ、大杯ａ、甕などの破片がある。

瓦質土器

甕（２）　胎土は淡灰色で軟質。白色砂と暗灰色粒を含む。器面は灰色。口縁部は外傾気味の平担面をなし、上端はわずかにつまみ出す。下端は誇張ぎみに垂下する。底部は出土していないが丸底になると思われる。口縁部内外は横ナデ。胴部は破片２片のみで外面は２mm幅の細かい平行叩き、内面は青海波叩きの上をナデ消している。魚住古窯甕ｃ類の形態と類似する*。瓦質土器は他に鉢（片口）と思われる糸切り底が１点ある。

白磁

皿（３）　Ⅷ2b類。内面みこみは花文の間に「元」の字を配したスタンプの文様がある。

＊大村敬通、水口富夫ほか「魚住古窯跡群」『兵庫県文化財調査報告第19冊』(1983)

椀（4～6）　4、6はⅨ1類。5は底部を欠くⅨ類。釉は空色味や灰緑色味をおびる。

四耳壺（7～10）　Ⅲ類。胎土は淡灰白色を基調とし、黒色粒を含みやや粗い。釉は黄色味あるいは灰緑色味をおびる。体部外面下位から高台部外面には施釉しない。露胎部は茶灰色に発色する。内面から外面下半に施釉され、内面の釉は薄く、外面は厚めである。形態から1類の9、10と2類の7、8に分類される。1類は小形で最大径は上位にあり、胴部がふくらむ。2類より器肉は薄い。2類は大形品で上位に最大径を有し、肩部は誇張されて張る。胴部下半は直線的で厚手の器肉を有する。底部は欠損するが厚くつくられ高い高台状の外見を有する類例がある。頸部は胴部の上に釉をつけて接合する。9は接合部を段状にしている。肩部外面はヘラ削りされ稜をなす。横耳に2～3条の凹線を有する。

龍泉窯系青磁

椀（11～14・113）　11～13はⅠ1類。11の高台部外面から高台部みこみは露胎で畳付に4足の目

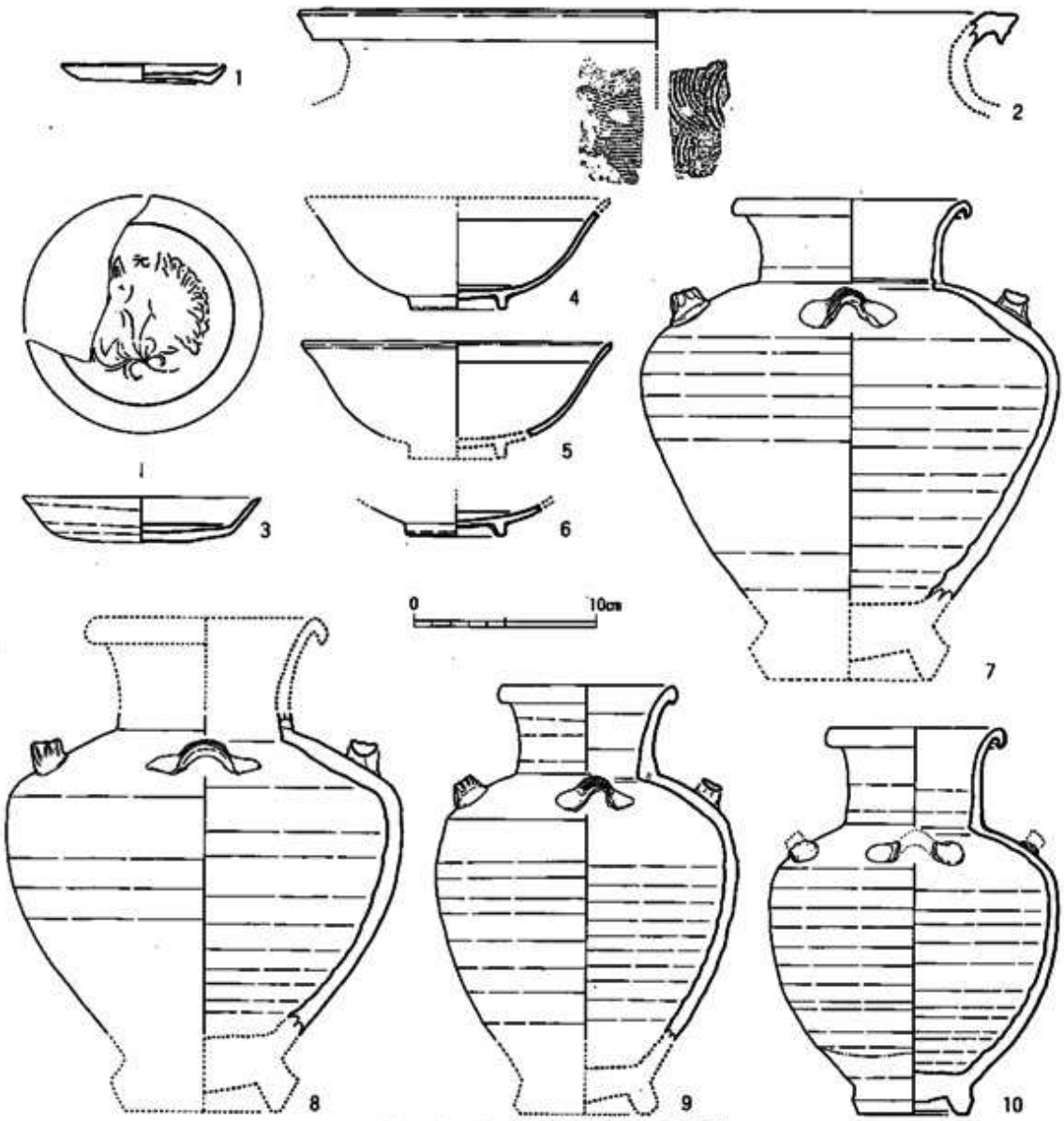


fig. 10　19SK004出土土器実測図（Ⅰ）

跡がある。12は内面みこみに4足の目跡がある。13は高台部みこみに焼台が焼付く。焼台の胎土は茶灰色で茶色粒、白色砂を含む。内面みこみには4足の目跡があり、陽刻された「利」字の印文を有する。釉は茶褐色味をおび白濁化する。14はⅢ2類。113はⅠ4a類で畳付に4足の目跡がある。

杯（15～17）　Ⅰ2a′類。釉は黄緑色味。高台みこみをのぞき全面に施釉される。内面に片刀・櫛刀彫りの花文を施す。2aは3つ2a′は2つの花文を構成単位とする。高台みこみに焼台痕がある。

同安窯系青磁

椀（18）　Ⅰ1a類。

皿（19）　Ⅰ1b類。

青白磁

皿（20、21）　胎土は白色で細かい黒色粒を含む。全面施釉後に口縁部内外の釉を欠き取る。薄手につくる。内面に型押し陽刻文がある。文様は体部に雷文をまわし、みこみに双魚文、藻文を配する。

陶器

鉢（22～28）　22～24はⅠ1b類。胎土に1～3mmの白色砂を多量に含み暗灰色、赤灰色をなす。無釉で器面は紫灰色を呈する。体部外面中位以下から底部外面は粗い回転ヘラ削り、体部外面上位から内面は横ナデ、体部下半は部分的に横ナデないしヘラによる器面調整。24の内面下半は焼成前に大きな砂粒を落とし多孔状の器面をなすが、23は砂の剝落は少ない。22の底部内外、口縁部内に目跡がある。底部内面では黄灰色陶土を塊状にして目とする。23の内面目跡は推定6個。Ⅰ類は捏鉢として使用されるが、22～24は内面に磨滅使用痕がなく未使用と思われる。25はⅢ1類。胎土は橙灰色で白色粒、茶褐色粒を含む。釉は暗紫色（一部茶褐色）で内外に薄く施す。体部外面中位以下ヘラ削り、体部外面上位～内面は横ナデ。体部中位に白色の目跡がある。推定17個。26はⅢ2類。胎土は淡赤灰色で白色粒、赤紫色粒を含む。釉は暗茶褐色で光沢なく内外に施す。体部外面中位以下はヘラ削り、体部外面上半から内面は横ナデ。口縁部内面に4cm間隔で白色砂の目跡がある。27はⅣ1類。胎土は茶灰色、暗茶灰色で白色細砂を含む。釉は暗茶褐色で光沢があり、内面全体から体部外面下半にかけ施す。外面体部下半と底部には施釉せず暗紫灰色に発色する。体部外面下半から底部はヘラ削り、他は横ナデ調整。体部下位と口縁部に目跡がある。推定17個前後。28はⅣ－2類。胎土は赤灰色で白色砂を少量含む。釉は暗茶褐色で光沢があり、外面底部と体部下半を除き施釉される。露胎部は暗紫灰色。体部外面下位から底部はヘラ削り、他は横ナデ調整。口縁部下（肩部）外面に白色砂の目跡がある。約4cm間隔で推定15個前後。

盤（29）　Ⅰ2b類。口縁部及び底部小破片から復原実測した。胎土は淡黄灰色で白色砂が多く、黒色、紫色粒を含む。器面はざらつく。釉は黄色で内面から体部外面上位に施すが口縁部の釉は拭き取る。体部外面下半から底部は露胎で暗赤褐色に発色。内面には茶褐釉で文様を描く。口縁部に目跡がある。

水注（30～32）　30はⅥ類。ほぼ完形。胎土は赤灰色で細かい白色砂を少量含み緻密。釉は暗茶褐色で光沢があり、体部外面下半から底部外面を除き施す。口縁端部は釉を削る。外面露胎部は暗紫灰色をなす。口縁部は断面三角形。頸部は短く、把手は扁平。注口部は肩部外面に乗せて接合する。耳は横形で注口－把手から90°回した位置に2個一対付す。粘土帯を輪状に曲げ貼付る。胴部外面中位以下は回転ヘラ削り。外面中位より下に目跡がある。推定15個。目跡以下は釉の白濁化がみられる。

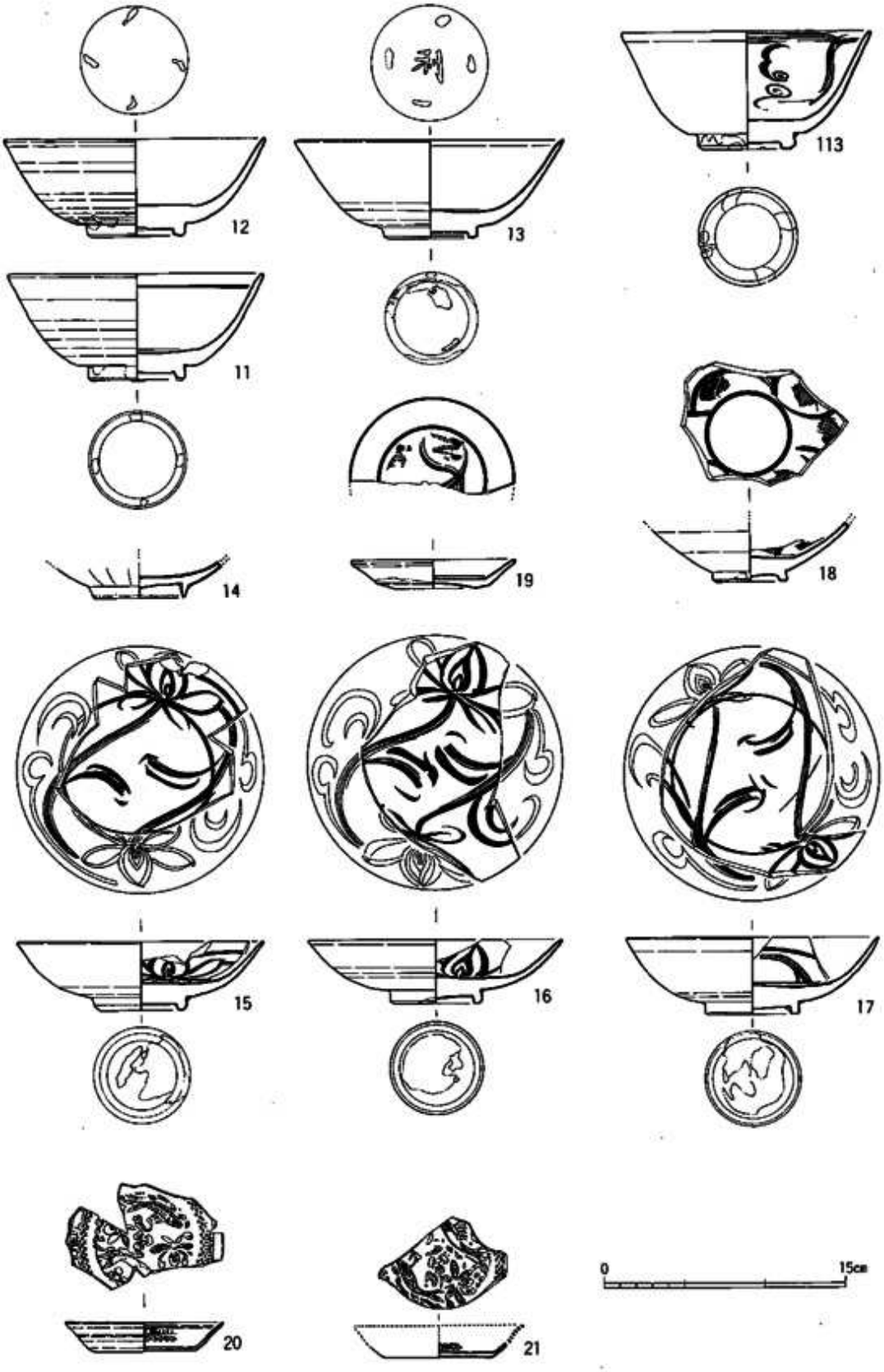


fig. 11　19SK004出土土器実測図（Ⅱ）

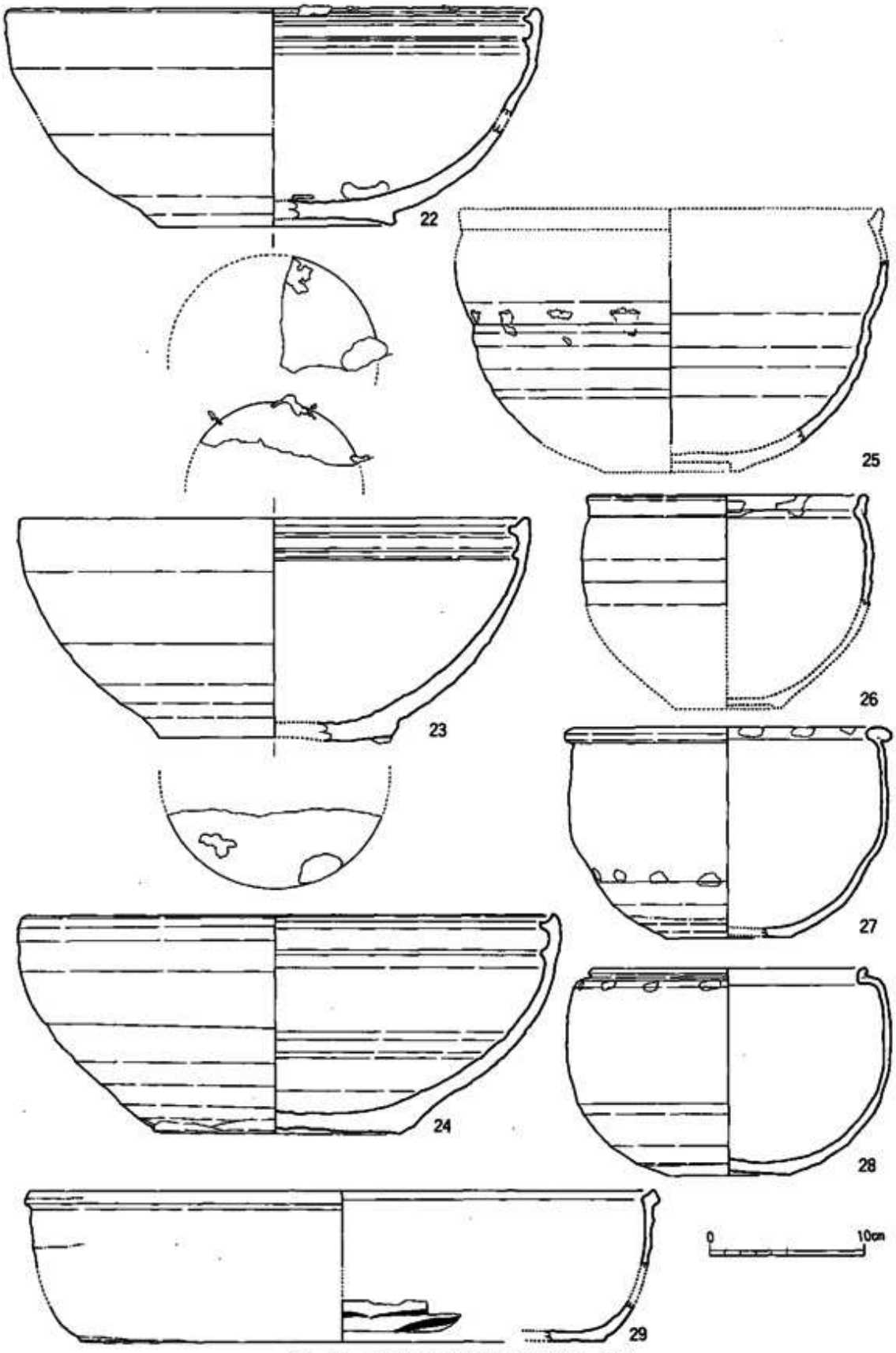


fig. 12　19SK004出土土器実測図（Ⅲ）

口径10.4cm、器高18.5cm、底径9.5cm。31はⅤ２ｂ類。注口、把手の一部を欠損する。胎土は暗茶灰色で白色砂を含む。釉は暗茶褐色で光沢があり、内面から体部外面下位にかけ施す。底部外面、体部外面下位、口縁端部は露胎で赤灰色を呈する。口縁部は薄い三角形で内面が若干凹む。頸部はやや長く下方がやや開く。頸部と胴部境に沈線状の段がある。底部は円盤状に削られやや上げ底をなす。注口一把手から90°回した位置に縦長の耳を２個一対貼付する。把手の断面は扁平。胴部外面下位から底部は回転ヘラ削り。内面から体部外面中位は横ナデ。底部外面に円形の変色部分があり、焼台などの跡か。口径8.5cm、器高21.8cm、底径9.3cm。32はⅥ類。肩部以上と体部下半一部を残す。把手、注口は欠損。胎土は灰色で白色砂を少量含み良質。釉は暗茶褐色で光沢は少なく内外面施す。頸部上位と下位は少し開く。頸部と胴部の境は段がつく。耳はつかない。体部下半は回転ヘラ削り、内面と頸部、体部上中位は横ナデ調整。頸部外面は強く横ナデされ凹凸がつく。口縁部内面にやや大きな目跡がある。推定５～６個のうち２個残る。口径8.0cm。

壺（33～47）　33はⅡ１類。胎土は淡茶灰色で紫色粒を含む。また白色粒を少量を含む。釉は茶褐色で光沢があり、外面は一部、緑色味をおびる。化粧土はない。内外面に施釉される。口縁部は断面三角形で端部を外側に引き出し、上面および内面は凹む。頸部は短く胴部と不明瞭な境を有する。長胴形。体部外面中位以下は回転ヘラ削り、他は横ナデ調整。肩部にヘラ描き波状沈線を入れるが、線は½周して途切れる。口縁部上面に白色砂の目跡が５個ある。口径8.4cm。34はⅡ１類。胎土は淡黄灰、淡茶灰色で細かい白色砂を少量含み精良。釉は外面緑褐色、内面茶色味で内外に施す。内面下位は一

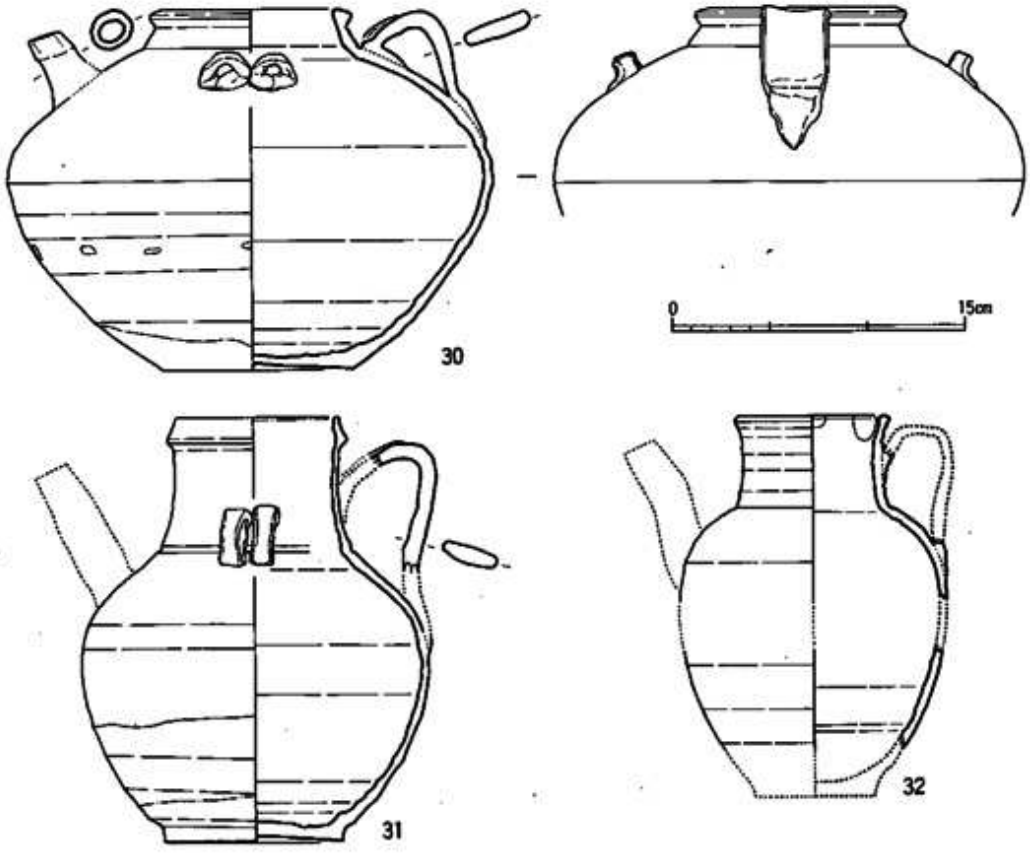


fig. 13　19SK004出土土器実測図（Ⅳ）

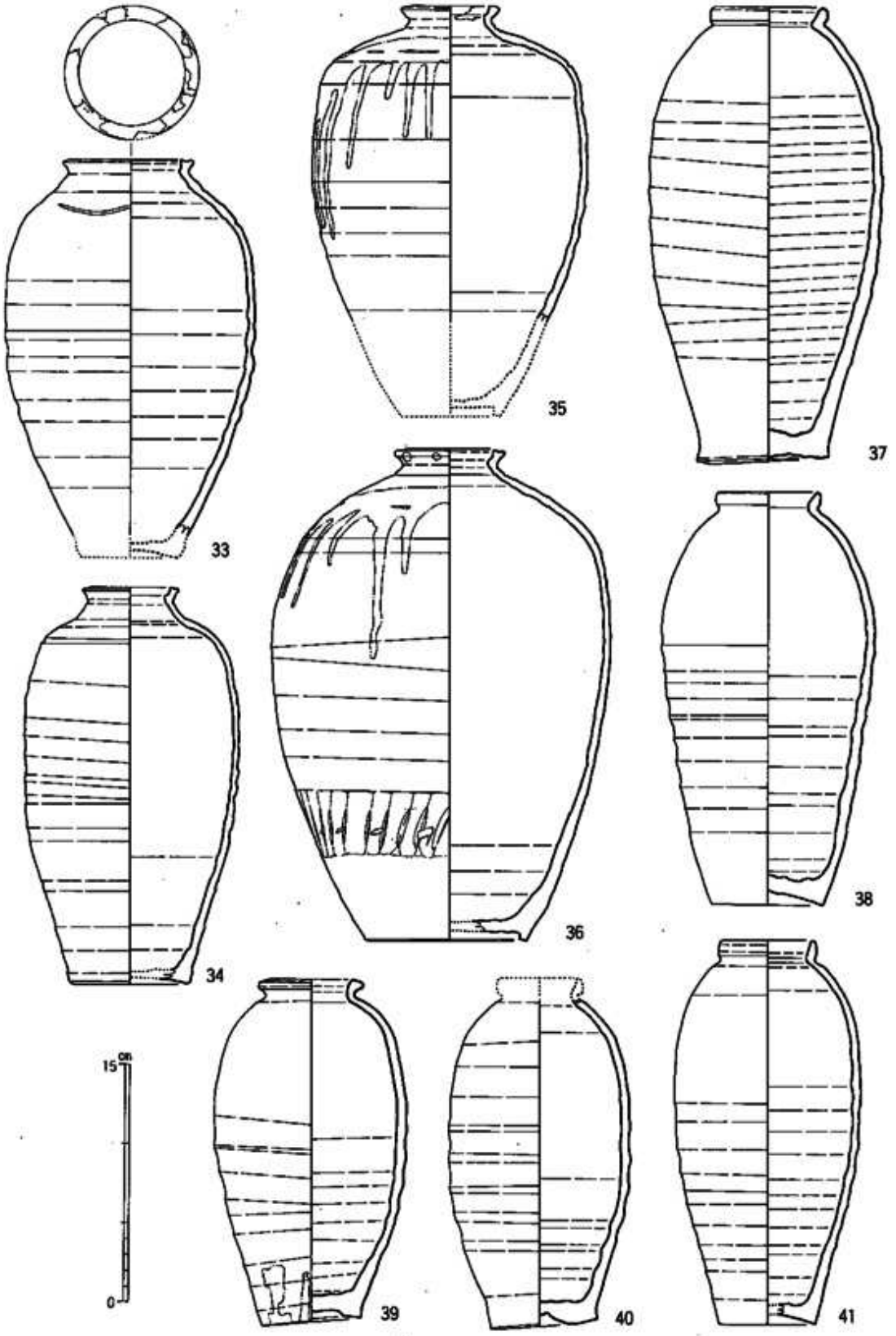


fig. 14　19SK004出土土器実測図（V）

部、釉のまわりが悪い。化粧土はない。33と類似した形態だが頸部はやや明瞭で胴部のふくらみは少ない。底部はあげ底をなす。手法は33と同様。口縁部に目跡はなく、底部外面縁に白色砂目跡がある。口径6.2cm、器高25.0cm、底径7.4cm。35はⅡ2類。胎土は茶灰色で紫色粒を含み精良。釉は外面灰緑色で肩部上から暗茶褐色釉を施す。肩部の目跡以上は釉の白濁化がみられる。内面は茶灰色で外面と発色を異にする。化粧土はない。口縁部は断面三角形で端部を外へ引き出す。(Ⅱ1類と同様)。頸部は短く目立たない。肩部外面は鈍い稜を持つ。胴部はⅡ1類に比べ大きく張る。体部外面中位以下はヘラ削りされ凹凸がつく。肩部外面から内面は横ナデ調整。肩部の稜のすぐ上に白色砂の細い目跡がある。推定12～13個前後。体部外面下方は欠損するため目跡は不明。口径6.3cm。36はⅡ2類。胎土は赤灰色で紫色粒を含む。釉は内外施釉される。外面は茶褐色で肩部外面上から褐釉を流す。肩部の目跡以上および体部下半の目跡以下は黄灰濁化し釉は剝落する。内面は黄灰濁化する。化粧土はない。口縁部内面に段を有する。底部は碁笥底ふうにつくる。体部外面中位以下は回転ヘラ削り、他は横ナデ調整。肩部の目跡は推定6個、体部下半の目跡は推定16個。口縁部外面と高台畳付にも砂が付着する。口径7.1cm、器高31.0cm、底径10.3cm。37～47は壺Ⅳ類。胎土は灰色を基調とするが暗灰、橙灰、茶灰、淡茶灰、淡灰、暗茶灰色などをなす場合もある。胎土中には黒、紫、暗茶色粒を含むものが大半であるが、46・47は白色粒を少量含む。42は白色粒のみ混入する。釉は暗茶褐色が主体で、黒灰、暗灰緑、暗黄褐、淡茶褐色に発色するものや部分的に黄灰褐、黄褐濁色をなすものも多い。内外全面に薄く施釉される。39、46は体部

図番号	分類	口径	器高	底径
37	Ⅳ1a	7.4	28.6	8.4
38	〃	6.4	25.5	6.9
39	Ⅳ3b	6.6	21.7	6.3
40	Ⅳa			6.8
41	Ⅳ1a	6.2	24.2	6.2
42	Ⅳ1	6.7		
43	Ⅳ1	7.6		
44	Ⅳ1	7.0		
45	Ⅳ1	7.2		
46	Ⅳa			5.2
47	Ⅳ	—	—	—

tab. 2　19SK004陶器壺Ⅳ類計測表　単位cm

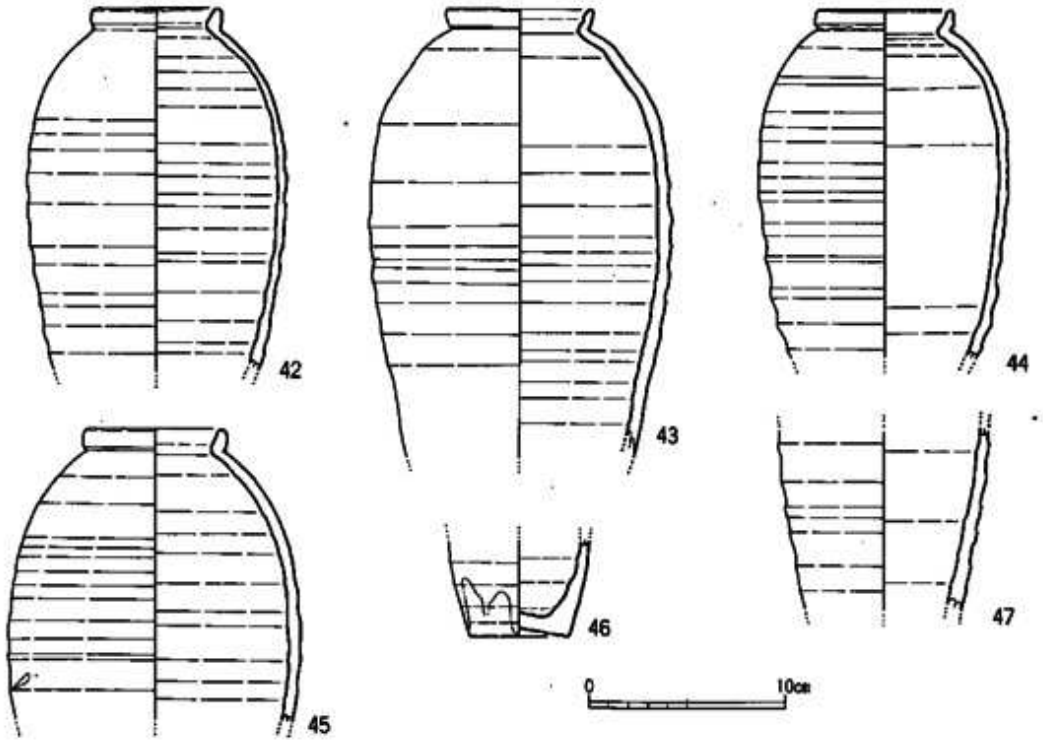


fig. 15　19SK004出土土器実測図（Ⅵ）

外面下位から底部外面は施釉しない。化粧土はない。形態により数種に分類される。1類は口縁部が「く」字形に短く外反する。2類は口縁部は1類と同じで胴部の短いもの。3類は口縁部が断面三角形をなし端部は横に引き出す。底部の形態でさらに細分する。a類は底部が平底かあげ底をなす。b類は内面を抉り高台状につくる。以上から37、38、41はⅣ1a類、42～45はⅣ1類、39はⅣ3b類、40、46はⅣa類。47はⅣ類。胴部上位⅓以下は回転ヘラ削りされ強く凹凸がある。内面から外面中位は横ナデされ、ヘラ削り痕を一部消している。37～40は口縁部上面や底部外面に大きく3ヶ所の目跡が付く。37～47の法量はtab. 2参照。

双耳壺、四耳壺、六耳壺（48～109）　95は双耳壺、107～109は六耳壺、他は四耳壺である。48～94はⅥ類。49個体分と71片が出土し他の器種を圧倒して異常に出土率が高い。胎土は灰、灰褐、淡灰、淡茶灰、橙灰、淡橙灰色などを呈するが同一個体の部位により色調の変化を見せるものもある。胎土中に茶、暗茶、暗紫色粒を含み、胎土の色調によって粒子は黒、黒灰色にも変化する。釉は灰褐、淡灰褐、茶灰、淡茶灰、灰緑、淡灰緑などのうすい色調に発色するものが多く、暗茶灰、紫灰、暗緑灰色をなすものや、部分的に黒灰色をなすものが少数ある。また灰白、黄灰、淡茶灰色に濁るものも多い。釉は光沢のないものが大半である。外面上位から光沢のない暗茶褐色（暗緑褐色、濃灰緑色の場合もある）の釉を流掛けする。釉は薄く施される。内外全面施釉のものが多いが、52～54、56、60は高台畳付一部に施釉されず、48～50、55、59、61、65は底部外面に施釉しない。口縁部は「く」字形に外反する。胴部と頸部の境は不明瞭で樽形の形態をなす。胴部上位に横形の四耳を有する。底部は2分類される。1類は幅広い蛇目ふうの高台で高台内側が少し浮き、体部下位は若干外反する。2類は輪状、碁笥底ふうの高台で体部下位は外反しない。48～62は1類、63～70は2類、71～93は1、2類の区別はできない。外面上位⅓以下は回転ヘラ削りされ、内面から外面中位は横ナデされる。胴部の耳位置上位に横沈線を1、2条入れ、さらに波状沈線をその下に1条入れるものがある。2条は途中で1条になったり、波状沈線は½回転で途切れるものも多い。横沈線は装飾的効果よりも四耳の取

図番号	分類	口径	器高	底径
48	Ⅵ-1	10.7	23.1	9.0
49	Ⅵ-1	11.0	22.5	8.6
50	Ⅵ-1	10.4	22.1	8.4
51	Ⅵ-1	10.1	21.7	9.2
52	Ⅵ-1	10.1	21.2	9.2
53	Ⅵ-1	10.3	21.4	8.3
54	Ⅵ-1	9.7	21.3	8.6
55	Ⅵ-1	9.6	20.8	8.5
56	Ⅵ-1	10.2	20.8	8.0
57	Ⅵ-1	—	—	7.5
58	Ⅵ-1	—	—	8.3
59	Ⅵ-1	—	—	8.4
60	Ⅵ-1	10.6	21.4	8.0
61	Ⅵ-1	9.5	20.1	8.2
62	Ⅵ-1	—	—	7.9
63	Ⅵ-2	10.7	21.9	6.5
64	Ⅵ-2	10.0	20.8	6.8
65	Ⅵ-2	—	—	6.4
66	Ⅵ-2	—	—	6.5
67	Ⅵ-2	—	—	6.4
68	Ⅵ-2	9.3	20.5	6.6
69	Ⅵ-2	10.1	20.3	7.5
70	Ⅵ-2	9.8	20.1	6.5
71	Ⅵ	10.4	—	—
72	Ⅵ	10.7	—	—

図番号	分類	口径	器高	底径
73	Ⅵ	9.8	—	—
74	Ⅵ	10.6	—	—
75	Ⅵ	10.5	—	—
76	Ⅵ	10.8	—	—
77	Ⅵ	10.2	—	—
78	Ⅵ	10.1	—	—
79	Ⅵ	10.2	—	—
80	Ⅵ	10.3	—	—
81	Ⅵ	11.0	—	—
82	Ⅵ	10.0	—	—
83	Ⅵ	10.8	—	—
84	Ⅵ	9.6	—	—
85	Ⅵ	10.5	—	—
86	Ⅵ	11.4	—	—
87	Ⅵ	9.6	—	—
88	Ⅵ	10.0	—	—
89	Ⅵ	9.9	—	—
90	Ⅵ	10.6	—	—
91	Ⅵ	10.2	—	—
92	Ⅵ	9.4	—	—
93	Ⅵ	9.5	—	—
94	Ⅵ-1?	—	—	8.0
	Ⅵ-1	—	—	8.7
	Ⅵ-1	—	—	7.6

tab. 3　19SK004陶器四耳壺計測表　単位cm

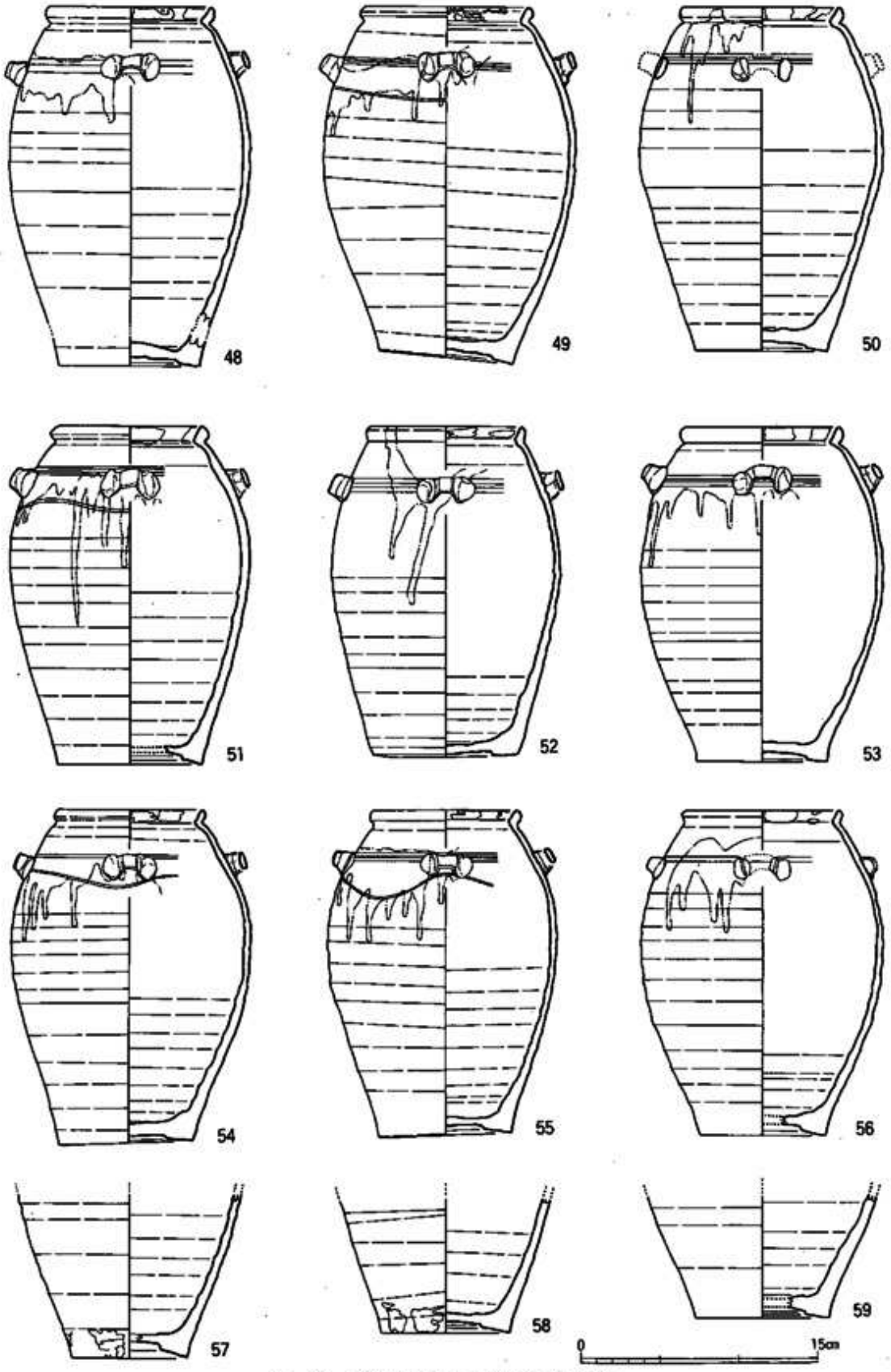


fig. 16　19SK004出土土器実測図（Ⅶ）

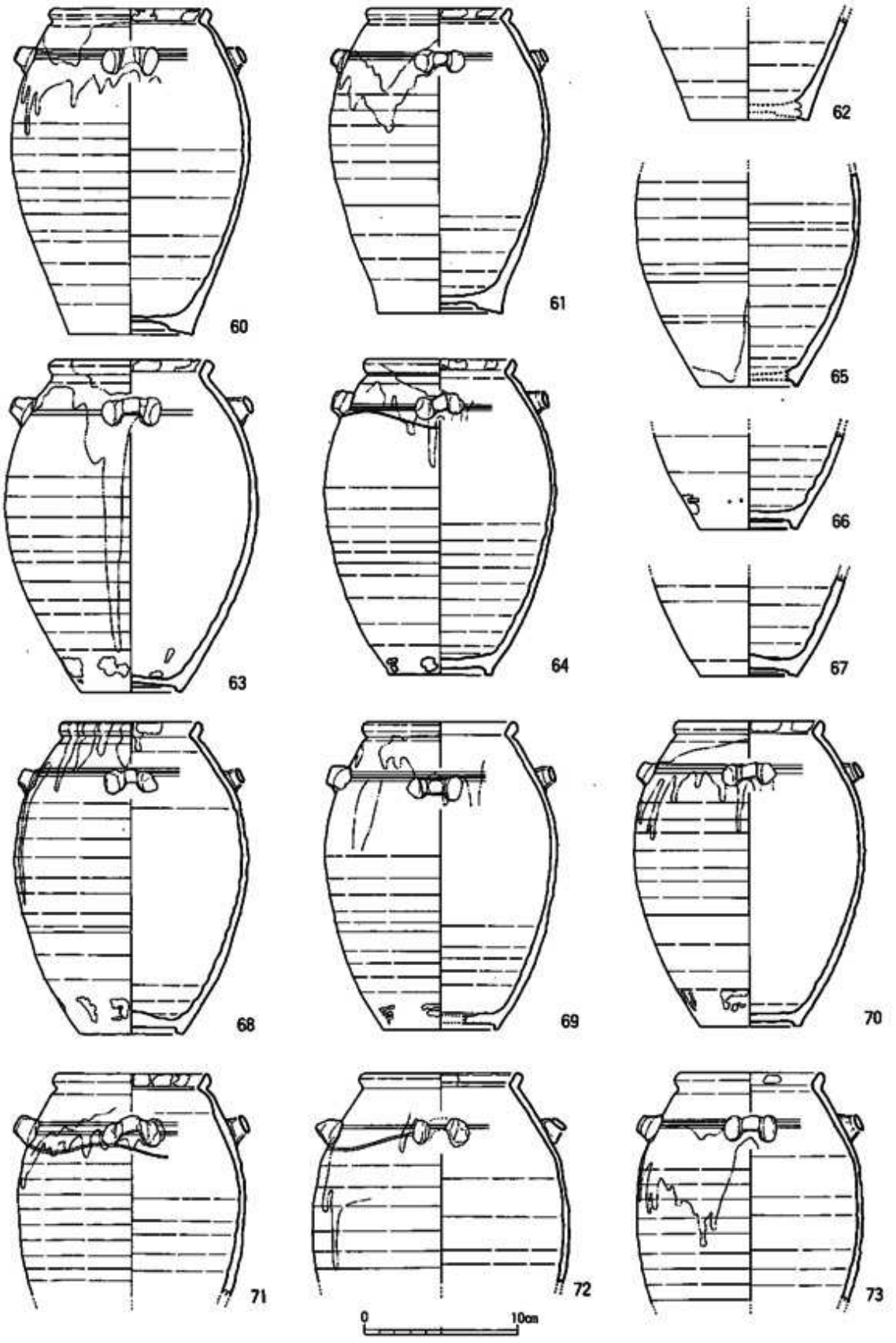


fig. 17　19SK004出土土器実測図（Ⅷ）

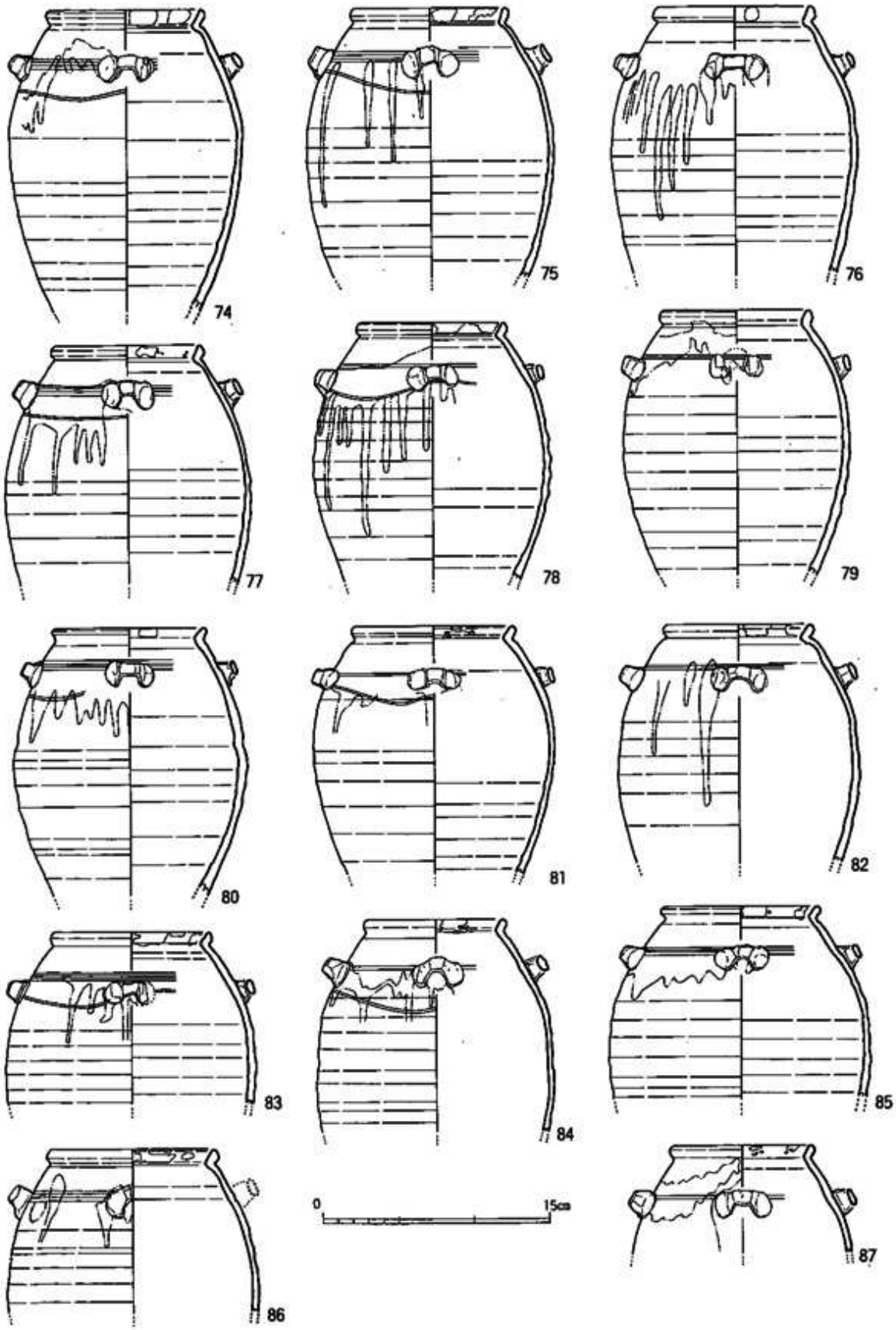


fig. 18　19SK004出土土器実測図（Ⅸ）

付位置の目安につけられた意味合いが強い。1類は口縁部にのみ目跡の付く例が多い。57、58は体部下位に目跡を有するがこの種の例は多くない。2類は口縁部内面と体部外面下位に目跡を有する。69は口縁部内に目跡はなく、重ね焼きの際、最上段に置かれたものであろう。65の外面下位から底部は施釉されておらず目跡は不明。目跡の数は6個（55、56、63、70、82）、7個（50、54、64、68）、9個（71）があり大半は6～7個前後におさまる。各個体の法量はtab. 3参照。95はXI 1類。胎土は灰褐色、黒灰色で白色粒を多く、黒色粒を少量含む。器面は白色砂が浮きざらつく。四耳壺Ⅳ類の胎土と類似するが砂粒はやや少ない。無釉で内面は暗灰褐色、外面は黄灰褐色をなす。口縁部は外側に折曲げて肥厚させ断面菱形をなす。端部は外上方に鋭角をなし、上面は内下がりの平担面をなす。頸部は短くやや外ぶくらみする。胴部は長胴形で中位より上に最大径がある。耳は縦形で対称に2個つく。四耳のつく類例は2類とする。底部はややあげ底である。胴部内面は円盤状あて具痕がある。外面は横ナデ調整で叩き目を消しているが、細かい平行叩きの類例がある。底部は粗いヘラ削り。口縁部から頸部内外面は横ナデ調整。口径10.5cm、底径10.5cm。96はⅡ類。胎土は淡赤灰、赤紫色で白色粒を含むがざらつかず緻密。釉は黄緑色味をおびた灰褐色で光沢なく白濁化する。肩部から暗褐釉（緑褐色に発色）を施す。胎土、釉は盤Ⅱ1類に近い。化粧土は外面体部下位より上に施す。内面下位にもまばらに化粧土をなでつけたような跡がある。釉は頸部内面から外面下位にかけ施し、口縁部内面の釉は拭き取る。外面下位から底部は露胎で茶褐色をなす。内面は赤褐色。口縁部は断面四角に肥厚させる。頸部は広く短かめで外側へふくらむ。肩部は張り、底部は平底。肩に横形の四耳を付す。内面全体は横ナデ調整。外面中位以下はヘラ削り後に横ナデされる。底部外面はヘラ削り。口縁部内面に目跡がある。口径15.3cm、器高35.2cm、底径11.5cm。

97はⅦ類。胎土は茶灰色で紫色粒を少量含み緻密。釉は外面灰緑色で光沢があり、内面は灰色味が強く光沢はない。外面は口縁部の下から暗茶褐色釉を流す。内外施釉される。口縁部は「く」字形に外反し、頸部と胴部の境は不明瞭で樽形の形態をなす。胴部上位に横形の四耳を付す。体部外面中位

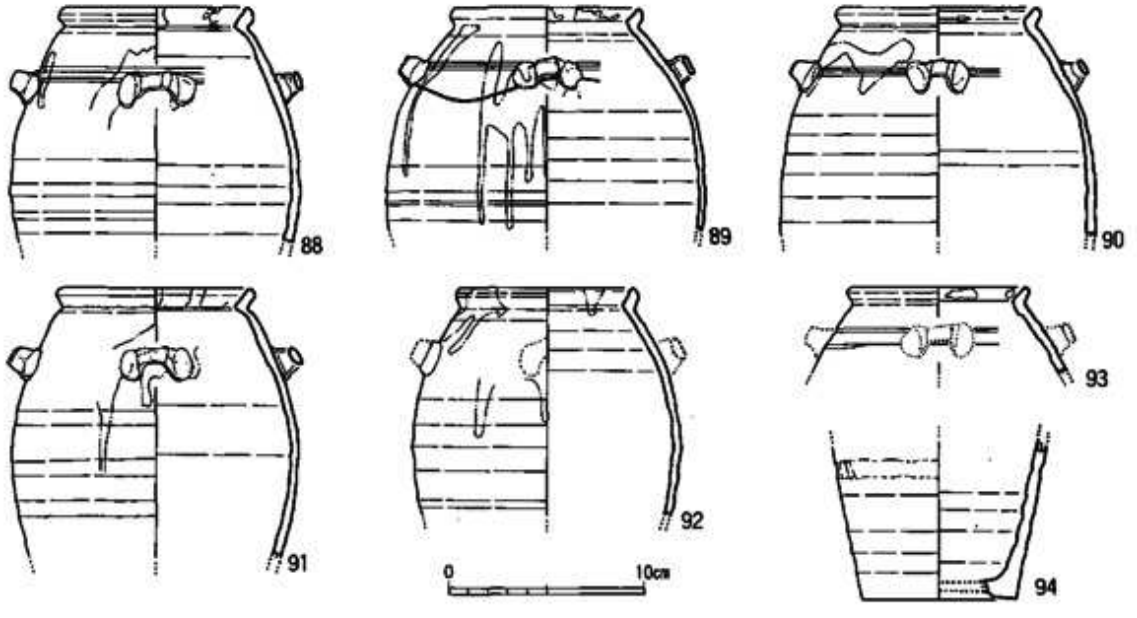


fig. 19　19SK004出土土器実測図（X）

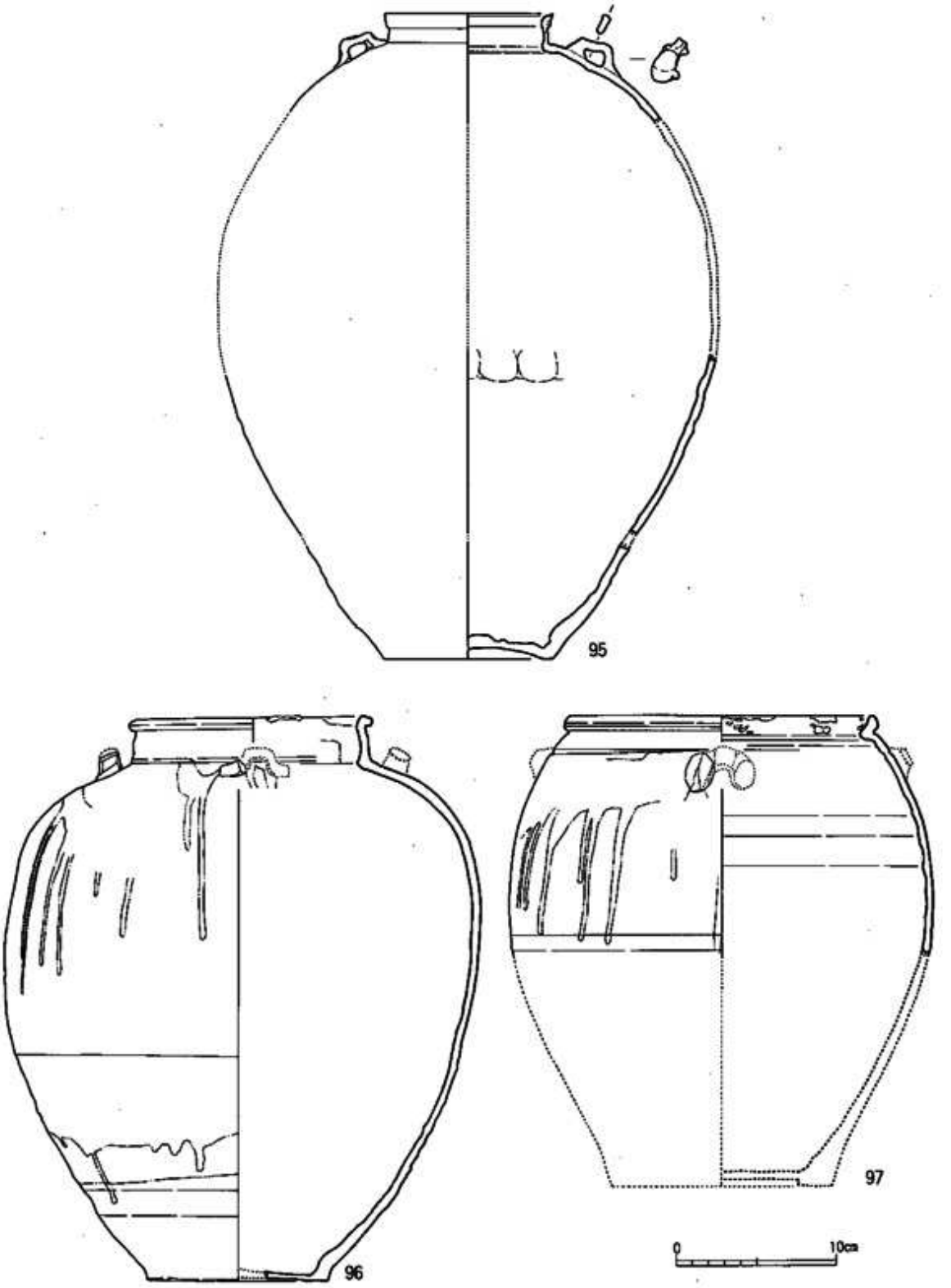


fig. 20　19SK004出土土器実測図（XI）

以下はヘラ削り、他は内外横ナデ調整。胴部上位に横沈線１条がある。部分的に沈線は途切れ段状をなす。口縁部内に白色砂の目跡があり、９～10個と推定。口径19.3cm。98、99はⅣ１類。胎土は淡黄灰色、黄灰色で白色砂を多く含みざらつく。黒色粒も含む。釉は暗緑褐色で光沢、貫入がある。口縁部内外面から体部下半にやや厚めに施釉される。胴部内面、外面下半から底部は露胎で淡黄灰色、淡赤灰色、赤灰色などに発色する。口縁部は一部、釉を拭き取る。化粧土は体部外面下位まで施す。形態はⅢ類に類似するが、頸部径は小さく中央で外側にふくらむ。肩部は鈍い屈曲を有し張る。外面に凹線状のロクロ目がある。底部は平底かあげ底。内面には円盤状あて具痕があり、胴部は叩き成形を行なっているが外面は再調整のため明瞭な叩きの痕跡は残らない。外面中位以下は回転ヘラ削り、内面はあて具痕の上から横ナデ調整。頸部と肩部、肩部と胴部の境は器壁の厚みが異なることから成形段階の粘土つなぎ目と思われる。肩部には横形の四耳をつけ、各耳の間に印文を入れる。98は「主」字形、99は花文の印刻である。98は「蓮花王御壺」と呼ばれる伝世ルソン壺に類似するものがある。法量は tab. 4 参照。107～109はⅣ２類。胎土、器形、手法、調整は１類と同一であるが釉、施釉法、耳は異なる。釉は黄緑色で貫入が多く、やや光沢がある。肩部より茶褐色、暗茶褐色釉を流し掛けする。耳は縦形で６個つく。耳には２条の凹線を有する。印文はない。法量は tab. 4 参照。100～106はⅫ１類。胎土は灰、茶灰、淡黄灰色などを呈し、白色砂や暗紫色粒（暗赤褐、暗茶、黒灰、茶色などの場合もある）を含みやや粗い。釉は茶褐、暗茶褐色で光沢は少ないが、光沢をもつものもある。頸部内面から外面下位に薄く施釉され、内面は露胎であるが底部内面には釉が落下している。内面の露胎部は灰、淡黄灰、淡茶灰、茶灰、赤灰色などを呈し、底部外面は暗灰、茶灰色をなす。口縁部外側は折り曲げて肥厚させる。頸部は短く径は小さい。胴部は大形で長胴形を呈する。底部は平底ないしややあげ底をなす。耳は縦形の四耳で粘土を棒状にしてつくる。頸部から底部はいくつかの部分に分けて積み上げられる。まず胴部下位⅓までを粘土帯でつくり、外面と底部にヘラ削りを行ない、内面を横ナデ調整する。次に胴部上位まで粘土帯を積み上げ内面に円盤状あて具をあて、外面は平行叩きを行なって器壁を薄くし径を広げる。肩部までこの行程を数度くり返して積み上げる。上位から約¼下方にもこのつなぎ目と思われる内面の肥厚部がある。内面は横ナデ再調整を行なう。底部外面は砂が多くついている。法量は tab. 5 。

図番号	分類	口 径	器 高	底 径
98	Ⅳ-1	12.6	39.7	10.3
99	Ⅳ-1	12.8	39.0	15.7
107	Ⅳ-2	11.7	42.4+	——
108	Ⅳ-2	11.7	39.4+	
109	Ⅳ-2	11.7	37.6+	

tab. 4　19ＳＫ004陶器四耳・六耳壺Ⅳ計測表　　単位cm

図番号	分類	口 径	器 高	底 径
101	Ⅻ-1	12.4	79.0	14.3
102	Ⅻ-1	13.7	68.0+	——
105	Ⅻ-1	13.2	——	——
104	Ⅻ-1	——	——	14.4
100	Ⅻ-1	——	——	——
103	Ⅻ-1	12.1	——	——
106	Ⅻ-1	13.1	——	——

tab. 5　19ＳＫ004陶器四耳壺Ⅻ-１計測表　　単位cm

甕（110、111）　Ⅱ類。胎土は暗茶、暗紫灰、茶褐色などを呈し、１mm位の白色砂や紫色粒（暗茶褐色の場合もある）を多く含む。釉は暗緑色、暗黄緑色で光沢はあるが、斑点状白濁も見られる。110の内面の釉は茶色味をおびる。内外に厚く施釉される。各部には充分釉がまわるように、数度、流掛けされる。口縁部は施釉後に釉を拭き取ったと思われ、暗紫灰色に発色する。口縁部は逆Ｌまたは Ｔ字形で外側の張り出しは少なく、内側へ大きく肥厚する。図のように幅10cm位の粘土帯を縦に折り曲げて厚くし、さらに端には粘土帯を貼付けている。口縁部外面と体部の境は凹線状をなす。胴部

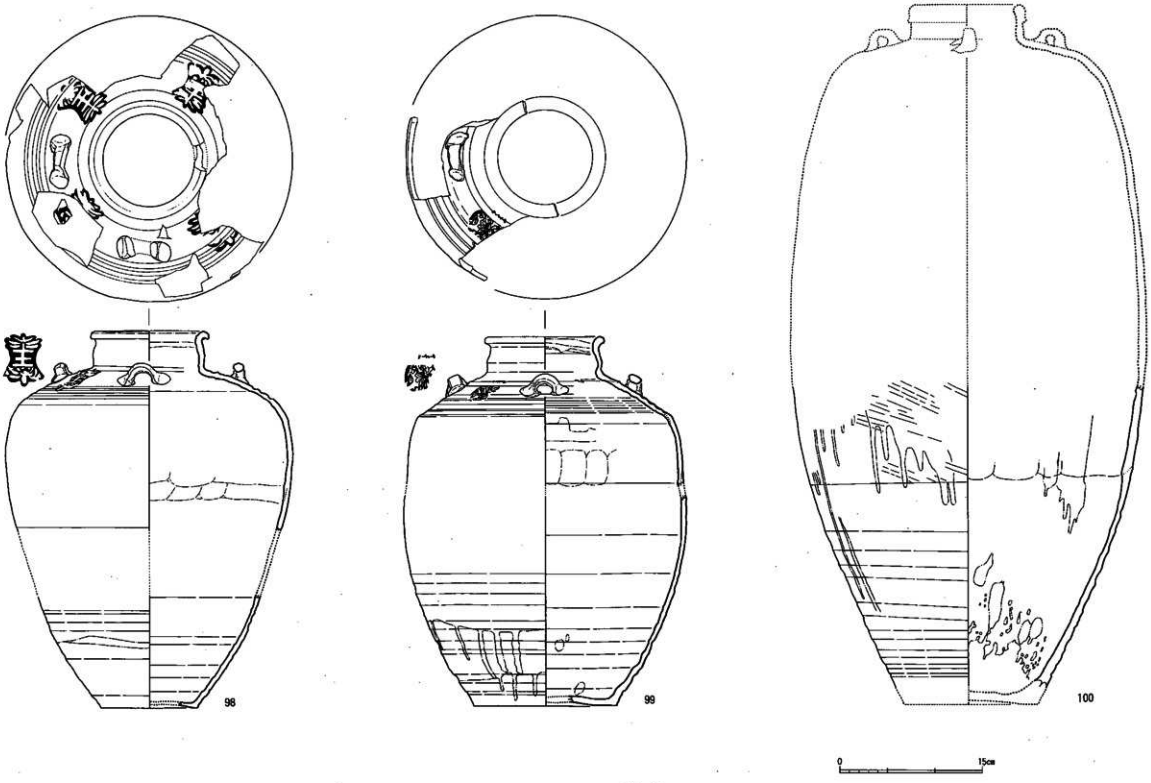


fig. 21　19SK004出土土器実測図（XII）

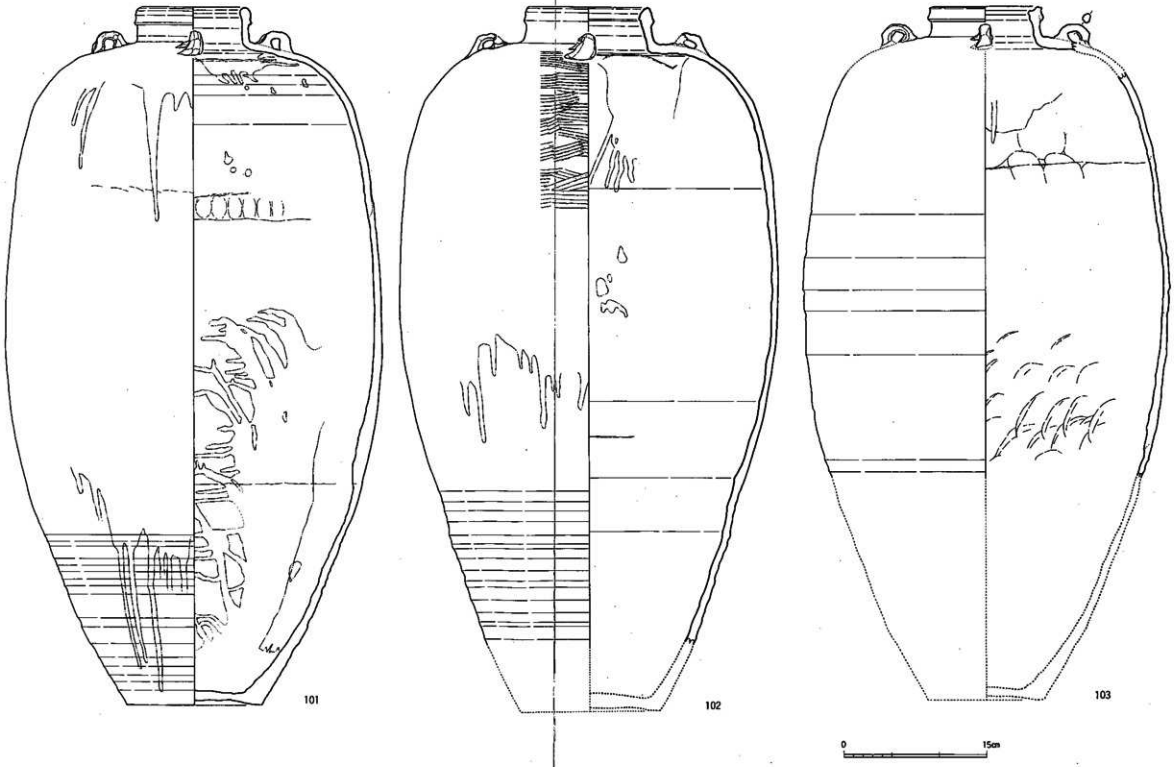


fig. 22　19SK004出土土器実測図（XIII）

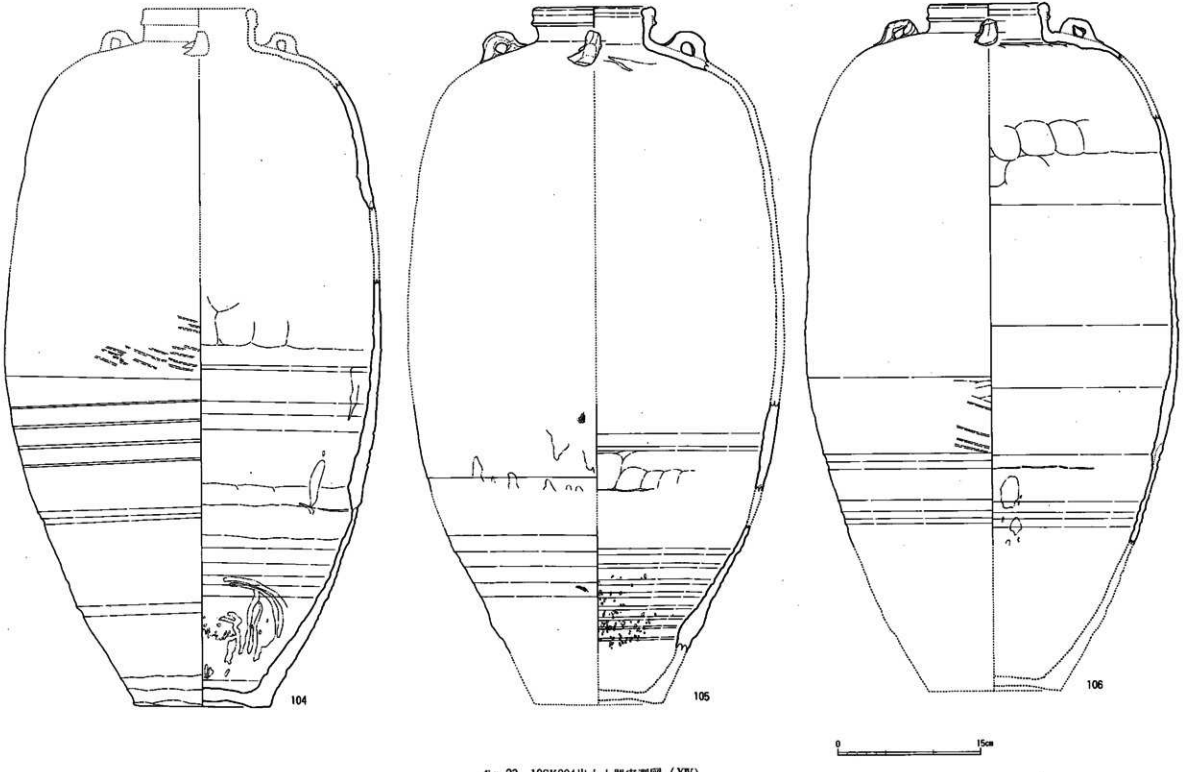


fig. 23　19SK004出土土器実測図（XIV）

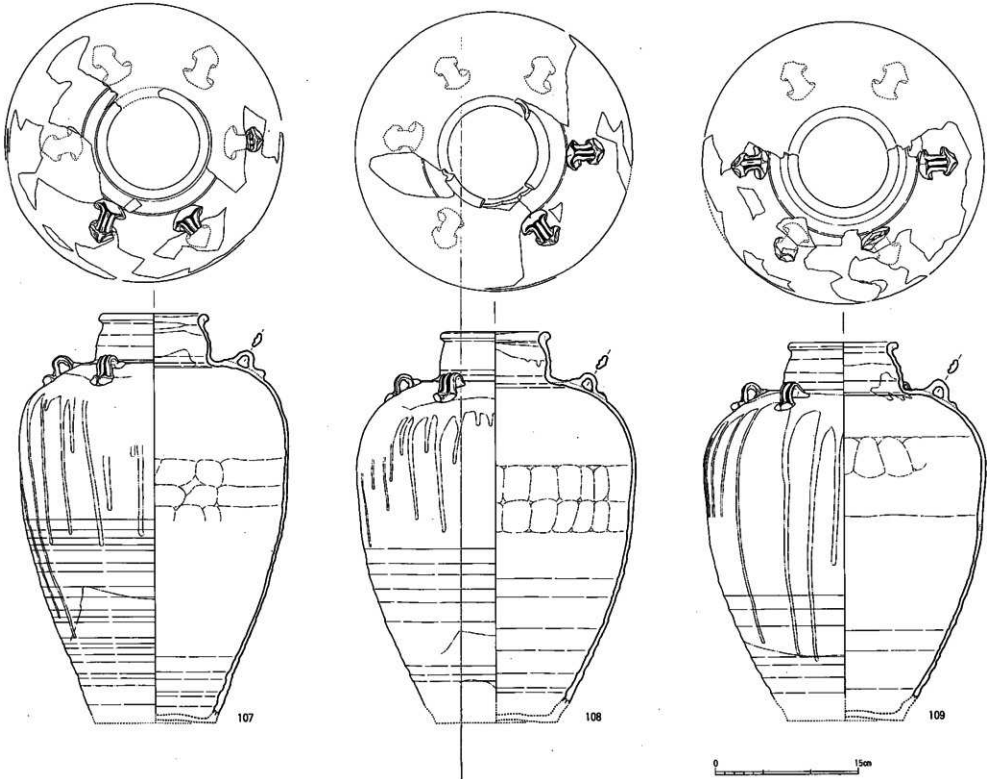


fig. 24　19SK004出土土器実測図（XV）

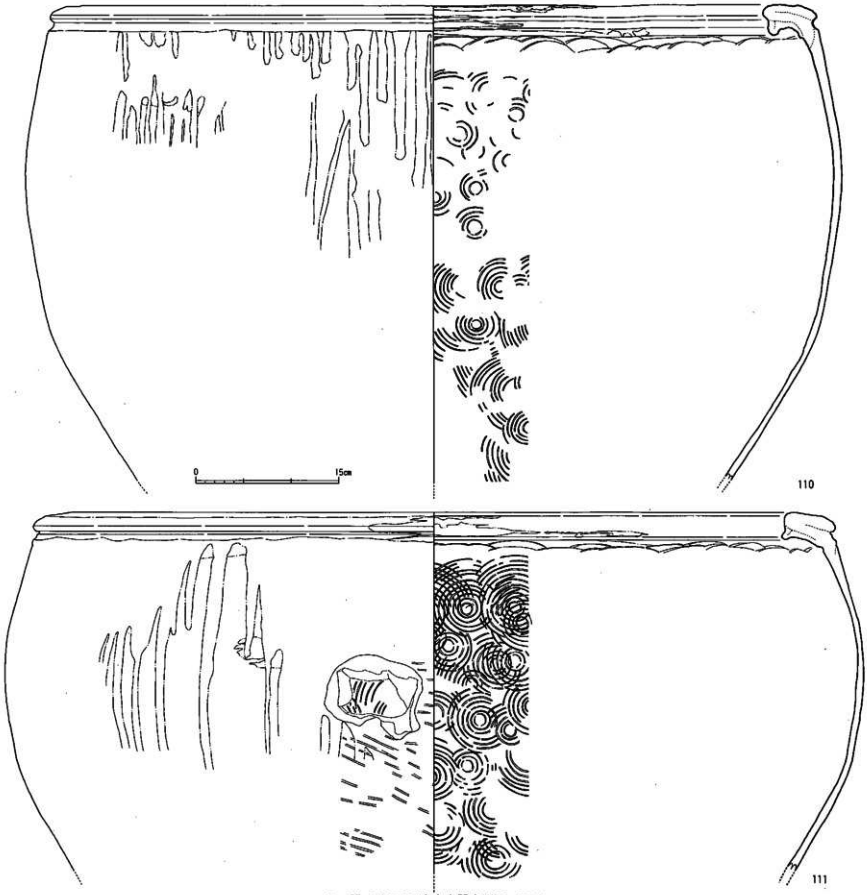


fig. 25　19SK004出土土器実測図（XVI）

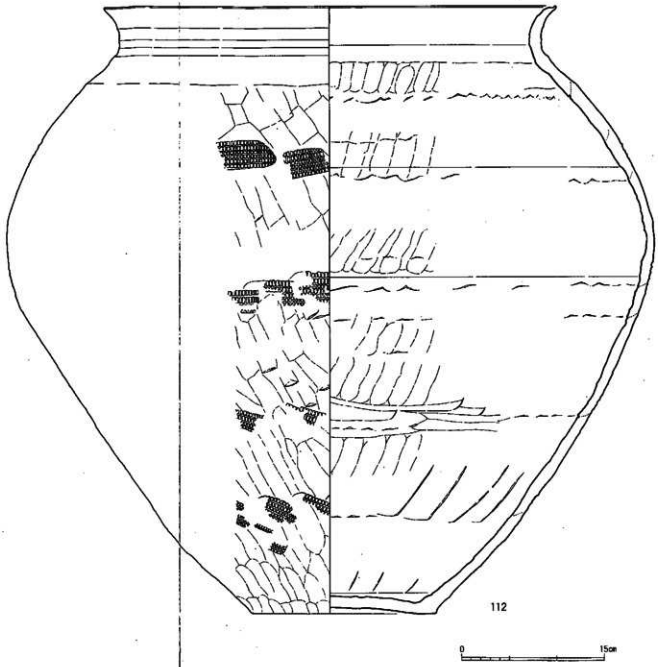


fig. 26　19SK004出土土器実測図（XⅦ）

は上・中位で最大径を有し、下位では急にすぼまる。底部は平底と思われる。胴部外面は目の粗い平行叩き、内面は口縁直下まで同心円叩き。内面の叩き成形は上から見ると右回り、下から上へと移動する。111は他の甕破片が焼付いており、窯内で同じ器種を並べて焼成したと思われる。110の口径は81.2cm、111の口径は85.2cm。

常滑焼

甕（112）　胎土は淡灰色で１～３mmの白色粒と黒灰色粒を少量含み、やや粗くざらつく。灰釉は外面上半を中心に施し、内面や外面下半はごく薄めで、茶灰色味の発色をなす。口縁部は小さく上方へ引き出され、内面に凹線を有する。胴部中位のやや上方は「く」の字形に鈍く屈折し、最大径となる。底部は平底。胴部の成形は大きく５つのブロックに分かれる。各ブロックは幅５cm位の粘土帯を巻き上げ、内面を指で押える。次のブロックとの境は外面から格子目叩き板で叩く。この際、内面に何をあてたのかはわからない。内面下半の１、２段目の境にはコテ状の調整痕が見られるが、下から３段目以上はこの痕跡がない。胴部外面は叩き後、下から斜め上にヘラ削りを行なう。胴部成形後に口縁部を接合し、外面から内面上位に横ナデを施す。口径48.2cm、器高64.0cm、底径19.7cm。

19ＳＤ010出土土器（fig. 27、別表２）

白磁

椀（１）　Ⅱ１類。

陶器

鉢（２）　Ⅵ１類の底部で、体部外面下位に目跡がある。

盤（３）　Ⅰ１ｂ類で19ＳＫ018・ＳＸ021・ＳＤ066・黒灰色土層から同一破片が出土した。

19ＳＤ066出土土器（fig. 27、別表２）

陶器

甕（４）　Ｆ類。胎土は茶灰色で白色砂を多く含む。釉は黄灰色で、体部外面下位まで施釉される。底部外面に大きな白色目跡がある。

花盆（５）　釉は暗茶褐色（Ｂ″類）で光沢はなく内外面に薄く施す。口縁端部は薄くつまみ出した後、円棒状のものを押しつけ波状の刻目をつくる。

19ＳＫ005出土土器（fig. 27、pla. 15. 22、別表１・２）

土師器

小皿ａ（６～10）　６～９はヘラ切り、10は糸切り。口径9.0～9.8cm。器高1.0～1.5cmで大ＳＫ802～ＳＫ1204型。下層からの混入品である。

杯ａ（11）　糸切り。口径13.0cm、器高2.7cmで大ＳＫ835～ＳＫ601型。

白磁

皿（12）　Ⅲ２類。

椀（13～16、24）　13はⅡ４類。内面見こみは一段凹み、口縁部は内湾する。14はⅡ３ｂ類。内面に縦の白堆線を有する。15はⅡ１類。16はⅤａ類。内面見こみに目跡を有し、小形容器を重ね焼きしている。

19ＳＫ012出土土器（fig. 27、別表２）

青磁

小椀（17）　龍泉窯系小椀Ⅰ1類。

青白磁

椀（18）　全面施釉後、底部外面の釉を削る。内面見こみは横沈線を境として一段凹ませる。

19ＳＫ018出土土器（fig. 27、pla. 22、別表２）

青磁

椀（19）　胎土は暗茶灰色。釉はくすんだ暗黄緑色。やや厚く施釉。浅形。体部内面には櫛目文の一部が観察される。同安窯系か龍泉窯系の古手と思われる。

盤（20）　Ⅰ類。口縁部内面に目跡がある。

越州窯系青磁

pla. 22ｃは水注か壺の底部でⅢ類に属する。

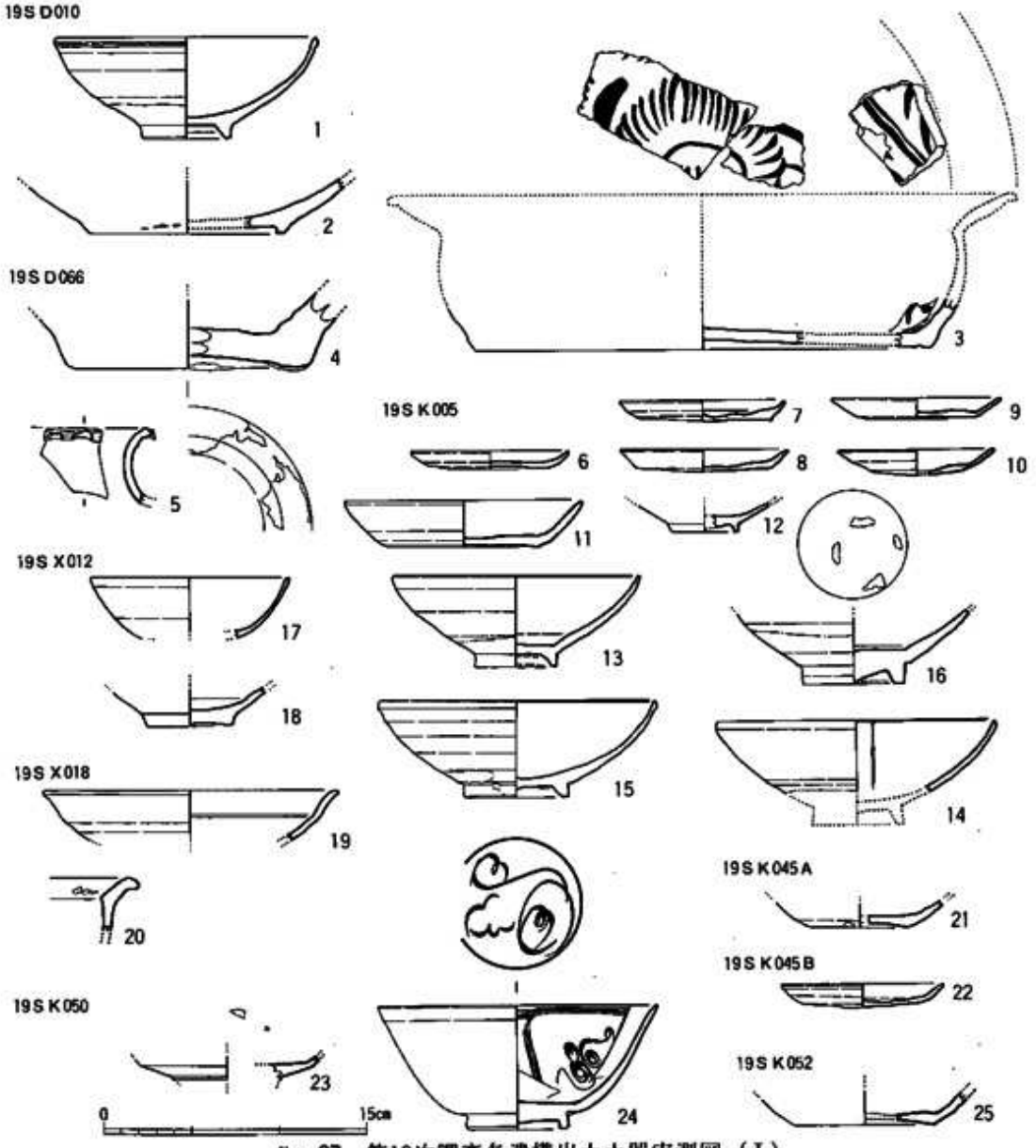


fig. 27　第19次調査各遺構出土土器実測図（Ⅰ）

19ＳＫ045Ａ出土土器（fig. 27、別表２）

越州窯系青磁

杯（21）　Ｉ類。全面施釉され、体部外面下位に目跡がある。

19ＳＫ045Ｂ出土土器（fig. 27、pla. 22、別表１・２）

土師器

小皿ａ（22）　ヘラ切り。口径9.4cm、器高1.3cm。大ＳＤ1330～ＳＫ1204型。

緑釉陶器

pla. 22ａは器形不明のもので破片のカーブから推定するとかなり大形になる。胎土は黄白色で軟陶。釉は灰濁化した黄緑色でやや厚く内外に施釉される。外面は数条の平行凹線を入れ稿状にする。これと同種の破片が灰色土層から１点出土している。

19ＳＫ050出土土器（fig. 27、pla. 22・26、別表２）

越州窯系青磁

皿（23）　Ｉ類。内面見こみに目跡がある。

龍泉窯系青磁

椀（24）　Ｉ４ａ類。

緑釉陶器

pla. 22ｂは椀または皿で内面に陰刻花文を施す。胎土は須恵質。釉は黄緑色で薄く内外施釉。

19ＳＫ052出土土器（fig. 27、別表２）

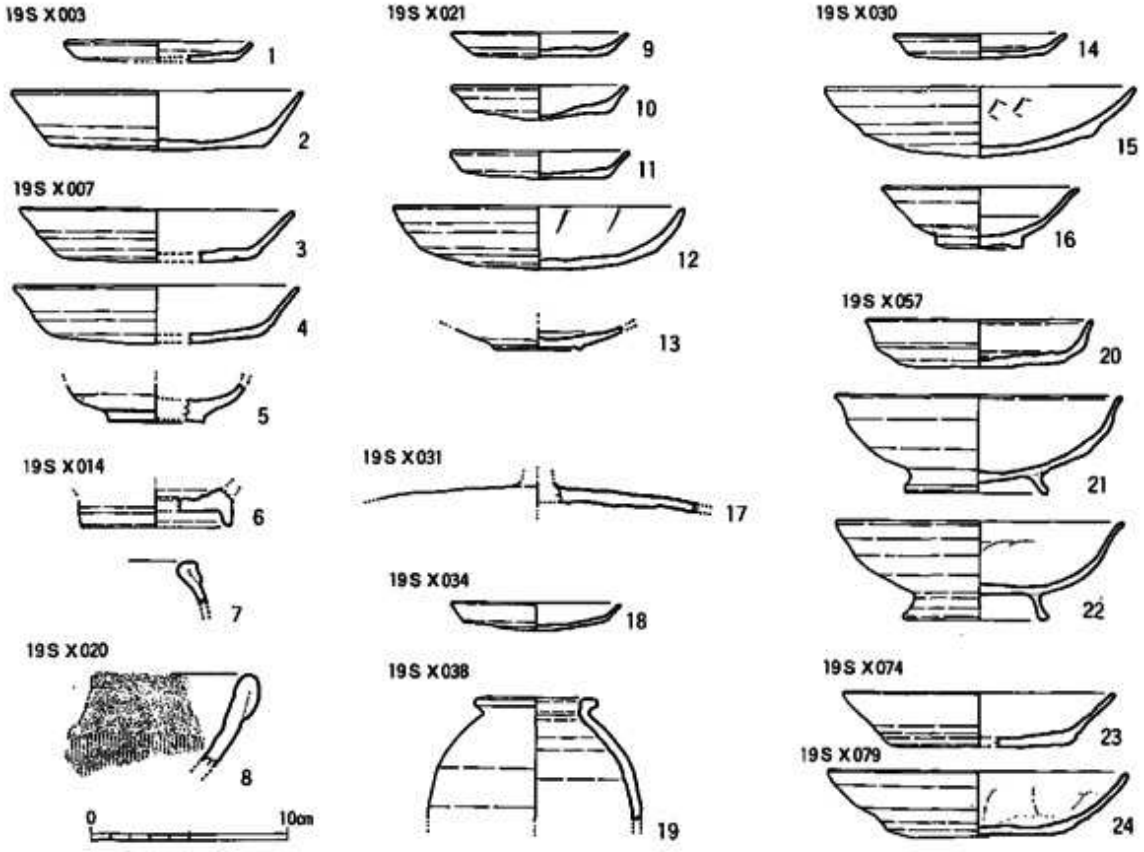


fig. 28　第19次調査各遺構出土土器実測図(Ⅱ)

陶器（25）　胎土は灰白色で少量の白色粒、黒色粒が入る。内外面に施釉されず、外面は暗灰色に発色する。

19ＳＸ003出土土器（fig. 28、別表１・２）

土師器

小皿ａ（１）　ヘラ切り。口径9.6cm、器高1.1cm。大ＳＫ802～ＳＫ1204型。

杯ａ（２）　糸切り。口径14.8cm、器高3.1cm。南Ⅱ１型。

19ＳＸ007出土土器（fig. 28、別表１・２）

土師器

杯ａ（３・４）　糸切り。口径14.0～14.6cm、器高2.7～2.9cm。大ＳＫ1085型。

緑釉陶器

皿（５）　胎土は土師質（軟陶）で橙灰色。底部は糸切りされる。

19ＳＸ014出土土器（fig. 28、pla. 22、別表２）

越州窯系青磁

壺・水注（６）　椀Ⅲ類に対応すると思われる。胎土は茶灰色で白色粒を含む。外面は全面施釉されるが内面は露胎。高台部見こみに目跡がある。

陶器

鉢（７）　胎土は淡橙灰色で白色粒と茶色粒を少量含む。釉は淡茶褐色で薄く内外面に施される。

19ＳＸ020出土土器（fig. 28、別表２）

陶器

鉢（８）　国産陶器と思われる摺鉢。胎土は淡赤灰色で２mm前後の白色砂を含み粗い。釉は暗茶褐色で薄く内外に施す。

19ＳＸ021出土土器（fig. 28、別表１・２）

土師器

小皿ａ（９・10・11）　ヘラ切り。口径9.0cm、器高1.2～1.7cm。大ＳＤ1330型。

丸底杯ａ（12）　ヘラ切り。口径15.2cm、器高3.2cm。大ＳＤ1330型。

白磁

皿（13）　Ⅶ１ａ類。

19ＳＸ030出土土器（fig. 28、pla. 22、別表１・２）

土師器

小皿ａ（14）　ヘラ切りされる。口径8.7cm、器高1.3cm。大ＳＤ1330型。

丸底杯ａ（15）　ヘラ切りされる。口径15.7cm、器高3.5cm。大ＳＤ1330型。

白磁

皿（16）Ⅱ１ａ類。

19ＳＸ031出土土器（fig. 28）

陶器

17は蓋状のものと思われる。胎土は淡茶灰色で細かい白色砂を少量含み、やや粗い。釉は緑灰色で光沢があり、外面に施される。

19ＳＸ034出土土器（fig. 28、別表１・２）

土師器

小皿ａ（18）　ヘラ切り。口径8.6cm、器高1.4cm。大ＳＤ1330～ＳＫ1204型。

19ＳＸ038出土土器（fig. 28、別表２）

陶器

壺（19）　Ⅳ３類。胎土は灰色で黒色粒を含む。釉は外面灰褐色、内面黒灰色に発色し、薄く施釉される。やや小形で口縁は断面三角形を呈する。

19ＳＸ057出土土器（fig. 28、別表１・２）

土師器

杯ａ（20）ヘラ切り。口径11.9cm、器高2.5cm。体部中位で内湾し君畑12号墓（南Ⅰ３Ａ類）に近似する。

丸底杯ｃ（21・22）　口縁部は外反し、内面にミガキｂを加える。口径14.6～14.9cm、器高5.0～5.1cm。大ＳＥ1083～ＳＫ802型。

19ＳＸ074出土土器（fig. 28、別表１・２）

土師器

杯ａ（23）　糸切り。口径13.8cm、器高2.7cm。大ＳＫ1085型。

19ＳＸ079出土土器（fig. 28、別表１・２）

土師器

杯ａ（24）　ヘラ切り。内面に丸底杯ａの調整であるミガキｂを加えた稀な類例である。しかしやや雑なミガキである。

小皿ａ　糸切り。口径9.0cm、器高1.3cm、底径6.8cm。ＳＫ1204型。

19ＳＤ070出土土器

上層（fig. 29、pla. 24、別表１・２）

土師器

皿ａ（１）　ヘラ切り。口径14.0～15.4cm、器高1.4～2.1cm。大ＳＥ1081～ＳＥ400型。

杯ａ　ヘラ切り。口径13.0～13.2cm、器高3.1～3.2cm。大ＳＥ1081～ＳＥ400型。

須恵器

杯ａ（２）　ヘラ切りされる。口径11.8cm、器高3.6cm。大ＳＥ1081～ＳＥ400型。

皿ａ（３～５）　ヘラ切りされる。３・４は削り調整を加えないが、５の底部外面はヘラ削りされる。３、４は口径13.8～14.2cm、器高2.0cm。５は口径17.2cm、器高2.6cm。

甕ａ（６）　内面には同心円、外面には平行叩きがある。

黒色土器

杯ｃ（７）　内面のみを燻すＡ類。体部は直線的で、内面には細かいミガキｃ、外面にはミガキａを施す。口径12.9cm、器高2.9cm。器肉は薄く、口縁部、高台部などのつくりはシャープである。

椀（８）　Ａ類。底部の器肉は厚く、高台のつくりは鈍重である。Ａ類は他に小形の椀ないし杯底部破片１、皿ないし椀の底部破片１がある。Ｂ類は壺か甕の肥手付破片がある。

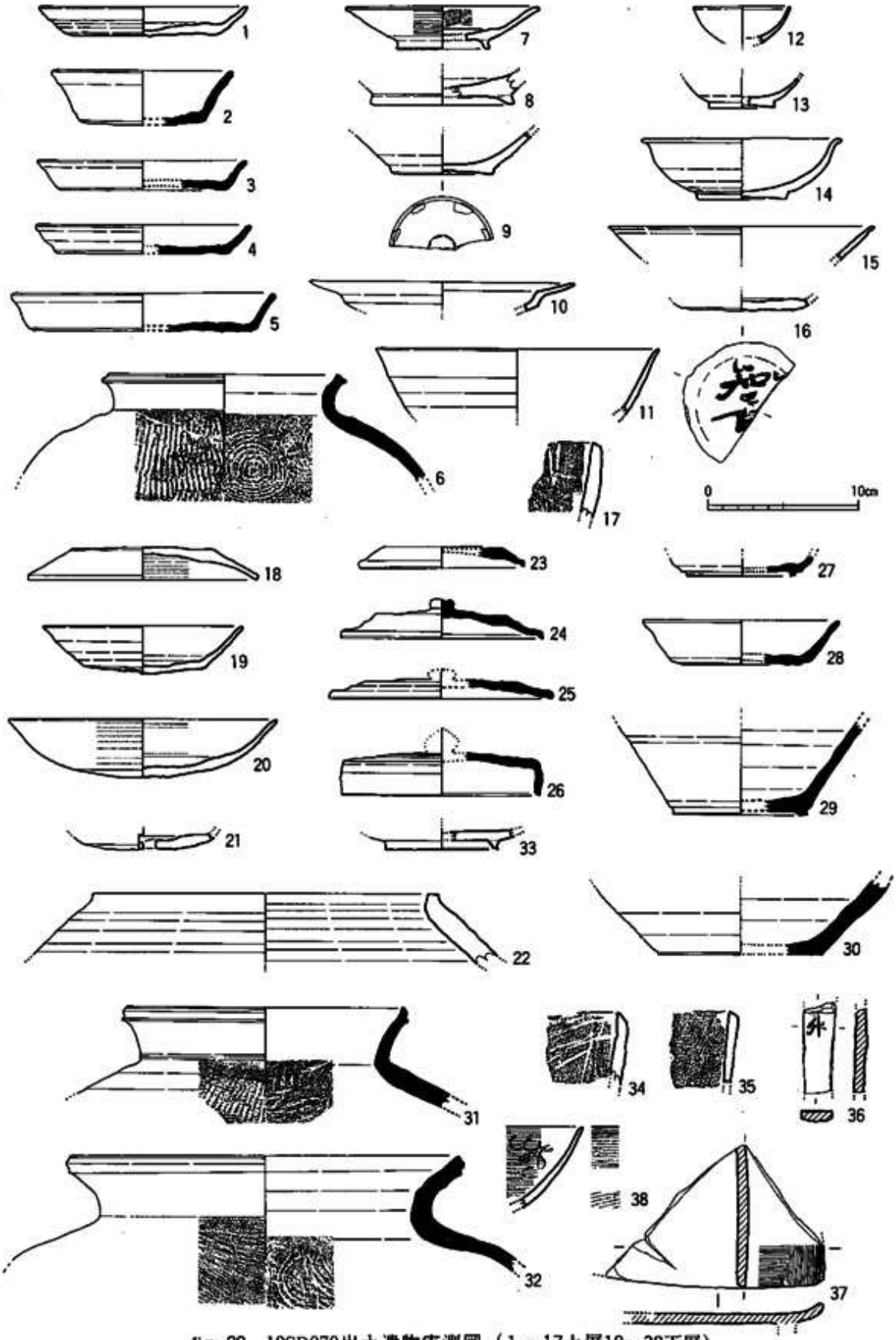


fig. 29　19SD070出土遺物実測図（1～17上層18～38下層）

越州窯系青磁

椀（9）　Ⅰ1ａ類。底部外面のみに目跡がある。他にⅠ類破片1がある。

灰釉陶器

皿（10）　口縁部内側に鋭い稜を有し、外面に屈曲がある。内面にはムラのある釉が厚くかかる。

椀（11）　体部下半には施釉しない。口縁部はわずかに外反し、体部はストレートぎみ。体部外面下半は回転ヘラ削り。

緑釉陶器

小椀（12・13）　胎土は硬質で淡灰色。釉は淡緑色。12の口縁部はわずかに肥厚させ、13は糸切りで円盤状の底部をなす。

椀（14・15）　14は12、13と類似した胎土、釉調をなす。底部は施釉されず、丁寧にヘラ削りされ円盤状をなす。15の胎土は淡黄白色でやや軟質。釉は淡黄色味をおびる。下層出土破片と接合する。

墨書土器

16は土師器杯ａの底部外面に「知長*」の墨書がある。大ＳＥ1081～ＳＥ400型。

製塩土器

塩壺（17）　Ⅰ類。

下層（fig. 29、pla. 23・24、別表１・２）

土師器

蓋ａ（18）　口縁部は小さな三角形をなす3形で、体部との境は不明瞭である。天井部は回転ヘラ削り、口縁部内外は横ナデされ、内面はミガキａが施される。大ＳＥ1081型と推定される。

杯ａ（19・21）　ヘラ切り。口径12.0～13.4cm、器高2.8～3.2cm。19は大ＳＥ400型。

杯ｄ（20）　口径14.0～16.0cm、器高2.7～3.3cm。大ＳＥ1081型。

竈（カマド）（22）　上部径22.8cm。暗褐色土層から同一個体と思われる廂部分が出土している（pla. 23）

須恵器

小蓋ａ（23）　小杯に伴う蓋である。天井部外面は未調整。

蓋ｃ3・4（24・25）　24は口縁部が小さい三角形をなすもので、25の口縁部は丸味をおび退化形である。天井部はヘラ切り未調整。他に口縁部が丸味をなす4形がある。

壺蓋ａ（26）　天井部外面から体部上位を回転ヘラ削りされる。

小杯ｃ（27）　体部外面下位は回転ヘラ削りされる。

杯ａ（28）　ヘラ切りされる。体部下位は横ナデされ丸味を有する。大ＳＥ1081～ＳＥ400型。

壺？（29）　高台は断面四角で体部外面から高台部にかけ横ナデされる。

鉢（30）　底部外面は回転糸切り、体部内外面は横ナデされる。灰色土層からの混入品か。

甕（31・32）　31の胴部内面は青海波の叩き後、横ナデされる。胴部外面は細かい格子目叩き後、頸部以下をカキ目調整する。頸部外面は叩き後に横ナデされる。32の胴部内面は青海波の叩き、外面は細かい平行叩きがある。頸部外面は叩き後に横ナデされる。

緑釉陶器

皿（33）　胎土は軟質で黄白色。釉は明黄緑色。高台端部に沈線状の段がある。

製塩土器

塩壺（34・35）　Ⅰ類。丸底の円筒形を呈するもので、内面は型づくりによる布目がある。

その他36は須恵質で断面長方形を呈する。表面及び側面は平坦にヘラ削りされ、裏面は指頭痕が多く甲状に膨む。表面には焼成前に×升ｘ」のヘラ描き文字がある。37は板状の扁平なものに把手または台状のものを付した特異なもの。平面図の右側面は上方に湾曲するが、下側面は平坦なままで側辺はわずかに外湾する。右側辺に平行な断面長方形の把手（あるいは台）が付いていたと思われ、その部分剝落する。上辺と下辺及び左辺と右辺は対称形をなすと思われる。黒色土器Ｂ類の調整と同様全面に密なヘラミガキを施し内外を燻している。暗褐色土層、黒灰色土下層から同一破片が出土した。

黒色土器

椀（38）　Ａ類。体部はストレートに近く、内外面にミガキを施す。内面にらせん状の磨きがある。

19ＳＤ080出土土器

上層（暗茶色粘土上・下層、茶色砂層）と下層（青灰色粘土層、茶色土層）に分けて記述する。

上層（fig. 30～33、pla. 23・24、別表１・２）

土師器

杯ｅ（１）　口径の小さな杯である。ヘラ切りされる。口径8.6cm、器高4.6cm。

杯ａ（２・３）　ヘラ切りされる。２は口径12.0cm、器高3.8cm。３は三方向の板状圧痕がある。

蓋ｂ（４）　環状つまみを有するもので内面にはミガキａが施される。

蓋ｃ（５～７）　５は小形で口縁部がやや明瞭な三角をなす。内外面にミガキａが施される。６・７の天井部外面は回転ヘラ削りされ、内面にはミガキａが施される。

皿ａ（12）　底部外面はヘラ削りされ、内面のみにミガキａが施される。

大皿ｃ（８）　高台は細く断面長方形。底部外面はヘラ削り。体部内外、内面はミガキａがある。

盤（９）　体部に２個一対の把手を付すと思われる。内外全面にミガキａが施される。

杯（10）　須恵器杯ａを模倣した古い形態の杯で、体部下半から底部は回転ヘラ削りされ、体部下位は丸味を有する。体部は直立ぎみに開く。体部内外、底部内面はミガキａがある。口径12.4cm。

椀ｃ（11）　体部は内湾し須恵器と類似する。全面にミガキａが施される丁寧な調整である。

高杯ａ・ｂ（15・16）　15は短脚形ａで16より古いタイプと考えられる。16は長脚形ｂで杯部はfig. 34－34参照。16の杯部内面はミガキａ、他は横ナデ調整。

小壺（17・18）　17は無頸。18は肩部が鋭い稜をなし、口縁部は外反する。外面にミガキａを施す。

小甕ａ（19～22）　口径20cm前後以下のもの。体部外面は縦位の刷毛目調整、内面は縦、斜位にヘラ削りされる。19、21、22は口縁部が少し外反し胴部が丸く張る古手のタイプである。20は体部が直線的で口縁部は三角形をなし、内面に鋭い稜線をつくる。

中甕ａ（23～25）　胴部がやや長めのものである。23、25は丸味の胴部に外反する口縁部を有する古手のタイプ。24は口縁内面がヘラ削りされ鋭い稜線をなす。

甕ａ（27・28）　口縁部は幅広く外反し、胴部の張みは少ない。27の口縁部内面は横の刷毛目調整。

その他26は胴部の張る壺に近い形態の甕で古墳時代後半のもの。外面は凹凸の少ない刷毛目調整。

黒色土器

椀（13・14）　Ａ類。13の高台は底部外面と体部外面下位に手持ちヘラ削りを行なってつくり出した特異な手法のもので、搬入土器と考えられる。14は内外にミガキがある。

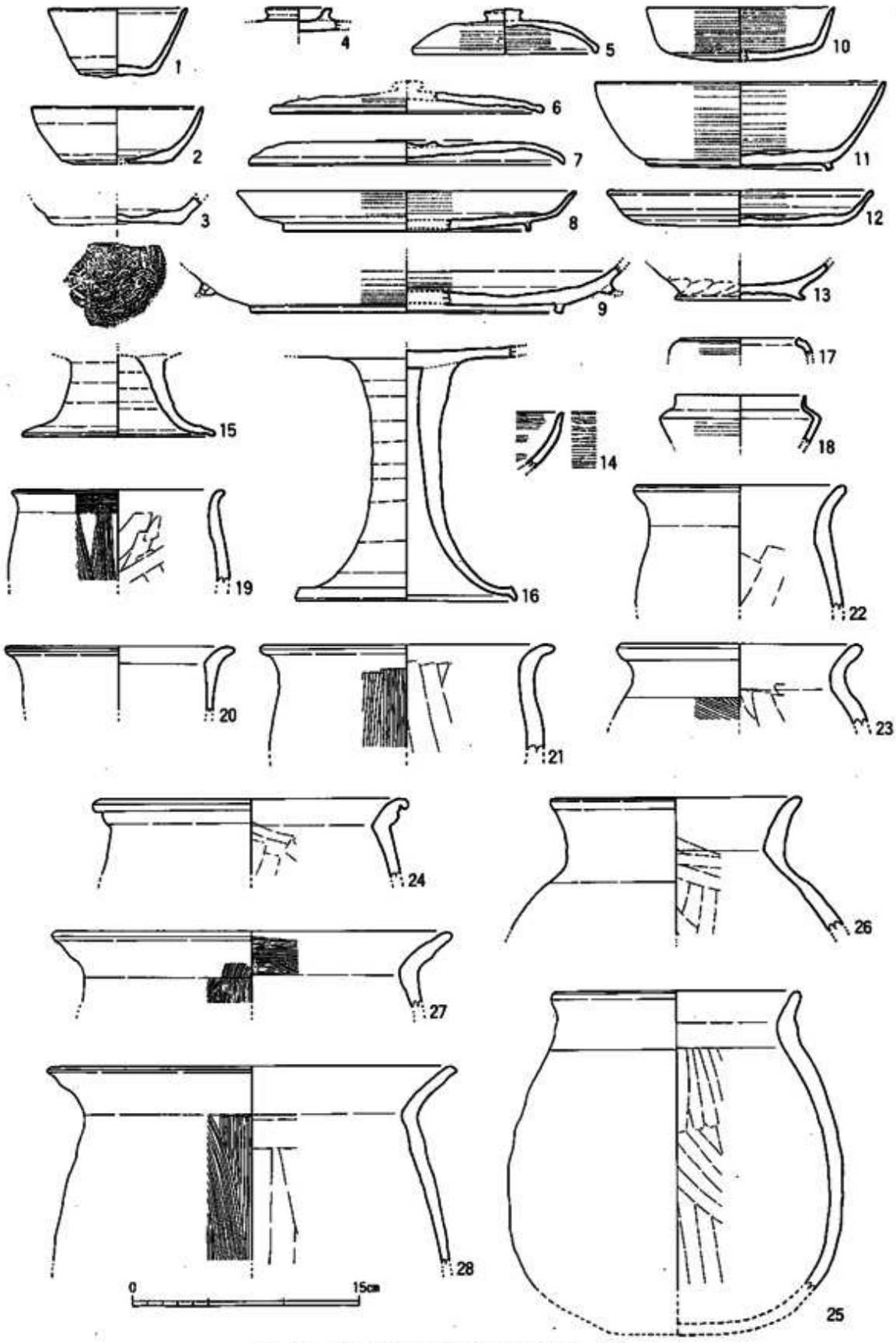


fig. 30　19SD080上層出土土器実測図（Ⅰ）

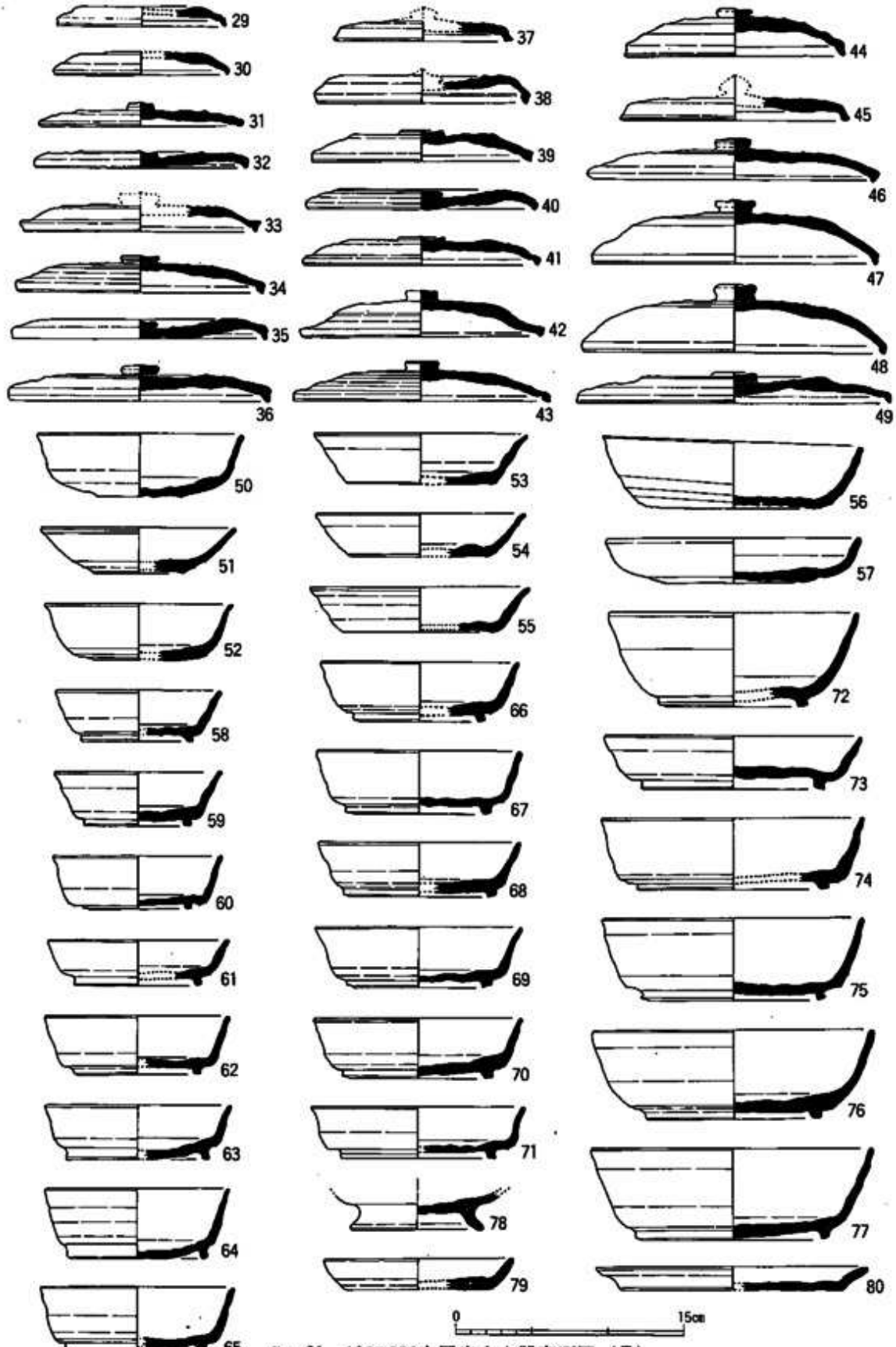


fig. 31　19SD080上層出土土器実測図（Ⅱ）

須恵器

小蓋a (29・30)　口縁部は小さく明瞭な三角形をなす。天井部外面はヘラ切りされ未調整。

蓋c 2 (35～37、44、45)　口縁部が下方に長く屈折する。天井部はヘラ削りされる。

蓋c 3 (32～34、38～43)　32～34、38の口縁部は断面が明瞭な三角形で、天井部はヘラ削りされる。40、42は小さな三角形で天井部に削りがある。39、41、43は鈍いつくりの三角形で、39、41に天井部の削りはない。

蓋c 4 (31)　口縁部断面は退化形で丸くなる。天井部にヘラ削りはない。

大蓋c 2・3 (46～49)　椀cの蓋と思われる。47～49はc 2、46はc 3でいずれも天井部は削る。

杯a (50～55)　50、53～55の底部はヘラ切りのまま未調整。50の体部下半は丸味をおびておりヘラ削り後、横ナデされたと考えられる。52の体部外面下位は回転ヘラ削りされる。51は土師器の杯dと類似した形態である。体部外面下位から底部外面は回転ヘラ削りされる。

小杯c (58～60)　高台は小さいが安定感をもつ。58、59は外側に張り、60は端部を上方に跳ねる。

杯c (61～71、73、74、78)　61～71、73、74の高台部は断面四角である。71、74の体部外面下位は回転ヘラ削りを行なうが、61、63、65～69、73は横ナデ再調整により削り痕を消していると考えられる。62、64の体部と底部の境はやや鋭い稜をなし、体部は直立ぎみである。

椀a (56)　平底で内湾ぎみの口縁を有する。体部外面から底部外面まで回転ヘラ削り。

椀c (72、75～77)　75、77の底部外面は回転ヘラ削り、76は底部外周をヘラ削りする。

皿a (57、79、80)　57の底部はヘラ切りされ、体部と底部の境は横ナデされる。79の体部外面下半は回転ヘラ削りされるが底部外面は未調整。80の底部はヘラ切り後、回転ヘラ削りされる。

高杯 (81～85)　皿状の杯部と断面三角形の端部を有する短い脚部からなる。81の杯部内面は内傾する平坦面をつくる。杯部外面はヘラ削り、口縁部は横ナデ。内面中央は横ナデ後、ヘラ削り。82の口縁部は外側に引き出され、杯部外面はヘラ削りされる。83の杯部外面はヘラ削りされ、内面中央に手持ちのヘラ削りを行なう。84、85は81～83と同じ形態の脚部である。

壺a (87・91)　87の頸部はわずかに外へ開く。胴部外面中位以下は回転ヘラ削り。91は胴部外面下位から底部にかけヘラ削りされ、胴部上、中位は内外横ナデされる。高台部端は外上方に跳ねる。

壺c (88)　扁平な把手を2個一対有する短頸壺。胴部中位は屈曲する。屈曲以下は回転ヘラ削り。

壺 (90・97)　90の胴部外面は正格子叩きの後、回転ヘラ削りされ、内面は青海波叩きの上をナデ。97の胴部内面は青海波叩きの上を横ナデする。

鉢 (86)　内外にはミガキaを施すが須恵器には用いられることの少ない手法である。

甕a (92～96)　92の胴部外面は平行叩き、内面は青海波叩きが施される。93の体部外面は平行叩きの後、横ナデされ、内面は青海波叩き。94は口径が小さく壺形を呈する。頸部外面に2本の平行線のヘラ記号がある。95の胴部外面は格子叩き、内面は青海波叩きの上にナデを施す。96の胴部外面は平行叩きの後、カキ目を施す。

鉢b (89)　体部下位から底部はヘラ削りされる。

製塩土器

焼塩壺Ⅱb (98～100)　円錐形で98の外面は指頭痕、内面はヘラ状の調整後、横ナデされる。

焼塩壺Ⅰ (101)　丸底の円錐形を呈する。外面に指頭痕、内面に布目痕がある。

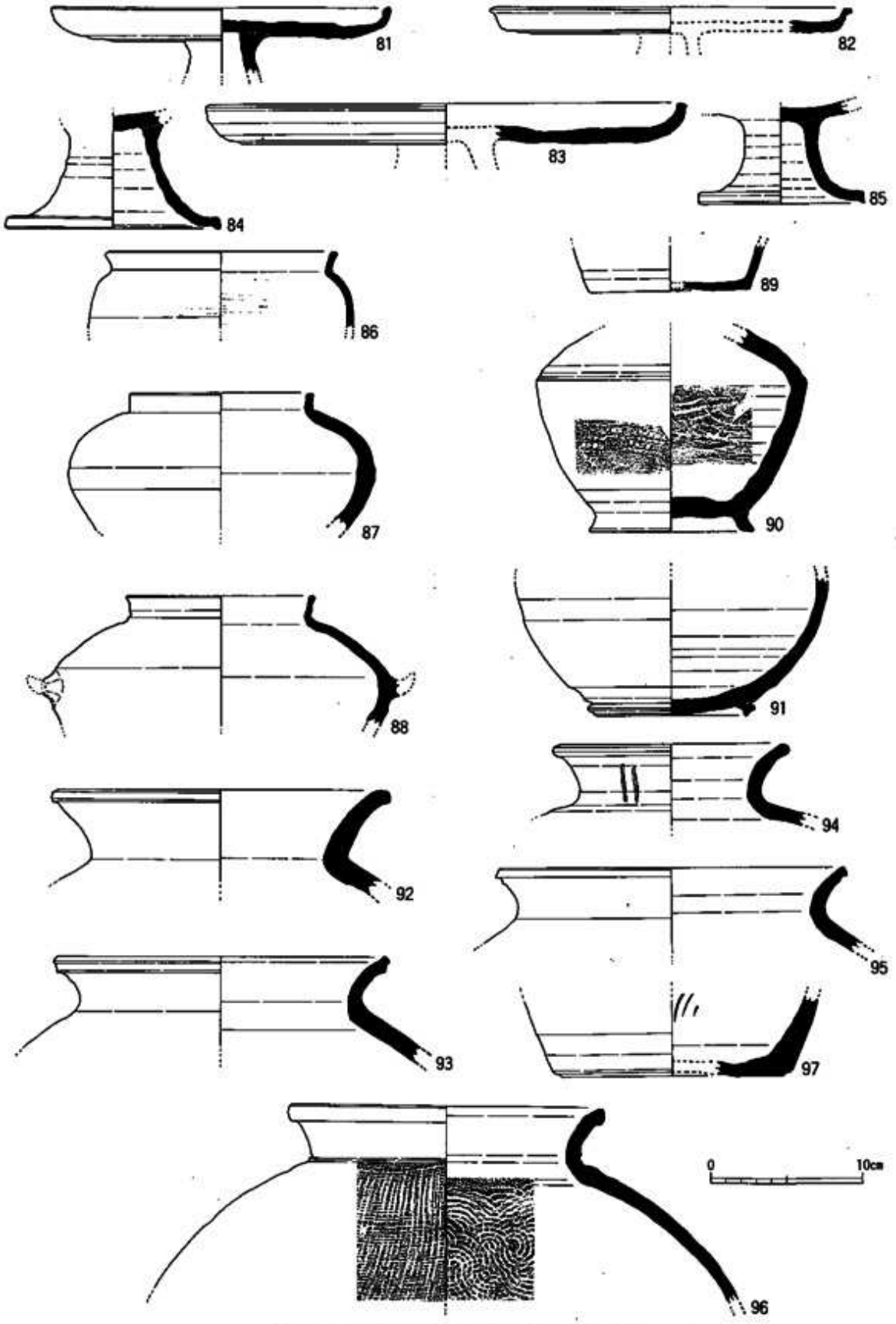


fig. 32　19SD080上層出土土器実測図（Ⅲ）

甕（102～104）　胴部外面に平行叩き、内面に平行孤線状の叩きを有する。102は雲母を含む。

青磁

椀（105）　器形、施釉方法から越州窯系Ⅱ１ａ類に分類するが、胎土、釉調は他の越州窯系と異質である。胎土は灰白色で砂味をおびるが、混入物はない。体部外面中位以下は露胎で橙灰色。釉は濃緑灰色。内面から体部外面に化粧掛けを行なった後、厚めに施釉される。破片では内面に目跡は認められない。黒灰色土下層から同一個体の破片が出土している。19ＳＤ080に伴うものではなく上層からの混入品であろうか。

緑釉陶器

椀（106）　胎土は淡黄白色で軟質。釉は明黄緑色。口縁部内面に凹線を有する。ミガキがある。

灰釉陶器

壺蓋ａ（107）　胎土は灰白色で緻密。ムラのある釉が天井部外面に厚めにかかる。

その他の遺物

土錘（108・109）　108は長さ5.3cm、径0.7～1.3cm。109は須恵質で長さ6.0cm、径1.2～2.4cm。

不明土製品（110）　灰白色、瓦質に焼成される。表裏はヘラで切断し面を平滑にしている。各隅部は面取りされる。裏面には３ヶ所に脚状のものが付いた痕跡を残す。

下層（fig. 34～36、pla. 23、別表１・２）

土師器

蓋ａ（１）　口縁部は小さく三角形をなす。天井部はヘラ削りされ「大」字を刻む。ミガキはない。

蓋ｃ（２～４）　口縁部は三角形または丸味をおびる。

杯ｄ（５～13）　体部は内湾するものが一般的であるが８、10、12は直線的に開く。５は底部外面にもミガキａを行ない、６～13より古手のものである。６～13は８Ｃ後半。

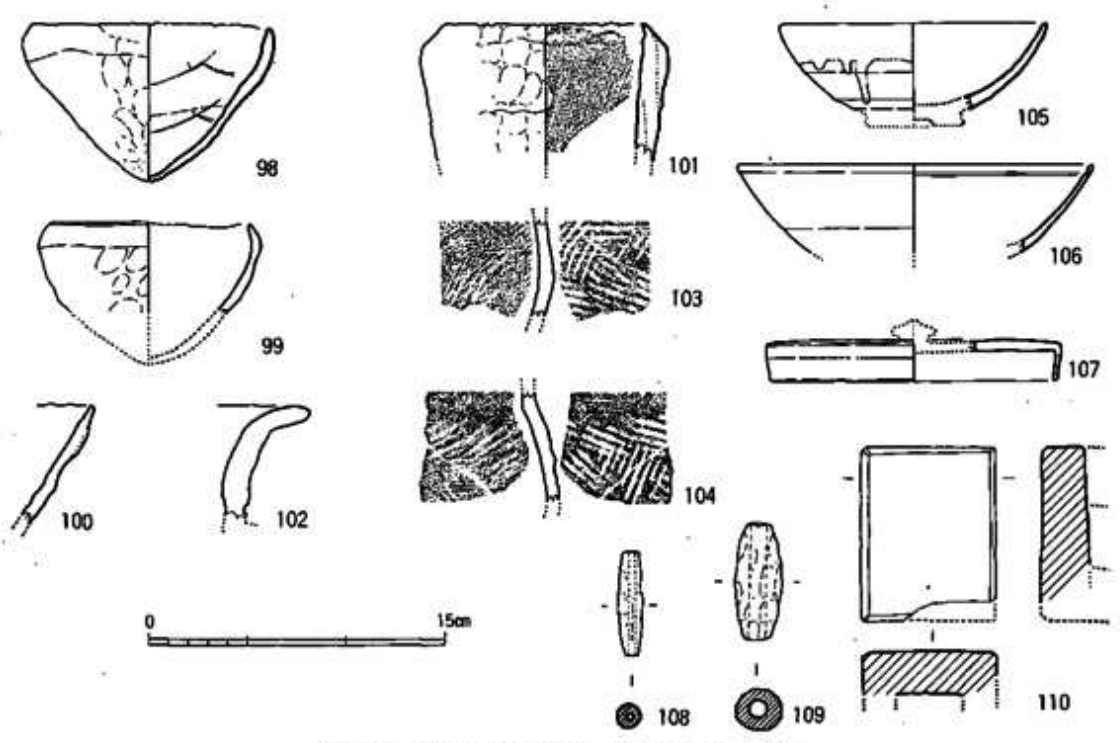


fig. 33　19SD080上層出土土器実測図（Ⅳ）

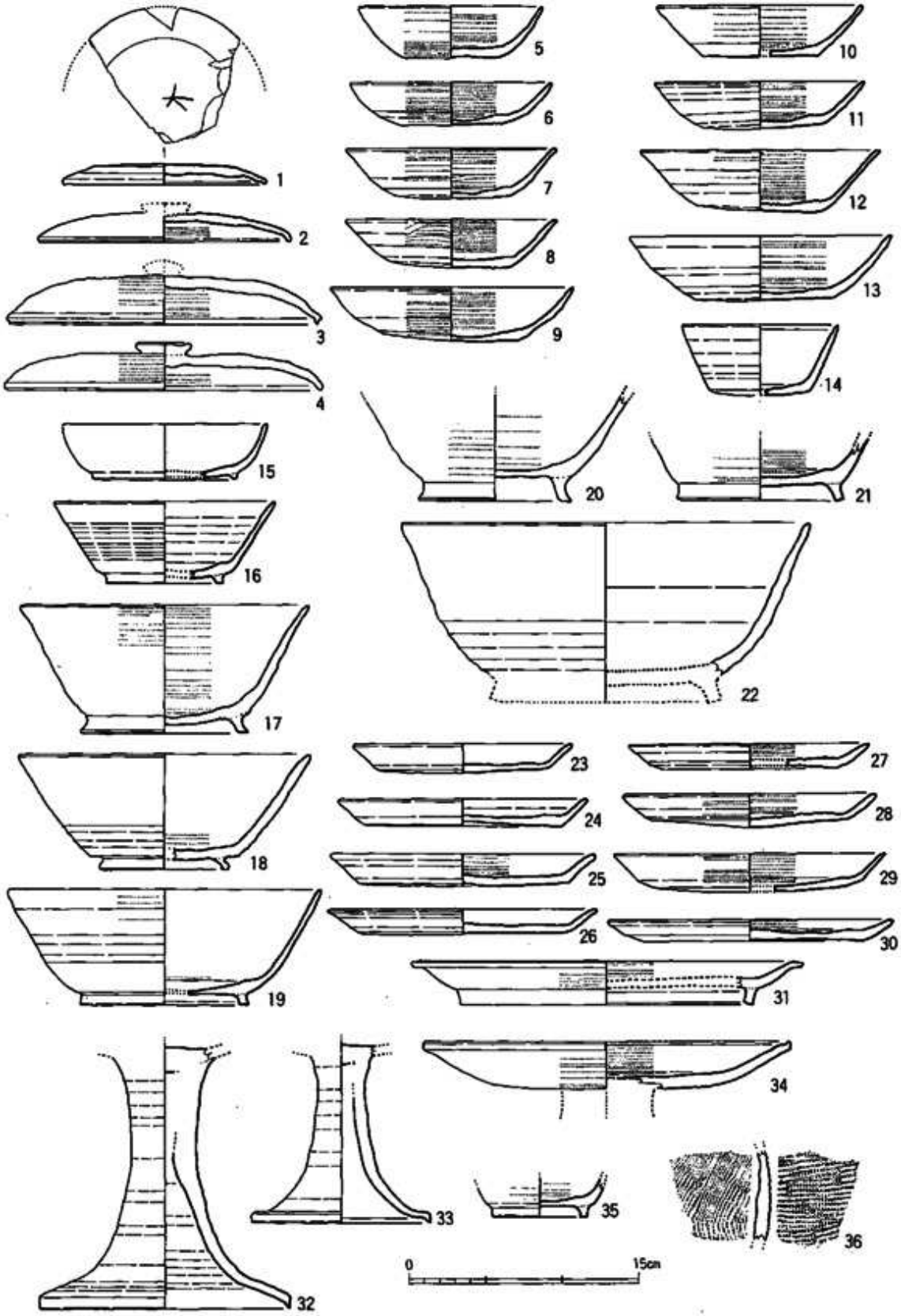


fig. 34　19SD080下層出土土器実測図（Ⅰ）

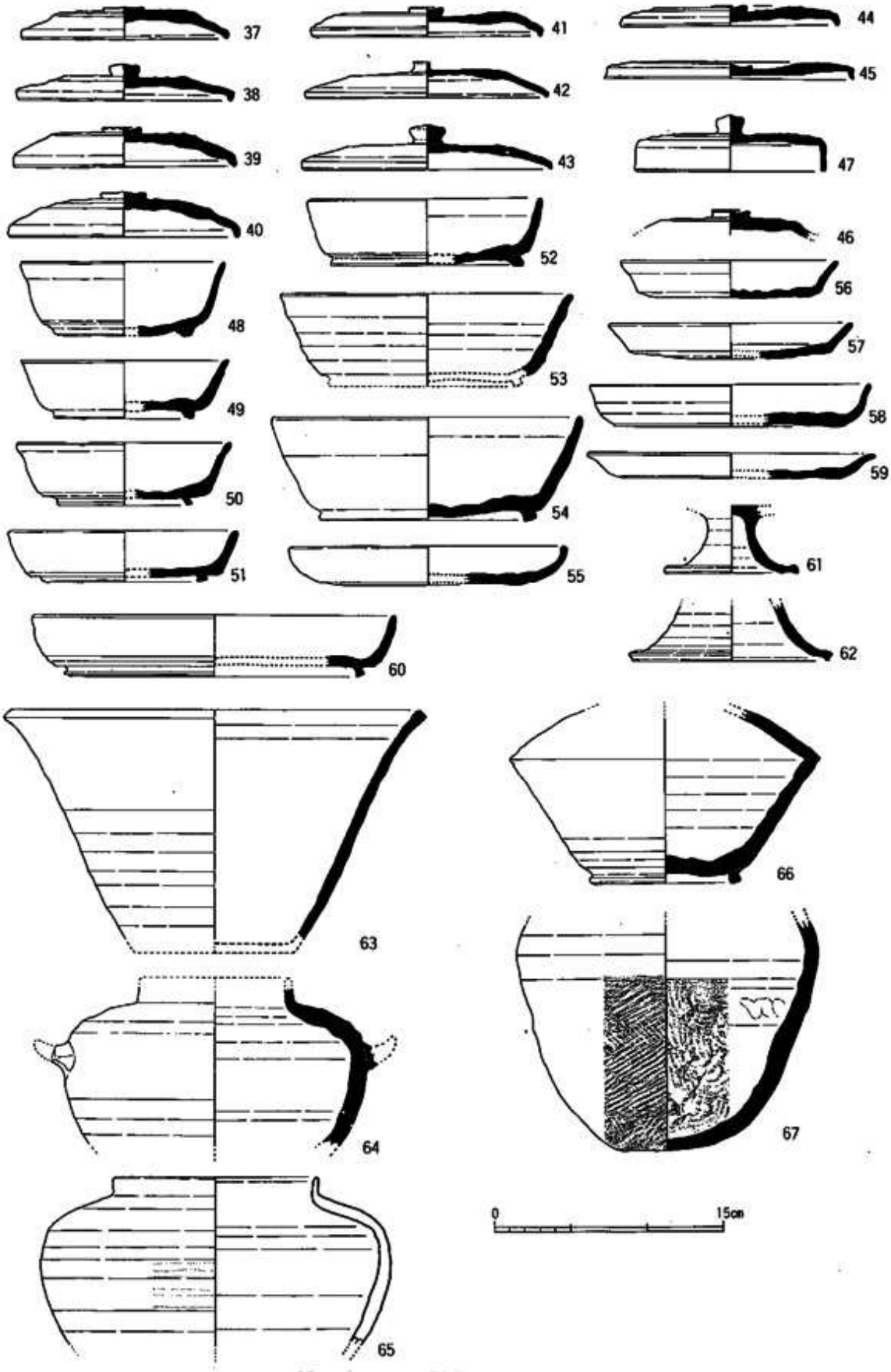


fig. 35　19SD080下層出土土器実測図（Ⅱ）

杯e (14)　小形の杯で、ヘラ切りされ、体部は横ナデ調整である。口径10.1cm、器高4.7cm。

杯c (15)　杯a、dに比べ点数は少ない。体部は丸味を有し、8C前半の須恵器杯cと類似する。

椀c (16～21)　16は体部内外を横ナデ調整で完成させ、ミガキaを加えないもので、大SE400型。出土点数が1点のため19SD070から混入したと考えられる。17～21の体部内外面はミガキaを加え、体部外面下位はヘラ削りされる。18、19は大SK1280、17、20は大SE1081型と思われる。

鉢・大椀c (22)　体部外面中位以下は回転ヘラケズリ。上位から内面は横ナデされる。口径26.6cm。

皿a (23～30)　精粗2種の皿がある。23、24は粗製に属し、底部はヘラ切りされ、体部内外は横ナデ調整される。25～30は精製品で回転ヘラ削りされ、体部内外にミガキaを施す。

大皿c (31)　高台は断面長方形で高く、口縁部は外反する。内外にミガキaを施し丁寧である。

高杯b (32～34)　杯部外面はヘラ削りされ内外にミガキaを施す。脚部は高い。大SE1081型。

壺a (65)　薬壺形短頸壺。口縁部内面一部と胴部外面下半にミガキaがある。

小壺 (35)　高台は断面長方形。底部内面、体部内外面にミガキaを施す。

甕a (68～70)　68の口縁部は幅広に外反し内面に鋭い稜をつくる。口縁部内面は横刷毛目、外面は縦刷毛目、内面はヘラ削り。69、70の内面は鋭い稜をなさず鈍い屈曲をなす。

中甕a (71)　口縁は強く外反し内面に鋭い稜がある。胴部は長めで丸味をおび、内面はヘラ削り。

製塩土器

甕 (36)　胴部破片。外面に平行叩き、内面に平行孤線状の叩き目がある。

須恵器

蓋c 2～4 (37～46)　44、45は2型。37～40は大きく明瞭な3型。41は少し純い3型。42、43は鈍く小さい3型で天井部ヘラ切り。他はいずれも天井部はヘラ削り。

壺蓋a (47)　天井部は回転ヘラ削りされる。擬宝珠形の高いつまみを有する。

杯c (48～52)　底部外面はヘラ切り。48、51は高台を付す前に底部下位と底部の境外面をヘラ削りする。49、50、52は体部直立ぎみである。横ナデ調整のためヘラ削りの痕跡は明瞭でない。

椀c (53・54)　体部は直立ぎみで54の底部外周はヘラ削りを行なう。

皿a (55～59)　ヘラ切り。55、58は体部外面下半に丸味を有しヘラ削りされた可能性がある。

大皿c (60)　体部下位は丸味を有しヘラ削りされたと思われる。底部はヘラ削りされる。

高杯 (61・62)　61は短脚形の高杯で、杯部は欠損する。

鉢b (63)　口縁部は外反する。体部中位以下はヘラ削りされ、内面は横ナデ後、ナデを施す。

壺c (64)　取手付短頸壺。胴部中位以下は回転ヘラ削りされ、内面上位は横ナデ、下位はナデ。

壺b (66)　長頸壺。胴部外面下位から底部はヘラ削りされる。

鉢 (72)　口縁部は外反する。体部内外面は横ナデされる。

甕a (73～77)　73、74の口縁部外面は段状をなす。75～77の口縁部外面は突帯状に外側へ引き出される。74～76の内面は青海波叩きの上を横ナデ。74、76の外面は格子目叩き。77の内面は車輪文叩き、外面は平行叩きである。

その他67は壺ないし甕として図示したが横瓶とも思われる。外面は平行叩き、内面は一部指頭痕があり上位は横ナデ、下位は平行孤線文叩きが施される。78は広口の甕で口縁部外面に段がある。

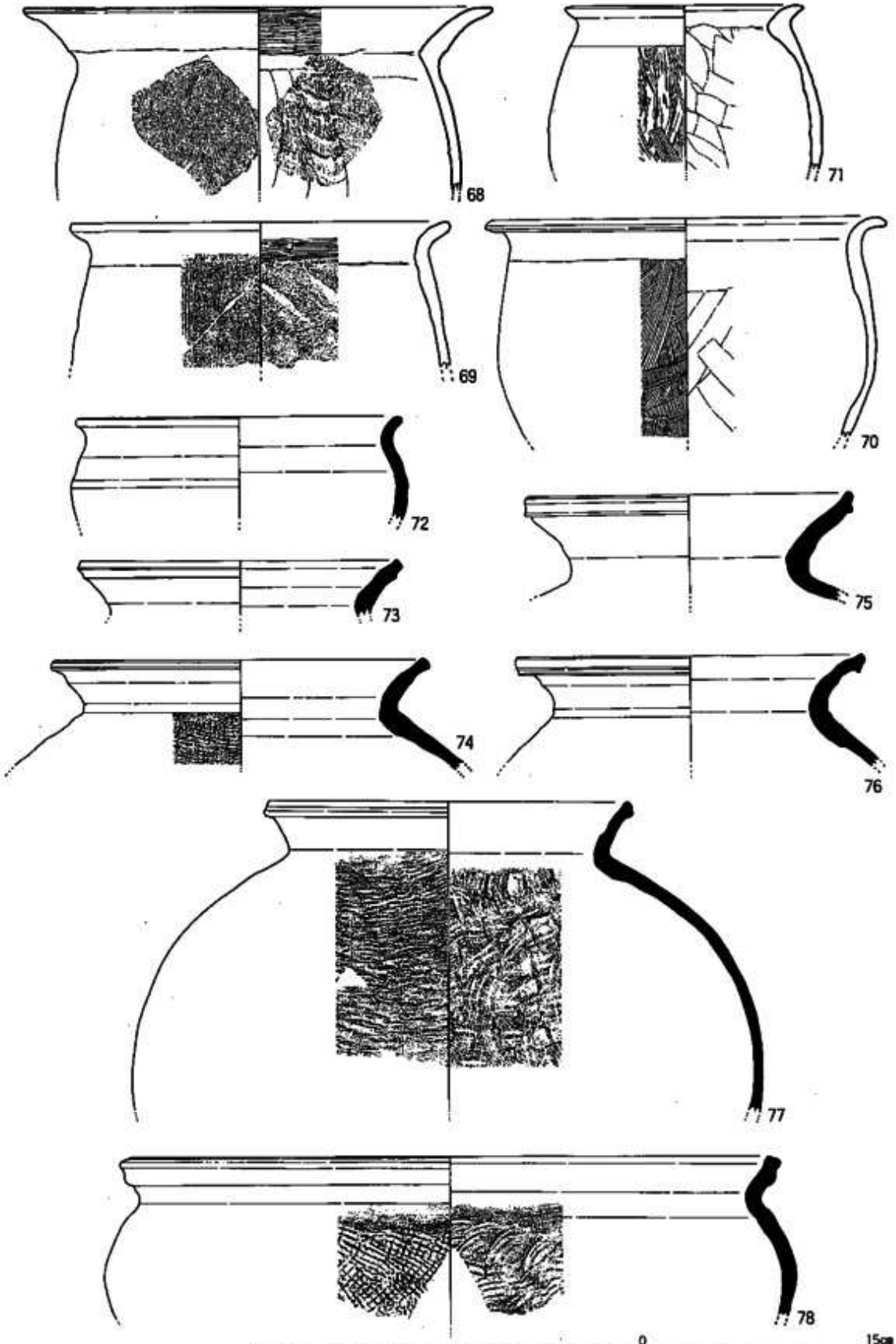


fig. 36　19SD080下層出土土器実測図（Ⅲ）

19ＳＸ075出土土器（fig. 37、別表２）

須恵器

小蓋ａ（１）　口縁部はしっかりした三角形をなす。天井部外面は回転ヘラ削りされる。

蓋ｃ３（２～４）　２、３の口縁部は長めの三角形、４は明瞭な三角形。２、４はヘラ削りされる。

小杯ｃ（５・６）　体部は直立ぎみで５の高台は細みである。

杯ｃ（７）　体部は直立ぎみで、高台は太く頑丈である。体部外面下位に丸味を有する。

皿ｃ（８）　体部外面下位は丸味を有し、高台は太く断面四角をなす。

皿ａ（９・10）　９は内湾し、10の体部は直立ぎみで外面下位に丸味があり、底部はヘラ削りする。

高杯（11）　脚部縁はしっかりした三角形をなす。内外面は横ナデされる。

甕ａ（12）　口縁部外面は段状をなす。胴部外面には細かい平行叩き、内面には青海波叩きがある。

土師器

小杯ｃ（13）　形態的特徴は５と類似する。底部外面と内面一部にはミガキａが認められる。

椀ｃ（14）　体部下位に丸味を有する。内外にミガキａを施す。底部外面は回転ヘラ削り後、高台内部に一部ミガキを加え、黒色化している。

高杯ａ（15）　短い脚部と皿形の杯部からなる。杯部内面にはミガキａを加える。

小甕ａ（16）　口縁部は短く外反し、内面は鋭い稜をなす。体部内面はヘラ削り、外面は刷毛目。

甕（17）　口縁部内面は鋭い稜をなし、胴部はやや脹む。内面はヘラ削り、外面は刷毛目調整。

表土層出土土器（fig. 38、pla. 19）

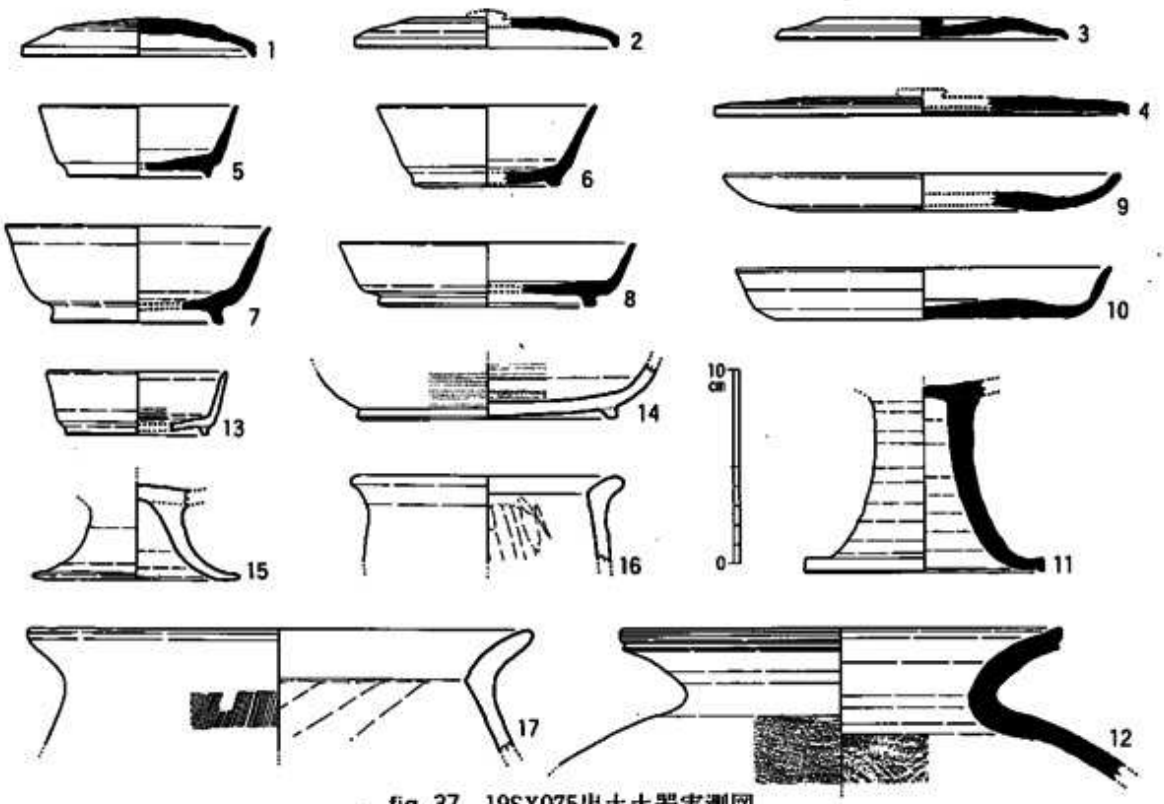


fig. 37　19SX075出土土器実測図

白磁

椀（1）　胎土、釉はⅤ類に類似する。体部は薄手につくられ、内面にヘラ描き文を有する。

高麗青磁

椀（2）　Ⅲ2類。胎土は緑色味をおびた淡黄灰色で白色粒を含む。釉は茶色味の濃緑色。光沢はあるが白濁化し不透明。全面施釉。内面見こみと高台畳付に目跡がある。

青白磁

合子身（3）　胎土は黄白色で緻密。釉は黄色味をおびた白色で貫入がある。口縁部及び体部外面下位から底部外面は露胎である。

陶器

4は花盆と考えられ、胎土は淡茶灰色で紫色粒が少し入る。釉は黄色味をおびた茶褐色で内外に施釉される。口縁部は棒状のものを押しつけて波状刻目にする。5は甕Ⅲ類。Y字状口縁を有し、胎土は1㎜位の白色砂が多く暗青灰色または紫灰色を呈する。釉は灰褐色で内外にうすく施釉される。口縁一部は露胎である。6、7は盤、6はⅡ1類。胎土は灰茶色で赤色粒を含む。釉は黄灰色で光沢はなく貫入がある。内面中心に薄く施釉される。7の胎土は灰黄色。釉は黄灰色で光沢、貫入がある。口縁部より下の内面に施釉される。

黒色粗砂層出土土器（fig. 38）

土師器

小皿a（8）　糸切り。口径9.1cm、器高1.1cm。大SK1204～SK835型。

杯a（9・10）　糸切り。口径13.2～13.5cm、器高2.4～2.5cm。大SK835～SK601型。

淡灰色土層出土土器（fig. 38）

陶器

小盤（11）　Ⅱ1a類。胎土は灰黄色で白色砂、黒灰色粒を含む。釉は濁黄灰色で内面に厚めに施釉される。外面は露胎で黄灰色をなす。

側溝内出土土器（fig. 38）

側溝内は黒褐色土層と黒灰色土層の土器を混在するのでここに別項目をつくった。

土師器

小皿a（12）　ヘラ切り。口径8.8cm、器高1.3cm。大SD1330～SK1204型。

瓦器

椀（13）　体部外面にミガキcを施す。底部外面には焼成後、線を刻む。

白磁

Ⅲ（14）　Ⅵ1a類。

越州窯系青磁椀

椀（15）　Ⅱ3類。胎土は淡茶灰色でやや粗いが黒色粒はない。内面と底部外面に目跡がある。

緑釉陶器

Ⅲ（16）　底部は円盤状に削り出される。胎土は灰色で硬質、釉は暗緑色をなす。

その他の出土土器（fig. 38、pla. 25）

青白磁

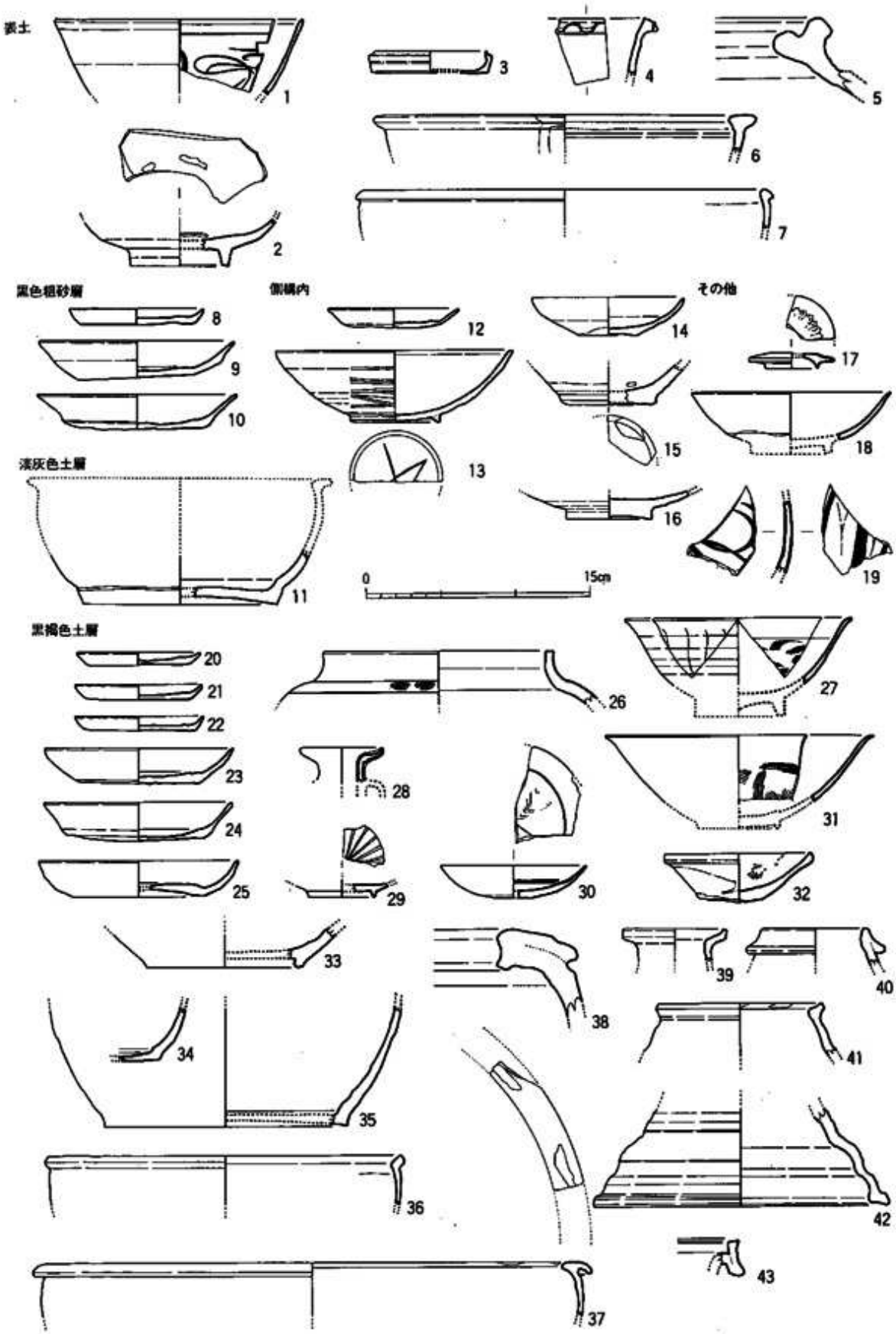


fig. 38　第19次調査各土層出土土器実測図

壺蓋（17）　胎土は明灰色。釉は青味をおび、身受け部分を除き内外に施釉される。外面は型押しの陽刻蓮弁文がある。

白磁

椀（18）　Ⅵ１ａ類。

青磁

椀（19）　胎土は淡茶灰色。釉は暗草色で内外厚めに施釉される。内面にヘラ描き、外面に鎬蓮弁文がある。

黒褐色土層出土土器（fig. 38、pla. 25・27、別表１）

土師器

小皿ａ（20～22）　糸切り。口径8.5～8.8cm、器高0.9～1.1cm。大ＳＫ1085～ＳＫ601型。

杯ａ（23～25）　糸切り。口径12.8～13.6cm。器高2.4～2.6cm。大ＳＫ1085～ＳＫ601型。

土師質土器

釜（26）　頸部下に上下２条の横沈線で装飾帯を設け、その中に菊花文を印刻する。

白磁

椀（27）　Ⅴ４ｃ類。体部外面は縦の細いヘラ描き文、内面は櫛描き文を入れる。

龍泉窯系青磁

28は花瓶か水注と考えられる。胎土は淡灰色。釉は青味の緑色で厚めに施釉される。頸部外面には耳（魚、龍飾など）または把手の剝離した痕跡がある。

青白磁

皿（29・30）　29は内面に菊花文状の陽刻がある。胎土は灰白色。釉は水色味で内外に施釉される。高台畳付は釉を削る。30は口縁部の薄い皿。胎土は灰白色。釉は青白色で、内外施釉後、体部外面下位から底部の釉を削る。内面見こみに浅い段がある。

椀（31）　胎土は白色。内外施釉。口縁部は薄く外反する。内面に櫛描文がある。

陶器

小皿（32）　胎土は橙灰色で紫色粒を含む。釉は淡黄灰色で白濁化し、内面から体部外面中位に施釉される。底部はヘラ切り。内面に油煙がつき灯明皿として使用される。

鉢（33）　Ⅲ類。胎土は橙灰色で暗茶色粒を含む。釉は暗茶褐色で光沢はなく、内外に薄く施釉される。体部外面下半以下はヘラ削りされ、底部は碁笥底ふうにつくられる。

盤（34、35～37）　34はⅠ２ｂ類。胎土は淡灰黄色で白色、黒紫色粒を含みざらつく。釉は淡黄褐色で内面に施釉される。茶褐色釉で文様を描く。体部外面下位に目跡がある。35はⅡ１類。胎土は淡茶灰色で白色、暗紫色粒を含む。釉は淡黄灰色でやや光沢がある。内面に施釉される。36はⅠ２類。胎土は淡黄灰色でざらつく。釉は濁黄褐色で内面から体部外面に化粧がけを行なった後、施釉される。37はⅡ１類に類似したＴ字形口縁を有するが、胎土は淡茶色で赤紫色・白色粒を含みⅠ類に近い。釉は破片の範囲内では施釉されていない。露胎部の発色は暗赤灰色。口縁部上に目跡がある。

甕（38）　Ⅱ類。胎土は赤灰色で１～３mmの白色砂を多く含む。釉は外面暗緑褐色、内面黄灰色でやや厚く施釉される。口縁部は露胎で暗赤灰色。内面に青海波叩き目がある。

39は水注Ⅲ類か壺形と思われ皿形に開いた口縁部を有する。胎土は暗茶灰色で白色細砂や暗茶色粒

を少し含む。鉢Ⅳ、水注Ⅴと類似する胎土である。釉は暗茶褐色で光沢があり内外にやや厚めに施釉される。

壺（40）　Ⅲ類。胎土は赤灰色で細かい白色粒を含み緻密。釉は茶褐色で光沢はなく内外に施釉。41は四耳壺Ⅵに類似する。胎土は灰色で黒色粒を含み、釉は暗灰緑色で内外施釉。口縁内に目跡。

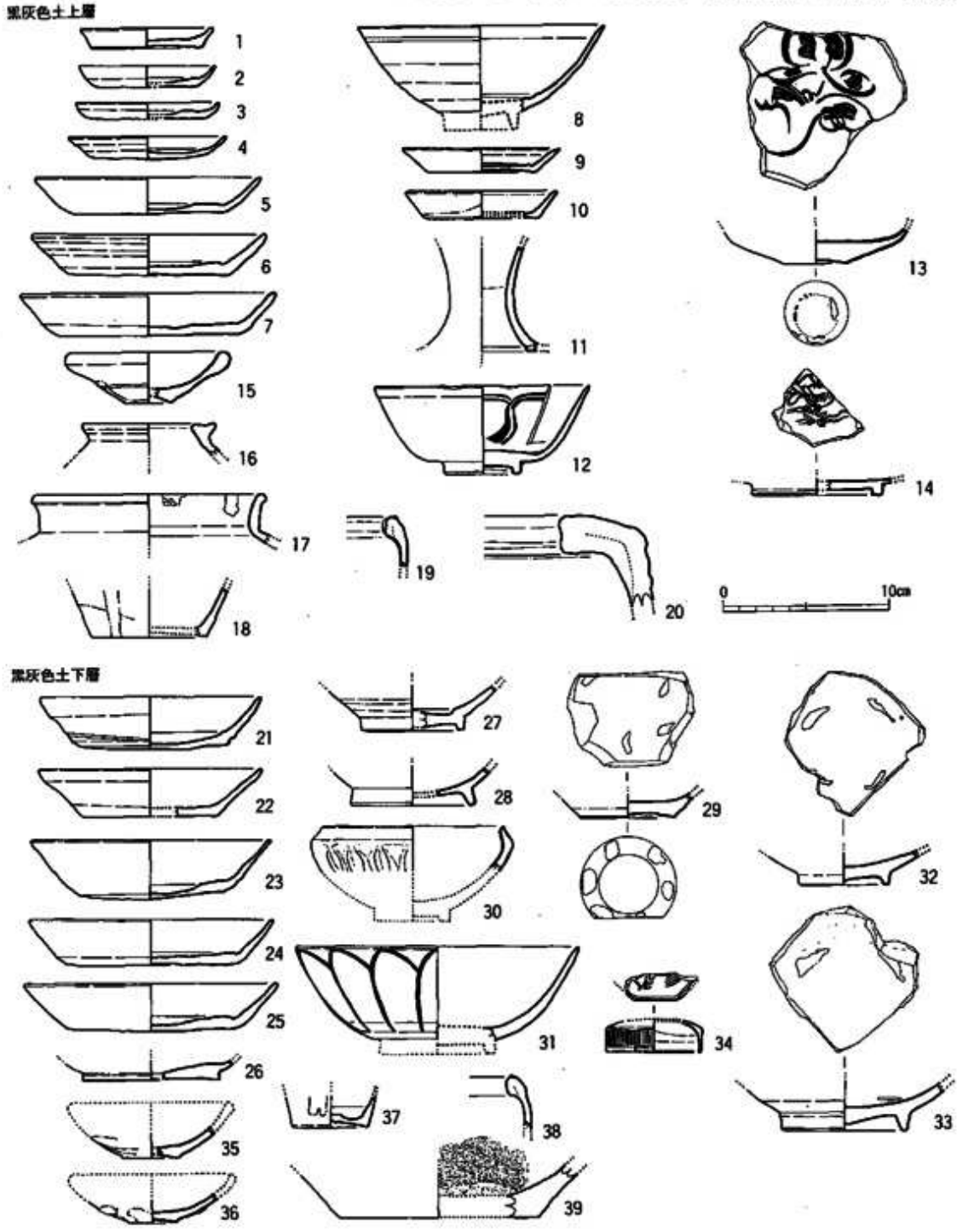


fig. 39　第19次調査黒褐色土上・下層出土土器実測図

42は燭台の台部。胎土は肌色で白色細粒と赤紫色粒を含む。釉は淡黄灰色で内外施釉。畳付に目跡。

43は常滑の大形甕。胎土は暗赤灰色で白色砂を含みざらつく。器面は暗茶灰色を呈する。

黒灰色土上層出土土器（fig. 39、pla. 25・27、別表1）

土師器

小皿a（1～4）　1～3は糸切りで口径8.0～8.6cm、器高1.1～1.3cm。大SK601型。4はヘラ切りで口径9.3cm、器高1.4cm、大SD1330～SK1204型。

杯a（5～7）　糸切り。5、6は口径13.6～14.2cm、器高2.3～2.5cm。大SK1085～SK835型。7は口径15.4cm、器高2.6cm。大SK1204型。

白磁

椀（8）　V1類。

皿（9・10）　9はⅨ1a類。10はⅨ2類で胎土、釉は純白色に近い。

水注（11）　壺・瓶形とも考えられる頸部破片。胎土は淡黄灰色で微細な黒色粒を含む。釉は灰緑色味をおびた白色で椀Ⅱ類に類似する。

龍泉窯系青磁

小椀（12）　Ⅰ2類。釉は水色味をおびた緑色を呈する。

皿（13）　Ⅰ1c類。全面施釉後に底部外面の釉を削る。内面見こみにヘラと櫛で花文を描く。底部外面に棒状焼台痕がある。

青磁

椀（14）　胎土は灰白色。釉はやや黄色味をおびた緑色。高台見こみには施釉されない。高台部外側は斜めに削り、内部を深く削る。内面見こみに花文の印刻がある。

陶器

小皿（15）　釉は茶褐色で体部外面下位以下には施釉されない。口縁部は肥厚させ、底部はあげ底ふうに削る。重ね焼きを行なったと考えられ、口縁端部や体部外面中位に釉のはげた部分がある。

壺（16～18）　16はⅣ4類。胎土は燈灰色で白色細粒をわずかに含み精緻。釉は茶褐色で光沢なく、薄く施釉される。口縁部は断面三角形で端部上面に目跡がある。17の胎土は灰色で砂粒はないがやや粗い。釉は光沢のない暗茶褐色で薄く施釉される。B″類。口縁部は玉縁状をなし頸部は短い。口縁内面に目あとがあり10個前後に復原される。18の胎土は黄灰色で、黒色粒を少量含みざらつく。外面の釉は茶褐色で光沢、貫入がある。内面の釉は灰緑色の発色でまばらにかかる。体部外面下位から底部外面は露胎である。E′類。四耳壺Ⅲに似る。

鉢（19）　胎土は暗灰色。釉は暗茶褐色で光沢、貫入があり、内面に施釉される。口縁部から体部外面は露胎で暗赤灰色をなす。口縁部内面に目跡がある。

甕（20）　Ⅱ類。釉は外面暗緑褐色、内面黄灰色で、口縁部内外は釉がまばらにつく。内面に青海波叩き目がある。

その他pla. 26aは青白磁で壺、瓶などに貼付けた形象的装飾部分と思われるが形は不明である。pla. 25aは皿状の器形で耀州窯系青磁と思われる。胎土は淡灰色をなし緻密。釉は暗緑色味で外面一部は露胎。内面に印花文がある。

黒灰色土下層出土土器（fig. 39、pla. 15・19・25、別表１・２）

土師器

杯ａ（21～26）　糸切り。21は口径13.6cm、器高3.2cmで大ＳＫ1085～ＳＫ835型。22は口径12.9cm、器高2.9cmで大ＳＸ1200型。23～25は大ＳＫ1204の杯ａないし南Ⅱ４型の大杯ａに相当する。26は底径の小さくなるもので大ＳＫ830型以降。杯ｂとも考えられる。

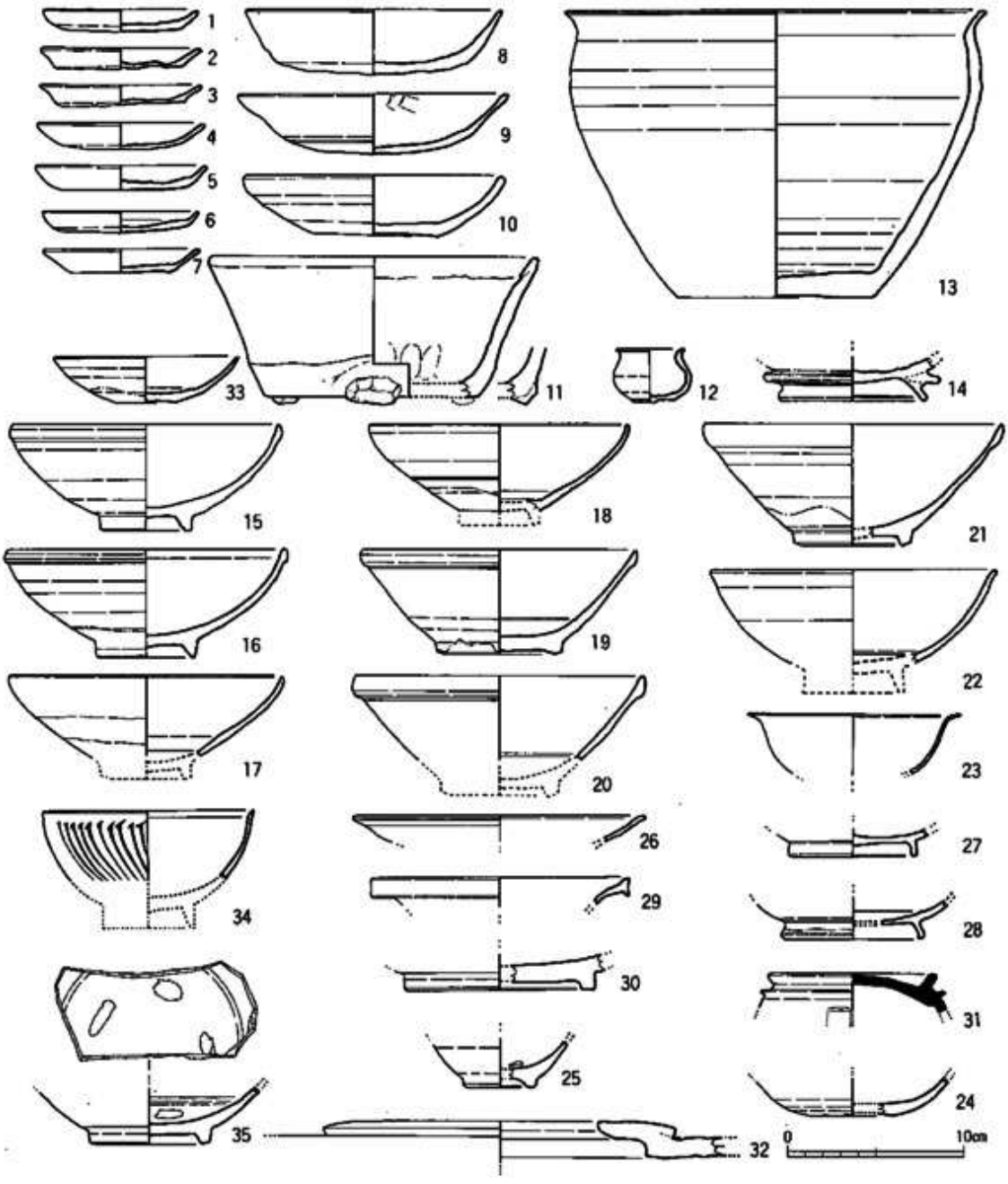


fig. 40　第19次調査灰色土層出土土器実測図

白磁

椀（27）　Ⅶ類。

越州窯系青磁

椀（28、29）　28は椀ないし皿のⅠ類。29はⅠ１ｂ類。

龍泉窯系青磁

椀（30・31）　30の胎土は淡灰色でやや粗い。釉は茶色味をおびた緑褐色で厚めに施される。口縁部は内湾する。体部外面に鎬蓮弁文がある。Ⅰ６ａ類と形態は同様であるが櫛目が省略されている。31はⅠ５ａ類。

高麗青磁

椀（32・33）　Ⅲ類。胎土は0.5～１㎜の白色粒を含みやや粗く、32は淡黄灰色、33は淡橙灰色味をなす。釉は茶色味をおびた濃緑色で全面施釉後、高台畳付の釉を削る。32は内面見こみに白色耐火土の４足の目跡がある。

青白磁

合子蓋（34）　型づくりによる蓋で、天井部および側面に陽刻文がある。口縁は八角形をなす。

陶器

小皿（35・36）　胎土には紫色粒を含み、35は橙灰色、36は淡茶灰色をなす。釉は茶褐色で内面から体部外面上位に施される。底部は粗くヘラ削りされ、あげ底状をなす。

壺（37）　胎土は灰色で緻密。釉は淡灰緑色で、内面と体部外面下半、底部外面には施釉されない。内面に暗赤褐色の付着物がある。

鉢（38、39）　38の胎土は淡灰茶色で暗紫色粒を含む。釉は黄色味をおびた淡茶褐色で内面に薄く施される。口縁部は内側に折り曲げて肥厚させる。39の胎土は赤灰色で１～３㎜の白色砂が多い。底部は露胎で暗紫灰色をなす。体部内面は細かい刷毛目調整。国産陶器か。

灰色土層出土土器（fig. 40、pla. 19・25・27、別表１・２）

土師器

小皿ａ（１～７）　１～６はヘラ切り、７は糸切り。ヘラ切りは90％以上を占め、口径8.6～10.0㎝、器高1.0～1.7㎝。糸切りは約８点で口径9.0～9.4㎝、器高0.9～1.7㎝。

杯ａ（８）　ヘラ切り。口径14.8㎝、器高3.7㎝。点数は少ない。

丸底杯ａ（９）　口径14.8～15.6㎝、器高3.0～3.5㎝。ヘラ切りの小皿とともに点数は多い。

杯（10）　底径は小さく体部は内湾ぎみに開き、堅緻に焼成される。糸切りされ、体部内外面と底部内面は横ナデされる。板状圧痕がある。口径15.2㎝、器高3.2㎝。他地域（豊前か？）からの搬入品と考えられる土器で、同じタイプのものが暗褐色土層から出土している。

鉢（11）　fig. 41－19と類似した小形品。外面は主としてヘラによる器面調整と思われる。

小壺（12）　ヘラ切りされ、口縁部は外反する。内外横ナデされる。口径3.8㎝、器高3.1㎝。紅入れなど化粧用具の可能性がある。

鉢（13）　体部上位は内湾し口縁部は外反する。体部外面下位から底部外面は回転ヘラ削り。

黒色土器

椀（14）　Ｂ類。鍔付椀である。

白磁

皿（33）Ⅵ１ｂ類。

椀（15～22・34）　15・16はⅡ１類。17・18はⅡ４類。19はⅣ１ａ類、20はⅣ類、21はⅣ２類。22はⅤ１ａ類。34は博多０Ⅲ類に分類されるもの。胎土は灰白色で緻密。釉は青味をおび、やわらかい光沢で貫入がある。体部は内湾し、口縁部は外反する。外面は縦の片切彫り文様を入れる。

青白磁

小椀（23）　内外面施釉され薄手のつくりである。

越州窯系青磁

杯（24）　Ⅰ類。体部と底部の境に目跡がある。

高麗青磁

小椀（25）　Ⅲ類。胎土は灰色で１㎜程の白色粒を含み粗い。釉は灰緑色で光沢はなく白濁化する。高台畳付の釉は全面施釉後削る。内面見こみと畳付に目跡がある。

椀（35）Ⅲ２類。胎土は１㎜前後の白色粒を含み暗灰色から橙灰色をなす。粗い。釉は灰緑色で少し光沢はあるが不透明。全面にうすく施釉した後、高台畳付を削り取る。内面見こみに目跡があり、５個に復原される。

灰釉陶器

椀・皿（26・27・28）　26の口縁部はわずかに外反する。28と接合する可能性がある。27・28は貼付と思われる高い高台を有する。内面みこみは円形に釉の薄い部分がある。28は暗褐色土層出土破片と接合した。

壺（29）　胎土は灰色。釉は良質で内面中心に施釉される。

緑釉陶器

30はやや大形の椀と思われる。胎土は軟質。釉は淡黄色で内外施釉される。

須恵器

硯（31）　ＩＣｂニ類。陸部は丸味を有し外堤の下位に凸帯を貼付する。圏台部に透しの上端が観察されるが破片のため形は不明である。陸部内面はナデを施す。

陶器

32の胎土は淡紫灰色で１～２㎜の白色砂を含む。釉は黄褐色で光沢があり、口縁部付近は施釉されず主として体部に施釉されると思われる。露胎部の外面は紫灰色、内面は灰褐色をなす。甕Ⅳ類に類似する胎土、釉であるが形態がやや異なる。平坦な輪を体部にかぶせたようなつくりで内面に段を有する。灰色土層からは１点のみの出土であるため新期遺構から混入した可能性がある。

19ＳＸ055出土土器（fig. 41、pla. 22、別表１・２）

暗褐色土層出土土器の中でまとまって出土したものをここに別記した。

土師器

小皿ａ（１～15）　ヘラ切り。口径8.7～9.8cm、器高1.1cm～1.7cm。口径は９cmに近い大ＳＤ1330型と、10cmに近い大ＳＫ802型に分類される。

丸底杯ａ（16・17）　ヘラ切り。口径15.2～15.8cm、器高2.7～4.0cm。大ＳＤ1330型。口径17.2cm、器高4.5cmの大形品がある。

杯a (18)　ヘラ切り。口径15.8cm、器高2.7cm。

鉢 (19)　大形脚付浅鉢で約1/4残存する。脚部は1箇所残存し、三脚として復原した。体部内面から口縁部外面は横ナデされる。体部外面下位はあらくヘラ削りされていると思われ不明瞭な段がつく。底部内面はナデ、外面は指押えの成形を主としており凹凸が認められる。19SD001出土の破片と接合した。

墨書土器

20は須恵器杯ないし皿の底部に「大」と墨書される。下層からの混入品。

瓦器

椀c (21)　体部中位は屈曲を有する。内面から体部外面中位にミガキcを施す。

黒色土器

小皿a (22)　ヘラ切り。器肉は暗茶灰色で土師質であるが初期の瓦器とも考えられる。内面にはミガキbを施す。椀ではさらにミガキcを施すが、本例は風化のため明らかではない。口縁部内外は横ナデされ、底部と体部の境に指頭痕が残る。口径11.5cm、器高2.2cm。

白磁

椀 (23・24)　23はⅡ4類。体部外面下位には施釉されない。内面見こみは一段凹む。24はⅤ3a類。

陶器

四耳壺 (25)　Ⅲ1類。頸部と肩部の破片である。胎土は黄灰色で黒色、白色粒を多く含み硬質。釉は灰茶褐色味で光沢があり、外面と頸部内面一部に厚く施釉される。肩部破片の外面に印花文があ

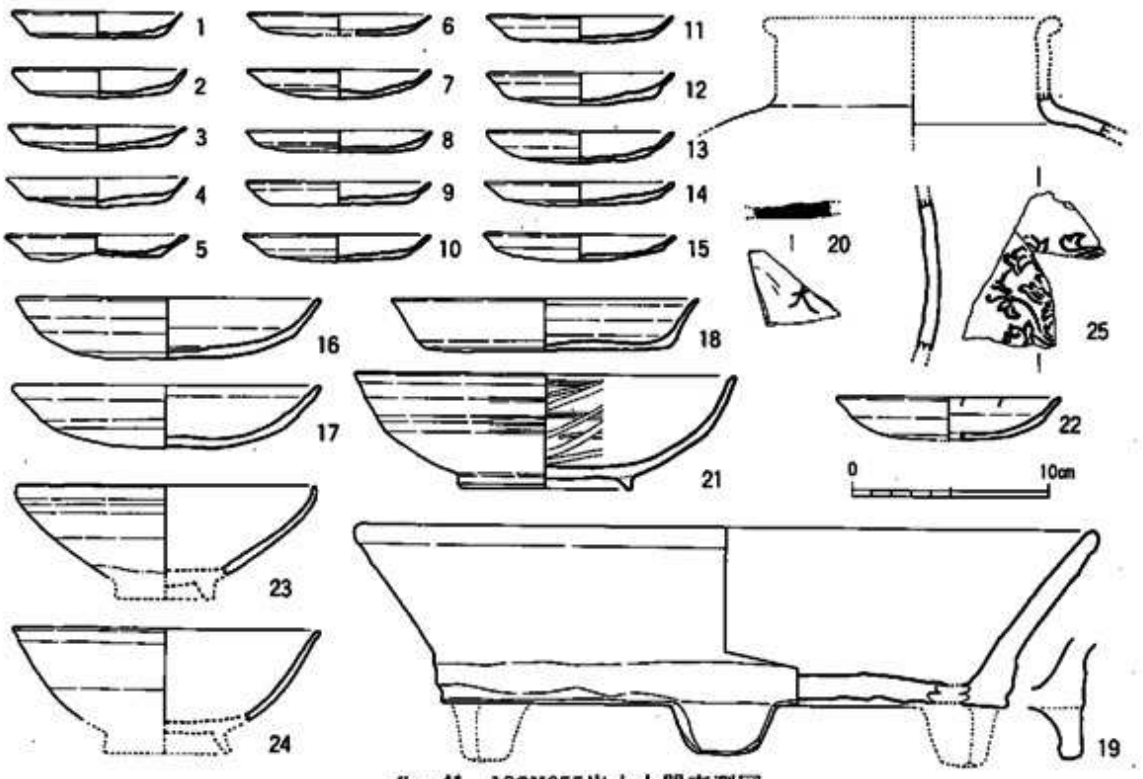


fig. 41　19SX055出土土器実測図

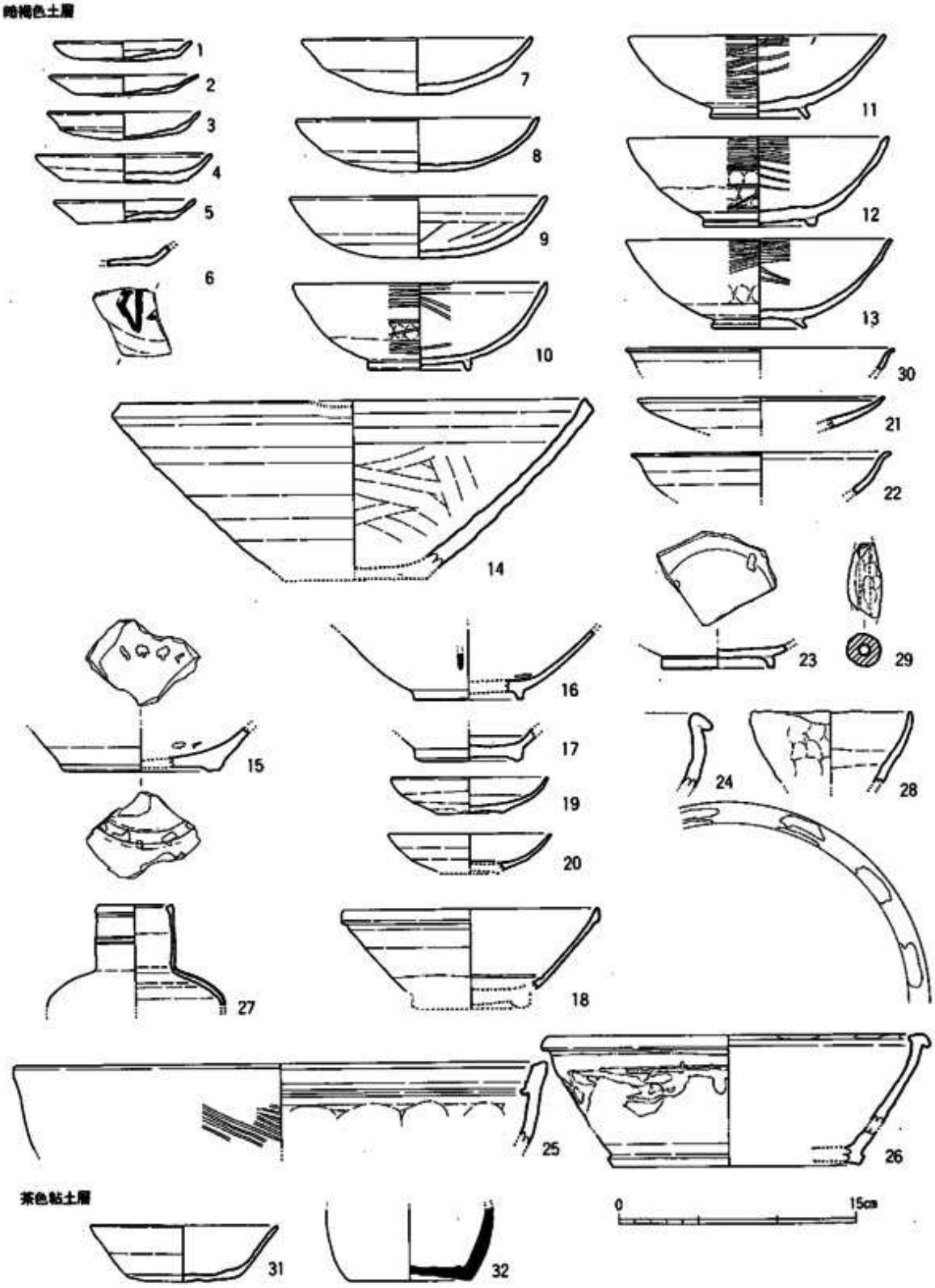


fig. 42　第19次調査暗褐色土層、茶色粘土層出土土器実測図

る。19ＳＫ005出土破片と接合した。

暗褐色土層出土土器（fig. 42、pla. 3・25・27、別表１・２）

土師器

小皿ａに少量の糸切りを含むが、大半は大ＳＤ1330型土器が占める。灰色土層より以前の堆積であるが時期は近接している。

小皿ａ（１～３・５）　１～３はヘラ切り、５は糸切り。１・２は大ＳＤ1330型。３は大ＳＫ802型に近い。５は大ＳＫ1204古型。ヘラ切りが90％以上を占める。

杯ａ（４・６）　ヘラ切り。４は口径11.0cm、器高1.9cm。大ＳＫ674型。６は底部外面に墨書された８Ｃ後半～９Ｃ前半のもので下層からの混入品。

丸底杯ａ（７～９）　ヘラ切り。口径14.7～16.4cm、器高3.4～3.9cm。点数は多い。

瓦器

椀（10～13）　内面から体部外面下半にミガキｃを加えた古手の在地型瓦器である。10、12、13は体部外面中・下位に鈍い屈曲があり、指頭痕を残す。11は内面にミガキｂの痕跡をとどめるもので丸底杯ａと共通した製作手法が伺われる。

須恵質土器

鉢（14）　片口と思われる。体部内面の上半部は横ナデ、下半分は数方向のナデまたは細かい刷毛目状の調整。体部外面は横ナデされる。灰色土層出土破片と接合した。

越州窯系青磁

椀（15・16）　全面施釉されるⅠ２類。15は16に比べ釉が雑で、高台部の外側を面取りする。

白磁

椀（17・18）　17はⅣ１ｂ類。18はⅣａ類。

皿（19・20）　19はⅥ１ａ類。20はⅥ１ｂ類。

緑釉陶器

皿（21）　胎土は須恵質。釉は淡黄緑色で均一にかかる。口縁部内外面に横沈線があり、端部が段状をなす。内外に丁寧なヘラ磨きを行なう。

椀（22・23・30）　22の胎土は淡黄灰色で白色・黒色細粒を含み硬質である。釉は淡緑灰色。口縁部は外反し、体部外面中位以下は回転ヘラ削りされる。23の胎土は硬質である。釉は濃緑色。高台端部には凹線を有する。付高台。体部外面下位は回転ヘラ削りされる。30の胎土は硬質。

陶器

鉢（24・25）　24の胎土は暗茶灰色で１mm前後の白色粒を多く含む。釉は濁黄灰色味を呈し、口縁部を除いて内外面に施釉されるが胎土となじみが悪く殆ど剝落する。無釉陶器がもしれない。25はⅠ１ａ類。外面には平行叩き、内面には平滑な円盤状あて具を使用する。

盤（26）　Ⅲ類。胎土は淡灰色で精良。釉は黄褐色で磁器質。内面全体と体部外面の一部に施される。体部外面下半は回転ヘラ削りされる。口縁端部に目跡がある。

壺（27）　胎土は淡黄灰色で精良。釉は黄茶色で貫入が多い。頸部内面上位から外面にかけ施釉され、頸部内面中位以下は露胎である。小形、うす手につくられる。

その他28は鉢形の焼塩壺Ⅱｂ類。29は土錘である。pla. 25ｂは青磁椀である。胎土は淡灰色で緻密。

釉は淡緑色で内外にやや厚めに施釉される。体部は直線的で器肉は薄い。外面に4本単位の粗い櫛目文、内面に点描櫛目文がある。

茶色粘土層出土土器（fig. 42）

土師器

杯a（31）　ヘラ切り。口径12.0cm、器高3.6cm。

須恵器

壺（32）　ヘラ切りで底部の再調整は行なわない。体部外面は自然釉のため調整は不明瞭である。

小結

遺構と土層の年代

遺構の先後関係、層位　遺物の検討から下記の年代観を得ることができた。遺物の中で、土師器型式より時期細分が可能なものは標式遺構名を付す。

8・9c　19SX075は8C前半～中頃。19SD080は上・下層に分けたが、土器出土状態からは層位により新・古を示すものではなかった。最新期に属する土器は大SE400型の土師器椀c（fig. 34－16）1点と須恵器蓋c4（fig. 31－31）などごく少数で、19SD070からの混入品と思われる。これらの土器を除外すると8C前半、中頃、後半の土器が多数を占める。溝の埋没年代は大SE1081型、8C後半に推定される。また大SD2340下層型に相当する土器の割合が多い点を考慮すると、溝の開削は8C前半に遡る可能性がある。19SD070は大SE400型、9C前半に埋没。茶色粘土層は8C。

11C前半～中頃　大SK802型までの遺構である。19SK057は大SE1083～SK802型、11C前半～中頃。他19SX071、19SK056などがこの時期に属すると思われる。

11C後半～12C末　大SD1330型から南Ⅱ1型までの遺構である。19SX055は暗褐色土層中、一括出土した土器群で糸切りは含まない。暗褐色土層は灰色土層の下に堆積し、この2つの土層の土器に大きな年代の開きはないが、暗褐色土層には新期遺物の混入は少ない。暗褐色土層、灰色土層の土師器は丸底杯a、小皿a（ヘラ切り）が90％で主体を占め、杯a（ヘラ切り）、小皿a（糸切り）、搬入品と思われる糸切りの杯がごく少数あることから大SK1204古型（大SD860ⅠⅡ型または南Ⅰ3D型）、12C前半と思われる。その他19SX030は大SD1330型。19SX079は大SK1204型（南Ⅰ4型）、12C中頃。19SX034、19SK045ABは12C前半～中頃。19SK050は大SK1204型以降。

13C初頭～14C　大SK1085型から大SX1200新型までの遺構である。19SX074は大SK1085型～SK835型、13C初頭～前半。19SD001は土師器小皿bを古くみると大SK830（南Ⅱ5A）型、14C前後、新しくみると大SX1200新（南Ⅱ5B）型、14C中頃であるが、大SX1200新の杯aは出土していないことから大SK830型の可能性が強く考えられよう。19SK004は19SD001より古く13C中頃～14C前後か前半に考えられる。共伴土師器は乏しく直接的な年代推定は困難であるが、陶磁器の傾向をみると、白磁椀Ⅸ2類、龍泉窯系青磁Ⅲ類はきわめて少量であり、これらの出現時期に近い年代すなわち13C中頃～後半に年代を縮めることも可能であろう。19SK005は19SD001より古く13C前半～中頃か。その他19SK002・006・013・018・032・052・063、19SX014・054・067・069、19SD066は13～14C。19SX007、19SD037は14C以降。

近世　19SD010、19SX020・060は近世。黒灰色土層出土遺物は14Cまでのものが多いが近世のものを含む。

19ＳＤ080の位置

溝の検出部分中心点の座標は〔Ｘ56.616.50、Ｙ－44.285.40〕で政庁南門中心との東西距離計算を行なうと532.225ｍ（4.97町）と５町に近い値となる。しかし溝の北側延長は大39－３次調査*で検出されていないことから、政庁中軸線や推定条坊計画線に平行でないと考えられ自然流路の可能性もある。条坊との関係についてはこのように二、三の問題点があり、今後、周辺部の調査が必要である。

19ＳＫ004陶磁器の特異な出土状態

出土陶磁器に完形品は１個体も含まれていないことから、何らかの事故による破損のために一括して廃棄されたと思われる。土器の中では磁器よりも陶器の占める割合が高い。とくに小形貯蔵容器である四耳壺Ⅵは49個体と71片、大形貯蔵容器である四耳壺Ⅻは９個体もあり、同一タイプの陶器が異常に高い出土率を示すことが指摘される。この点は少なくとも一般生活で使用される土器の構成状況を示すとは思われない。出土陶器の中には鉢Ⅰ類のように未使用と考えられるものがある事も注意される。これらの陶器は商品として流通する中途で破損した可能性があり、そこには観世音寺周辺にも活動範囲を持つ商業者集団の関与が推測されるであろう。

*九州歴史資料館『大宰府史跡昭和51年度発掘調査概報』(1977)

3　第20次調査

推定左郭六条五坊の北東部にあたる地域である。トレンチを設定し試掘を行なった結果、地表から2ｍ下に遺構面を認めた。土質が軟弱でトレンチ壁の崩壊のため危険であることと、遺構面は深く破壊を受けないと判断されることから調査は遺構の有無にとどめた。遺構面にピット群を検出したが発掘は行なっていない。遺構面上の黒灰色土包含層から遺物を採集した。

出土遺物（fig. 43、別表１）

土師器

丸底杯ａ（１・２）　ヘラ切り。口径14.2～14.8cm、器高2.7～3.6cm。大ＳＤ1330型。黒灰色土出土。

杯ａ（３）　ヘラ切りされる。口径12.0cm、器高3.5cm。大ＳＫ1800型。黒灰色土層出土。

その他排土から龍泉窯系青磁椀Ⅰ５ｂ（１）・器種不明Ⅲ類（１）、青磁椀（１）、白磁椀Ⅱ（１）・Ⅳ（１）、ⅢⅥ１ａ（２）・Ⅸ１（１）・Ⅸ（１）・Ⅲ２（１）、水注または壺（４）、青白磁を採集した。

fig. 43　第20次調査出土土器実測図

4　第21次調査

推定左郭六条五坊の東部にあたる。調査の結果、厚い砂の堆積層が認められ、御笠川の范蠡地域と思われる。砂層より上の黒灰色土包含層から遺物を採集した。

出土遺物（fig. 44、別表１）

土師器

小皿ａ（１）　ヘラ切り。口径9.1cm、器高1.5cm。大ＳＤ1330～ＳＫ1204型。

丸底杯ａ（２）　ヘラ切り。口径14.8cm、器高3.5cm、大ＳＤ1330型。

白磁

椀（３）　Ⅳ２類。高台部内側の削りはやや浅い。

高麗青磁

椀（４・５）　４はⅢ１Ａ類。胎土は淡灰色ないし橙灰色で0.5～３mmの白色粒を含む。釉は灰緑色で白濁化し光沢はない。内外に薄く施釉される。口縁部は肥厚する。５はⅢ３類。胎土は淡灰黄色で混入物はなく精良である。釉は緑味をおびた暗黄土色で、光沢はあるが白濁化する。厚めに内外施釉され、畳付は施釉後、釉を削る。高台は高い。内面見こみと高台畳付に目跡がある。推定４足。

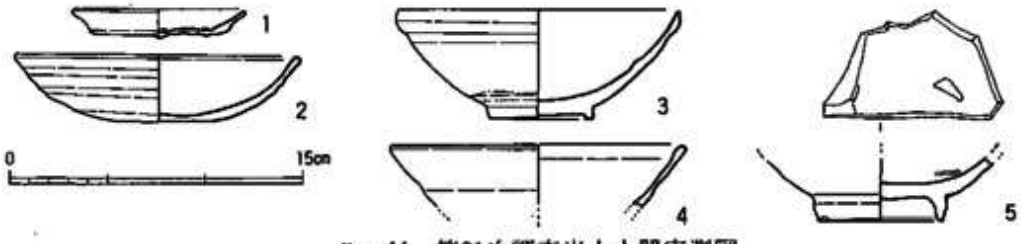


fig. 44　第21次調査出土土器実測図

5　第22次調査

推定左郭六条四、五坊の境にあたる地域である。トレンチ調査の結果、平安時代遺物包含層、平安～中世の掘立柱１、溝状遺構２などを検出した。

土層（fig. 46）

①～⑧までの土層を除去すると上層遺構22ＳＤ107⑪、⑫、22ＳＢ105⑬が検出された。これらの遺構は黒灰色土層⑯または砂の交互堆積からなる整地⑮の上から掘り込む。発掘区の西側は⑨⑩が西側にかけて次第に厚く堆積する。⑨⑩は南北溝埋土の可能性もあり、木製品などが若干出土する。⑱の上面は⑰のピット状のものが確認されるので下層遺構面である可能性がある。各土層は採集した遺物から次のような時期に推定される。

⑩灰青色土層……大ＳＫ1204古～ＳＫ1204型（12Ｃ前半～中頃）

⑯黒灰色土層……大ＳＤ1330型（11Ｃ後半～12Ｃ初頭）

⑱暗灰青色土層……大ＳＤ1330型以前。

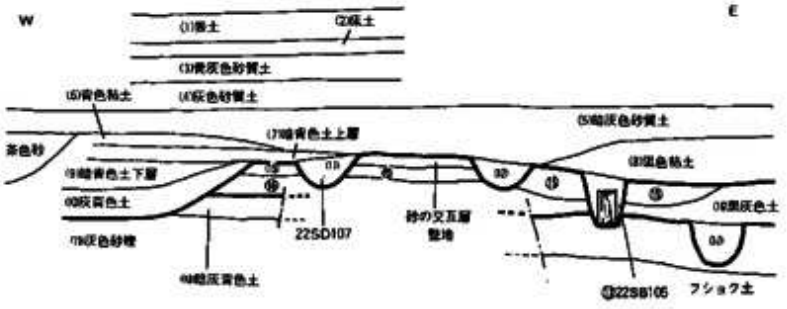


fig. 46　第22次調査土層模式図

検出遺構

22ＳＤ107　南北溝と推定される。幅1.5m、深さ0.2m。⑯の黒灰色土層より新しい。

22ＳＢ105　建物の一部とみられるがトレンチ調査のため全容は判明しない。柱根は直径20cmで下位に方孔が穿たれる。⑯の黒灰色土層より新しい。

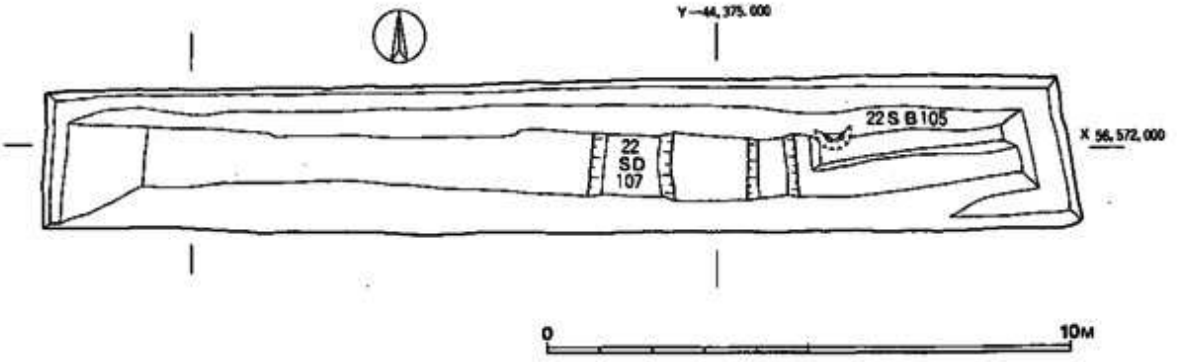


fig. 45　第22次調査遺構配置図

出土遺物

各層出土土器（fig. 47、別表１・２）

土師器

丸底杯ａ（２・５）　ヘラ切り。２は口径14.9cm、器高3.3cm。大ＳＤ1330型。暗青色土層出土。５は大ＳＫ802型で暗青色土下層出土。

小皿ａ（３・４）　ヘラ切り。口径8.6～9.4cmで大ＳＤ1330～ＳＫ1204型。暗青色土下層出土。

丸底椀ａ（７）　７は大ＳＥ1083型で黒灰色土層出土。

白磁

椀（１・６）　１は碗１類、黒色粘土層出土。６はⅠ類。灰青色土層出土。

越州窯系青磁

皿（８）　Ⅱ類。灯盞の可能性もある。胎土は淡茶灰色で紫色粒を含む。釉は黄緑色で発色は悪い。内面に施釉され外面は露胎。口縁部は外反する。体部下位、底部外面はヘラ器面調整。排土採集品。

その他表土層からは明代の青花皿または椀小野Ｂ類。小野皿ＣⅠ類*などが出土した。

22ＳＤ107出土土器（fig. 47、別表１・２）

土師器

小皿ａ（９）　ヘラ切り。口径9.6～10.1cm、器高1.2～1.6cm。大ＳＫ802型。

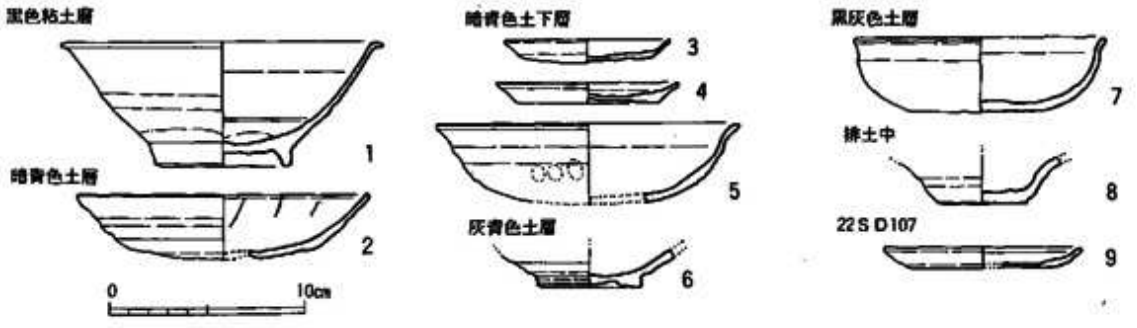


fig. 47　第22次調査出土土器実測図

*付編Ｐ-１参照

6　第23次調査

調査地は推定左郭六条四、五坊の境にあたる地域である。調査の結果、上、下２層の遺構面を検出した。

土層（fig. 49）

①～⑤の土層を除去すると上層遺構23ＳＸ103⑥、⑦、23ＳＸ104⑧、23ＳＸ102⑪、23ＳＸ106⑫が検出された。⑥⑦⑧は鎌倉時代以降の遺構で、整地と思われる⑨⑩の上面から掘り込む。⑪⑫は⑭の地山上面で検出された。⑨⑩を除去すると23ＳＸ100⑬が検出された。⑪⑫⑬は下層遺構で平安時代後半に属する。

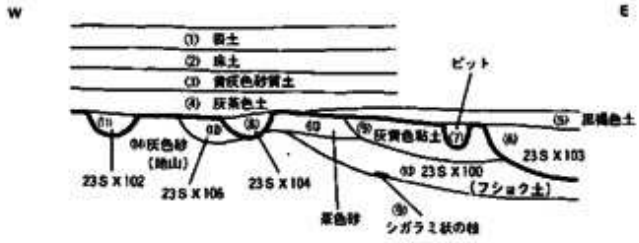


fig. 49　第23次調査土層模式図

検出遺構

23ＳＸ103　上層遺構で茶色砂層⑩、灰黄色粘土層⑨より新しい。13～14Ｃ。

23ＳＸ104　上層遺構で茶色砂層⑩から掘り込む。13～14Ｃと推定。

23ＳＸ102　溝の可能性がある。灰色砂層⑭から掘りこむ。11Ｃ前後と推定。

23ＳＸ106　溝の可能性がある。灰色砂層⑭から掘り込み23ＳＸ104より古い。

23ＳＸ100　下層遺構で内側にしがらみ状のものを検出していることから、溝ないし低湿地の護岸を目的とした遺構と推定される。埋土は腐植土層で曲物底、板材などの木製品が出土した。11Ｃ後半～12初頭と推定。

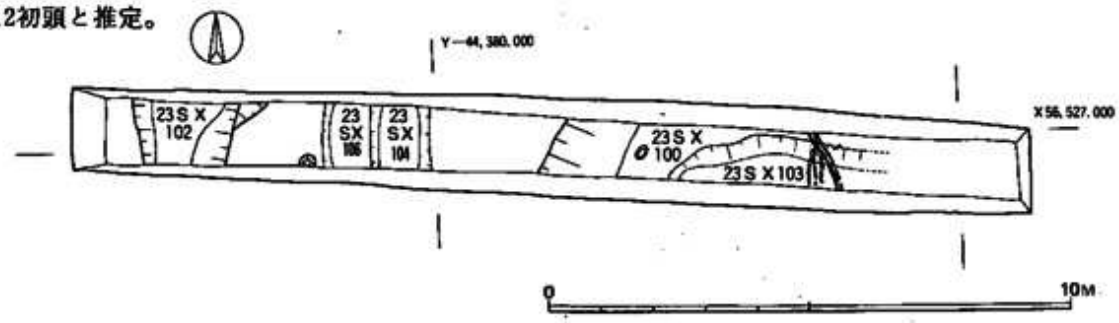


fig. 48　第23次調査遺構配置図

出土遺物

23ＳＸ100出土土器（fig. 50、別表１・２）

土師器

杯ａ（１）　ヘラ切り。口径10.7cm、器高2.2cm。大ＳＫ674型。

小皿ｃ（２）　口径11.0cm、器高2.1cm。大ＳＫ674～ＳＥ1083型。

丸底杯ａ'（３・４）　ヘラ切り。口径14.5～15.2cm、器高3.4～4.0cm。大ＳＤ1330型。

中椀ｃ２（５・６）　大ＳＫ674～ＳＥ1083型に伴うもの。

須恵質土器

壺（7）　底部はヘラ切り。体部外面は横ナデされる。

越州窯系青磁

椀（8・9）　8はⅡ類で口縁部は外反する。9はⅠ2類。全面施釉後、高台畳付の釉を掻き取る。

23SX102出土土器（fig. 50、別表1）

土師器

小皿a（10）　ヘラ切り。口径10.7cm、器高1.9cm。大SE1083型。

茶色砂層出土土器（fig. 50、別表2）

白磁

椀（1）　前川M類。胎土、釉調はⅡ類に類似する。胎土は黄白色。釉は黄白色でやわらかい光沢があり貫入が多い。内面から高台部外面に施釉され、高台みこみには施釉されない。高台はⅡ類より高い。底部と体部の境に鈍い稜を有する。

その他の土層出土土器（fig. 50）

青磁

12は水注ないし香爐などと思われる。胎土は淡茶灰色で緻密。越州窯系青磁Ⅲ類に近い。釉は黄緑色味をおび発色は良い。内面、口縁部外面に施釉され、外面上位以下は露胎。化粧土はない。口縁部は蓋受けのかえりを有し、体部上位には半円形に切り取った跡がある。この部分は透しか注口などの接合部と考えられる。外面は横ナデされる。排土中採集。

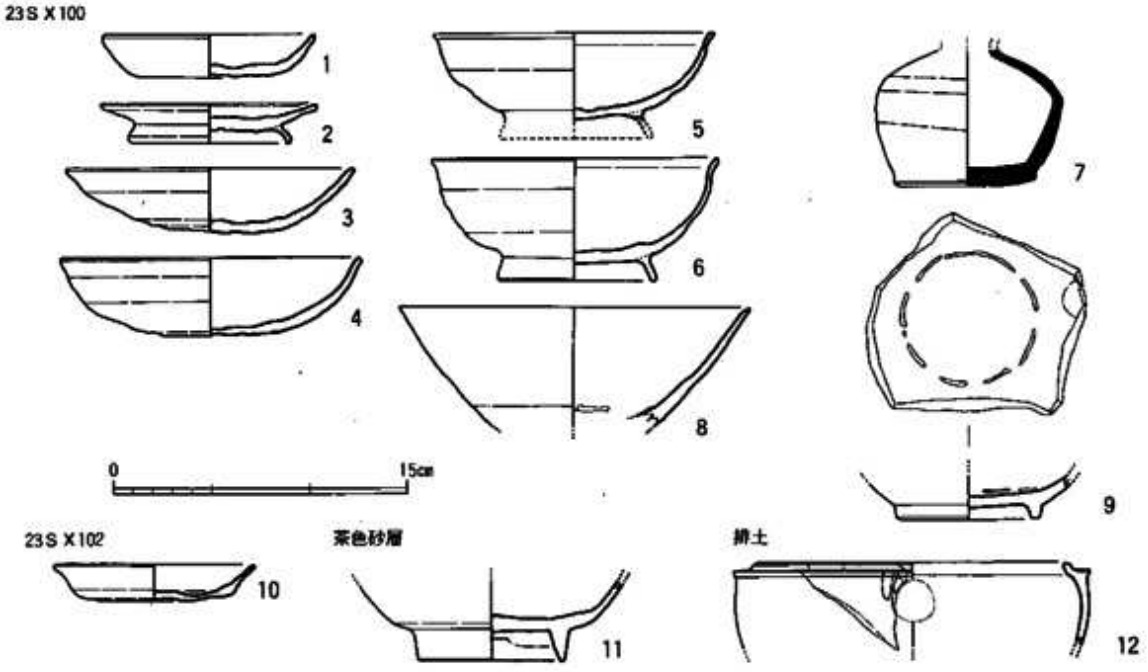


fig. 50　第23次調査出土土器実測図

7　第24次調査

推定左郭六条四坊の北側にあたる地域である。トレンチ調査の結果上、下２層の遺構面を検出した。

土層（fig. 52）

①～③までの土層を除去すると④、24ＳＥ113⑤、⑥などの上層遺構が検出された。上層遺構は発掘区東側において黄斑暗褐色土層⑦、西側において灰褐色土層・灰褐色砂層⑧の上面から掘り込み、12Ｃ前半以降に推定される。⑦⑧と下の灰茶色土層⑨を除去すると24ＳＫ115⑩、ＳＸ114、116、117などの下層遺構が検出された。下層遺構は淡黄色粘土層⑪の上面から掘り込み10Ｃ代と思われる。

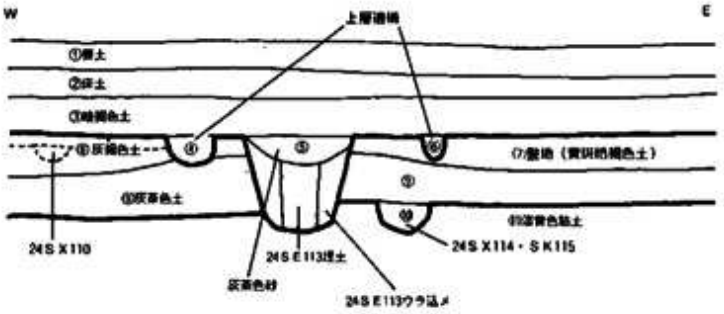


fig. 52　第24次調査土層模式図

検出遺構

24ＳＥ113　ⅡＡ類の井戸。方形縦板の枠、横桟、隅木、円形曲物の一部が残存する。井戸枠は一辺約1.0ｍ、曲物は直径約0.6ｍ。掘形は円形で2.3ｍ（fig. 53）

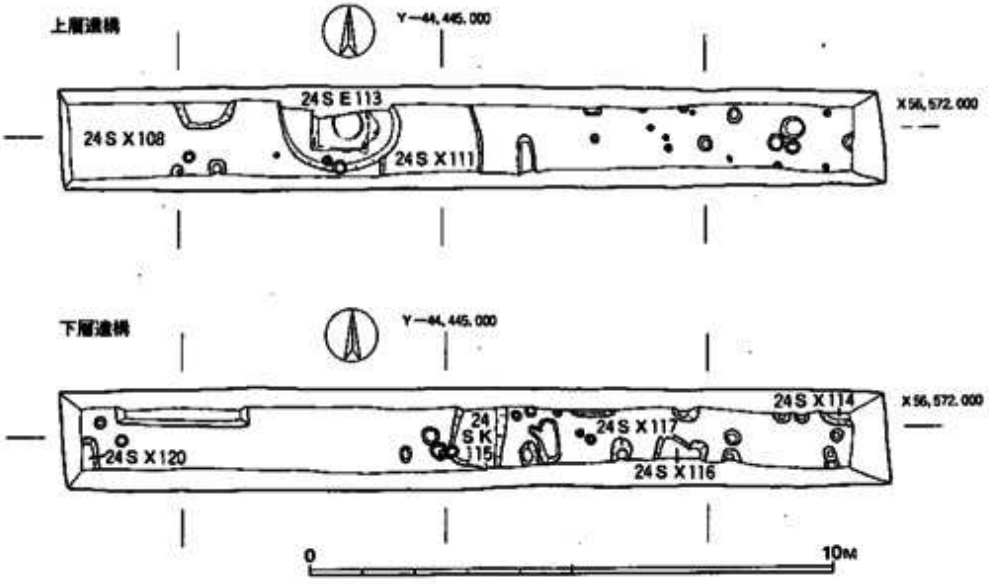


fig. 51　第24次調査遺構配置図

24ＳＫ115　長方形プランで東西は1.0m、南北は1.2m分検出。深さは0.15～0.3m。

24ＳＸ110　西側の灰褐色土層中で一括して出土した土器溜である。

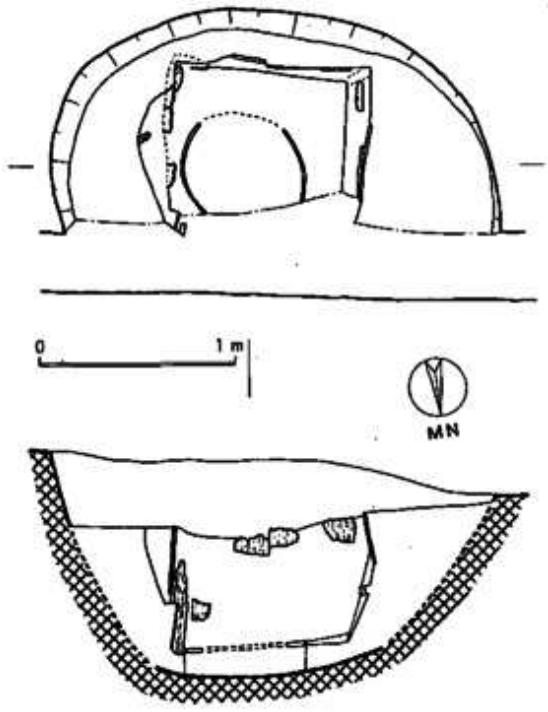


fig. 53　24ＳＥ113井戸実測図

出土遺物

暗褐色土層出土土器（fig. 54、pla. 28、別表１・２）

土師器

鉢（１）　体部は外上方へ直線的にのび口縁部は丸味を有する。底部は大きい平底をなす。条19ＳＫ055出土例（fig. 41）のように三脚のつく可能性もある。体部外面下位と底部の境は雑なヘラ削り。

高麗青磁

椀（12）　Ⅲ１類。胎土は淡茶灰色、灰色。１mm位の白色粒を少量含み粗い。釉は緑色味の暗黄土色で不鮮明。全面施釉後、畳付の釉を削る。高台部外面はヘラで面取りされ、見こみ、畳付に目跡。

灰褐色砂層出土土器（fig. 54、pla. 28、別表１・２）

高麗青磁

椀（２）　Ⅱ１類。胎土は灰色で細かい白色粒を含みやや粗い。釉は青味をおびた暗緑色で光沢、貫入があり半透明。内外厚めに施釉。体部は丸味があり、口縁部は外反する。外面は細いヘラ描きのの蓮弁がある。各弁に２条、弁と弁の間に１条の太い縦凹線を陰刻する。口径14.4cm。

灰茶色土層出土土器（fig. 54、pla. 28、別表１・２）

土師器

杯ａ（３）ヘラ切り。口径11.0～11.6cm、器高2.8～3.0cm。大ＳＫ678型。

小皿ｃ（４）　口径11.7～12.4cm、器高2.3cm。

小甕（５～７）　口縁部は短く外反する。５の内外は横ナデされる。６は中形で体部外面中位以下は回転ヘラ削りされる。内面、体部外面上位は横ナデ調整。24ＳＫ115の直上で検出。７の内面は細かいミガキｃを施すが燃しは行なわない。

黒色土器

小椀（８）　Ａ類。器壁は薄く内外面に細密なミガキｃを施す。鋼椀に類似。24ＳＫ115直上出土。

越州窯系青磁

椀（９・10）　９はⅠ２類。10はⅡ２ｂ～ｄ類。

水注または壺（14）　Ⅱ類。胎土は黄灰色で黒色粒、白色粒を含む。釉は黄緑味で発色は悪い。

青磁

椀（11）　胎土は黄灰色で黒色粒、白色粒を少量含み緻密である。釉は暗黄緑色で光沢、貫入があり半透明。胎土、釉は越州窯系青磁Ⅱ類に類似するが、化粧土はなく、Ⅱ類とは区別される。内外面施釉。口縁部は外反する。外面中位以下はヘラ削り。内面見こみに白色砂の目跡がある。

緑釉陶器

椀（13）　胎土は淡橙色で軟質。釉は黄茶色で一部は黄緑色を呈する。全面施釉。畳付に沈線がある。

その他の土層出土土器（fig. 54、pla. 28）

高麗青磁

椀（15）　Ⅲ1類。胎土は淡灰色で白色粒を含み粗い。釉は暗緑褐色で光沢を有するが不透明。畳付一部には施釉しない。高台部は断面四角で外面を面取りする。内面と畳付に目跡。出土層不明。

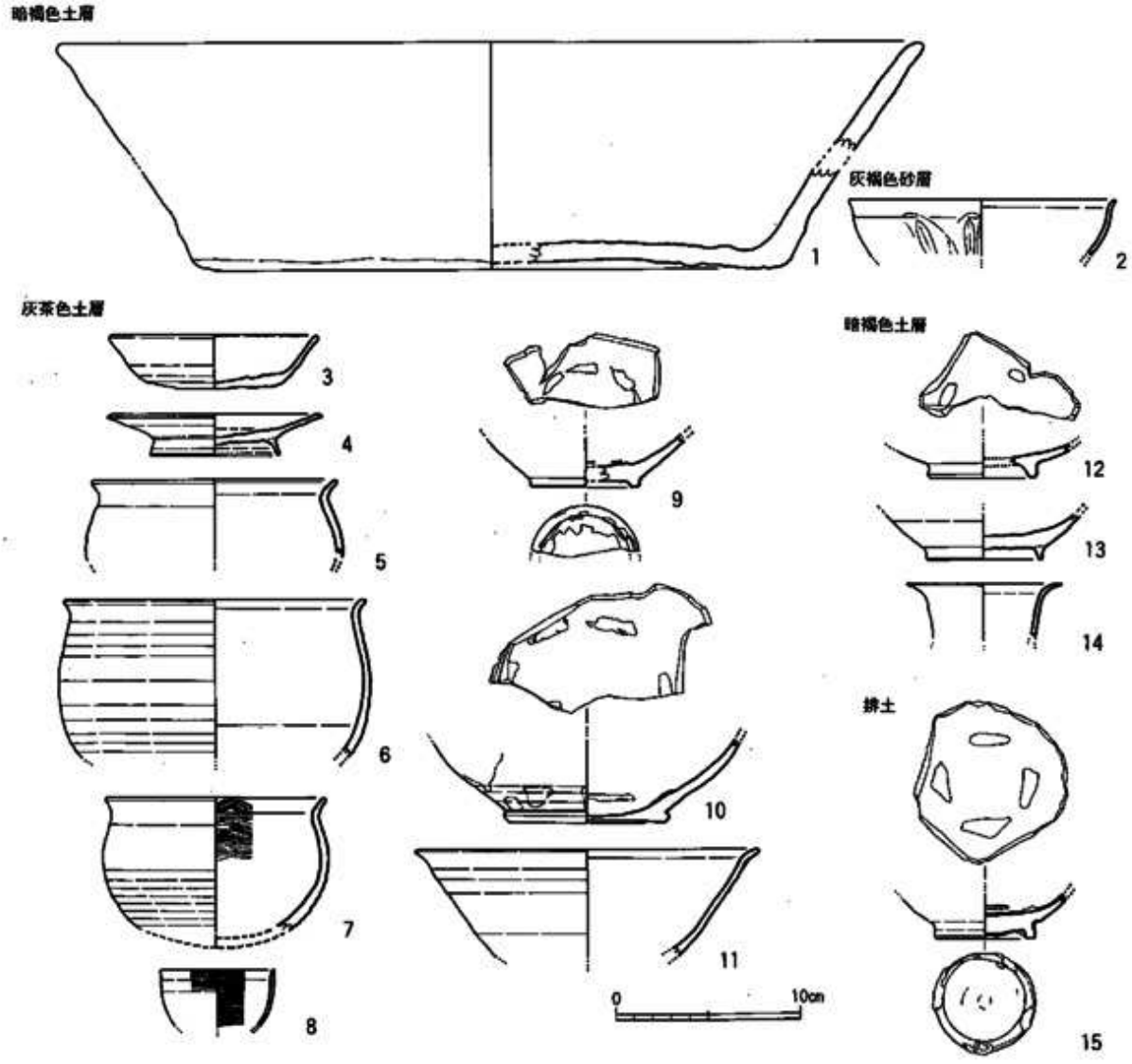


fig. 54　第24次調査各層出土土器実測図

24ＳＥ113出土土器（fig. 55、pla. 28、別表１・２）

土師器

小皿ａ（１）　ヘラ切り。口径10.0cm、器高1.4cm。大ＳＤ1330～ＳＫ1204型。最上層出土。

須恵質土器

杯（２）　ヘラ切り。ヘラは刃こぼれしているため糸切りに見える。内面は横ナデ。最上層出土。

瓦器

椀ｃ（３）　押出し技法で制作され、内面にミガキｂを行なった後、体部外面中位から内面にミガキｃを加える。ミガキｃは内面上位に密に行なわれるが、他はまばらに行なわれる。

須恵質土器

鉢（４）　片口と考えられる。灰色を呈し胎土に白色砂を含む。口縁部は小さな三角形をなす。他に瓦質のものがある。

青磁

椀（５）　胎土は淡灰色で不純物を含まないがやや粗い。釉は黄緑色で光沢があり越州窯系にも類似する。内外面に薄く施釉される。口縁部は外反する。体部外面は片彫りの縦線、内面は上位に連孤状文、その下に櫛目を施す。同安窯または龍泉窯系の古手のタイプか。

越州窯系青磁

椀（６）　Ⅱ２ｃ類。

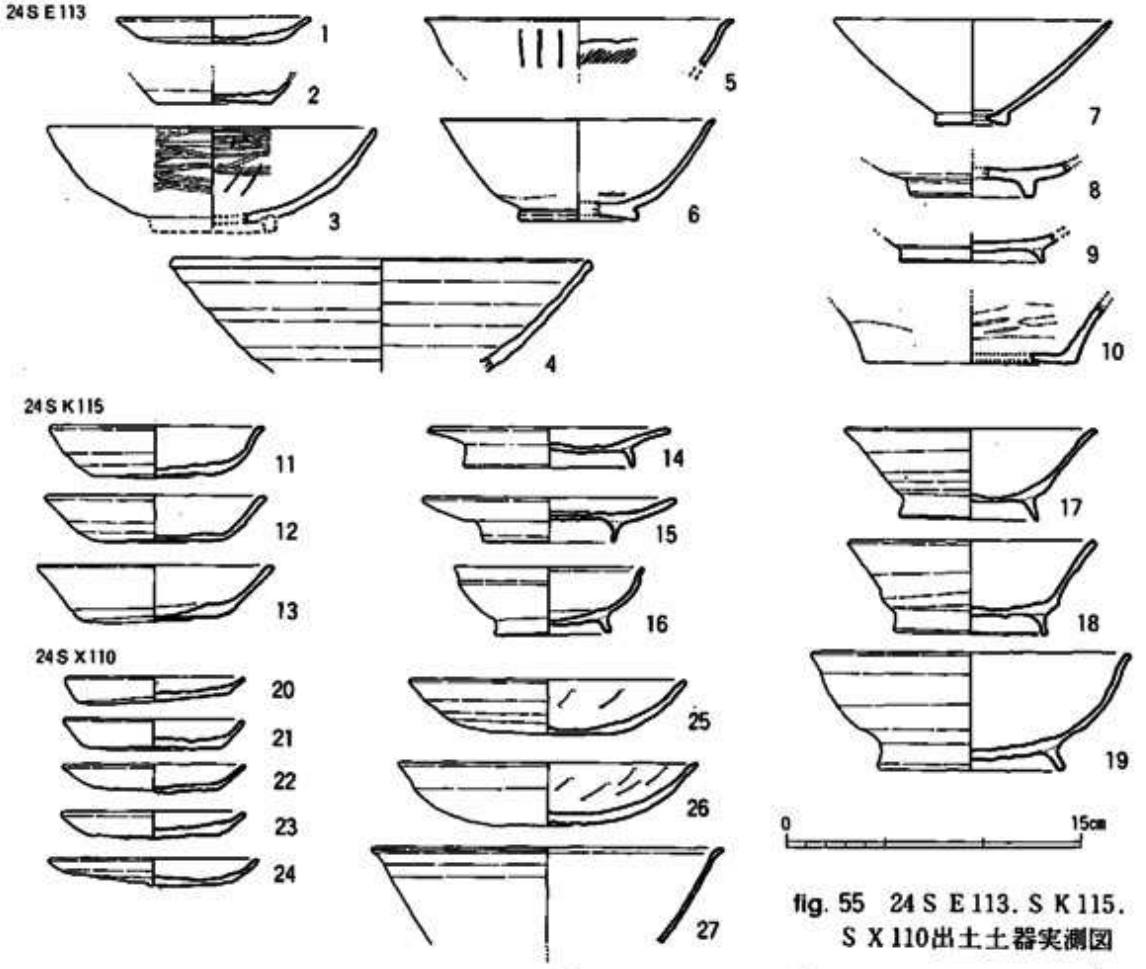


fig. 55　24ＳＥ113. ＳＫ115. ＳＸ110出土土器実測図

高麗青磁

椀（7・8）　7はⅠ1類。胎土は灰色で細かい白色粒を多く含み、やや粗い。釉は青味の緑青色で貫入がある。光沢は少なく半透明。厚めに全面施釉されるが畳付一部に釉はかからない。体部は直で、内面見こみは一段凹む。蛇目高台で畳付に目跡がある。同一個体の破片は下層の灰褐色土層から出土していることから、井戸に伴うのではなく灰褐色土層に伴うものである。8はⅢ2類。胎土は淡灰色で白色粒を含む。釉は淡黄緑色で白濁化する。全面施釉。内面と畳付に目跡がある。

緑釉陶器

椀（9）　胎土は淡黄灰色で軟質。釉は一部黄緑色を呈するが大半は茶黄色化する。内外面施釉。

陶器

四耳壺（10）　Ⅲ類の底部と思われる。胎土は淡灰色で白色、黒色粒を多く含む。釉は暗灰緑色で光沢はない。外面下位より上に薄く施釉され化粧土を伴う。内面には施釉しないが薄く黄灰濁化した釉（化粧土か）を横方向にナデつけている。底部外面から体部外面下位は露胎で赤褐色を呈する。

24ＳＫ115出土土器（fig. 55、別表1・2）

土師器

杯ａ（11～13）　ヘラ切り。個体数20、口径10.8－[11.5－11.7－11.9]－12.4cm、器高2.4－[2.7－2.8－2.9]－3.2cm*。大ＳＫ678型。

小皿ｃ（14・15）　口径12.4～13.0cm、器高2.1～2.3cm。

小椀ｃ2(16)　口径9.7cm、器高3.6cm。体部は丸味をおび、やや後出タイプであるが口縁の外反はきつくはない。1点のみの出土。

中椀ｃ1(17・18)　口径12.5～12.9cm。器高4.8～4.9cm。

椀ｃ（19）　口径16.3cm、器高6.2cm。

24ＳＸ110出土土器（fig. 55、pla. 28、別表1・2）

灰褐色土層中から一括出土した土器群である。

土師器

小皿ａ（20～24）　ヘラ切り。口径9.0～10.8cm、器高1.1～1.9cm。大ＳＫ802～ＳＤ1330型。

丸底杯ａ（25・26）ヘラ切り。口径14.2～15.9cm、器高2.8～3.9cm。大ＳＤ1330型。

高麗青磁

椀（27）　Ⅲ2Ａ類。胎土は灰色で0.5～1㎜の白色細粒を含みやや緻密。釉は暗黄緑色で少し光沢はあるが不透明。内外に薄めに施釉される。体部は直線的に開き口縁部は外反する。

小結

各遺構、土層の時期

24ＳＸ110　土師器一括は大ＳＤ1330型で11Ｃ後半～12Ｃ初頭。

24ＳＥ113　灰褐色土層より新しく、また土師器はヘラ切りが主体で丸底杯ａ、小皿ａが多く杯ａは少ない。また糸切りの杯ａ片が1点あるが搬入品の可能性もある。大ＳＤ860ⅠⅡ型で12Ｃ前半と思われる。

24ＳＫ115　土師器は大ＳＫ678型ないし条ＳＫ090型で10Ｃ前後～10Ｃ前半。

24ＳＸ114、116、117は10Ｃ頃。

*[　]内は90％の集合範囲（統計値）を示す。付編Ｐ-2参照。

暗褐色土　上層遺構の上を覆う12C前半以降の堆積土である。遺物は12Cまでのものが大半である。

灰褐色土、灰褐色砂　24SX110と同じく大SD1330型で11C後半～12C初頭。

灰茶色土　土師器は大SK678～SE1558型で10C前後～10C中頃。

以上から下層遺構は10C、上層遺構は11C後半～12Cにかけてのものと思われる。

高麗青磁について

本次調査で出土した初期高麗青磁椀はⅠ類（精製品、素文）、Ⅱ類（蓮弁文）、Ⅲ類（粗製品）の各種があり、伴出遺物や出土遺構、層位が明確であることから、日本での使用年代を考慮する上で重要である。Ⅰ～Ⅲ類は大SD1330型すなわち11C後半～12C初頭にはすべて出土しているが、これ以前には出土していない。

8　第25－1・2次調査

推定左郭五条五坊の西側にあたる地域である。25－1次調査は試掘トレンチ範囲内では遺構は検出されていないが、周辺の状況から遺構の連続する可能性がある。検出された遺構面と考えられる地山面は25－2次調査より1m近く深い。25－2次調査では上から表土、床土、暗褐色土層を除去すると明黄色粘土層の地山が検出され、この面から遺構が掘り込む。遺構面は表土上面からは浅い。

検出遺構

土壙、ピット群などがあり、11C後半～近世におよぶ。25SX121は近世の凹みで25SK125はこれより新しい。他のピット25SX122～127は11C後半～14C頃と推定される。なお出土土器は図示可能なものがなく割愛した。

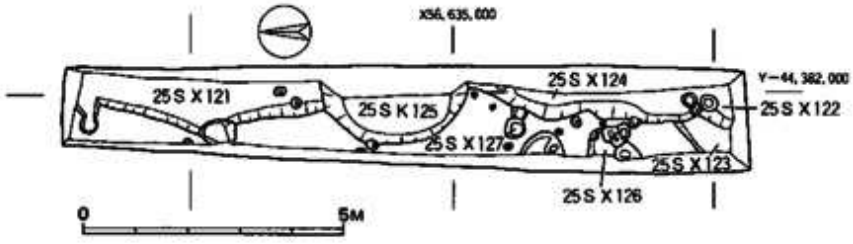


fig. 56　第25－2次調査遺構配置図

9　第26次調査

推定左郭五条三坊の北側中央にあたる地域である。

土層

上から表土①、床土②を除去すると暗褐色土層④に達する。発掘区北側ではただちに黄白色砂層⑰（地山）に達する。新期のピット③は④の上面から掘りこむ。④を除去すると上層遺構⑤、26ＳＤ253⑥、26ＳＸ262・264⑦などが淡黄色土層⑨の上面から掘りこむ。上層遺構は11Ｃ後半以降のものである。南側は一部、黒灰色土層⑧が⑨の上にかぶる。⑧⑨、茶灰色砂層⑩を除去すると下層遺構26ＳＤ261⑪、26ＳＥ271⑫、26ＳＤ250⑬、26ＳＸ272⑭が検出される。これらの下層遺構は８～10Ｃ頃のもので、調査区北側では⑰や黄色粘土層⑱から掘りこみ、南側では黄灰色粘土層⑮の上面から掘りこむ。

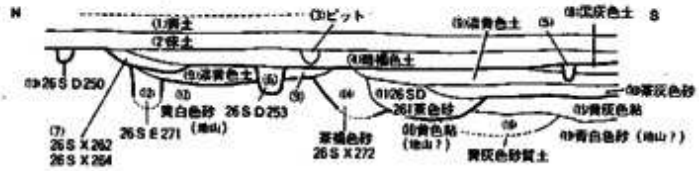


fig. 58　第26次調査土層模式図

検出遺構

溝

26ＳＤ250・ＳＸ270　南北溝で方向はＮ13°Ｅ。幅は約１ｍ、深さは0.3～0.6ｍ。北側は水溜状の凹みＳＸ270と連続する。下層遺構。出土遺物は８Ｃ前半頃。

26ＳＤ253　南北溝で方向はＮ29°Ｗ。幅は約0.6ｍ、深さは約0.3ｍ。上層遺構。

26ＳＤ261　東西溝と思われ、後述する第27－２次調査27ＳＤ230と連続する可能性がある。幅約６ｍ、深さ0.5ｍ。下層遺構。26ＳＸ272より新しい。

井戸

26ＳＥ271　井戸Ⅱ類。大半は調査区外であるため規模は不明である。支柱、横桟、縦板の一部を検出した。井戸枠の支柱には柄穴を穿ち横桟をさし込む。下層遺構。26ＳＸ264より古い。出土土器は大ＳＫ678～大ＳＤ205Ａ型、10Ｃ前後～前半。

土壙その他

26ＳＫ255、上層遺構。南北1.3ｍ、深さ0.2ｍ。26ＳＤ250より新しい。

26ＳＫ265　上層遺構。検出した範囲の南北2.7ｍ、深さ0.3ｍ。大ＳＫ1204型。

26ＳＸ252　上層遺構のピット。

26ＳＸ272　下層遺構。26ＳＤ261より古い。大ＳＫ674型、10Ｃ中頃までの土器を出土。

26ＳＸ264　上層遺構。26ＳＥ271より新しい。大ＳＤ1330型土器を出土する。

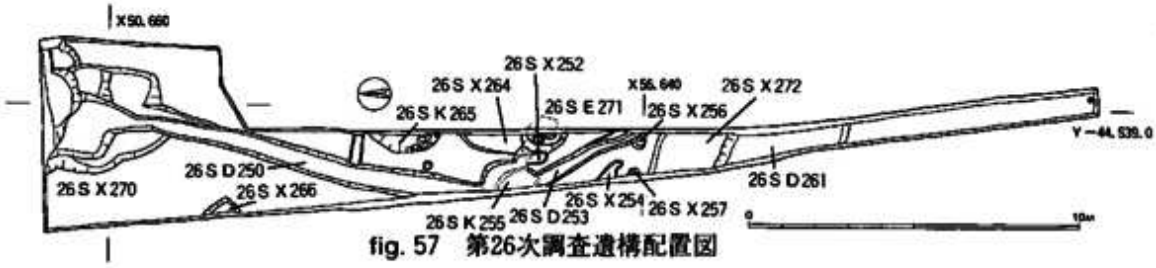


fig. 57　第26次調査遺構配置図

出土遺物

26ＳＤ250・ＳＸ270出土土器（fig. 59、別表２）

須恵器

蓋（１）　口縁部はやや長く下方に屈折し外反するｃ２形である。

杯ａ（２）　底部下位は丸味を有し、底部外面は手持ちヘラ削りを行なう。

杯ｃ（３）　高台部は断面四角。体部下位から底部端はヘラ削りを施し丸味を有する。

皿ａ（４）　口縁部は小さく外反し、体部下位に丸味を有する。底部外周の削りの有無は不明。

甕ａ（５）　外面は平行叩き、内面は青海波叩きがある。

平瓶（７）　体部外面下位はヘラ削りされるが底部外面はヘラ切りのままである。

26ＳＸ252出土土器（fig. 59、別表１・２）

土師器

丸底杯ａ（８）　口径15.4cm、器高3.1cm。大ＳＤ1330型。

脚付皿（９）　三脚付の皿と思われる。脚部四面はヘラで面取りされる。

26ＳＫ255出土土器（fig. 59、別表２）

黒色土器

椀ｃ（10）　Ｂ類。底部中央は下方に丸く突出しているため安定が悪い。内外面は磨滅し調整不明。

南側延長部出土土器（fig. 59）

白磁

椀（11）　Ｖ１ｃ類。やや浅形をなし、高台は欠損する。内面見こみに凹線状の段がある。体部内面に短い櫛描き文を有することからｃ類に分類した。

越州窯系青磁

椀（12）　Ⅱ３類。胎土は気胞を含むが黒色粒など不純物を含まず良質で、他のⅡ類と区別される。

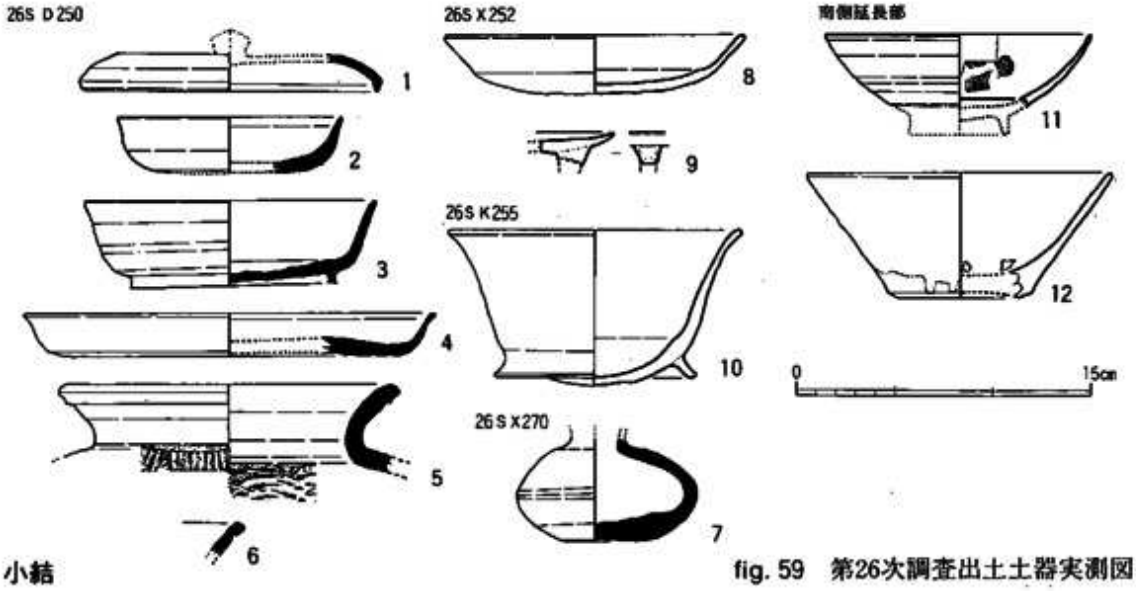


fig. 59　第26次調査出土土器実測図

小結

26ＳＤ250、261は鏡山条坊復原案には合致しないが、参考のために政庁中心線からの距離算出を行なっておきたい。26ＳＤ250の方向はＮ13°Ｅで、政庁第Ⅲ期中軸線の方位Ｎ０°34′34″Ｅよりさらに東方向に偏している。溝中心線上の任意の点〔Ｘ56.650.０、Ｙ－44.541.724〕は政庁南門中心から55.885ｍ南方向、279.579ｍ東方向である。26ＳＤ261については第27－２次調査で後述する。

10　第27－1次調査

推定左郭5条4坊の中央部である。

土層（fig. 61）

上から表土①、茶褐色土層②、暗褐色土層③を除去すると上層遺構⑤⑥⑦が検出される。上層遺構面は暗褐色粘質土層⑧、黄褐色粘土層⑩、暗灰色土層⑪、暗灰色粘土層⑫、茶色砂層⑯などが露出した面である。東側は一段遺構面が下がるため西側とは異なる堆積をなす。⑧～⑫を除去すると下層遺構⑬⑭、27ＳＫ224⑮などが検出される。下層遺構は西側では茶色砂層⑯、東側では一段下がった淡黄色粘土層⑰の上面から掘りこむ。さらに⑯⑰の一部を下げたが最下層に遺構は認められない。⑲は単なる凹みである。⑰、灰色砂層㉑、灰色砂礫層⑳は10Ｃ中頃までの遺物を含む。㉒以下は遺物は出土しない。⑧⑨⑩⑪は整地の可能性がある。上層遺構は大ＳＤ1330型以降、下層遺構は大ＳＫ674型から大ＳＫ802型までの時期である。

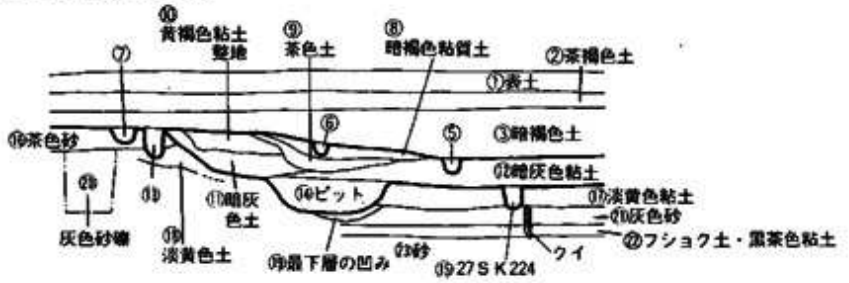


fig. 61　27－1次調査土層模式図

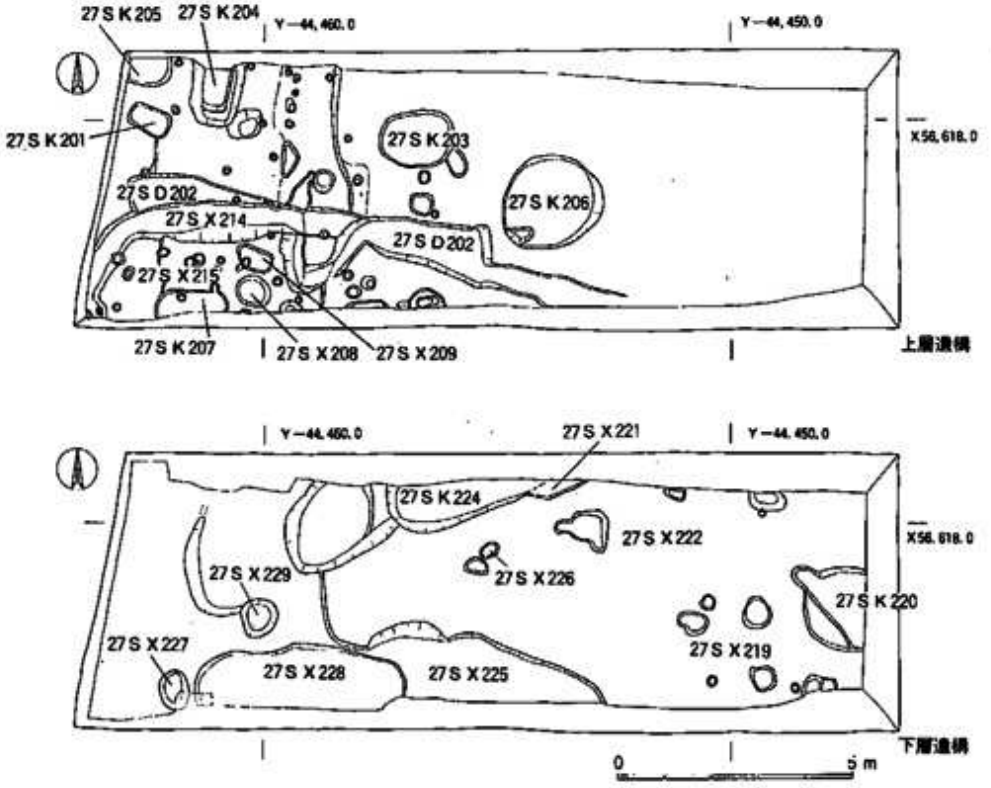


fig. 60　第27－1次調査遺構配置図

検出遺構

溝

27ＳＤ202　東西溝で方向はＮ76°Ｗ。幅は0.6～１ｍ。上層遺構。27ＳＸ214より新しい。

土壙

27ＳＫ201　長楕円形プランで長軸は0.9ｍ、短軸は0.55ｍ、深さは0.1ｍ。上層遺構。

27ＳＫ203　楕円形プランで東西は1.6ｍ、南北は1.2ｍ。深さは0.1ｍ。上層遺構。

27ＳＫ204　長方形プランで東西軸は1.1ｍ、南北は1.3ｍ以上、深さは0.6ｍ。上層遺構。

27ＳＫ205　上層遺構。

27ＳＫ206　円形プラン。東西は2.1ｍ、南北は2.0ｍ、深さは0.5ｍ。上層遺構。

27ＳＫ207　東西の長さは1.6ｍ、深さは0.2ｍ。上層遺構。

27ＳＫ220　東側は未検出であるが南北の長さは1.7ｍ、深さは0.2ｍ。下層遺構。

27ＳＫ224　北側は未検出であるが東西の長さは3.4ｍ、南北は1.0ｍ以上、深さは0.4ｍ。下層遺構。27ＳＸ221より新しい。

その他の遺構

27ＳＸ208　円形小ピット。上層遺構。

27ＳＸ209　上層遺構のピット。

27ＳＸ214　溝状の凹み。上層遺構。27ＳＤ202より古い。

27ＳＸ215　上層遺構ピット群。

27ＳＸ219　下層遺構ピット群。

27ＳＸ221・222・225・226・227・228・229　下層遺構のピットまたは不整形凹み。

出土遺物

27ＳＤ202出土土器（fig. 62、pla. 29・30・32、別表２）

越州窯系青磁

水注（１）　Ⅲ類。胎土は淡茶灰色で混入物はないがやや生地は粗い。釉は茶色味をおびた暗黄緑色で化粧土は無い。外面から頸部内面まで施釉され、胴部内面は露胎で茶灰色を呈する。頸部は太く上位は外反する。胴部は肩がやや張る。頸部と胴部の境は２条の沈線状の段がある。注口、耳は外面に貼付する。注口と把手を結ぶ線から90°まわした位置に耳が付く。胴部は先端に切込みを入れた櫛刀状の施文具を縦に引きずり２条１単位の隆帯を残す。隆帯は６単位に復原される。耳は横断面形が三角をなし、正面は五角形で２重の縁取りの内に唐草状の陽刻印文がある。側面は直径５㎜の筒状のもので穿孔される。破片は暗灰色粘土層、27－２次暗褐色土層からも出土した。この中では暗灰色粘土層が最も古く大ＳＤ1330型に推定される。本遺物は古期の層からの混入品である。

国産陶器

杯（２）　灰釉山茶椀と呼称されるもので胎土は灰白色。全体を横ナデ調整する。付高台。灯火器に利用している。口縁部は指で押して輪花状にする。

27ＳＫ201出土土器（fig. 62、別表１・２）

土師器

小皿ａ（３・４）　糸切り。口径9.1～9.4cm、器高1.2cm。下記の杯ａに伴う。

杯a（5－8）　糸切り。個体数17、口径14.9－15.5－15.7－15.9－16.6cm、器高2.8－

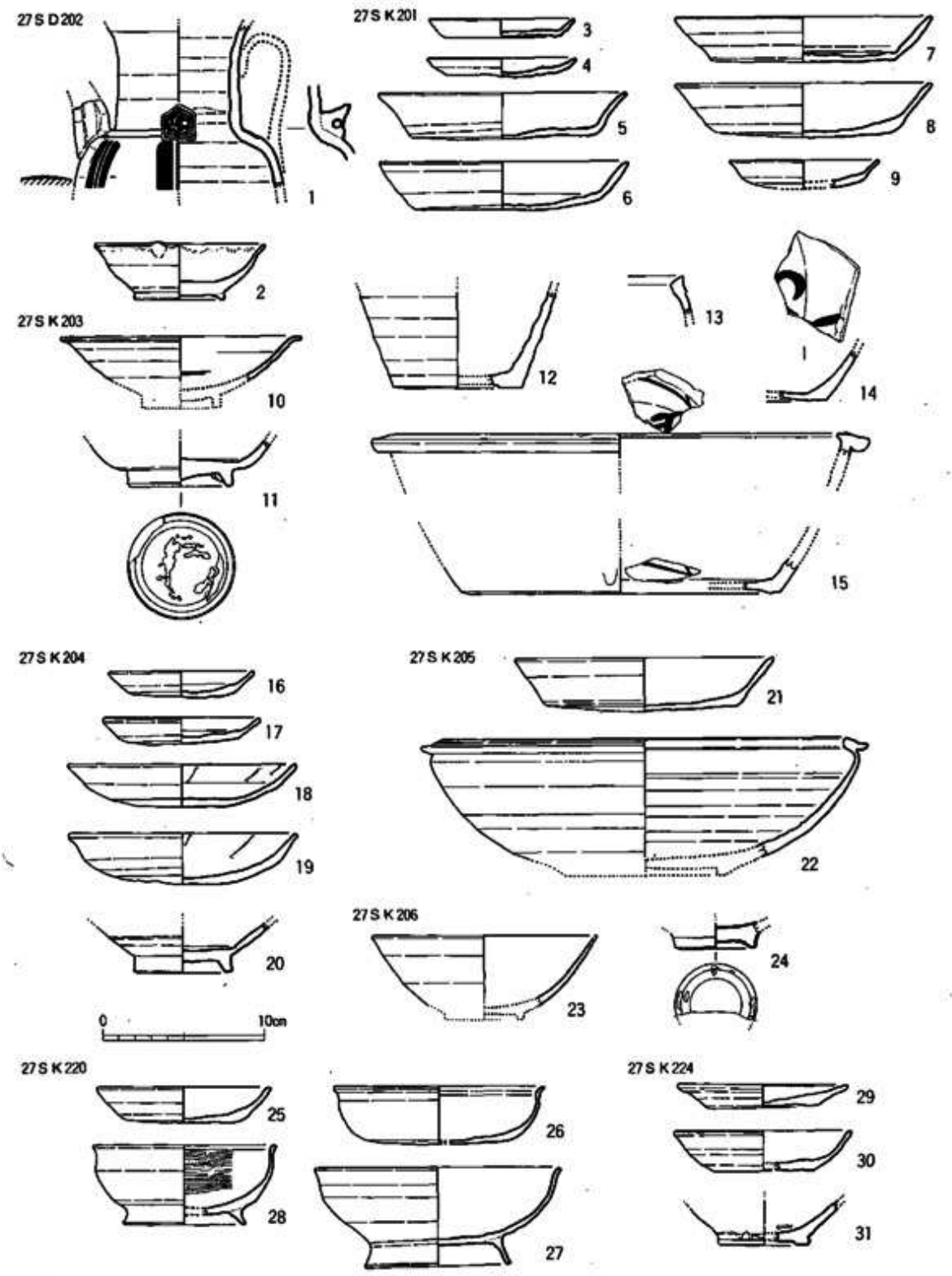


fig. 62　第27－1次調査各遺構出土土器実測図

3.0−3.1−3.2 −3.5cm。南Ⅱ1類*。

瓦器

小皿a（9）　糸切り。口径9.3cm、器高1.8cm。

27SK203出土土器（fig. 62、Pla. 32、別表1・2）

白磁

椀（10）　Ⅵ1b類。

青磁

椀（11）　胎土は淡灰色でやや緻密。釉は暗緑色味で越州窯系に類似するが光沢は少ない。薄く全面施釉。高台はやや高く削り出され、底部中央に突起を残す。内面見こみは段がつく。底部には円形焼台の一部が焼きつく。

陶器

壺（12）　胎土は灰色、橙灰色で白色、黒色粒が若干入り、やや粗い。釉は内面茶褐、外面黄色味の強い黄緑色で光沢がある。薄く施釉。高台畳付は幅広につくられ、体部外面は回転ヘラ削りされる。

鉢（13）　Ⅲ類。胎土は明黄灰色で白色、茶色細粒を含む。釉は淡黄褐色でやや光沢がある。内外施釉。

盤（14・15）　14はⅠb類。胎土は淡黄灰色で白色、茶色粒の混入物を含み精緻である。釉は淡黄褐色。内面に施釉。外面は露胎で黄灰色。内面に鉄絵がある。底径22cm前後。15はⅢb類。胎土は茶色で白色細砂を多く含み緻密。内面は丁寧に施釉され、口縁部は一部、釉を拭き取る。口縁部から体部外面下位の施釉はむらがある。化粧土は内面から体部外面に施す。底部外面は露胎で茶色を呈する。口縁部は逆L字形で内面に突起がある。底部下位から底部は丁寧な回転ヘラ削り、底部外周はヘラで面取りされる。内面は鉄絵（黒茶色をなす）がある。口縁部に白色目跡がつく。小片から復原した。

27SK204出土土器（fig. 62、別表1・2）

土師器

小皿a（16・17）　ヘラ切り。個体数9、口径8.8−8.9−9.2−9.5−9.8cm、器高0.9−1.2−1.4−1.6−1.7cm。大SD1330型。

丸底杯a（18・19）　ヘラ切り。個体数10、口径14.2−14.5−14.8−15.1−15.2cm、器高2.7−3.0−3.2−3.4−3.5cm。

白磁

椀（20）　Ⅱ2・4類。内面見こみは一段凹む。

27SK205出土土器（fig. 62、別表1・2）

土師器

杯a（21）　糸切り。口径15.9cm、器高3.4cm。他に小皿aがある。南Ⅱ1類。

陶器

鉢（22）　Ⅵ1類。胎土は淡灰色、淡橙灰色で白色細砂を含み精良。釉は暗黄緑色で光沢はない。内外に薄く施釉。内面の釉は剝落する。化粧土はない。浅形の器形で口縁部は肥厚させ「八」字形に外側へ開く。体部外面中位以下はヘラ削り、他は横ナデ調整。

*大宰府標式遺構には欠落するので、南バイパス分類をそのまま用いた。詳細は「条坊Ⅱ」付編参照。

27ＳＫ206出土土器（fig. 62、pla. 30・31、別表１・２）

土師器は大ＳＫ1204古型である。（別表１）

越州窯系青磁

椀（23）　Ⅰ２類。

高麗青磁

椀（24）　Ⅲ１類。胎土は灰黄色で0.5～２㎜の白色粒をやや多く含む。粗い。釉は暗黄緑色で光沢、貫入があり半透明。全面施釉後、畳付の釉は削る。釉は厚め。畳付に目跡があり、推定４足。

27ＳＫ220出土土器（fig. 62、別表１・２）

土師器

杯ａ（25）　ヘラ切り。口径10.8～11.0㎝、器高2.1～2.5㎝。大ＳＫ674型。

丸底椀ａ（26）　ヘラ切り。口径13.2㎝、器高3.6㎝。大ＳＥ1558（ＳＫ674）型。

椀ｃ（27）　口縁部を外反させ高台は高い。大ＳＫ674型に伴う。

黒色土器

椀ｃ（28）　Ｂ類。口縁部は外反し、体部下位に鈍い屈曲を有する。大ＳＥ1558型に伴う。

27ＳＫ224出土土器（fig. 62、pla. 30、別表１・２）

土師器

小皿ｄ（29）　口縁部内面に浅い沈線を有する。口径10.6㎝、器高1.5㎝。大ＳＫ674型に伴う。

杯ａ（30）　ヘラ切り。口径11.0㎝、器高2.5㎝、大ＳＫ674型。

他にＳＫ802型に伴うとみられる器台、小皿ａが各１点ある。

越州窯系青磁

椀（31）　Ⅱ１類。胎土は灰色で黒色粒は少ない。やや粗い。底部外面は露胎。内面に目跡がある。

27ＳＫ201、ＳＤ202直上出土土器（fig. 63、pla. 32）

陶器

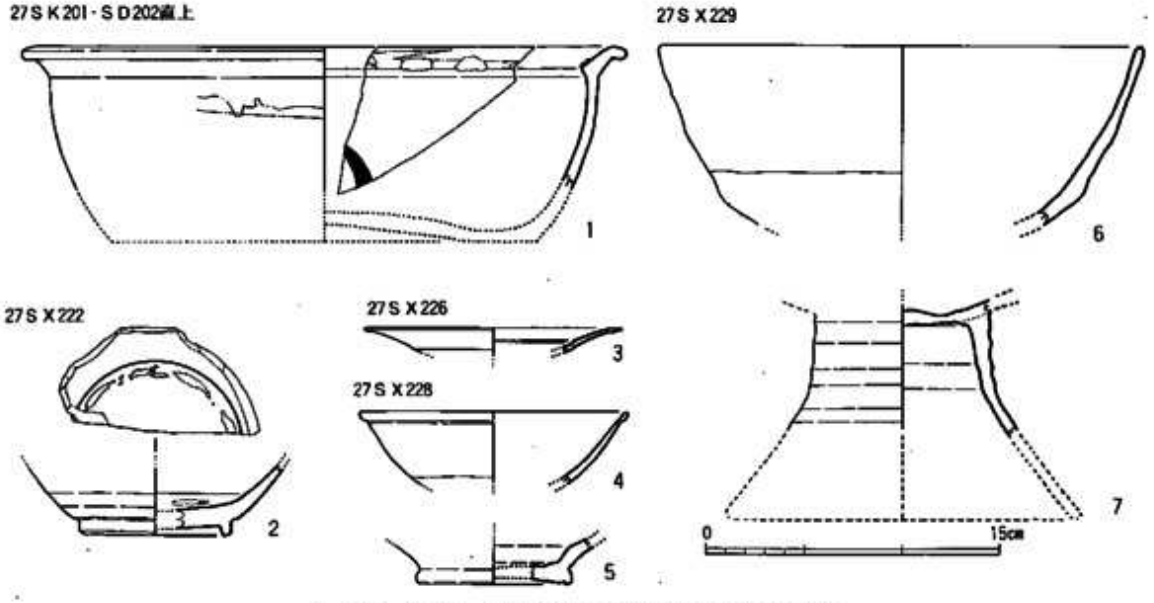


fig. 63　第27－１次調査各遺構出土土器実測図

盤（1）　Ⅰ1b類。胎土は淡灰黄色で0.5㎜以下の白色、茶色粒混入物が多い。堅緻。釉は茶色味の淡灰緑色で若干の光沢と細かい貫入がある。体部外面上半から内面全体に施釉され、口縁部は一部、釉を拭き取る。体部外面下半以下は露胎で暗赤灰色をなす。化粧土を施す。内面に鉄絵がある。口縁部内面には白色土と砂を混ぜた目跡が3～5㎝間隔ごとにある。四耳壺Ⅲと胎土、釉は類似する。

27SX222出土土器（fig. 63、pla. 30）

越州窯系青磁

椀（2）　Ⅰ2類。胎土は気胞が入りやや粗い。高台部畳付は露胎。内面見こみに段がある。内面見こみ、畳付に目跡がある。共伴土師器は10C中頃のものである。

27SX226出土土器（fig. 63）

緑釉陶器

Ⅲ（3）　胎土は暗灰色で硬質。共伴土師器は10C中頃。

27SX228出土土器（fig. 63、pla. 32）

青磁

椀（4）　胎土は淡灰黄色で黒色粒を含み、やや粗い。越州窯系Ⅱ類と類似するが化粧土はない。釉は灰緑色で光沢、貫入があり半透明である。内面から体部外面中位まで施釉され、体部外面下半は露胎で赤灰色をなす。口縁部は白磁椀Ⅰ、Ⅱ類と類似した玉縁で、青磁の器形としては稀である。

越州窯系青磁

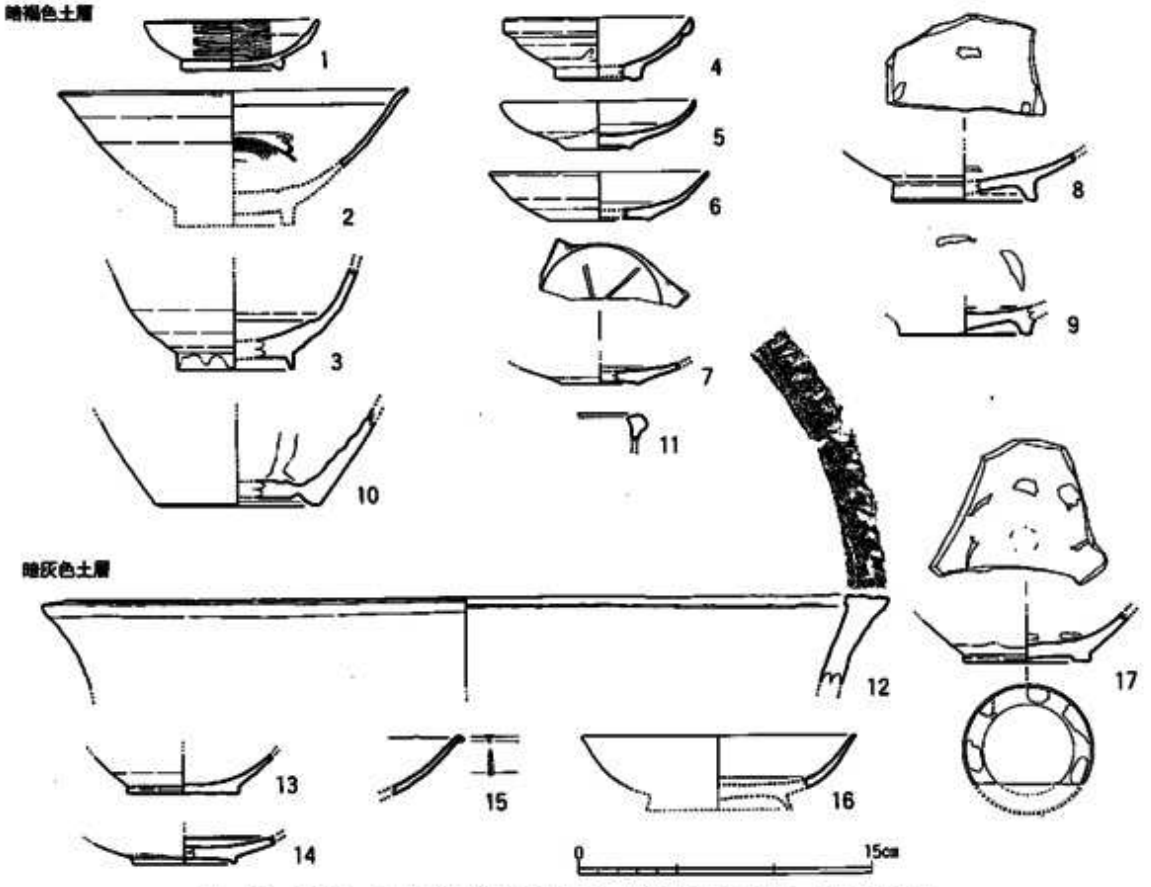


fig. 64　第27－1次調査暗褐色土層・暗灰色土層出土土器実測図

壺、水注（5）　Ⅱ類。胎土は灰色、淡茶灰色で黒褐色、白色粒を含む。内面、体部外面下位、底部外面は施釉しない。化粧土を施す。椀Ⅱ類と同様な円盤底をなす。

27ＳＸ229出土土器（fig. 63）

土師器

大椀、台付鉢（6・7）　6は大椀ｃ。7は台付鉢か皿と思われる。

暗褐色土層出土土器（fig. 64、pla. 29・31）

瓦器

小皿ｃまたは杯ｃ（1）　内外に丁寧なミガキｃを施す。口径9.0cm、器高2.6cm。

白磁

椀（2・3）　2はⅦ類、3はⅤ類と思われる。

皿（4～7）　4はⅡ1ｂ類、5はⅥ1ａ類、6はⅥ1ｂ類。7はⅥ2ｂ類で、体部内面、内面見こみに2本単位の櫛刀状のもので陰刻線文を描く。文様はⅦ2ｂに類似する。

高麗青磁

椀（8・9）　Ⅲ2類。胎土は淡灰色、橙灰色で白色砂を含み粗い。8の釉は灰緑色、9の釉は灰褐色で光沢はなく不透明。薄く全面施釉された後、畳付の釉を削る。内面見こみ、畳付に目跡がある。

陶器

壺、水注（10）　胎土は灰色、淡橙灰色で茶色粒を含み精緻。釉は黄灰色で光沢はなく、部分的に剝落が見られる。化粧土はない。外面底部まで薄く施釉される。内面には施釉しないが上から釉は落下している。露胎部は灰色。畳付に白色土が付着する。

盤？（11）　胎土は淡黄灰色で白色細砂を少量含む。釉は茶褐色。口縁部のみ施釉される。露胎部は淡黄灰色をなす。口縁端部に白色土の目跡がある。

暗灰色土層出土土器（fig. 64、pla. 30、別表1・2）

土師器

鍋（12）　口縁部上面に草本類の圧痕を有する。内面は横の刷毛目状痕跡がある。上層からの混入品と思われる。

須恵質土器

椀（13）　糸切り。内面、体部外面は横ナデ調整。搬入土器と思われる。

白磁

皿（14）　Ⅶ1ａ類か。胎土は黄白色で生地は細かい。釉は黄白色で貫入が多い。化粧土がある。

椀（15）　胎土は白色で生地はやや細かい。釉は空色味。口縁部に輪花、体部に縦沈線がある。

越州窯系青磁

皿（16）　Ⅰ類。内面見こみに浅く隆起する段がある。暗灰色粘土層から同一個体片が出土する。

椀（17）　Ⅰ1ｂ類。体部外面下位から底部外面は露胎。内面の目跡はラセン状に一周する。

暗灰色粘土層出土土器（fig. 65、pla. 29～31・37、別表1・2）

土師器

小皿ａ（1・2）　ヘラ切り。1は大ＳＫ802型。2は大ＳＥ1083型。他に大ＳＤ1330型がある。

小皿ｃ（3）　口径11.1～12.0cm、器高2.4～2.8cm。大ＳＫ674型前後。

小壺（4）　ヘラ切り。口縁部は短くいびつである。体部外面下半は縦のヘラ削り。

白磁

皿（5～7）　5・6はⅦ1c類。胎土は乳白色で細かく緻密。釉は黄白色または乳灰色味で光沢があり、細かい貫入は多い。内外に薄めの施釉。6の底部外面は施釉後、釉を削る。5の体部中位は強く屈曲し外面にシャープな稜線がつく。6の高台は浅く削り出す。面見こみにヘラ、櫛描文がある。7はⅡ1a類。

小椀（8）　胎土は空色味の白色でやや粗い。釉は緑色味をおび光沢がある。内面から体部外面下位、高台部外面に施釉され、底部外面は露胎。内面下位に体部側へ薄くなる段がある。高台は内面を斜めに削り三角形に近い。体部外面に縦ヘラ沈線文がある。

椀（9～16）　9はⅡ5類。胎土は乳白色で緻密。釉は黄白色味で光沢、貫入がある。体部外面下

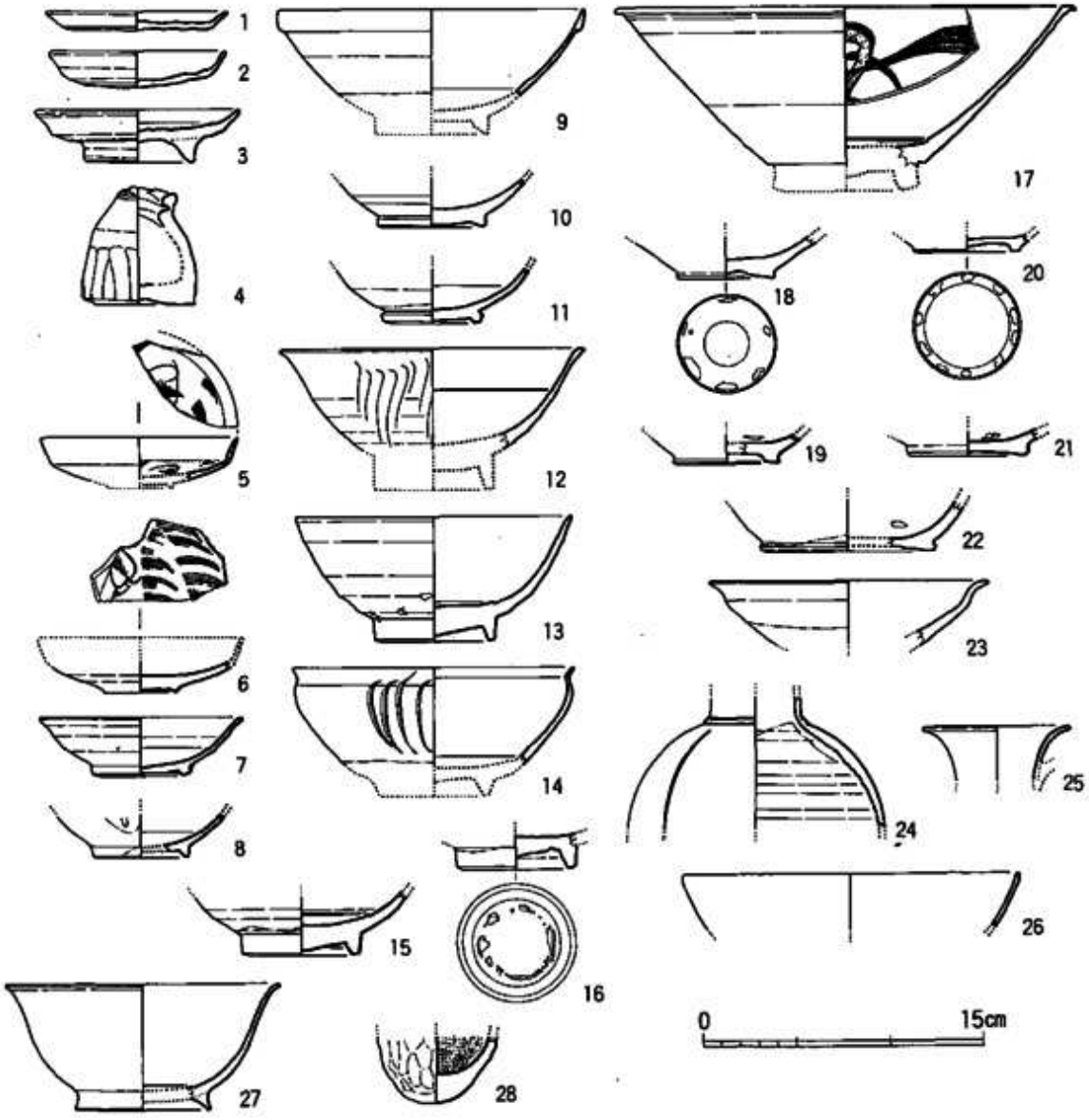


fig. 65　第27－1次調査暗灰色粘土層出土土器実測図

位から底部外面は施釉しない。口縁部は幅広の細い玉縁。内面下位は一段凹む。10の胎土はやや良質。釉は黄白色味をおびる。高台は断面三角形で低い。11の胎土は灰白色で黒色細粒を少量含みやや粗い。釉は灰色味をおび、体部外面下位以下は施釉しない。内面下位に体部側が薄くなる段を有する。12はⅤ２ｂ、13はⅤ１ａ。14は博多０Ⅲ類。胎土は淡黄灰色味の白色でやや細かい。釉は淡黄白色味で貫入が多く、柔らかい光沢を持つ。体部外面下半以下は施釉しない。体部は内湾し口縁部は外反する。外面は片切彫りの縦沈線文がある。内面見こみは一段凹む。15はⅤ類か不明。16はⅤ類。高台見こみに円形棒状焼台の使用痕がある。破片を円盤状に再加工している。

鉢（17）　胎土は淡黄灰色で黒色粒を含み粗い。釉は黄色味で貫入がある。やや厚めに施釉され、内面見こみは釉を環状に掻き取る。体部は直に外上方へ延び口縁部は水平に折り曲げる。高台部は肉太でやや高く逆台形をなすと思われる。内面に鉄絵がある。形態は椀類類に類似する。

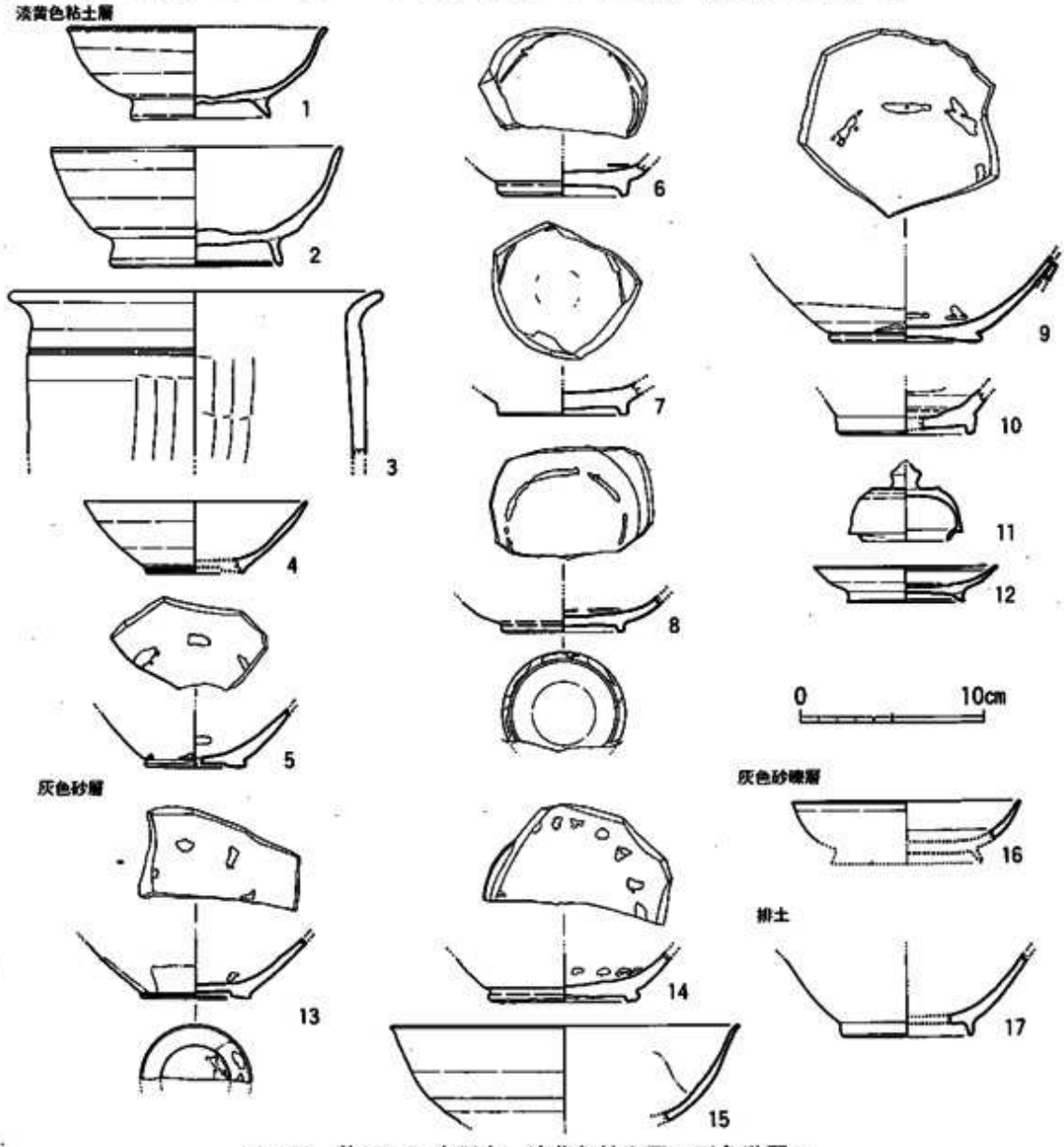


fig. 66　第27－１次調査　淡黄色粘土層・灰色砂層・灰色砂礫層・その他出土土器実測図

越州窯系青磁

椀（18～22）　18はⅠ１ｂ類。全面施釉後、畳付一部の釉は削る。高台部中央の抉りはやや雑。19はⅠ２類。畳付の釉は薄いので釉を拭くか削っていると考えられる。高台部は幅広の輪状。内面、高台畳付に目跡がある。20はⅠ２類。釉は茶色味をおび全面施釉後に高台畳付の釉を削る。畳付に目跡がある。21はⅡ２ｅ類。底部外面に糸切痕を残す。22はⅡ２ｂ～ｄ類。

杯（23）　Ⅱ類。口縁部は外反する。底部は円盤状と推定される。内面に目跡がある。

水注（24・25）　24の胎土は淡黄灰色、灰色で緻密。釉は暗黄緑色をなす。胴部内面には施釉しないが一部釉がつく。頸部と胴部の境は突帯状の段がある。胴部外面には縦沈線を入れて瓜形にする。25は24のタイプの口縁部と思われる。胎土は淡灰色で緻密。釉は灰緑色味。把手部分は剝落する。

高麗青磁

椀（26）　Ⅲ２Ｂ類。胎土は淡黄灰色で白色細粒を含みやや粗い。釉は緑味の暗黄土色で光沢はあるが不透明。白濁化する。内外面にやや厚めに施釉される。

緑釉陶器

椀（27）　胎土は軟質。釉は濃緑褐色をなす。付高台。

製塩土器

28は焼塩壺Ⅰ類。

淡黄色粘土層出土土器（fig. 66、pla. 30・31、別表１・２）

土師器

椀ｃ（１・２）　１は口縁部を屈折させ体部に丸味を持つもので、10Ｃ中頃の特徴を有する。２は１に比べて口縁部の屈折が明瞭でなく10Ｃ前半頃のものと思われる。

他に大SK678～674型の杯ａと小皿ａがある。

須恵質土器

甕ａ（３）　内面は縦のヘラ削り。外面は板状擦痕（刷毛目）がある。口縁部内外は横ナデ調整。手法は土師器のものである。外面口縁下に一条の凹線がある。

越州窯系青磁

椀（４～９）　４は浅形をなすⅠ類。精製品で高台部外面は露胎である。内面に目跡はない。５はⅡ１類。釉は茶色味。内面と体部外面下位に目跡がある。６～８はⅠ２類。全面施釉後、畳付の釉を削る。８は胎土、釉が茶色をなし丁寧なつくりである。９はⅡ２ｂ類。内面見こみと体部外面下位に目跡がある。別個体のⅡ２ｂ類の口縁部が焼成時に焼きついたままで重ね焼きの状態がわかる。

壺、水注（10）　Ⅰ類。外面に施釉され、高台部畳付は釉を削る。畳付に目跡がある。

壺蓋（11）　Ⅰ類。胎土は淡黄灰色で精良。釉は草色で光沢がある。外面に施釉され、内面は一部、釉がつく。口縁部にかえりがある。宝珠形のつまみを有する。口縁部外面に目跡がある。

緑釉陶器

皿（12）　胎土は淡黄灰色。土師質だが堅緻。釉は暗緑色で内面から高台部外面まで施釉される。内面見こみに沈線状の段があり、高台畳付を凹ませる。底部は糸切りで、内外面のミガキは省略される。

灰色砂層出土土器（fig. 66、pla. 30、別表１・２）

越州窯系青磁

椀（13・14）　13はⅠ１ｂ類。釉は白濁化し発色が悪い。14はⅠ２類。

灰釉陶器

椀（15）　釉は灰濁化し、体部内外面上半にごく薄く施釉される。体部は丸味を有し口縁部は外反する。外面下半はヘラ削り、他は横ナデ調整。大ＳＫ674型に共伴例がある。

灰色砂礫層出土土器（fig. 66、pla. 30、別表１・２）

越州窯系青磁

皿（16）Ⅰ３類。胎土は茶灰色。釉は茶色。内面見こみに沈線状の段がある。体部は丸く口縁は薄い。

その他の土層出土土器（fig. 66）

越州窯系青磁

椀（17）Ⅰ類。全面施釉後、畳付の釉は削る。高台部はやや高く細い。排土から採集した。

小結

遺構の年代

10Ｃ　下層遺構の中で27ＳＫ220・27ＳＸ222・225・226・228は大ＳＫ674型・10Ｃ中頃。27ＳＸ229もこの頃と思われる。

11Ｃ中頃　下層遺構の中で27ＳＫ224は大ＳＫ802型・11Ｃ中頃。27ＳＸ221・219もこの頃と思われる。27ＳＸ227は10Ｃ中頃～11Ｃ中頃。

11Ｃ後半以降　27ＳＤ202、27ＳＫ204・207、27ＳＸ208・209・214は大ＳＤ1330型・11Ｃ後半～12Ｃ初頭。27ＳＫ206は大1204古（南Ⅰ３Ｄ）型・12Ｃ前半。27ＳＫ203は大ＳＫ1204型～南Ⅱ１型・12Ｃ中頃～12Ｃ後半。27ＳＫ201・205は南Ⅱ１型・12Ｃ後半。27ＳＸ215は11Ｃ後半～12Ｃ中頃と思われる。

金属生産関係遺構

生産関係遺物は第13章を参照。遺物の種類としては銅製品の鋳型、ルツボ、フイゴ羽口、炉などの鋳造用具および土製品（用途不明のものがある）、鉱滓および鉱物材料などである。その他滑石製石鍋破片を２次加工したもの、瓦玉、転用した塼なども金属生産に関係するものではないかと思われる。生産関係遺物を出土した遺構、土層は27ＳＤ202、27ＳＫ203・224、27ＳＸ208・221・222・229、黄褐色粘土層、暗灰色土層、淡黄色粘土層、灰色砂層、暗灰色粘土層、暗褐色土層である。このうち淡黄色粘土層、灰色砂層、27ＳＸ229は10Ｃ中頃で鉱滓、滑石製品、鉱物材料などの少数遺物に限られる。しかし11Ｃ中頃～12Ｃの遺構、土層からは鋳型ほか各種の生産用具、土製品、石製品を出土していることから、この時期に活発な金属生産を行なったことがうかがわれる。直接、生産に関係する遺構は明らかではないが、27ＳＫ224は鈴鋳型、不明鋳型、フイゴ、ルツボ、火熱を受けた塼、銅滓などが出土していて不要生産遺物の廃棄土拡と思われる。このことから一段、遺構面の高くなる西、北側の地域に生産施設の存在を推定することができよう。27ＳＫ224、27ＳＸ221から鋳銅生産の開始は11Ｃ中頃に求められ、11Ｃ後半～12Ｃ初頭に続いた可能性がある。鋳型の中では蝶形磬が稀有な例として注目される。この出土層の年代は11Ｃ後半～12Ｃ前半であるが、先述したように11Ｃ中頃に遡る可能性を有している。これらの銅製品は一般的なものではなく仏事に関係したものであることを考慮すれば、生産施設は公的性格をおびるものであろう。

11　第27－2次調査

推定左郭六条三、四坊にわたる地域で、第27－1次調査の西側に隣接する。

土層（fig. 68）

調査地の遺構面は西から東へゆるやかに傾斜する。調査区西半部では表土①、床土②、茶褐色土層③を除去すると、ただちに黄色粘土層⑯（地山）に到達する。遺構27ＳＸ135⑤、27ＳＤ130⑥、27ＳＸ151⑦、⑧、黒褐色土凹み⑨などが⑯の上面で検出される。遺構は８Ｃ～12Ｃに及ぶ。東半部は西半部と異なり③の下に暗褐色土層④、暗灰色土層⑫、淡黄色土層⑮が堆積し⑯に到達する。ここでは遺構面は上下２枚検出され、上層遺構⑩⑪は⑫の上面から掘りこむ。下層遺構⑬、27ＳＤ230⑭は⑮の上面から掘りこむ。上層遺構は大ＳＫ1204型・12Ｃ前半～中頃、下層遺構は大ＳＫ674型～大ＳＤ1330型・10Ｃ中頃～12Ｃ初頭頃である。③④は12Ｃ以降の堆積であるが、④の遺物の大半は11～12Ｃのものである。⑫は大ＳＤ1330型・11Ｃ後半～12Ｃ初頭、⑮は大ＳＫ674型以前・10Ｃ中頃以前と思われる。これらの土層、遺構の年代は第27－1次調査の上・下層遺構の年代、層位と基本的には一致する。

fig. 68　第27－2次調査土層模式図

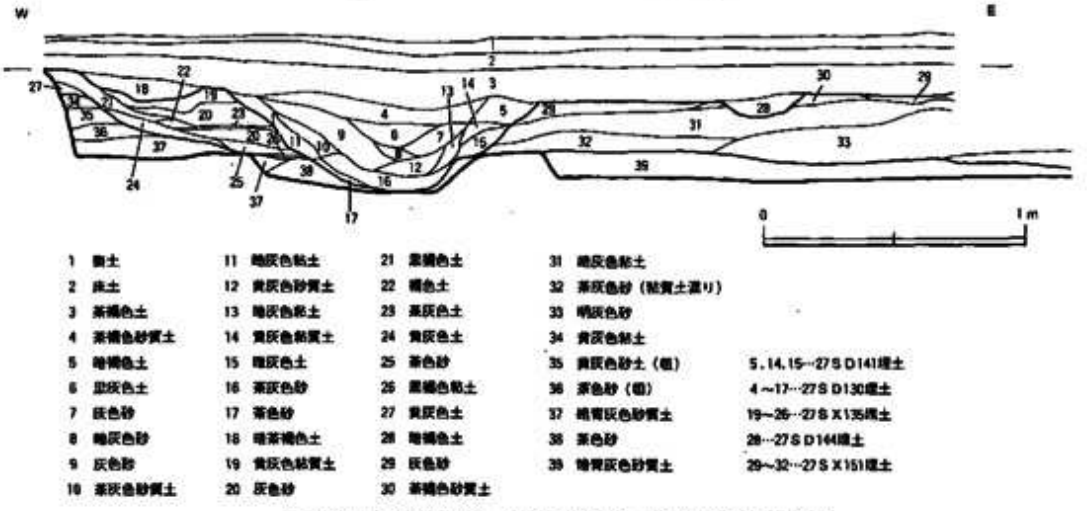


fig. 69　27ＳＤ130・27ＳＸ135・27ＳＸ151土層図

検出遺構

溝

27ＳＤ130　南北溝。幅は２～３ｍ、深さは0.7～1.1ｍ。下層から木製品が出土する。27ＳＫ135より新しい。土器は上層で大ＳＤ1330型、大ＳＫ1204古型、下層で大ＳＤ1330型を出土する（fig. 69）

27ＳＤ141　南北溝。27ＳＤ130より古い。溝の西肩は27ＳＤ130に切られる。

27ＳＤ144　南北溝。幅は0.7～0.9ｍ、深さは0.2ｍ。

27ＳＤ147・148　平行して東西方向に走る２本の溝で、幅は0.5～0.8ｍ、深さは0.2ｍ。

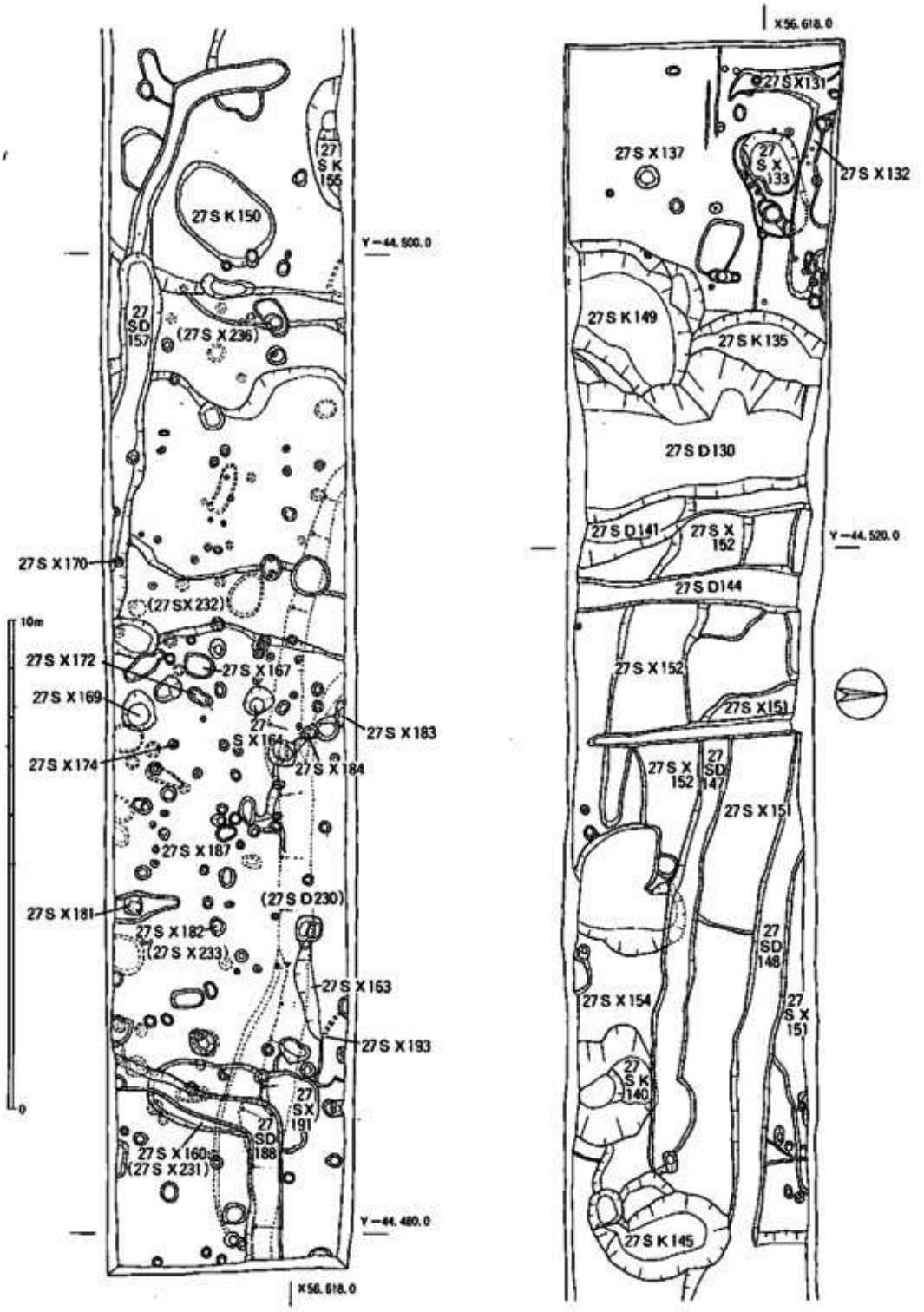


fig. 67　第27－2次調査遺構配置図 ◯ ( ) 下層遺構

27ＳＤ157　東西溝。幅は0.8m、深さは0.3m。

27ＳＤ230　東西溝。第26次調査検出の26ＳＤ261と連続する可能性があり、幅は６m前後とみられる。深さは0.6m。下層遺構で淡黄色土層から掘りこむ。

土壙その他

27ＳＫ149　瓦溜り。27ＳＤ130より古い。今次調査で唯一の８Ｃ代に属する遺構である。

27ＳＫ145　南北の長さは2.6m、東西の長さは1.8m、深さは0.4m。

27ＳＫ155　北側は調査区外のため未発掘である。東西の長さは2.7m、深さは0.2～0.35m。

27ＳＸ163　東西３m、深さは0.1mの浅い凹み。暗灰色土層から掘りこむ。

27ＳＸ164　径0.6mの小ピット。暗灰色土層から掘りこむ。

27ＳＸ174　小ピット。暗灰色土層から掘りこむ。

27ＳＸ231～236は下層ピット群で12Ｃ初頭以前と思われる。

黒褐色土凹み　かなり広範囲に認められた浅い凹みである。

出土遺物

27ＳＤ130出土土器（fig. 70、別表２）

白磁

壺（１）　博多０Ⅲ類に類似した胎土、釉調をなす。胎土はやや黄色味をおびた乳白色。やや砂味だが緻密。釉は黄灰色味で光沢、細かい貫入がある。外面に施釉。内面は露胎。口縁部に身受けのかえりがある。外面は２条単位の横沈線がある。

27ＳＤ144出土土器（fig. 70、pla. 33）

越州窯系青磁

椀（２）　やや幅広の高台を有するⅠ２類である。全面施釉。内面のヘラ沈線は文様か否か不明。

27ＳＤ157出土土器（fig. 70、pla. 34、別表１・２）

高麗青磁

椀（３）　Ⅲ２類。胎土は淡橙灰色で１～２mmの白色粒が多い。１～２mmの赤褐色粒も少し入る。粗い。釉は灰褐色で発色悪く光沢はない。畳付の釉は削る。釉は均一ではない。粗雑なつくり。内面見こみと畳付に目跡がある。

緑釉陶器

椀（４）　胎土は淡茶灰色で土師質だが堅緻。釉は暗緑色で全面施釉。高台はやや高く畳付に凹線を入れる。内外面のミガキｃはない。底部は糸切り。高台見こみと内面見こみにトチの使用痕がある。

陶硯

猿面硯（５）　ＶＢａ類。須恵器甕片の側面を風字形に磨って転用した小形品である。

白磁

水注（６）　胎土は灰白色で黒色細粒を含む。やや砂味だが緻密。釉は淡緑色味をおび透明で光沢がある。頸部内面から体部外面下半にやや厚めに施釉される。化粧土はない。高台部内面は斜めに削る。胴部は丸味、肩部外面に段がある。耳、注口、把手の取付位置は判明するが欠損する。内面は横ナデ、頸部内面下位はヘラ削り、外面下半はヘラ削り後に横ナデ調整。胴部外面に体部を六区分する２条単位の縦隆線がある。隆線は先端をＷ形に加工した櫛刀状工具の施文である。27ＳＸ152、27Ｓ

X163、暗褐色土層、黒褐色土凹み、表土層から破片が出土した。

土師器

鉢（7）　太い高台を有する。体部内面、高台部外面は横ナデ調整。底部外面、内面には炭化付着物がある。27SX163、暗褐色土層から破片が出土した。27SX163に伴うと思われる。

27SX163出土土器（fig. 70、pla. 33・36、別表1・2）

白磁

Ⅲ（8－10）　8はⅡ1a類。9はⅤ2類。釉は光沢あるが白濁化し不透明。全面施釉後、底部外面の釉を削る。口縁部は外反し体部下半は丸味をもつ。あげ底で内面見こみに段がある。10はⅦ1b類。

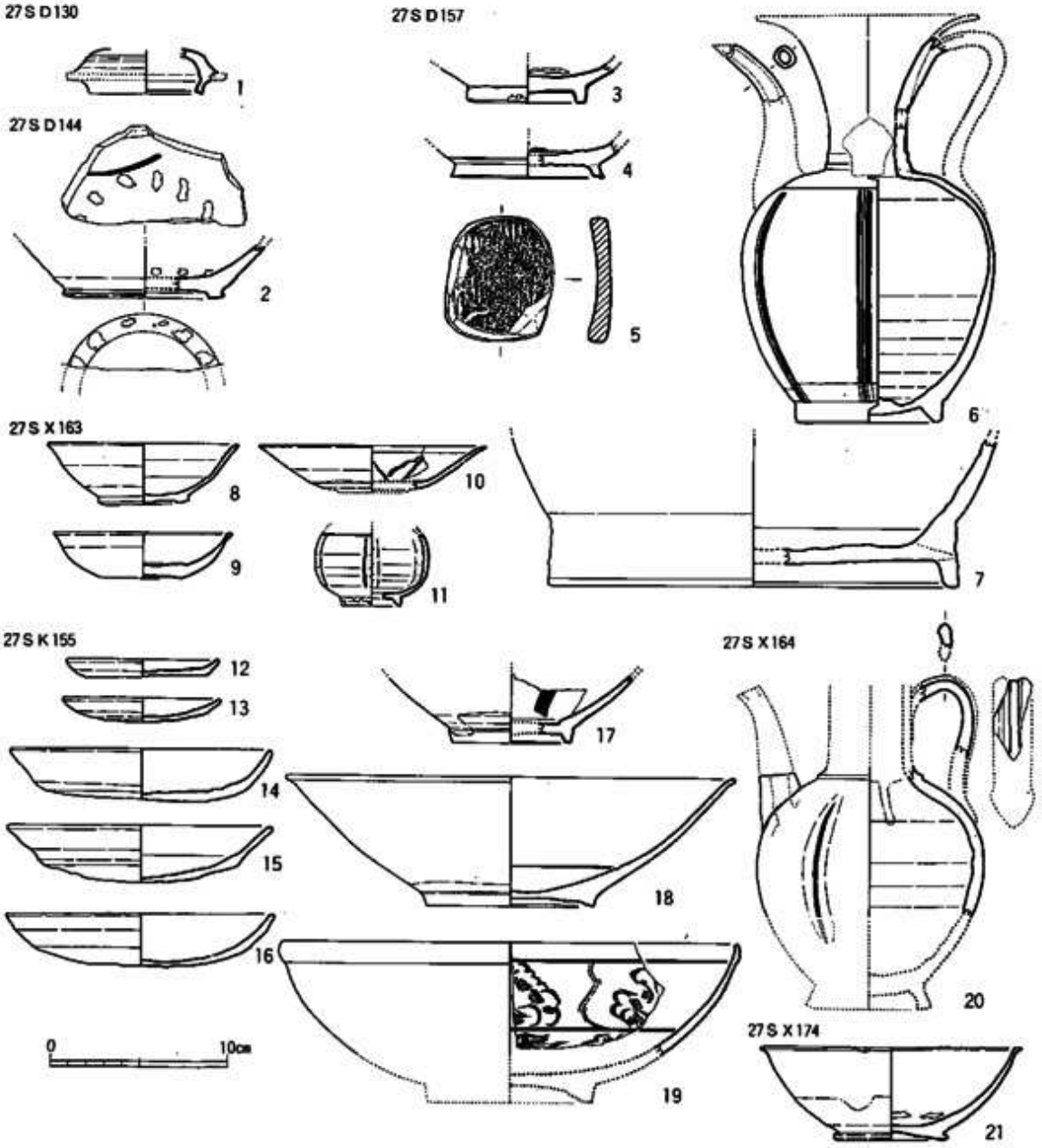


fig. 70　第27－2次調査各遺構出土土器実測図

壺（11）　胎土は淡灰色でやや緻密。釉は空色か淡緑色味で光沢、貫入がある。内外面施釉。底部外面は露胎。胴部は球形、高台部内側は斜めに削る。胴部はヘラで押して六区分の瓜割形にする。上位に横沈線がある。

27ＳＫ155出土土器（fig. 70、pla. 36・37、別表１・２）

土師器

小皿ａ（12・13）　ヘラ切り。口径8.1～10.0cm、器高0.9～1.5cm。大ＳＫ802とＳＤ1330型がある。

丸底杯ａ（14～16）　ヘラ切り。口径15.0～15.7cm、器高2.9～3.3cm。14・15は体部外面に指頭痕がなく内面ミガキｂも雑になる。ミガキを除けば殆ど杯ａと差はない。

白磁

椀（17）　Ⅶ類の底部に類似するが、釉は灰緑色味をおび貫入が多くⅡ類などに近い。内面見こみは一段凹み、体部内面に櫛描き文がある。青白磁の可能性がある。

鉢（18・19）　18は前川Ｍ類*に類似する胎土、釉調をなす。胎土は灰白色で黒色細粒を含みやや緻密である。釉は灰緑色味で柔らかい光沢と細かい貫入がある。内面から外面体部下半に薄く施釉される。体部外面から底部外面は露胎。体部は大きく開き口縁部は外反する。高台は内側を浅く削り低くつくる。見こみに一条の横沈線がある。19は18と類似した胎土、釉調である。胎土は淡灰色で黒色細粒を含み粗い。釉は水色味をおび柔らかい光沢がある。貫入が多い。内外面にやや厚く施釉される。体部は丸味があり口縁部は玉縁。内面上、中位に横沈線を入れ、櫛目、片切彫りの文様がある。

27ＳＸ164出土土器（fig. 70、pla. 34、別表１・２）

越州窯系青磁

水注（20）　Ⅱ類。胎土は灰色で黒色粒を含み、やや粗い。釉は濃黄緑色で発色は悪い。貫入がある。内面頸部から外面に施釉されるが一部の釉は剝落する。頸部と胴部の境は突帯状の段がある。図示した把手は別個体のものかもしれない。胴部外面は深く縦ヘラ沈線を入れ瓜割形にする。

27ＳＸ174出土土器（fig. 70、pla. 33）

越州窯系青磁

椀（21）　Ⅱ２ｅ類か、底部の糸切痕は不明である。

表土層出土土器（fig. 71、pla. 33・37）

白磁

皿（１）Ⅶ１ｃ類。胎土は乳白色で緻密。釉は乳灰色で柔らかい光沢があり、外面の釉溜部分は淡灰緑色味をなす。細かい貫入が多い。全面施釉後、底部外面の釉を削る。高台部は浅く削り出される。Ⅶ１ａ類は無文であるが内面にヘラと櫛描文を施すものをｃ類とする。

越州窯系青磁

蓋（２）　胎土は淡灰色で緻密。釉は灰緑色で光沢、貫入がある。化粧土はない。外面に施釉。つまみは低い環状で、口縁部にかえりがある。外面に２条単位の横沈線。受部内面に目跡がある。

茶灰色土層出土土器（fig. 71、pla. 33）

白磁

椀（３・４）　３はＶ２ｂ類。４はⅢ類に類似する。胎土は灰白色で黒色粒を含み粗い。釉は淡灰

*福岡県教育委員会『南バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第８集（下）1978 P.40・57参照

緑色味をおび光沢があり、透明。化粧土はない。外面は高台まで施釉。高台部は内面を斜めに削りやや低い。高台内に3足の目跡（焼台使用）。

黒褐色土凹み、暗褐色土層、黒灰色土層出土土器（fig. 71、pla. 33・34、別表1・2）

白磁

皿（5）　V2類。胎土は淡灰色で黒色粒を含む。釉は透明に近く釉溜部分は灰緑色味をおびる。光沢、貫入がある。全面施釉後、底部外面の釉を削るためややあげ底をなす。口縁部は外反し体部下半は丸味を有する。内面見こみに段がある。暗褐色土凹み出土。

鉢（6・9）　6の胎土は淡灰色で黒色粒を含み、気胞が多くやや粗い。釉は空色味をおび体部外面下位まで施釉される。内面見こみは輪状に釉を掻き取る。高台部内外面は面取りされる。鉄絵を施すと思われる。9の胎土は淡灰色で生地はやや砂味であるが緻密。釉は黄灰色味をおび柔らかい光沢があり、細かい貫入がある。内面から体部外面下半まで薄めに施釉される。化粧土がある。体部は内湾する。口縁部内面と見こみに沈線がある。黒褐色土凹み出土。fig. 70－18・19と類似した胎土、釉。

椀（7）　博多0Ⅲ類。胎土は乳白色でやや砂味だが緻密。釉は黄色味をおびる。無文のタイプ。

青磁

pla. 33aの胎土は灰白色でやや砂味をおびる。釉は淡緑色で柔らかい光沢があり厚めに施釉される。外面は幅広の縦凹線を入れ、さらに蓮弁文ふうに細いヘラ描きを施す。越州窯系か。

高麗青磁

杯（8）　Ⅲ類。胎土は淡灰色で1㎜の白色粒を含み、やや粗い。釉は濃緑褐色で貫入、光沢がある。化粧土はない。薄く全面施釉後に高台畳付の釉を削る。高台部外面は一部面取りする。内面見こみと畳付に目跡がある。黒褐色土凹み出土。

暗灰色土層出土土器（fig. 71、別表1・2）

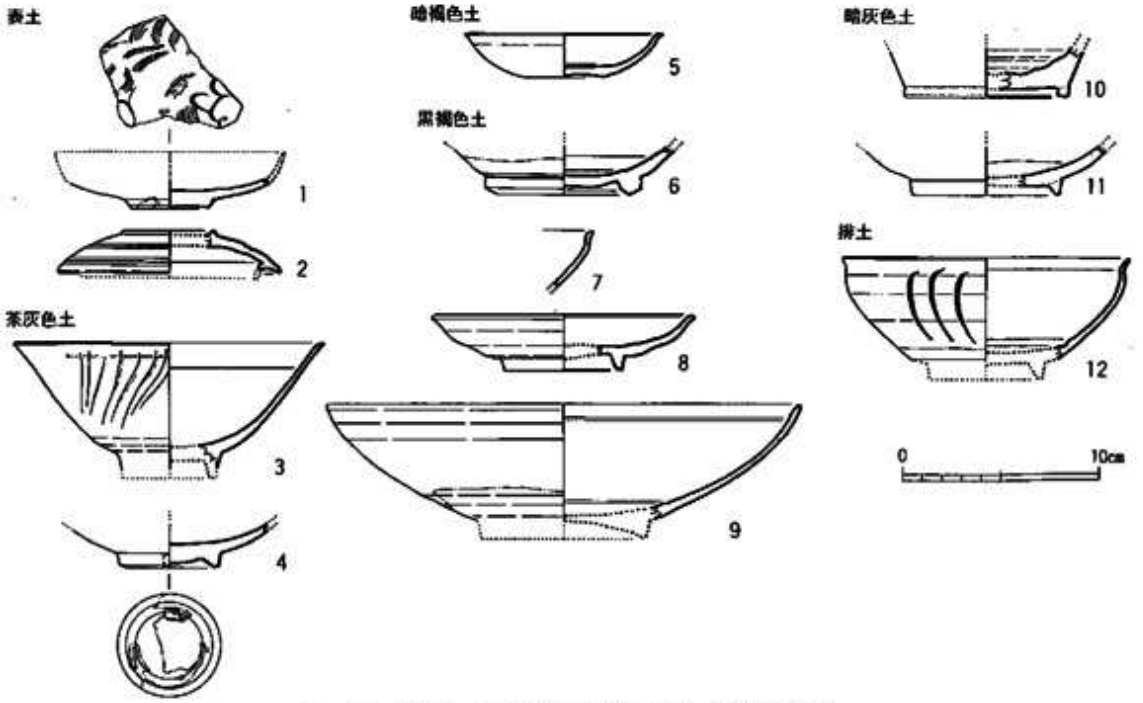


fig. 71　第27－2次調査各土層出土土器実測図

緑釉陶器

壺（10）　胎土は暗茶灰色で土師質だが堅緻である。釉は黄緑色で内外面に施す。

灰釉陶器

椀（11）　胎土は淡灰色でやや粗い。内面見こみと体部外面中位以下には施釉しない。付高台である。

その他の土層出土土器（fig. 71、pla. 37）

白磁

椀（12）　博多０Ⅲ類。胎土は乳白色でやや砂味だが緻密。釉は乳白色で光沢、貫入がある。内面から体部外面下位まで施釉される。化粧土がある。体部は内湾し口縁部は外反する。体部外面下位には稜があり、見こみは一段凹む。体部外面に片切彫の弧状縦沈線を入れる。

水注・瓶　pla. 35Ⅰは胎土、釉調の近似する一群である。胎土は淡灰白色。やや砂味をおびるが均一で黒色微粒子を含む。釉は淡緑色味をおび青白磁に近い。ａ、ｂは黒灰色土層、ｃは27ＳＫ145、ｄ、ｅは表土層出土。ａ、ｂは同一個体と思われる。pla. 35Ⅱは同一個体と思われる。胎土は乳白色で上記Ⅰと近似し、釉は柔らかい光沢を有し内面には施釉しない。胴部は瓜割形にする。ｆ～ｉは黒褐色土凹み、ｊ・ｋは27ＳＤ157、ｌは27ＳＸ234、ｍは27ＳＸ232出土。pla. 35Ⅲの胎土、釉は上記Ⅱと近似する。胴部には２条一単位の縦隆線を施す。ｎ～ｓは黒褐色土凹み、ｔ・ｕは黒灰色土層、ｖは暗褐色土層出土。pla. 36Ⅱはpla. 35Ⅱと同様の胎土、釉調をなし、釉の光沢はやや強い。ａ・ｂは黒褐色土凹み、ｃ・ｄは黒灰色土層、ｅは暗褐色土層、ｆは茶灰色土層、ｇは27ＳＸ172、ｈは27ＳＸ234出土。

鉢　pla. 36Ⅳは内面に鉄絵を施す大形の鉢である。ｉは27ＳＤ141、ｊは黒褐色土層出土。

小結

遺構の年代

８Ｃ　27ＳＫ149は８Ｃ中・後半。

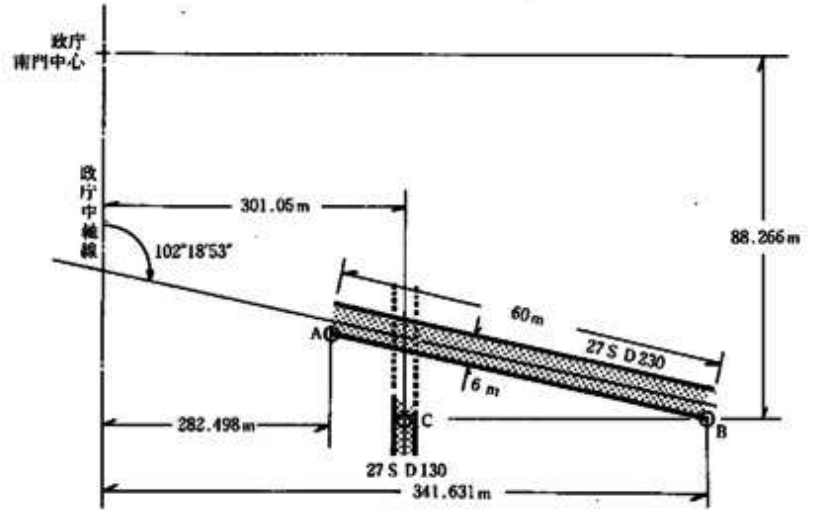


fig. 72　溝の概念図

12C初頭以前　下層遺構27SD230の埋没時期は大SD1330型、11C後半～12C初頭。27SX231～236，27SK155、27SX163・164は大SD1330型、11C後半～12C初頭。

12C初頭以降　27SD130は12C中頃埋没。27SD157、27SK145は大SK1204古型、12C前半。27SX174、黒褐色土凹みは大SD1330型～大SK1204古型、11C後半～12C前半。27SD141・147・148もこの頃と思われる。

溝の位置関係（fig. 72）

検出した溝のうち主要なものについて政庁との位置関係を明らかにし、今後の検討資料としておきたい。

27SD230・26SD261　今次調査検出の27SD230は西側に近接する第26次調査検出の26SD261と連続する可能性がある。また、東側に近接する27－1次調査では溝は検出されなかったが、遺構面が一段低くなるところから溝が自然に谷状の低地に注ぎ込むようなとりつき方を示していたと思われる。27SD230と26SD261との調査結果から、溝の幅は6m、長さは東西60m分を検出したことになる。溝の西側肩の任意の点Ⓐ〔X630.50、Y－539.00〕とⒷ〔X617.00、Y－480.00〕との計算結果から、溝は政庁中軸線の直行線に対し12°18′53″の傾きを有する。点Ⓑは政庁南門中心点から東へ341.631m、南へ88.266m隔てた位置である。次に溝の埋没時期についてみると26SD261では10C中頃、27SD230ではこれよりも新しく11C後半～12C初頭の遺物を下限としていることから少なくとも12C初頭には埋没したと思われる。溝の開削年代は出土遺物などからみて8Cに遡ることは困難に思われるが10Cに遡る可能性はある。

27SD130　27SD130の検出範囲は限定されているために、任意の溝の中心点Ⓒの位置関係を計算しておく。Ⓒ〔X615.200、Y－520.60〕は政庁南門中心点から東へ301.05m、南へ90.472mの位置にあたる。埋没時期は出土遺物から12C中頃、上限は11C後半頃と推定される。

12　第28次調査

条坊復原案による左郭五条三坊に相当する。調査の結果、現代の溝1条とピット2を検出した。28SX280は須恵器、土師器、白磁椀Ⅰ4類1片を出土し10Cと思われる。なお周辺部に遺構の分布はなく、表土除去の後ただちに地山が検出されることから遺構面はかなり削平をうけていると思われる。

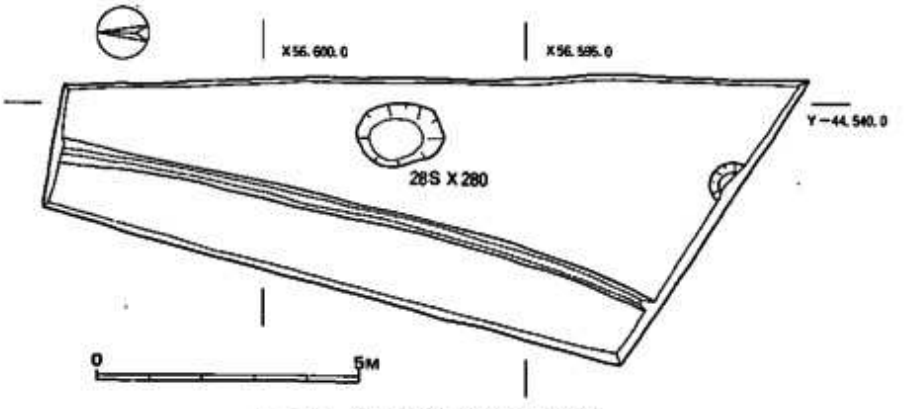


fig. 73　第28次調査遺構配置図

13　その他の遺物

土製品・金属製品（fig. 74、pla. 38）

1は、暗灰色に焼成された土製の菩薩形立像である。頭部と足首以下及び持物の一部を失っているが、その容姿から観音菩薩の一種ではないかと考えられる。現存高3.85cmという小像ながら、その姿は量感に富み堂々としている。形状は、条帛を懸け、天衣は両肩より垂下させるが像正面には表現されず、左手の臂と手首の間に懸けられたものがわずかに認められる程度である。裳の折返しは一段とみられる。裳は膝下でたくし上げられるように表現するため、腦部分が露出する格好となる。左手は屈臂し、華瓶とみられる持物を取るが上端を失っており判然としない。右手はわずかに屈臂させながら垂下させるが、掌の位置が膝付近にあり、やや長めの手に表現されている。右手掌は磨滅のためどちらに向けていたかは不明であるが、あるいは裳の裾を軽くつまむ姿を表現しようとしているのかも知れない。脚部は裳の表現により明瞭ではないが、左脚を立脚とし、右脚は遊脚で膝をわずかに折っているものと思われる。そのため、腰はかすかに左にひねって表現され、正立像ではなく屈斜像であることが知られる。上体は若干後方へ反り気味であるが、これが胸部や腹部の量感を感じさせる造形となっている。造像は范によるものと思われ二次的に篦状工具を用いて整形していると考えられる。第27－1次調査灰色砂層出土。

本像の特色はまず天衣の表現が少なく、像正面に認められないことがあげられる。このような像は観世音寺十一面観音像や同寺聖観音立像などに見ることができるが、この小像はそれらの模倣とみるよりも小像のため表現の困難さ及び土製という材料の性質から像正面には表わされなかったとみる方がよさそうである。また、裳の裾部分がたくし上げられたように作られるのも特色の一つと言える。この様な例は他に類似を見ることが出来ない。本像の製作時期は、その量感あふれる胸元や腹部、豊かな腰部の表現などから奈良法華寺十一面観音像に近いものを求めることができよう。法華寺のそれは貞観期の代表的作品といえるもので9世紀前～中ごろとされている。今、この小像をこれと同時期であるとはにわかに決め難いが、あまり遠くない時期の作品であることは疑いなかろう。灰色砂層は10世紀中ごろと考えられることから、製作年代の一時点を推定できる。いずれにせよあまりに小像であり、その用途は個人の念持仏的存在であったものかも知れない。今後観世音寺前面の性格を考える上に重要な出土遺物であるといえよう。

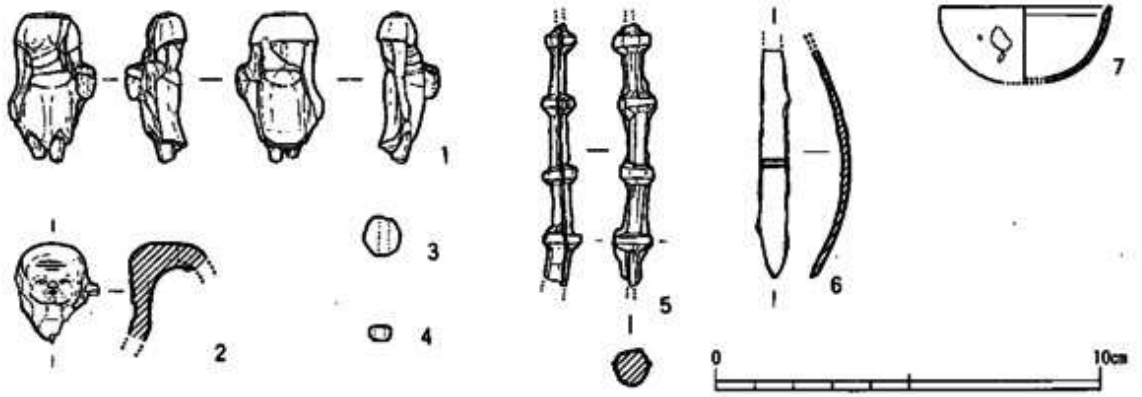


fig. 74　第19、27－1・2次調査出土土製品・金属製品

2は布袋像の頭部とみられる。額には沈線で三条のしわを表わし、顔は頭部下半に集中して表現する。目は細く垂れ下がり、鼻は押しつぶされたように低く、口は極端に小さい。顔の左側には耳あるいは手とみられるものが残っている。造像は范により前後を貼り合わせており、頭部内面には補強の粘土がみられる。布袋は七福神の1つで弥勒菩薩の化現といわれる中国に実在した人物を言う。七福神の思想は室町末ごろ中国から輸入され、江戸期に入って福徳施与を祈願し、その信仰は民衆の間に広く浸透した。本像もそれによる作品とみられ江戸期のものであろう。第19次調査黒灰色土層出土。

3は、土製の玉である。径1.5cm内外で中央に径0.4cm程度の穿孔を施す。調整は指押えによる。19ＳＤ001上層出土。

4は、ガラス製の小玉と思われる。径0.56cmで上下端は平坦である。厚さは0.4cmで中央に径0.3cmの穿孔を行なう。表面は風化が著しい。第19次調査黒灰色土下層出土。

5は、鋳銅製の相輪の断片と考えられる。現存高6.8cm、最下段の九輪の径1.0cmを測る。擦管は直線的ではなくやや蛇行しており、周囲は鋳離しのままでバリがそのまま残っており全く調整されていない。小型の相輪は経筒の紐に近似するものを求めることができる。太宰府周辺の類例では武蔵寺第2号経塚出土鋳銅製積上式経筒や、原経塚出土鋳銅製積上式経筒があり、後者は仁平2年（1152)の年号を有する。さらに伝福岡県出土の保延七年銘（1141）鋳銅製積上式経筒にも同様の相輪紐がある。これらと比較した場合、今回発見のものは九輪間の距離で武蔵寺出土品に近似するが、九輪の径が前述の三者より大幅に小さいことが指摘できる。時期的にやや降るものであろうか。いずれにせよこれが未成品であるということは周辺から多くの生産関係遺物を出土している事実とあわせて、観世音寺、学校院の前面地域には活発な生産活動を行なった鋳造技術者の存在していたことを窺わせるものと言えよう。第19次調査黒灰色土層出土。

6は、銅製の飾金具の一部ではないかとみられる。形状は湾曲し一方は欠失していて不明であるが、いま一方は先端を尖らせている。現存長5.8cm、幅0.7cm、厚さ0.2cmを測る。第19次調査黒灰色土下層出土。

7は銅鋺形製品である。復原径4.45cm、現存高2.0cm、厚さ0.1cm。体部は内湾し、口縁端部をやや尖り気味につくる。体部外面に型持ちの跡が認められる。第27－2次調査床土出土。

石製品（fig. 75、pla. 38）

1は水晶製の三輪玉である。一部を欠失するが、ほぼ完形に近いものである。現存長3.7cm、最大

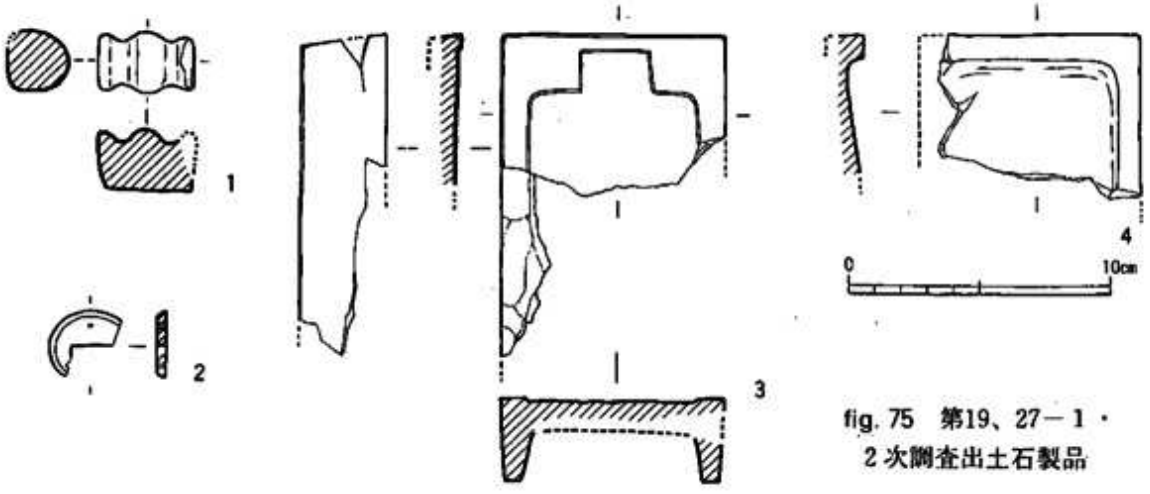


fig. 75　第19、27－1・2次調査出土石製品

幅2.35cm、高さ2.4cmを測る。27ＳＸ170出土。

２は石帯で、丸鞆に相当する。現存幅2.5cm、厚さ0.4cmで現状では２ヶ所の穿孔部分を認める。淡緑灰色を呈する。第27－１次調査、灰色砂礫層より出土した。

３は硯と考えられる。幅8.6cm、高さ3.3cmを測る。本来は長方形を呈し、台付のものであったと考えられる。表面は、深さ0.1cmという浅い掘り込みが認められ、「山」部分と考えられる。暗褐色を呈する。19ＳＤ001下層出土。

４は硯である。大半を失っているので本来の姿を知り得ないが残存部は「海」部にあたるものとみられる。深さ0.6cmを測る。19ＳＤ001上層出土。

滑石製品（fig. 76、pla. 38・39）

１は石鍋Ａ１類。口縁部から体部にかけて長さ2.7cm、幅1.4cmの方形耳を有する。外面は横方向削り調整でススが付着している。19ＳＤ001上層出土。２は小型の石鍋Ａ１類で復原口径7.4cm、現存高3.2cm、体部の厚さ0.5cm内外を測る。体部から口縁部にかけてやや内湾し、口縁部には長さ1.1cm、幅0.6cmの方形耳が４か所に配置されていたものと考えられる。体部外面は丁寧な横方向の削り、内面は斜め方向でやや粗雑な削り調整を施す。第27－２次調査暗褐色土凹み出土。

３は小型の石鍋Ａ１類で２耳と思われるが耳を欠損する。口径6.4cm、器高3.5cm、底径6.0cm、底部の厚さ0.9cmを測る。外面は丁寧な横方向の削り調整、内面体部は粗雑な削り調整を行なう。外底部は丁寧な削り調整が施される。体部はやや内湾し、口縁端部は平らでわずかに外方に傾斜する。25ＳＸ123出土。４は、長辺4.8cm、短辺4.2cm、高さ2.8cmで中央に長径3.6cm、短径3.2cm、深さ1.6cmで円錐形状の穴を穿っている。穿穴部にはノミ状工具による痕跡が明瞭に認められる。第19次調査黒灰色土層出土。５は長辺5.9cm、短辺2.5cm前後、深さ1.6cmの矩形を呈し、小さい方の穴は一辺1.7cm内外で深さ1.4cmを測る矩形を呈する。ともにノミ状工具で粗く削られており、ノミ痕を明瞭に残している。第27－１次調査暗灰色粘土層出土。６は、長さ5.5cm、最大幅2.9cm、高さ2.5cmを測る。５と同様に２つの穴を穿つが両穴ともほぼ等しい法量であり、一辺約1.4cmで隅丸の矩形を呈し、深さは1.6cmを測る。一方に長さ1.1cm、幅1.5cmの突起が削り出される。第27－１次調査暗灰色土層出土。７は棒状のものの一方に穴を穿ち、いま一方は段状に造る製品である。現存長7.2cm、幅2.1cm、最大高2.6cmを測る。穴は約半分を欠失するが、一辺約1.0cm前後の隅丸矩形で、深さ1.1cmのものである。中央上面に径0.1cm、深さ0.2cmの小穴がある。第27－１次調査暗灰色粘土層出土。８は、４と同様のものかとも考えられるが、全体が丁寧に削り調整されており、これで完形品と考えられる。長辺3.2cm、短辺2.4cm、高さ2.3cmを測る。窪み部分は径2.1cm、深さ1.9cmで底部に掘り込み時に生じたノミ状工具の痕跡が認められる。第27－２次調査黒褐色土凹み出土。９は、長径3.4cm、短径3.0cm、高さ1.3cmを測り、中央に径1.8cm内外、深さ0.5cmの浅い穴を穿つ。全体に粗い削り調整である。第27－２次調査黒褐色土凹み出土。10は径10.5cm、厚さ1.5cmを測る。全面削り調整を施しているが表裏両面は小さなカキ傷のようなものを多く認める。24ＳＸ114出土。11は、平面三角形に復原し得るものと思われる。現存長10.8cm、厚さ3.4cmを測る。全体は削り調整されるが、裏面のみやや粗い仕上げである。表面にススが付着する。19ＳＤ001上層出土。12は鈕を持つスタンプ状製品。現存長7.2cm、体部最大厚1.0cmを測る。端部にむかうにつれ薄くなり、端部は鋭利である。鈕の平面は方形状を呈し、径0.6cmに復原される穴を穿っている。その穿孔部分から体部端まで幅0.5cmの溝を切っている。第27－２次

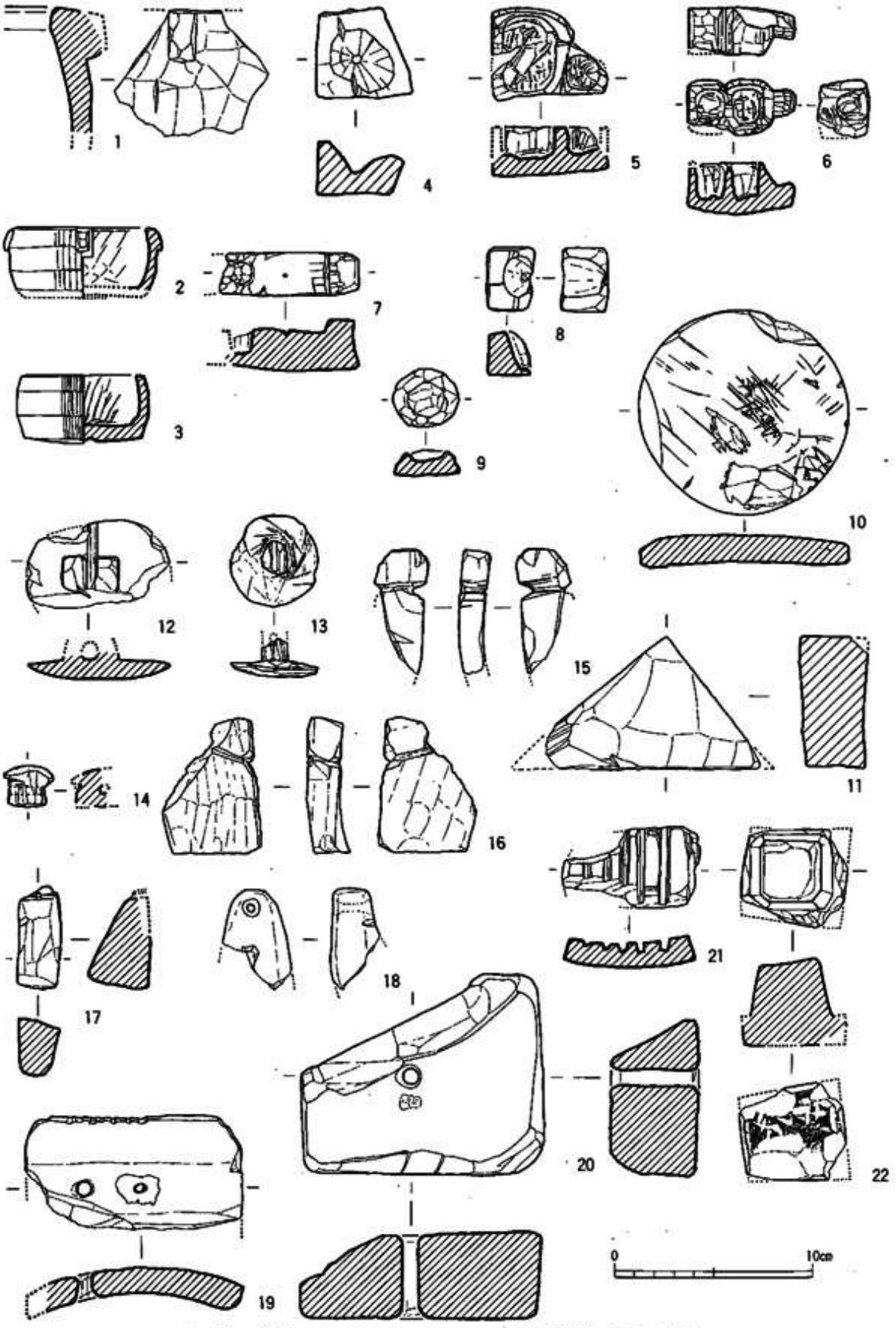


fig. 76　第19, 24, 25－2、27－1・2次調査出土滑石製品

調査排土採集。13は、12と同様の用途が考えられる。径4.5cmを測り、その端部は薄い。現存高2.0cmで鈕には、穴を穿っている。全面削り調整で、鈕を削り出すときの工具痕が残り、右回りに削っていったものと考えられる。第27－1次調査暗褐色土層出土。14は、小型の栓と考えられる。1/2程度を残しているのみであるが、最大径2.5cm、高さ2.1cmに復原され、中央に径0.4cmの横方向の穿孔を行なう。第19次調査表面採集。15は、現存長6.4cm、厚さ1.3cmを測る。下端及び側面の半分を欠失する。先端から2.0cmのところで、4方向に切込みを入れている。石鍋の一部を転用加工したものとみられる。19ＳＤ001上層出土。16は長さ6.9cm、最大幅4.9cmで、先端から2.0cm前後のところの三方に切り込みを入れており、15と同様の用途が考えられる。石鍋の一部を転用し加工したものとみられる。19次調査黒灰色土下層出土。17は長さ5.2cm、最大幅2.2cm、最大厚3.1cmを測り、先端に径0.2cmの穿孔を行なう。27ＳＤ188出土。18は、現存長5.2cmで、端部近くに両面から穿孔を行なう。大半を欠失するため全形は不明である。19次調査黒灰色土下層出土。19は、石鍋の転用品とみられる。幅10.9cm、厚さ1.3cmを測り、中央やや左よりに径0.7cmの穿孔を認める。なお中央には鉄釘状のものが打ちこまれているが、貫通はしていない。第27－2次調査暗褐色土層出土。20は、長辺12.3cm、短辺10.4cmを測る。各隅部は面取りされている。現状ではその約半分を失っているが、この状態になっても再び利用されたらしく、欠失面は二次的に面取りされている。中央に径0.7cmの穿孔がある。第27－1次調査灰色砂層出土。21は、長さ7.1cm、最大幅4.2cmを測り、石鍋の転用品と考えられる。内湾する面には5条の切り込みが入っており、幅0.4～0.5cm、深さ0.2～0.6cmを測る。外面は、煤が付着している。27ＳＤ157出土。22は石鍋の再加工品で耳の部分をそのまま残し、スタンプ状を呈する。長辺5.3cm、短辺5.0cm、高さ4.6cmを測る。耳は各隅を大きく面取りしている。なお裏面には、文字らしきものを刻しているが、欠失が多く判読できない。第27－1次調査淡黄色粘土層出土。

生産関係遺物（fig. 78、pla. 8・39・40）

鋳型（1－10）

1～6は鈴の鋳型と考えられる。器形は全て同種のものとみられ、やや下膨れ気味に内湾する体部を有し、その中央付近には軽い段を設けている。先端部は環状の釣金具の部分になるものと考えられるが、全て完存するものはなく、その形状は明らかにし難い。これら外型は2つで一組になるものであり、その接合面は平担であるが下半は段状を呈しており接合しない。外面上半部の接合部付近には篦状工具による刻線があり、鋳造時の型合わせの目印と考えられる。これらの鋳型は木製の雄型の上に粘土（上げ真土）を貼り付けるようにして作られたらしく、内面に木目痕を認めるもの（5）もある。外面は指押えの跡がみられ、さらにその外側にスサ入りの粗真土を認められるものもある。これらの鋳型は法量から3種類に分けられる。小型のもの（1）は内径2.3cm、内長2.2cm、深さ1.1cm、中央部の上げ真土厚0.4cmを測る。中型のもの（2～5）は、内径2.9～3.1cm、内径2.7～2.9cm、深さ1.2cm前後、中央部の上げ真土厚0.4～0.8cmを測る。大型のもの（6）は、復原内径4.4cm、内長4.3cm、深さ1.8cm、中央部の上げ真土厚1.2cmを測る。1は、27ＳＸ163、2は27ＳＫ224、3は第27－1次調査黄褐色粘土層、4・5は第27－1次調査暗灰色粘土層、6は24ＳＥ113最上層から出土した。

7～9は鋳型であるが破片のため形状を推定することは困難である。7は27ＳＫ224、8は第24次調査暗褐色土層、9は26ＳＤ250から出土した。

10は蝶形磬の鋳型と考えられる。現存長11.8cm、現存幅9.4cm、厚さ1.9cmを測る。暗灰色及び明茶

灰色を呈し、胎土は砂粒を多く混在する。調整は風化により判然としない部分も多いが、周囲はケズリ調整と思われる。側面裏面の一部にスサ入りの粘土（粗真土）が付着している。第27－1次調査暗灰色土層出土。

磬は梵音具に属する仏具の1つで、山形のものが一般的である。その中でも蝶形磬は松本市宮淵出土品（長保3年銘鰐口と伴出）と高野山親王院蔵品の2点が知られるのみであり、前者は平安時代中期、後者は鎌倉時代の制作と考えられている。この2例の遺品をもとに今回発見されたものを復原してみた。(fig. 77) 復原長20.8cm・復原幅9.0cmで、大きく左右に延びた触覚とみられる部分の先端は環状を成し、鈕として用いられたとみられる。羽根は周囲を突帯により縁取りし、端部には3つの環状突起がみられ、造形上形式化された蝶である。なお、この面には撞座の表現がなく裏面と考えられる。

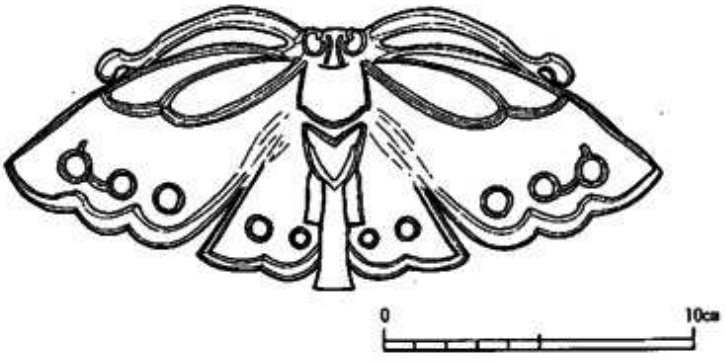


fig. 77　蝶形磬　復原図

前記2例から時間的流れを考えるのは困難であるが、この鋳型によって作られた磬は鈕の在り方で親王院磬に近似し、羽根など全体の形状は松本市出土磬に近いものを求められるところから、両者の中間的位置に配されるものと考えられる。出土した暗灰色土層は11C後半～12C前半であるが、11C中頃に遡る可能性がある。

11は口縁状を呈するものであり、円形に復原できるならば径6.0cm程度のものである。端部内面に一条の沈線を有する。明茶褐色を呈し、胎土は砂粒を多く含み粗い。第27－1次調査黄褐色粘土層出土。12はスサ入りの粗い胎土で作られたものであり、生産に関する用具の一部と思われる。27SK224出土。13は円盤形をなす。生産に関するものとみられる。スサ入りの粗い胎土でナデにより調整される。第27－1次調査暗灰色粘土層出土。

14・15は輪羽口である。15は両端を失うが、14は片方の端部を残している。端部は黒褐色に変色している。14は19SD080上層、15は第19次調査黒灰色土下層出土。16は復原口径27.0cm、体部厚4.8cmを測る。溶解炉状のものである。内面及び外底は灰褐色に変色している。口縁上面に幅16.0cm、高さ4.2cmの突出部があり、おそらく2方向に存在したものとみられる。胎土中に土器片を含んでいる。19SD001上層出土。17は坩堝とみられる。復原口径13cm前後、現存高7.6cmを測る。内面は黒灰色に変色している。19SD080上層出土。

瓦・塼類（fig. 79・80）

軒丸瓦　1は鴻臚館式と呼ばれるものでⅠ－4a類に属する。直径16.0cm程度に復元され暗黒灰色を呈している。瓦当裏面はタテ方向の丁寧な指ナデ調整を施す。蓮子は1＋4＋8、珠文は24個に復

原される。第27－1次調査黄褐色粘土層出土。2は、老司式瓦の一種と考えられているもので、復原径20.0cm程度を測る。複弁八葉の蓮華文で、蓮子は1＋6＋10、珠文36、外縁の凸鋸歯文32に復原される。瓦当裏面の周囲は突帯状を呈する。風化が著しく表面は荒れている。第27－1次調査暗灰色土層出土。3は複弁六葉蓮華文で、瓦当径14.8cmを測る。蓮子は1＋6で中房の周囲に蕊帯(しんたい)をめぐらす。弁は子葉が蓮弁から彫り込まれ、間弁も中央が窪んでいる。弁区のみ范の時の状態が一般的な完成時の蓮弁の彫り方であったものとみられる。珠文は26個で平坦縁である。このような弁区の作り方をするものの例は筑前国分寺ＳＫ057及び陣ノ尾2号墳石室覆土中出土の平瓦の凸面に残された叩き目に

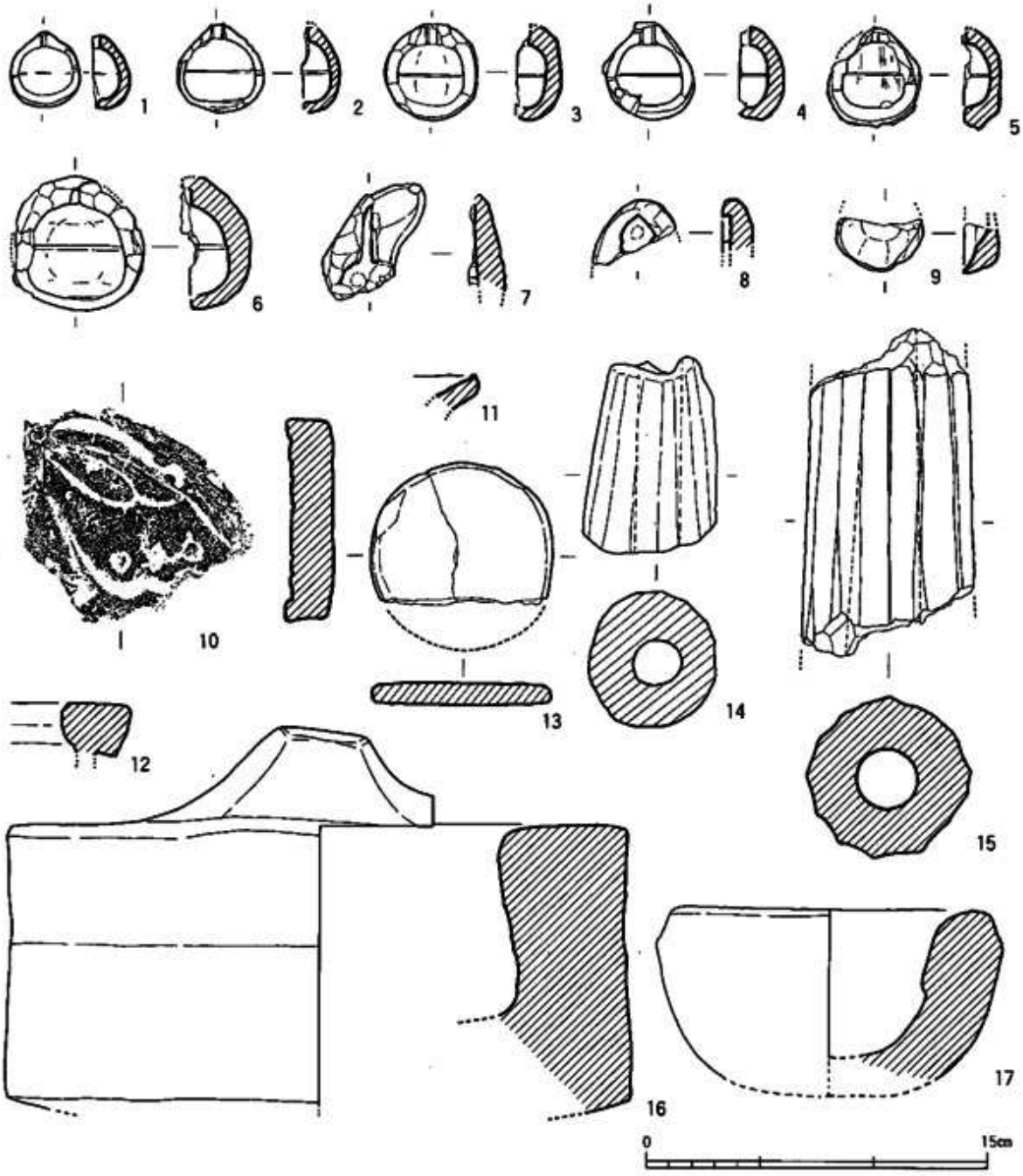


fig. 78　第19, 24, 26, 27－1・2次調査出土生産関係遺物

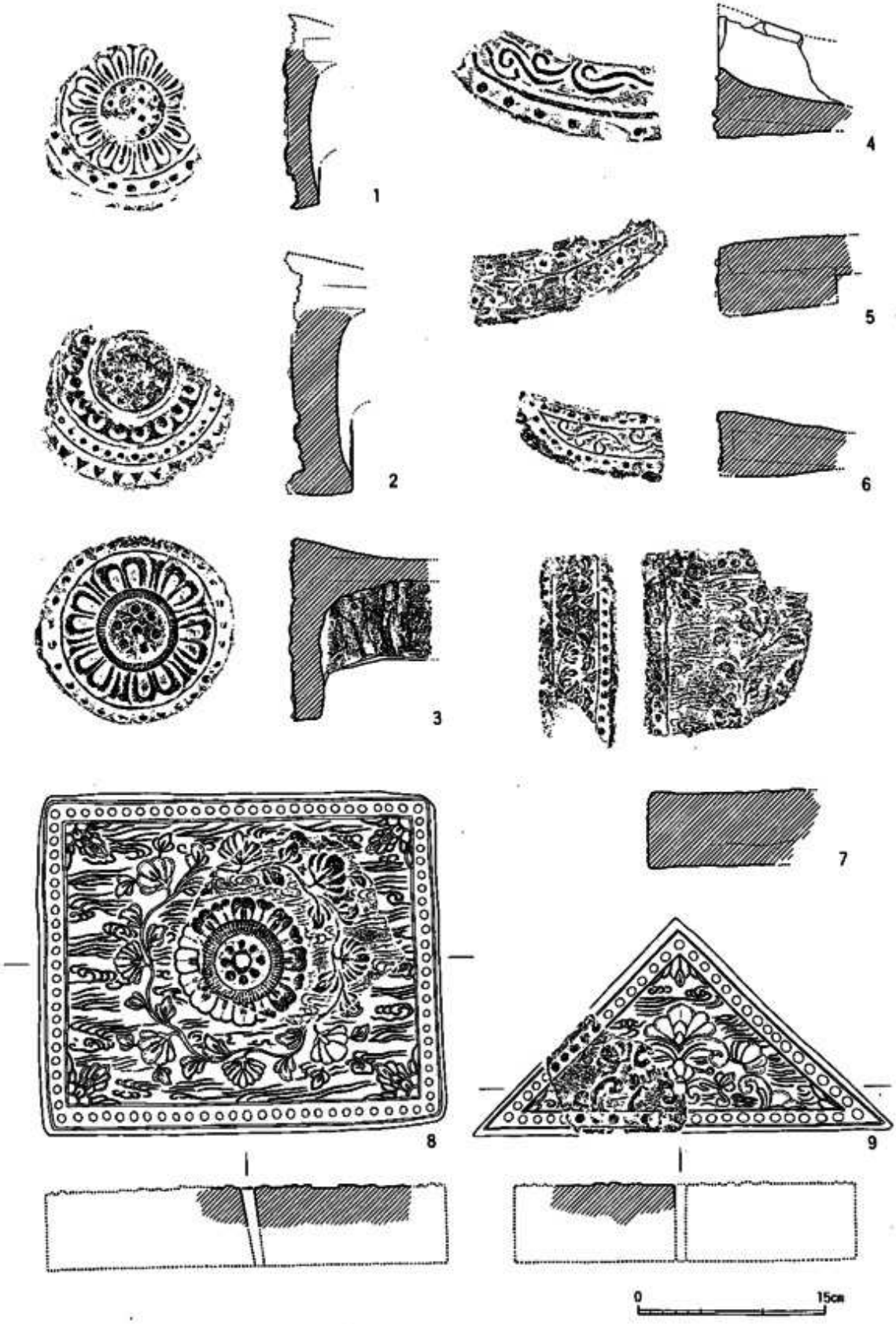


fig. 79　第21－1、22、25、26、27次調査出土瓦・塼実測図

認められる。瓦当裏面はナデ調整で補強の支持土は厚い。丸瓦部凸面は格子目叩きを認める。第27－1次調査暗灰色粘土層出土。

軒平瓦　4は均正唐草文で曲線顎である。上外区はなく、下外区の珠文11、脇区の珠文3に復原される。第22次調査黒灰色土層出土。5は極端に退化した均正唐草文とみられ、中央に1条の主葉を配し左右に支葉を枝分かれさせている。中心飾はない。内、外区を別ける界線はなく、珠文が配されるのみである。25SX121出土。6は均正唐草文で、左第1単位の半分と第2単位を残している。外区には珠文を配する。下外区は脇区との区別がなく、内湾しながら上外区に取付く。左第1単位の主葉の一部が、二次的に加飾され、ヘラ状のものを用いた三条の沈線とする。上外区の一部にも同様な部分があるが、両者とも右方を欠失するため詳細は不明である。第27－1次調査暗灰色土層出土。7・8は長方塼である。両者とも学校院跡出土のものと同范とみられる。なかでも7は、短側面にも文様を配している。これも学校院跡出土のうちの長側面に配されたものと同范であり、中心飾部分から左右に展開する草花文を観察できる。しかし、本来は長側面に使用するために作成された范を、そのまま短側面に用いたため、左端部の文様の一部と脇区の珠文部分を欠いている。右端部は欠失し明らかでないが、状況から同様のものとみられる。上外区の珠文数は27個前後に復原されよう。7の長側面は図の上方にあたるが素文である。このように短側面に文様を持つ長方塼の発見は過去になく、今後、文様塼の敷方を考える上で重要な位置を占めるものと考えられる。7は26SX272、8は27SK206出土、9は三角塼の一部であり、学校院跡出土と同范とみられる。26SD261出土。

平瓦　最大弦長26.6cm、最小弦長24.3cm、弦深5.8cm、長さ36.4cm、厚さ1.5cmを測る。凹面は布目痕（1㎠内10×8）がよく残り、模骨痕も顕著に認められるが一部ヘラナデですり消される。凸面は縄叩き目を上下2段で平行に叩く。側縁は丁寧にヘラ削りされる。26SX270下層出土。

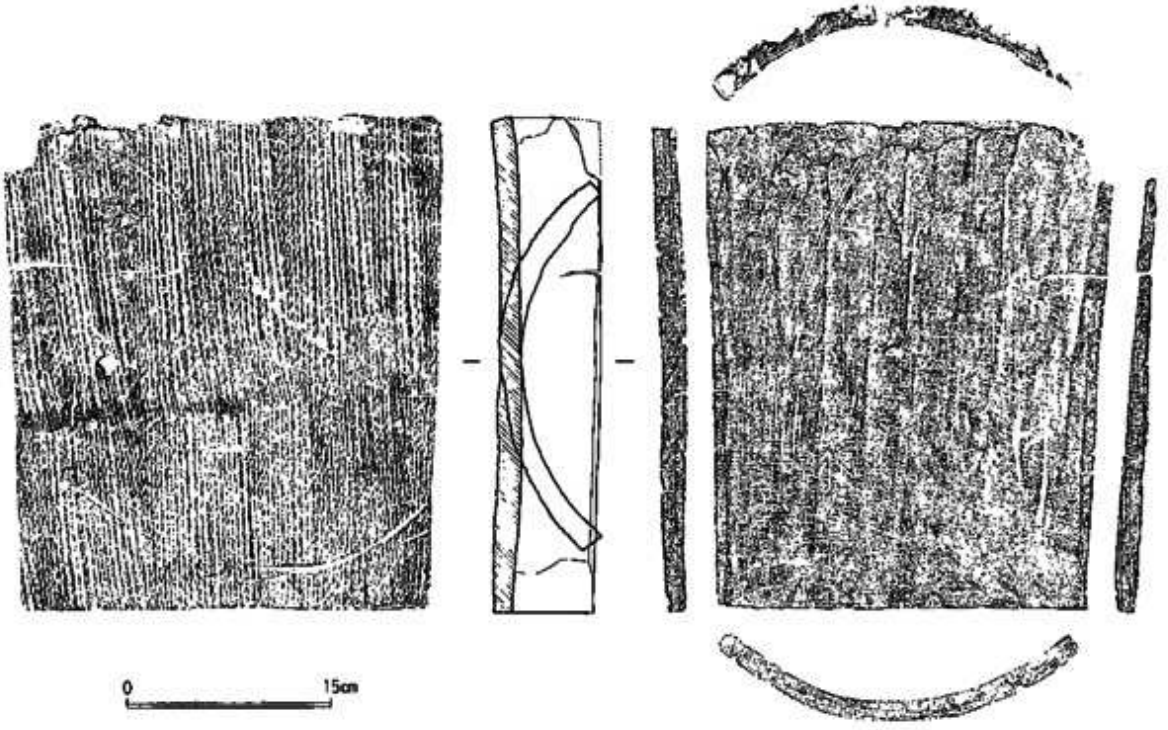


fig. 80　26SX270下層出土平瓦-

木製品（fig. 81）

1・2は下駄である。両者とも一枚の板から削り出して作られたものであり、3ヶ所の穿孔が認められる。両者とも下方の孔のうち右側のものはやや上方にずれて穿たれている。歯は磨滅が著しく、また表面先端は指の跡が認められる。相当永く使用されたものであろう。1は長さ19.8cm、幅11.6cm、中央部の厚さ1.5cmを測り、板目材を使用する。2は長さ15.5cm、幅9.1cm、中央部の厚さ1.2cmを測る。板目材を用いる。両者とも27ＳＤ130下層出土。

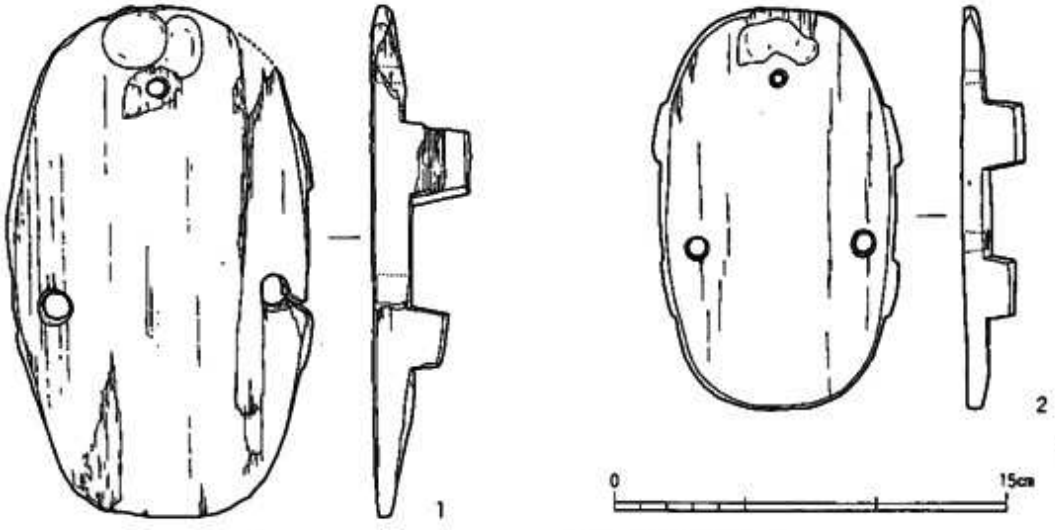


fig. 81　27ＳＤ130下層出土木製品実測図

14　17ＳＥ001井戸枠の樹種鑑定

(1)はじめに

出土木製遺物の樹種を明らかにすることは、その遺物について1つの考古学的な知見を与えるという点で必要なことである。

大宰府条坊跡遺跡からは、奈良時代のくりぬき井戸枠が1点出土しており、これについての樹種鑑定を行った。遺物は直径約80cmの丸太材を丁寧にくりぬき、これを井戸枠として使用したと考えられている。

(2)同定方法

樹種の同定作業は、出土材の内部形態の特徴を顕微鏡で観察し、その結果を新材と比較することでなされる。試料は、埋蔵中に木材組織の崩壊・変形が進んでおりそのままでは切片作成が困難であった。そのため可能と思われる部分から遺物小片を採取し、その木口、柾目、板目の三方向の切片をカミソリの刃を用いて切り取り作成した。

切片はサフラニンで染色後、エチルアルコール・n-ブチルアルコール・キシレンを用いて常法に従い脱水し、永久プレパラートに仕上げた。

なおプレパラートの検鏡は、30倍・100倍、400倍とそのつど試料の状態に応じて倍率を変化させた。

(3)同定結果

17ＳＥ001のくりぬき井戸枠は広葉樹ブナ科のカシが用いられていた。以下同定理由を記す。

カシ　　Quercus（Cyclobalanopsis）spp.

（ブナ科　FAGACEAE）

構成要素は道管要素、仮道管、水繊維、軸方向柔細胞および放射柔細胞の５種類である。道管は放射状に配列し、すべて孤立管孔である。道管の配列は年輪界に関係なく途中から始まって途中で終る場合があり、年輪界は不明瞭であった。道管壁の膜厚は厚く、春材部から夏材部へ移行しても道管径はあまり大きく変化しない。短接線状柔細胞を認める。穿孔は単穿孔。放射組織は平伏細胞より成る同性で単列放射組織および複合放射組織より成る。

(4)考察

カシは本州（宮城県、新潟県以南）四国、九州の環帯山中に野生するブナ科の常緑高木で大きいものは樹高25ｍ、胸高直径2.5ｍにも達する。材はきわめて堅硬で水湿にも強い。

本資料は、直径80cmほどの、丸太材をくりぬいて作成した井戸枠であり、上記のカシの特性を考えあわせると妥当な樹種選択と言えよう。

なお、出土くりぬき井戸枠の樹種鑑定結果の報告例は多くないが、以下に挙げると針葉樹ではスギ、ヒノキ、アスナロなどが、広葉樹ではクスノキなどがある。いずれも高木類であり、胸高直径が太いのでくりぬき井戸枠の作成が可能であったと考えられる。遺物によっては明らかに臼材などの再利用のものもあり（参考文献③④）、くりぬき井戸枠の作成過程を考える上でも興味深いものがある。

参　考　文　献

①島地謙・伊藤隆夫(1982)　図説　木材組織　地球社
②平井信二(1980)木の事典第一集　かなえ書房
③亘理俊次・山内文（1954）木材、「登呂」本編　日本考古学協会
④広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編(1982)草戸千軒町遺跡第28、29次発掘調査概要

別表1　土師器の法量

A．番号　B．挿図番号　C．内底のナデの有無 ○×　D．板状圧痕の有無 ○×
⑩．黒色土器　⑥．瓦器　△ミガキ a 有り　　単位cm

17S E001黒土

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 d	1	1	13.2	3.2	6.1	×	×

17S E002

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (ヘラ)	1	11	11.4	2.7	7.0	○	○
	2	13	11.6	—	—	—	—
	3	12	12.2	4.0	6.6	○	?
中椀 C1	1	14	13.3	4.8	7.8	?	○
	2	15	14.0	5.1	6.6	?	×
⑩A 椀 C	1	16	11.4	4.5	6.2		×
	2	17	15.0	7.1	7.5		×

19S D001上層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1		8.8	1.2	8.6	○	○
	2		9.2	1.0	7.6	○	×
小皿 a (ヘラ?)	3		9.3	1.5	6.8	○	○
小皿 b (糸)	1	1	7.0	1.5	5.3	○	×
小皿 c (糸)	1	2	9.8	2.4	6.5	○	
	2	3	9.8	2.3	6.3	○	
杯 a (糸)	1		13.1	2.6	9.3	○	○
	2		14.0	2.8	8.0	○	×
	3		14.5	3.2	9.7	○	○
	4		14.6	3.3	10.4	○	×
	5		14.7	3.3	9.8	○	×
大杯 a (糸)	6		15.5	3.4	10.6	○	○

19S D001下層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1	1	8.5	1.0	6.7	○	×
杯 a (糸)	1	2	14.2	3.1	9.1	○	○
	2	3	14.6	3.0	9.2	○	×
	3	4	14.8	3.0	10.6	○	×
大杯 a (糸)	4	6	15.2	3.2	10.0	○	○
	5	5	15.2	3.2	10.5	○	○

19S X003

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (ヘラ)	1	1	9.6	1.1	8.0	○	○
杯 a (糸)	1	2	14.8	3.1	10.8	○	○

19S K004

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1	1	9.0	1.0	7.2	○	×
	2		10.0	1.1	8.4	○	?
	3		10.0	1.0	8.8	○	?
	4		10.0	1.4	7.8	○	?

19S K005

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿a (ヘラ)	1	6	9.1	1.0	6.4	○	○
	2	7	9.3	1.2	7.9	○	×
	3	8	9.6	1.3	7.5	○	○
	4	9	9.8	1.2	6.8	○	○
小皿 a (糸)	1	10	9.0	1.5	6.0	×	×
杯 a (糸)	1	11	13.0	2.7	10.1	○	×

19S X007

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (糸)	1	3	14.0	2.7	9.6	○	×
	2	4	14.6	2.9	10.8	○	×

19S X021

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (ヘラ)	1	9	9.0	1.3	6.8	○	○
	2		9.0	1.2	7.0	○	○
	3	10	9.0	1.7	7.1	○	○
	4	11	9.1	1.4	7.6	○	○
丸底杯 a	1	12	15.2	3.2			○

19S X030

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
丸底杯 a	1	15	15.7	3.5		×	○
小皿 a (ヘラ)	1	14	8.7	1.3	6.8	○	○

19S X034

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (ヘラ)	1	18	8.6	1.4	6.9	○	○

19S K045B

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (ヘラ)	1	22	9.4	1.3	6.6	○	○

19S X055

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (ヘラ)	1	1	8.7	1.3	6.9	○	○
	2	2	8.8	1.5	7.0	○	○
	3		8.8	1.5	7.8	○	○
	4		8.8	1.3	6.6	○	○
	5	3	9.0	1.3	7.4	○	○
	6		9.0	1.2	7.6	○	○
	7	4	9.1	1.6	7.4	○	○
	8	5	9.2	1.3	6.2	○	○
	9		9.3	1.1	6.9	○	○
	10	6	9.3	1.5	7.5	○	○
	11	7	9.3	1.1	8.0	○	○
	12	8	9.4	1.1	7.0	○	○
	13	9	9.4	1.2	7.0	○	○
	14	10	9.4	1.5	6.9	○	○
	15		9.4	1.5	7.5	○	○
	16		9.4	1.4	6.0	○	○
	17	11	9.5	1.3	7.0	○	○
	18	12	9.5	1.1	7.0	○	○
	19	13	9.5	1.7	7.9	○	○
	20	14	9.6	1.2	7.4	○	○
	21		9.6	1.5	7.3	○	
	22	15	9.8	1.4	8.5	○	○
杯 a (ヘラ)	1	18	15.8	2.7	12.4	○	○
丸底杯 a	1		15.2	2.7		○	○
	2		15.2	3.1			○
	3	16	15.6	3.1			○
	4	17	15.6	3.2			○
	5		15.8	4.0			○
	6		17.2	4.5		○	○
⑥小皿 a (ヘラ)	1	22	11.5	2.2		○	○

19S X057

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
丸底杯 c	1	22	14.6	5.1	6.8	○	×
	2	21	14.9	5.0	7.1	×	×
小皿 a (ヘラ)	1	20	11.9	2.5	8.3	○	○

19S X069

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (ヘラ)	1		9.0	1.3			
丸底杯 a	1		15.0	3.2+			

19S D070上層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
皿 a	1		14.0	2.0	10.4	?	?
	2	1	15.0	2.1	10.5	○	×
	3		15.2	1.4	11.4	?	×
	4		15.4	1.6	11.4	?	×
⑩A 杯 c	1	7	13.5	2.9	6.0	×	×
杯 a (ヘラ)	1		13.0	3.1	6.6	?	○
	2		13.2	3.2	7.4	○	○
杯 d	1		15.0	3.4	8.2		×

19S D070下層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 d	1		14.0	3.3	8.0		×
	2		16.0	2.7	8.6		×
皿 a	1		15.0	1.7	13.0	○	×
	2		16.2	1.8	11.4	○	×
杯 a	1		12.0	2.8	7.0	○	×
(ヘラ)	2		13.0	2.8	8.0	○	×
	3	19	13.4	3.2	7.8	×	×
大杯 d	1	20	19.2	3.9		○	×

19S X074

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (糸)	1	23	13.8	2.7	8.9	○	×

19S X079

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (ヘラ)	1	24	15.3	3.3	6.8	○	×
小皿 a (糸)	1		9.0	1.3	6.8	○	○

19S D080暗茶色粘土上層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (ヘラ)	1	2	11.4	3.8	7.4	○	○
	2		15.0	3.7	8.4	○	○
杯 △	1	10	12.4	4.6	9.6	×	×
皿 a △	1	12	16.4	2.1	12.6	×	×
皿 c △	1	8	22.6	2.7	16.5	×	×
鉢 A 椀	1	13	—	—	7.6	×	×

19S D080暗茶色粘土下層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
大皿 c △	1		29.8	2.8	23.0	?	×
△	2		26.4	3.2	16.4	?	×
△	3		26.0	3.5	15.0	×	×
皿 a △	1		16.8	2.3	13.0	×	×
杯 e	1	1	8.6	4.6	5.0	×	○
杯 a	1		14.0	3.1	9.0	○	×
杯 d	1		13.4	3.7	7.4		×

19S D080茶色砂層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
椀 c	1	11	19.1	5.9	11.4	×	×

19S D080青灰色粘土層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
皿 a △	1		14.0	1.8	10.4	?	×
	2	23	14.4	1.9	11.2	○	×
△	3		15.2	1.6	11.8	○	×
△	4	28	16.6	2.2	12.7	×	×
	5	24	16.7	1.8	12.5	×	×
△	6		16.8	1.7	13.2	×	×
	7		16.8	2.1	13.2	○	?
	8		17.0	2.0	14.2	?	?
△	9	29	17.5	2.2	13.5	×	×
△	10	25	17.6	2.1	13.6	×	×
△	11		17.6	2.3	13.8	×	×
△	12	26	17.8	1.7	13.2	×	×
△	13		18.0	1.7	14.4	?	?
△	14		18.1	1.7	14.2	○	×
△	15	27	18.4	1.7	11.1	×	×
△	16	30	18.6	1.4	14.0	×	×
大皿 c	1	31	24.6	2.8	19.2	×	×
杯 a	1		12.2	4.0	7.6	?	?
(ヘラ)	2		12.2	4.1	8.8	○	×
	3		12.6	3.4	6.6	×	×
	4		12.8	3.6	8.2	○	×
	5		13.2	3.4	7.8	○	×
	6		14.0	3.6	8.2	○	×
	7		14.0	3.8	7.6	?	×
	8		15.0	3.4	8.6	×	×
杯 d	1	5	12.2	3.1	5.8	×	×
	2		12.2	3.1	6.0	×	×
	3		12.8	3.0	6.8	×	×
	4		13.2	3.1	6.4	×	×
	5		13.2	3.2	7.4	×	×
	6		13.2	3.2	7.4	×	×
	7	6	13.3	3.3	7.8	×	×
	8		13.4	3.0	8.0	×	×
	9		13.4	3.3	7.0	×	×
	10	10	13.4	3.4	7.6	×	×
	11		13.6	3.6	6.6	×	×
	12		13.6	3.1	7.2	×	×
	13	8	13.6	3.2	8.2	×	×
	14	11	13.7	3.2	7.6	×	×
	15		13.8	3.4	6.0	×	×
	16		13.8	3.4	7.3	×	×
	17	7	13.9	3.4	6.6	×	×
	18		14.0	3.3	7.8	×	×
	19		14.0	3.4	7.0	×	×
	20		14.0	4.1	7.2	×	×
	21		14.6	3.8	7.0	×	×
	22		14.8	3.3	8.6	×	×
	23		15.6	3.4	8.8	×	×
	24	12	15.6	4.1	8.5	×	×
	25		15.8	3.7	7.8	×	×
	26		16.0	4.0	7.8	×	×
	27		16.0	4.4	8.2	×	×
	28	9	16.0	3.5	8.9	×	×
	29		16.0	3.3	8.6	×	×
	30		16.0	4.1	8.2	×	×
	31		16.2	3.0	9.2	×	×
	32		16.4	3.9	8.4	×	×
	33		16.6	3.4	10.2	×	×
	34		16.6	3.6	7.6	×	×
	35		17.0	3.7	9.8	×	×
	36	13	17.2	4.2	8.8	×	×
	37		18.1	4.1	9.4	×	×
杯 e	1	14	10.1	4.7	6.6	×	×
椀 c	1	16	14.4	5.4	7.6	×	×
	2	17	18.5	8.5	9.7	×	×
	3	18	19.0	6.5	7.6	×	×
	4	19	20.3	7.6	9.9	×	×
	5	22	26.3	—	—	—	—
	6	20	—	—	8.6	×	×
	7	21	—	—	9.9	×	×
鉢 a	1	1	13.4	1.2		○	×
杯 c	1	15	13.4	3.7			

19次 黒色粗砂層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1	8	9.1	1.1	7.5	○	×
杯 a (糸)	1	9	13.2	2.5	7.8	○	×
	2	10	13.5	2.4	9.4	○	○

19次 黒褐色土層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1	20	8.5	0.9	6.9	○	○
	2	21	8.6	1.1	6.7	○	○
	3	22	8.8	1.0	7.1	○	○
杯 a (糸)	1	24	13.0	2.6	9.2	○	○
	2	23	12.8	2.4	8.0	○	○
	3	25	13.6	2.5	8.8	○	?

19次黒灰色土上層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1	1	8.0	1.3	6.7	○	×
	2	2	8.2	1.3	6.3	?	○
	3	3	8.6	1.1	6.5	○	○
小皿 a (ヘラ)	4	4	9.3	1.4	7.4	○	○
杯 a (糸)	1	5	13.6	2.3	8.9	○	○
	2	6	14.2	2.5	9.7	○	○
	3	7	15.4	2.6	10.7	○	?

19次　黒灰色土下層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿a（糸）	1		8.9	1.4	7.5	○	○
杯a（糸）	1		11.8	2.3		○	○
	2		12.1	2.4	7.3	○	○
	3		12.2	3.0	8.2	○	○
	4	21	13.6	3.2	9.1	○	○
	5	22	12.9	2.9	7.8	○	×
	6	23	14.6	3.6	8.7	○	○
	7	24	14.8	2.8	10.4	○	○
	8		15.2	2.5	10.1	○	×
	9	25	15.4	2.9	10.2	○	○
	10		15.4	2.9	9.8	○	○
	11		15.6	2.5	9.4	○	×
杯b（糸）	1	26		1.0+	8.3	○	×

19次　灰色土層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿a（ヘラ）	1		8.6	1.4	6.3	○	○
	2	1	8.7	1.3	7.0	○	○
	3		8.8	1.2	5.1	○	○
	4		8.8	1.3	7.4	○	○
	5		8.8	1.0	7.0	○	○
	6	6	9.0	1.2	7.8	○	○
	7		9.0	1.4	7.0	○	○
	8		9.0	1.4	6.1	○	○
	9		9.0	1.3	7.1	○	○
	10		9.2	1.7	7.2	○	○
	11	2	9.2	1.2	7.6	○	○
	12		9.4	1.3	6.6	○	×
	13	3	9.4	1.3	7.5	○	○
	14		9.6	1.0	7.4	○	○
	15		9.6	1.5	7.6	○	○
	16	4	9.6	1.5	6.7	○	○
	17		9.6	1.5	8.0	○	○
	18		9.7	1.5	7.8	○	○
	19		9.8	1.4	6.9	○	○
	20	5	9.8	1.4	7.6	○	○
	21		10.0	1.3	6.6	○	×
小皿a（糸）	1	7	9.0	1.4	5.7	○	?
	2		9.0	1.7	5.8	○	×
	3		9.4	0.9	6.0	○	×
小皿a（糸?）	1		9.3	1.1	6.0	○	○
	2		9.4	1.2	5.4	○	?
杯a（ヘラ）	1	8	14.8	3.7	11.0	○	○
丸底杯a	1		14.8	3.0		○	○
	2		15.5	3.3		○	○
	3	9	15.6	3.5			
搬入杯（糸）	1	10	15.2	3.5	7.0	×	○

19次　暗褐色土層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿a（ヘラ）	1		8.6	1.2	6.4	○	○
	2		8.8	1.2	7.4	○	○
	3	1	8.8	1.3	6.5	○	○
	4		8.9	1.3	7.3	○	○
	5		9.0	1.4	6.5	○	○
	6		9.2	1.3	6.8	○	○
	7		9.3	1.3	6.5	○	○
	8		9.4	1.5	6.8	○	○
	9		9.4	1.3	7.2	○	○
	10	2	9.5	1.3	6.0	○	○
	11		9.7	1.2	6.9	○	○
	12	3	9.7	1.8	8.2	○	○
杯a（ヘラ）	1	4	11.0	1.9	8.0	○	○
小皿a（糸）	1		8.5	1.1	5.3	○	×
	2		8.5	1.4	6.4	○	○
	3		8.9	1.4	5.5	○	×
	4		9.0	1.2	6.8	○	○
	5	5	9.0	1.5	6.0	○	×
	6		9.3	1.4	6.5	○	○
	7		9.4	1.3	6.1	○	○
丸底杯a	1	7	14.7	3.6			○
	2	8	15.5	3.4			○
	3	9	16.4	3.9			○

19次　茶色粘土層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯a（ヘラ）	1	31	12.0	3.6	6.6		×

20次　黒灰色土層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯a（ヘラ）	1	3	12.0	3.5	7.4	○	○
丸底杯a（ヘラ）	1	1	14.2	2.7			○
	2	2	14.8	3.6			○

21次　黒灰色土層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿a（ヘラ）	1	1	9.1	1.5	6.0	○	○
丸底杯a	1	2	14.8	3.5			?

22SD107

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿a（ヘラ）	1		9.8	1.2	6.6	○	○
	2	9	10.1	1.2	7.4	○	?
	3		9.8	1.3	?	○	?
	4		9.6	1.6	7.2	○	○

22次　暗青色土層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯a（ヘラ）	1		11.6	3.7	8.2	○	○
小皿a（糸）	1		9.0	0.7	6.8	○	○
	2		9.6	1.2	7.4	○	?
丸底杯a（ヘラ）	1	2	14.9	3.3			○

22次　黒灰色土層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
丸底椀a	1	7	12.9	3.9		○	○

23SX100

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯a（ヘラ）	1	1	10.7	2.2	6.1	○	○
小皿c（ヘラ）	1	2	11.0	2.1	7.8	○	○
丸底杯a	1	3	14.5	3.4		?	○
	2	4	15.2	4.0		○	○
椀c	1	5	14.3			○	?
	2	6	14.9	6.3	7.8	○	○

23SX102

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿a（ヘラ）	1	10	10.7	1.9	—	○	○

24SX110

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿a（ヘラ）	1		9.0	1.1	7.0	○	○
	2		9.2	1.2	7.0	○	○
	3	20	9.2	1.45	7.8	○	○
	4	21	9.3	1.6	7.0	○	○
	5		9.4	1.4	7.0	○	○
	6		9.4	1.5	7.4	○	○
	7	22	9.4	1.5	6.5	○	○
	8	23	9.5	1.4	6.7	○	×
	9		9.6	1.3	7.0	○	×
	10		9.6	1.4	7.4	○	○
	11		9.6	1.3	8.0	○	?
	12		9.6	1.4	7.4	○	○
	13		9.7	1.6	7.8	○	×
	14		9.8	1.2	8.0	○	○
	15		9.8	1.4	8.0	○	○
	16		10.0	1.2	8.5	○	○
	17		10.0	1.9	7.1	○	○
	18		10.0	1.7	8.0	?	?
	19		10.2	1.4	8.0	○	○
	20	24	10.7	1.4	8.3	○	○
	21		10.8	1.4	8.0	○	○

丸底杯 a	1	25	14.2	2.9			○
	2		15.0	2.8			○
	3		15.0	3.9			○
	4		15.0	3.5			○
	5	26	15.4	3.3			○
	6		15.6	3.4			○
	7		15.6	3.6+			?
	8		15.9	3.9			○

24 S E 113最上層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
椀 c	1		18.0				
小皿 a (ヘラ)	1	1	10.0	1.4	7.7	○	○

24 S E 113暗土

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (ヘラ)	1		12.2	3.1	7.3	○	○
丸底杯 a			15.8				

24 S X 114

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a	1		10.8	2.4	7.1	○	○
	2		10.8	2.9	6.7	○	○
	3		11.0	3.9	6.7	○	○
中椀 c1	1		12.4	4.6		?	○
小皿 c?	1		14.0			?	?

24 S K 115

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (ヘラ)	1		10.8	3.2	5.8	×	○
	2		11.0	3.0	6.8	○	○
	3	11	11.0	2.7	6.8	○	×
	4		11.2	3.0	6.8	?	?
	5	12	11.4	2.4	6.5	○	○
	6		11.5	2.9	6.7	×	○
	7		11.5	2.6	6.8	○	○
	8		11.6	2.8	6.8	○	○
	9		11.8	2.9	7.6	○	?
	10		11.8	3.2	7.4	?	?
	11		11.9	3.1	7.1	○	○
	12		12.0	2.9	7.2	×	×
	13		12.0	2.8	7.0	?	?
	14		12.0	2.6	7.0	?	○
	15		12.0	2.4	8.0	?	○
	16		12.0	2.8+	6.4	?	?
	17	13	12.1	3.0	7.7	○	○
	18		12.2	2.7	7.0	×	○
	19		12.2	2.7	6.6	○	○
	20		12.4	2.5	8.2	○	○
中椀 c1	1	18	12.5	4.9	7.5	○	○
	2	17	12.9	4.8	7.2	○	?
大椀 c	1	19	16.3	6.2	9.2	○	○
小椀 c2	1	16	9.7	3.6	6.0	○	?
小皿 c	1	14	12.4	2.1	8.8	○	○
	2	15	13.0	2.3	6.6	○	○

24 S X 116

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (ヘラ)	1		9.6	2.4	5.8	×	×
	2		11.3	3.0	7.2	×	×

24次　暗褐色土層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (糸)	1		16.8	2.7	11.4	○	○
小皿 a (ヘラ)	1		9.0	1.4	7.3	○	○
	2		9.6	1.3	6.6	○	○

24次　灰褐色砂層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
丸底杯 a	1		15.4	3.6			○
	2		15.8				?
小皿 a (ヘラ)	1		9.0	1.6	7.0	○	○
	2		9.0	1.7	6.8	○	×
	3		9.4	1.3	7.4	○	○
	4		9.4	1.6	7.0	○	○
	5		9.6	1.5	7.1	○	○
	6		10.0	1.3	7.4	○	○
	7		10.0	1.6	7.4	○	○

24次　灰茶色土層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (ヘラ)	1		11.0	3.0	7.4	○	○
	2	3	11.4	3.0	7.6	○	○
	3		11.6	2.8	6.4	?	?
小皿 c	1	4	11.7	2.3	7.0	○	○
	2		12.4			○	?

26 S X 252

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
丸底杯 a	1	8	15.4	3.1			○

26 S D 261

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (ヘラ)	1		11.0	4.5	6.8	○	○
	2		11.3	2.4	7.5	○	○

26 S X 264

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a	1		8.9	1.3	6.9	?	○
(ヘラ)	2		9.0	1.3	7.0	○	○

26 S K 265

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (ヘラ)	1		15.6	3.1	11.2		

26 S E 271

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a	1		11.0	3.1	6.8	×	○
(ヘラ)	2		11.0	2.5	6.9	○	○

26 S X 272

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (ヘラ)	1		11.0	1.8	8.0	○	○
	2		11.8	1.8	8.3	○	○

27 S K 201

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1	3	9.1	1.2	7.0	○	○
	2	4	9.4	1.2	6.8	○	○
杯 a (糸)	1		14.9	2.8	11.4	○	○
	2		15.4	3.4	10.2	○	?
	3		15.4	3.2	10.8	○	○
	4		15.5	2.9	10.6	○	○
	5		15.5	3.0	11.2	○	○
	6	5	15.5	2.9	11.1	○	
	7	6	15.5	3.0	11.5	○	
	8		15.6	2.9	11.0	○	○
	9		15.7	3.1	11.0	○	○
	10		15.8	3.0	11.9	○	○
	11		15.9	3.4	11.3	○	○
	12		15.9	2.8	10.4	○	○
	13		15.9	3.2	11.2	○	○
	14		16.0	3.5	11.5	○	○
	15	7	16.0	2.9	11.4	○	
	16	8	16.0	3.4	11.0	○	
	17		16.6	3.0	11.4	○	

27 S K 203

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (糸)	1		9.0	1.1	6.6	?	?
	2		9.0	1.2	7.4	○	○
	3		9.0	1.0	6.4	○	○
	4		9.0	1.0	6.6	○	○
	5		9.0	1.1	6.6	○	?
	6		9.0	1.1	7.0	○	?
	7		9.6	1.1	8.8	○	○

27 S K 204

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a	1		8.8	1.3	6.6	○	○
(ヘラ)	2		8.8	1.3	6.0	○	○

	3		9.0	0.9	6.4	○	○
	4		9.0	1.3	6.6	○	?
	5	16	9.0	1.6	6.1	○	○
	6		9.3	1.5	6.9	○	○
	7		9.4	1.3	6.8	○	○
	8		9.4	1.3	7.2	○	?
	9	17	9.8	1.7	6.9	○	○
丸底杯 a	1	18	14.2	2.7			○
	2	19	14.2	3.2			○
	3		14.6	3.4			○
	4		14.6	3.3			○
	5		14.6	3.3			○
	6		15.0	3.3			○
	7		15.0	2.8			○
	8		15.1	3.5			○
	9		15.1	3.4			○
	10		15.2	3.3			○

27 S K 205

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (糸)	1	21	16.0	3.4	11.5	○	○
	2		—	—	12.0前後	○	○
	3		—	—	8.0前後	○	○

27 S K 206

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (ヘラ)	1		8.6	1.6	7.0	○	○
	2		8.8	1.3	6.6	○	○
	3		9.2	1.5	6.8	○	○
	4		9.2	1.5	7.6	○	○
	5		10.0	1.0	7.8	?	?
中椀 c 2	1		13.0	4.0		?	?
丸底杯 a	1		15.0	3.2			○
	2		15.0	3.3+			?
	3		15.4	3.4			○
杯 a (ヘラ)	1		16.0	2.7	12.2	○	○

27 S K 220

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (ヘラ)	1	25	10.8	2.3	7.0	○	○
	2		11.0	2.1	6.8	?	?
	3		11.0	2.5	7.2	○	○
小皿 c ?	1		13.0				
椀 c	1	27	15.3	6.3	9.2	○	○
	2		16.0	6.4		○	?
椀 a	1	26	13.2	3.6	9.2	○	×
⑩B 椀 c	1	28	11.4	5.0	7.6		?

27 S K 224

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (ヘラ)	1	30	11.0	2.5	6.0	○	×
小皿 d (ヘラ)	1	29	10.6	1.5	6.2	○	×

27-1次 暗灰色土層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (ヘラ)	1		8.5	1.5	6.0	○	○
	2		8.9	1.2	6.6	○	○
	3		10.4	1.6	7.5	?	○

27-1次 暗灰色粘土層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (ヘラ)	1		8.4	1.1	6.4	?	?
	2		8.8	1.3	7.6	○	○
	3		9.0	2.0	7.2	○	○
	4		9.0	1.2	7.4	○	○
	5	2	9.6	1.9	7.6	○	○
	6		9.7	1.5	7.8	○	○
	7		9.8	1.3	7.8	○	○
	8	1	9.8	1.0	7.3	○	○
	9		10.0	1.5	7.8	○	?
	10		10.0	1.3	7.8	○	○
杯 a (ヘラ)	1		11.0	2.0	7.6	?	?
小皿 c	1	3	11.1	2.8		○	○
	2		11.9	2.4		○	○
	3		12.0	2.5		?	?
中椀 c 1	1		13.2	4.5		○	×
丸底杯 a	1		15.0	3.5			×
	2		15.0	3.2			○
	3		16.0	3.2			○

27-1次 淡黄色粘土層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
椀 c	1		15.0	5.2		○	○
	2	2	16.0	6.6	9.1	○	○
中椀 c 1	1		11.8	4.1+		?	?
	2	1	14.2	5.1	7.6	○	○
杯 a (ヘラ)	1		11.0	3.2	6.8	?	?
	2		11.0	2.3	7.2	?	?
	3		12.0	2.3	8.6	?	?
小皿 a (ヘラ)	1		10.0	1.0	7.8	○	?

27-1次 灰色砂層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (ヘラ)	1		11.6	1.9	8.2	○	○
	2		11.8	3.2	7.4	○	○
小皿 c	1		12.0	2.0			

27-1次 灰色砂礫層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
杯 a (ヘラ)	1		11.6	2.8	7.4		

27 S K 155

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
丸底杯 a	1		13.9	2.9			×
	2	15	15.0	3.3	11.0		○
	3	14	15.0	3.0	11.5		○
	4		15.0	3.0			×
	5		15.2	3.1			○
	6	16	15.2	3.1			○
	7		15.3	3.5			×
	8		15.4	3.3			○
	9		15.5	3.3	11.4		○
	10		15.7	3.2			○
	11		15.7	3.3			○
小皿 a (ヘラ)	1		8.1	0.9	6.3	○	○
	2	12	8.6	1.1	6.7	○	○
	3		8.7	1.4	7.0	○	○
	4		8.8	1.3	7.0	?	○
	5		8.8	1.4	7.0	?	○
	6		8.8	1.2	7.0	?	○
	7	13	8.9	1.4	—	○	○
	8		9.0	1.4	5.8	○	○
	9		9.0	1.1	7.0	○	○
	10		9.4	1.4	7.2	○	○
	11		10.0	1.5	7.0	○	○

27 S D 157

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (ヘラ)	1		9.4	1.6	6.8	?	?
	2		9.4	1.4	1.4	?	?

27 S X 163

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿 a (ヘラ)	1		8.7	1.3	6.9	○	○
	2		9.0	1.4	6.9	○	○
	3		9.0	1.5	6.6	○	○
	4		9.0	1.4	7.0	○	○
	5		9.0	1.5	6.6	○	○
	6		9.1	1.2	6.6	○	○
	7		9.2	1.3	7.0	○	○
	8		9.2	1.6	7.5	○	○
	9		9.2	1.3	7.0	○	○
	10		9.2	1.1	7.6	?	○
	11		9.4	1.2	6.7	?	○
	12		9.4	1.6	7.4	○	○
	13		9.4	1.3	7.2	?	?

	14		9.7	1.6	7.2	?	○
	15		9.7	1.5	6.9	○	○
	16		9.8	1.6	6.7	○	○
	17		9.9	1.3	8.1	○	○
	18		10.0	1.6	8.2	○	○
	19		10.0	1.3	7.4	?	?
杯a（ヘラ）	1		12.2	2.3	8.4	○	○
丸底杯a	1		14.6	2.5+			○
	2		15.3	3.7			?
	3		16.0	3.9			?

27 S X 164

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿a（ヘラ）	1		8.8	1.1	6.8	○	○
	2		9.0	1.3	6.8	○	○
	3		9.0	1.4	6.6	○	○
	4		9.0	1.3	7.0	?	○
	5		9.2	1.1	7.0	○	?
	6		9.6	1.2	7.4	?	○

27-2次　黒褐色土問み

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿a（ヘラ）	1		8.1	1.1	6.0	○	○
	2		8.4	1.1	6.8	?	○
	3		8.5	1.3	6.2	○	?
	4		8.7	1.1	7.0	○	○
	5		8.7	1.3	6.6	?	○
	6		8.7	1.3	6.6	○	○
	7		8.8	0.9	7.2	?	○
	8		8.8	1.3	7.0	○	○
	9		9.0	1.0	7.4	?	○
	10		9.0	1.6	7.1	○	×
	11		9.0	1.5	6.4	?	×
	12		9.0	1.6	7.3	?	×
	13		9.0	1.3	7.4	○	○
	14		9.3	1.6	7.7	?	○
	15		9.5	1.7	6.6	○	○
	16		9.6	1.4	7.3	○	○
小皿c	1		9.0	1.9		○	?
丸底杯a	1		14.6	3.5			○
	2		15.0	3.3			○
	3		15.3	3.3			○
	4		15.3	3.4			○
杯a（ヘラ）	1		15.0	2.4	11.6	○	○
	2		15.5	2.3	11.3	○	○

27-2次　暗灰色土層

器種	A	B	口径	器高	底径	C	D
小皿a（ヘラ）	1		9.0	0.9	7.8	?	○
	2		9.6	1.3	7.2	?	?
	3		9.6	1.0	7.2	○	○

別表2

同一10体で別々の遺構から出土している場合は
そのまま両方の遺構に点数をかぞえている。

凡例〈　〉土器型式及び年代　　〔　〕内容を示す
《　》遺構年代を示す土器形式　　〔ミa〕ミガキaあり
[Ⅲ]＝3個体　③＝同一個体3片（＝[Ⅲ]個体）(3)＝別個体3片
a×b…aまたはb　　a－c…aからcまで（a・b・c）

○は土師・須恵器など在地土器
△は陶磁器
×は遺構の前後・層位関係
}から年代を推定したもの

●は在地土器の共伴が明確で点数が多い。
▲は陶磁器の種類が豊富で一括状況が明確
}とくに重要な一括資料

17 S E 001堀土　●

須恵器	壺c 3・c　杯a〔転用硯〕　杯c　甕底a　甕
土師器	皿3　杯d　カマド
金属生産	鉱滓
木製品	井戸部材　棒状製品
その他	動物骨

17 S E 001掘形　●

須恵器	壺c 2・c 3　杯c　壺b　高杯　皿　甕片	
土師器	甕片	焼塩壺Ⅰ(2)　Ⅱb(1)
土製品	フイゴ羽口(1)	

17 S E 002堀土　●

土師器	〈大SK678〉杯a(1)　〈大SK1809〉杯a(2)　中椀c 1(2)		
黒色土器	A	中椀c 2(1)　椀c 2(1)他(1)	
青磁	越州窯系	椀	Ⅱ－1 b(1)
木製品	井戸部材		

19 S D 001上層　●

須恵器	杯c　壺b　壺c 3　甕片　高杯？　大壺？　壺d　鉢　椀a		
土師器	小皿a　小皿b　小皿c　杯a　鍋(1)　鉢(1)	焼塩壺(7)	
瓦器	椀片		
黒色土器	B	椀片	
青磁	越州窯系	椀	Ⅰ(4)Ⅰ－1 b(1)Ⅱ(3)Ⅱ－1 b(1)Ⅱ－2(1)
		皿	？Ⅰ(1)
			壺？破片Ⅰ(1)Ⅱ(1)
	龍泉窯系	椀	Ⅰ－1[③]③Ⅰ－2・3(9)Ⅰ－2[Ⅲ]Ⅰ－4(3)Ⅰ－4 a[2]、Ⅰ－5 b(7)Ⅲ－2(1)
		小椀	Ⅰ(1)
		皿	Ⅰ(2)Ⅰ－1 a(1)
			香炉？(1)
	同安窯系	椀	Ⅰ(2)Ⅰ－1 b(3)Ⅲ(1)Ⅲ－1(1)Ⅲ－1 c(1)
		皿	Ⅰ(6)Ⅰ－1 a(1)Ⅰ－1 b(3)Ⅰ－2(2)
	高麗	〔象ガン〕(1)椀Ⅱ－1(1)	不明　壺(1)皿(1)椀(1)
白磁	椀	Ⅱ－1(6)　Ⅱ－3(1)　Ⅱ－b(1)　Ⅱ(6)　Ⅳ(9)　Ⅳ－1 a(2)　Ⅵ？(1)　Ⅳ～Ⅷ(27)　Ⅴ－1(3)　Ⅴ－2(2)　Ⅴ－3(1)　Ⅴ－4(2)　Ⅴ(2)　Ⅴ〔クシ目〕(4)　Ⅴ〔タテヘラ〕(1)　〔段1〕(2)　〔段2〕(2)　Ⅴ？〔タテヘラ〕(1)　Ⅵ×Ⅶ(4)　Ⅶ(3)　Ⅶ－1(1)　Ⅶ－2(1)	
	皿	Ⅰ？(1)　Ⅱ－1(1)　Ⅱ×Ⅲ(3)　Ⅳ×Ⅴ(1)　Ⅴ－2(2)　Ⅵ？(1)　Ⅵ－1 b(2)　Ⅵ～Ⅷ(1)　不明(2)	
	水注Ⅱ(2)	四耳壺Ⅲ(3)	小椀・杯Ⅸ(1)　その他(2)
青白磁	小壺(1)	椀(1)　皿(2)　皿？(1)　合子蓋(1)　破片(1)	
緑釉	〔軟陶〕椀×皿(4)		
灰釉	皿(1)　甕×壺(2)		
須恵質土器	片口鉢(1)　壺〔前川6〕(1)	土師質土器	片口鉢(1)
陶器	壺	B′～C′(6)	花瓶　B′(1)
	水注	Ⅴ－2[Ⅲ]	
	鉢	Ⅰ[Ⅲ](5)　Ⅰ－1 b(3)　Ⅰ－1 c(1)	
	甕	Ⅱ(3)　Ⅲ(1)　F′－a′(3)	
	盤	b(1)　E(2)　Ⅰ－3(1)	
	四耳壺	Ⅵ－2(1)　A′〔Ⅵ？〕(4)　Ⅻ〔B′C′〕②②③②(1)　E′(3)　〔双耳〕Ⅺ(1)	
	小皿	B′～C′[Ⅲ](1)	
	関産	摺鉢(1)〔混入品〕	常滑(3)
		A－a b′(1)　B′－a b(1)　C－a′(1)　C－b〔鉢Ⅷ？〕(1)　C′－b(1)　C′－0(1)　C〔鉢？〕(1)　E－a b(1)　その他(1)	
瓦類	文字Ⅰ－8 b(1)　Ⅴ－2(2)		
石製品	石鍋A－1(1)片(3)　滑石製品(1)　四角硯(1)		
	縄文土器　壺？(1)		
金属製品	鉱滓(2)　鉄器(4)		
	炭化米		
土製品	土玉(1)　炉壁　鋳型？　瓦玉(3)		

19S D001下層 ●

須恵器	壺　鉢b　瓶		
土師器	小皿a　杯a　丸底杯a　鉢×甕片	焼塩壺(2)	
瓦　器	破片(5)		
黒色土器	A	椀？(1)	
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ-1a(1)　Ⅲ-a(1)
			Ⅰ(1)
	龍泉窯系	椀	Ⅰ-1(8)□　Ⅰ-2a'(1)　Ⅰ-2×3(4)　Ⅰ-4a？(1)□　Ⅰ-5b□　Ⅰ-4a□(5)
		杯	Ⅰ-2(1)　杯？Ⅰ-2(2)
	同安窯系	椀	Ⅰ-1b(3)　Ⅰ×Ⅲ(1)　Ⅱ×Ⅲ(1)
		皿	Ⅰ(4)　Ⅰ-1a(1)　Ⅰ-1b(1)
	高麗	椀	Ⅰ-2Bb□　Ⅲ(1)
白　磁	椀		Ⅱ(3)　Ⅱ-1×2(1)　Ⅳ-1a(2)　Ⅳ(6)　Ⅳ～Ⅷ(9)　Ⅴ-1(1)　Ⅴ-2(1)　Ⅴ-4(4)　Ⅴ(2)　Ⅴ〔クシ目〕(1)　Ⅴ〔ヘラ〕(1)　Ⅵ×Ⅶ(2)　Ⅷ-2(1)
	皿		Ⅴ-2(1)　Ⅵ～Ⅶ(6)　Ⅷ(1)　不明(2)
		壺(1)	四耳壺？Ⅲ(1)　その他(5)
青白磁	椀×皿(2)	梅台(1)	
緑　釉	〔軟陶〕　皿(1)　〔硬陶〕椀(1)	輸入緑釉	破片(1)
灰　釉	？壺？(1)		
須恵質土器	片口鉢？(1)壺〔東播系〕④	瓦質土器	鉢？(1)
陶　器	壺	Ⅳ-1□　Ⅳ-a□　A'-a(1)　B'-b□	
	水注	Ⅴ-a□　Ⅷ□	
	鉢	Ⅰ-1b(2)　Ⅰ-1c□　Ⅳ-1□　a'〔Ⅰ？〕(1)	
	盤	Ⅰ-2(1)	
	四耳壺	Ⅶ？□　Ⅶ□ XⅡ〔B'C'〕□(3)　A'〔Ⅶ？〕(3)　A'-ab〔Ⅶ？〕□	
	焼台	B'□	甕　F'-ab"⑧
	小皿	B'(2)	
	国産	常滑(1)　無釉(2)	
		A'-a(1)　A'-ab(1)　A-O②B'/A-b(1)　C-a"(1)	
金属製品	鉄器(1)　鉱滓(1)		
土製品	フイゴ羽口　炉壁		
瓦　類	文字Ⅲ-7(1)　Ⅴ-2(1)		
石製品	石鍋片(5)　白片(1)　四角硯②		

19S X003 △

土師器	〈南Ⅱ-1〉杯a□，〈大SK802～SD1330〉小皿a□		
青　磁	龍泉窯系	椀	Ⅰ-2(1)　Ⅰ1－4(1)
	同安窯系	椀	(1)
		皿	(1)Ⅰ-1b(1)
白　磁	椀		Ⅱ-1(1)　Ⅳ(1)　Ⅸ-1(1)　不明(3)
	皿		Ⅵ×Ⅶ(1)
	四耳壺		(2)
陶　器	四耳壺		Ⅵ-2(1)
土製品	焼土スサ入〔炉壁？〕(3)　瓦玉(1)		

19S K004 ▲

須恵器	壺片　大甕(1)　壺b、杯a、高杯、杯c		
土師器	小皿a□+、杯a□+、大杯a□　甕(3)　鍋(2)　鉢脚部(1)	焼塩壺(4)	
瓦　器	椀c(?)		
青　磁	龍泉窯系	椀	Ⅰ-1□(6)　Ⅰ-2～4(3)　Ⅰ-4a□(4)　Ⅰ-5b(2)
		小椀	Ⅰ-2□
		杯	Ⅲ(1)
		杯	Ⅰ-2a'□(4)
	同安窯系	椀	Ⅰ-1a□　Ⅰ-1b(2)　Ⅰ(1)
		皿	Ⅰ-1a(1)　Ⅰ-1b□(6)　Ⅰ(5)
	高麗	椀	Ⅲ-1A(1)
白　磁	椀		Ⅱ-1(1)　Ⅱ-3？(1)　Ⅱ(2)　Ⅳ(5)　Ⅴ-1？(1)　Ⅴ-4a(2)　Ⅷ-2(1)　Ⅷ-2×3(2)　Ⅸ-2□　Ⅸ(2)他破片(4)
	皿		Ⅱ×Ⅲ(2)　Ⅵ(5)　Ⅵ？(1)　Ⅵ×Ⅶ(2)　Ⅷ-2b□
	水注		Ⅲ(1)　四耳壺　Ⅲ□(3)

青白磁	皿	□	
灰釉陶器	椀？(1)		
瓦質土器	鉢(2)　甕□　須恵質土器	鉢(1)壺〔前川6〕(1)	
陶　器	壺	Ⅰ-3□　Ⅰ-2b□	
	鉢	Ⅰ-1b□(1)　Ⅲ-1□　Ⅲ-2□　Ⅳ-1□　Ⅳ-2□	
	四耳壺　六耳壺	Ⅱ□　Ⅵ-1□　Ⅵ-2□　Ⅵ-1？□　Ⅵ□(2)　Ⅶ□　Ⅶ□　XⅡ-1□　XⅡ□　Ⅳ-1□　Ⅳ-2□	
	甕	Ⅱ□	
	水注	Ⅴ-2b□　Ⅵ□　Ⅷ□	
	壺	Ⅱ-1□　Ⅱ-2□　Ⅳ-1a□　Ⅳ-1□　Ⅳ-3b□　Ⅳ□　Ⅳ-a□	
	国産	常滑大甕□(2)	
	双耳壺	XⅠ-1□	
	破片	A'(2)　A"(1)　B"-a'〔鉢Ⅲ？〕(1)　B"〔壺Ⅳ？〕(1)　C〔壺Ⅳ〕(9)　D(3)	
石製品	滑石製品(1)　滑石片(2)　砥石？(1)		
金属製品	鉄釘(3)　鉄製品(1)		
土製品	瓦玉(1)　不明土製品(2)		
	炭化米		

19S K005 ○×

須恵器	壺(1)		
土師器	小皿a〔ヘラ〕□〔糸〕□杯a〔糸〕杯b？(1)　杯e(1)　丸底杯a	焼塩壺(2)	
瓦　器	椀c(1)		
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ(1)
			？Ⅱ(1)
	龍泉窯系	椀	Ⅰ-2a(1)　Ⅰ-2－4(4)　Ⅰ-4(2)　Ⅰ-5b(1)　Ⅰ(3)
	同安窯系	椀	破片(1)
		皿	(1)
			壺？(1)　椀(1)
白　磁	椀		Ⅱ-1(1)　Ⅱ-3b(1)　Ⅱ-3(1)　Ⅱ-4(1)　Ⅱ(3)　Ⅳa(1)　Ⅳ(4)　Ⅳ×Ⅴ(8)　Ⅳ？(1)　Ⅴ-1(1)　Ⅴ-2(2)　Ⅴ-2b？(1)　Ⅴ-3(1)　Ⅴ-4(2)　Ⅵ-1b？(1)　Ⅷ(1)　Ⅴ(3)
	皿		Ⅲ-2(1)　Ⅴ？(1)　Ⅵ-1b(1)　Ⅵ□(1)　Ⅵ×Ⅶ(6)　破片(1)
	四耳壺		(2)
灰　釉	(1)		
須恵質土器	鉢破片(1)		
陶　器	鉢	Ⅰ-1a(1)　Ⅰ(1)　Ⅴ？(1)	
	四耳壺	Ⅲ-1〔E-ab"〕(1)Ⅳ？〔E'-a"〕(1)Ⅶ？〔A'-b〕(1)XⅡ(4)	
	盤	Ⅲ(1)　Ⅰ(1)	
	甕	破片(1)、F-ab"(4)　A'-b(2)　C-b(1)〔壺Ⅳ？〕(1)　E(1)	
石製品	滑石片(2)　滑石製品(1)		
土製品	フイゴ羽口(1)		
金属製品	鉄釘(1)		

19S X007 ×

土師器	杯a〔糸〕	焼塩壺(1)	
青　磁	龍泉窯系	椀	Ⅰ-1(1)　Ⅰ-4a(1)
	同安窯系	椀	Ⅰ(1)
白　磁	椀		Ⅱ-1(2)　Ⅳ(1)
	皿		Ⅵ(2)
緑　釉	杯(1)		
陶　器			A'-b(1)　B-a(1)　C'-b(1)
	四耳壺		XⅡ(1)
			無釉(1)
土製品	スサ入鋳型？(2)　瓦玉(1)　炉壁　フイゴ羽口		

19S D010

土師器	杯a〔糸〕　小皿a〔糸〕	焼塩壺(1)	
青　磁	越州窯系	椀	(1)
			破片(2)　Ⅱ？(1)　壺？〔A'-a〕(1)　壺？Ⅰ(1)

	龍泉窯系	椀	Ⅰ-1～4(2)　Ⅰ-5 b(8)
			変形不明Ⅲ？(1)
	同安窯系	椀	Ⅰ-1 b(5)　Ⅱ？(1)
白　磁	椀		Ⅱ-1(1)　Ⅲ-1×3(1)　Ⅱ(1)　Ⅳ(1)　Ⅴ-4 b(1)　Ⅴ-4(2)　Ⅴ？(1)　Ⅴ-4×Ⅶ-1×3(2)　Ⅶ-2？(1)　不明(6)
	皿		Ⅵ-1 a(1)　Ⅱ-1×Ⅷ(1)　Ⅸ-1(3)
			壺(1)　破片(1)　瓶(1)　小形壺？(1)　不明(3)
陶　器	四耳壺		Ⅲ(1)　Ⅶ(1)　Ⅻ(1)
			A-a(1)　C′-a(1)　C-b(1)
	盤		Ⅰ a(3)　Ⅰ-1 b(1)
	鉢		Ⅲ(1)　Ⅵ-1Ⅲ　C′(1)
			常滑？(1)
瓦　類	文字Ⅴ-2(1)		
石製品	滑石(1)		
土製品	スサ入(2)　フイゴ羽口(1)	弥生土器　高杯	

19S K012　×

土師器	小皿 a〔糸〕		
青　磁	越州窯系	椀	Ⅱ(2)
	龍泉窯系	椀	Ⅰ-1～4(3)　Ⅰ-5 b(2)
		小椀	Ⅰ-1(1)
	同安窯系	椀	Ⅰ-1 b(1)　Ⅰ(1)
白　磁	椀		Ⅱ-1×3(1)　Ⅱ片(3)　Ⅳ-1 a？(1)　Ⅳ(1)　Ⅴ-4(1)　Ⅴ〔クシ描き〕(2)　Ⅵ×Ⅶ(1)　Ⅸ(1)　不明(4)
	皿		Ⅱ-1 a(1)　Ⅵ-1 a(2)　Ⅵ-1 b(1)　Ⅵ－Ⅶ(2)
青白磁		椀×杯(1)	
緑　釉	破片〔糸〕(1)		
陶　器		C-a〔四耳壺Ⅻ〕(1)　C-c(1)	
	盤	Ⅲ？(1)	
石製品	滑石(1)		
金属製品	鉄滓(7)　鉄器(3)		

19S X014　△

土師器	小皿 a〔糸〕(1)		
青　磁	越州窯系		壺？Ⅲ(1)
	龍泉窯系	椀	Ⅰ-1～4(3)
白　磁	椀	Ⅳ(1)　Ⅴ-2(1)　破片(3)	
	皿	Ⅸ(1)	
陶　器		A′-b(1)　C-b(1)	
	鉢	C′(1)	

19S K018

青　磁	越州窯系		壺？Ⅲ(1)
	龍泉窯系	椀	Ⅰ-1？(1)　同安窯系　皿　(1)
			浅形椀(1)
白　磁	椀	Ⅱ-1(1)　Ⅱ(1)　Ⅳ-1 a(2)　Ⅳ(2)　Ⅴ(1)　Ⅴ-4×Ⅶ-1・3(2)　Ⅶ-2(1)　Ⅸ(1)　破片(3)	
	皿	Ⅱ-1(1)	
青白磁		輪花皿(1)	
緑　釉	破片(1)		
陶　器	盤	Ⅰ(1)　b(1)	

19S X020　△

土師器	小皿 a〔糸〕(3)　〔ヘラ〕(1)		
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ？(1)　破片(1)
	龍泉窯系	椀	Ⅰ-4 b？(1)　Ⅰ-5 b(1)
白　磁	椀×皿	破片(3)	
陶　器	鉢	すり鉢〔国産〕(1)	
		A-a(1)	
青　花	小野皿 B 1？(1)		
金属製品	鉄器(1)		

19S X021　○

須恵器	甕？(1)		
土師器	小皿 a Ⅱ　丸底杯 a Ⅲ　鉢？(1)		
青　磁	越州窯系	椀	Ⅱ(3)
白　磁	椀	Ⅳ(1)　Ⅱ-1(1)　破片(5)	
	皿	Ⅵ-1 b(2)　Ⅵ－Ⅶ(3)　Ⅶ-1 a(1)	
陶　器		壺〔A-a b′〕(1)　盤　b(1)	
石製品	石鍋加工品(1)		

19S X030　○

須恵器	杯 c		
土師器	小皿 a〔ヘラ〕　丸底杯 a Ⅲ	焼塩壺Ⅰ？(1)	
白　磁	椀	Ⅱ-1(1)　Ⅱ-2(1)	
	皿	Ⅱ-1 a(1)	

19S X031　×

青　磁	越州窯系	椀	Ⅱ(1)
白　磁	椀	Ⅱ片(2)	
灰　釉	(1)		
陶　器		A′-b(1)　E′〔四耳壺？〕(1)	

19S K032　△

土師器	小皿 a〔糸〕　脚付鉢？(1)		
青　磁	龍泉窯系	椀	Ⅰ-4(1)　Ⅰ-6(1)　Ⅰ-1？(1)
	同安窯系	椀	Ⅰ-1 b(1)
白　磁	椀	Ⅱ-1(1)　Ⅱ-3 b(1)　Ⅱ(1)　Ⅴ-4 c？(1)	
	皿	Ⅱ-1 a×Ⅲ(1)　Ⅵ-1(3)	破片(2)
緑　釉	椀破片(1)		
灰　釉	？壺(1)　椀(1)		
陶　器	盤	Ⅰ a(1)　Ⅱ a(1)	
	四耳壺	Ⅻ(1)	
		A′-a(1)　A′-b〔鉢×盤〕	

19S X034　○

土師器	小皿 a	
瓦　器	椀(1)	
白　磁	皿	Ⅵ－Ⅶ(1)
緑　釉	(1)	
灰　釉	？壺(1)	
須恵質土器	鉢(1)	
陶　器		D-a(1)
土製品	縄文土器〈晩期〉壺(1)	

19S D037　×

土師器	破片		
瓦　器	破片		
青　磁	龍泉窯系	椀	Ⅰ-4(1)　高麗　椀Ⅲ(1)
	同安窯系	椀	Ⅰ-1 b(1)
白　磁	椀	Ⅱ(2)　Ⅳ-2(1)　Ⅳ(2)　Ⅴ-2×Ⅶ1×3(1)　Ⅴ-1×Ⅷ-2(2)　Ⅷ(1)	
	皿	Ⅵ(2)	
	四耳壺	(4)	
青白磁	合子	？(1)　水注？(2)	
陶　器	盤	Ⅰ(1)　Ⅰ-3②	
	壺	Ⅰ？〔F-a′〕(1)　Ⅱ(1)	
	水注	Ⅵ(1)	
	四耳壺	Ⅱ(1)　Ⅳ(2)　Ⅶ-1 b③　六耳壺Ⅳ(2)　Ⅵ-1(2)　Ⅵ②	
	壺	Ⅱ-1(3)　Ⅳ-3(1)　Ⅳ(2)	
		無釉(1)　双耳壺Ⅺ-1？(1)　E(1)	
瓦　類	軒平(1)		
石製品	滑石(1)		

19S X038

陶　器	壺	Ⅳ-3 a(1)

19S K043

須恵器	壺 3		
土師器	甕　杯片		
瓦　器	椀片		
青　磁	龍泉窯系	椀	Ⅰ-4(1)
緑　釉	(1)		

19S K045A　×

土師器	小皿 a〔ヘラ〕　大鉢？(1)	焼塩壺(1)	
青　磁	越州窯系	杯	Ⅰ(1)
	高麗	椀	Ⅲ-2 b(1)
白　磁	椀	Ⅱ(3)　Ⅱ-1×3(1)　Ⅳ(2)　Ⅴ-1 b(2)　Ⅴ-1′(1)　Ⅴ-2(2)　Ⅴ-3 a(1)　破片(1)　博0-Ⅲ②	

	皿	Ⅳ×Ⅱ-1a(1)　Ⅴ?(1)　Ⅵ～Ⅶ(1)	破片(1)
緑　釉	(2)		
灰　釉	(2)		
陶　器	鉢	Ⅰ(1)	
	四耳壺	Ⅲ-1〔E-ab〕(1)	
瓦　類	軒平〔志賀〕(1)		
石製品	滑石(2)　砥石?(1)		
金属製品	鉄器(1)		

19 S K 045 B　×

土師器	小皿a〔ヘラ〕	
白　磁	椀	Ⅳ(2)
緑　釉	〔大形品〕(1)	
須恵質土器	鉢〔片口〕(1)	
瓦　類	軒平(1)　塼?(1)	
石製品	砥石(1)	
土製品	フイゴ羽口(1)	

19 S X 049

土師器	杯a　鉢?(1)	焼塩壺(1)	
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ-1a(1)
白　磁		破片(1)	
金属製品	鉱滓(1)		

19 S K 050　△

須恵器	壺a②(1)　壺b　壺1、3　壺b(1)　椀a(1)		
土師器	椀c(1)	焼塩壺(1)	
青　磁	越州窯系	皿	Ⅰ(1)
	龍泉窯系	椀	Ⅰ-4a(1)
	同安窯系	皿	Ⅰ-1b(1)
緑　釉	〔内面花文〕(1)		
須恵質土器	甕		
陶　器	四耳壺	Ⅶ〔B/A〕(1)	
石製品	スリ石?(1)		
	縄文土器〈晩期〉鉢(1)		
金属製品	鉱滓(1)		

19 S K 052　×

青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ(1)　Ⅱ(2)
			Ⅰ(1)
	高麗	椀	Ⅲ-1A(1)
白　磁	椀	Ⅰ-4?(1)　Ⅱ(2)　Ⅳ(2)　Ⅴ-2(1)　Ⅸ?(1) 不明(1)	
	皿	Ⅱ-1a(2)　Ⅵ(2)　Ⅵ～Ⅶ(2)	
陶　器		B'-c〔鉢?〕(1)　D-ab〔鉢?〕(1)C'-a'b'(1)	
石製品	滑石(1)		

19 S X 054　△

白　磁	椀	Ⅳ(1)
陶　器	四耳壺	Ⅻ?(1)

19 S X 055　●

須恵器	杯c　杯　甕		
土師器	丸底杯a、杯a〔ヘラ〕②、器台(1)大鉢②　小皿a〔ヘラ〕		
瓦　類	小皿a〔ヘラ〕①　椀C(2)		
白　磁	椀	Ⅱ-1(1)　Ⅱ-4(1)　Ⅱ(1)　Ⅳ(8)　Ⅴ-3a(1)	
	皿	Ⅵ-1b(2)　Ⅵ～Ⅶ(2)	
緑　釉	(1)〔硬陶〕(1)		
陶　器	四耳壺	Ⅲ-1〔E-ab〕(1)	
石製品	スリ石?(1)		
	縄文土器〈晩期〉鉢(4)		
金属製品	鉱滓(2)		

19 S K 056

土師器	小皿c(1)	焼塩壺(1)
白　磁	椀	Ⅴ?〔タチヘラ〕(1)

19 S X 057　●

土師器	丸底杯c②	杯a①
黒色土器	B	椀c?　脚付(1)

19 S X 060　△

須恵器	破片
土師器	小皿a①

青　磁	龍泉窯系	椀	Ⅰ-4(1)　Ⅰ-6a(1)　Ⅲ-2(2)
白　磁	椀	Ⅴ?(1)　Ⅸ(1)	
青白磁		椀片(1)	
陶　器	四耳壺	Ⅻ?(1)	
		B'-b(1)	
		近世陶器(1)	その他(1)

19 S K 063　△

土師器	小皿a〔糸〕①　杯a〔糸〕②		
青　磁	龍泉窯系	杯	Ⅲ(1)
白　磁	椀	Ⅳ(1)　Ⅵ?(1)	
青白磁		壺蓋?(1)	
陶　器	盤	Ⅰ-b(1)	
金属製品	鉄器片(1)	土製品	支脚?(1)

19 S D 066　×

土師器	小皿a〔糸〕①		
青　磁	越州窯系	椀	Ⅱ(1)
		壺?〔A'-a〕片(1)	
白　磁	椀	Ⅱ-1(1)　Ⅱ-3(1)　Ⅳ(1)	
青白磁		破片(1)	
陶　器	盤	Ⅰ(1)　b(1)	
	壺	Ⅱ?〔A〕(1)	
	甕	?〔F'-ab〕(1)	
	花瓶	〔B'-b〕(1)	
石製品	滑石片(1)		

19 S X 067　△

土師器	小皿a①　杯a片		
青　磁	龍泉窯系	椀	Ⅰ-4a(1)　Ⅰ-5a(1)
白　磁	椀	Ⅳ(1)	
陶　器	四耳壺	Ⅻ?(1)	
	甕	破片(1)	

19 S X 069　△

土師器	丸底杯a①　小皿a〔ヘラ〕①	
陶　器		C'-b(1)

19 S D 070上層　●

須恵器	皿a　杯a　甕a		
土師器	皿a〔ヘラ〕(1)②　皿a〔ミ a〕(6)　皿c(1)　杯a(1)　杯d〔ミ a〕(2)　杯c(1)　壺3〔ミ a〕(4)　壺3(1)　大鉢(3)　椀c〔ミ a〕(6)　高杯b〔ミ a〕(4)　高杯b(1)③　高杯×鉢(1)　小甕a(1)　甕a(6)　カマド?(1)		
	焼塩壺(3)		
黒色土器	A	杯c①　皿×椀×杯(3)　椀(1)	
	B	甕×壺(1)	
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ-1a(1)　Ⅰ?(1)
緑　釉	〔硬陶〕小椀(2)　椀①		
灰　釉	Ⅲ(1)　椀(1)		
瓦　類	軒丸(1)		
金属製品	鉄器(2)		

19 S D 070下層　●

須恵器	杯a　杯c(2)　小杯c　皿a(1)　椀?(2)　壺c 3(5)　壺c 4(3)　小壺a　壺a(1)　甕壺a(1)　壺壺a ?(1)　壺?(1)　平瓶?(1)　甕a　瓶把手?〔文字ヘラ描〕(1)		
土師器	杯a(1)　杯c〔ミ a〕(1)　杯c ?(1)　杯d〔ミ a〕(6)　大杯d〔ミ a〕(1)　杯e(4)　皿a〔ヘラ〕(8)　皿a〔ミ a〕(6)　大皿c(1)　椀c(1)　椀c〔ミ a〕(1)　壺a 3〔ミ a〕(2)　壺3(1)　壺3〔ミ a〕(7)　高杯b(4)　高杯(2)　高杯b×壺3〔ミ a〕(2)　鉢?(1)　甕×甕?(2)　カマド(1)　小甕a(4)　中甕a(1)　甕a(1)　把手(1)		
	製塩壺(1)　焼塩壺Ⅰ②(3)　焼塩壺Ⅰ×Ⅱ(4)		
黒色土器	A	椀?(1)　破片(2)	
	B	脚付盤?①	
緑　釉	〔軟陶〕皿①　椀①		
須恵質土器	鉢?〔糸、混入品〕(1)		
瓦　類	軒丸〔コウロ館〕(1)		
土製品	フイゴ羽口(1)		
	弥生土器　甕(2)		

19 S X 074　○

土師器	杯a〔糸〕

青磁	越州窯系	壺？(1)
青白磁		破片(1)
陶器	四耳壺	XII ？(1)

19S X075 ●

須恵器	杯 c 0② 小杯 c (1) 皿 a Ⅲ(4) 椀 a (1) 壺 c 2(7) 壺 c 3② 小壺 a (1) 壺×高杯(1) 高杯(2) 鉢 b ？(1) 甕(1) 甕 a (1) 甕×壺(1)
土師器	杯 a (1) 皿 a ×高杯 a〔ミ a〕(1) 高杯 a (1) 高杯(2) 椀〔ミ a〕(1) 小杯 c〔ミ a〕Ⅲ 壺 3〔ミ a〕(1) 壺 c 3(4) 小壺 a (9) 甕 a Ⅲ(2) カマド②(1)
	焼塩壺Ⅱ b (1)
金属製品	鉄器(1)

19S X079 ○

土師器	小皿 a 杯 a〔ヘラ〕
須恵器	甕(1)

19S D080上層（暗茶色粘土上・下層、茶色砂層） ●

須恵器	杯 c 杯 a 杯 d Ⅲ 皿 a 大皿 a ？(1) 大皿 c (2) 椀 a (1) 椀 c 壺 c 2・c 3・c 4 小壺 a 3 大壺 c 3 高杯 鉢 b 鉢 大鉢 壺 a 壺 a ？ 壺 b ？ 壺 c、d×f、大壺(2) 小壺 鉢×壺 g ？、壺壺 a、瓶？ 横瓶 鉢？ 甕 a 円筒硯？(1) 小甕×鉢(1)		
土師器	杯 a 杯 c〔ミ a〕 杯 d〔ミ a〕 杯 e 皿 a 皿 a〔ミ a〕 皿 c〔ミ a〕 大皿 c〔ミ a〕 大椀 c〔ミ a〕 椀 c 壺 c 3、c 4〔ミ a〕 壺 b〔ミ a〕 大壺 c 3〔ミ a〕 大鉢〔ミ a〕 鉢 壺？ 壺 c ？ 小壺〔ミ a〕 小壺 高杯 a、b〔ミ a〕 盤？〔ミ a〕(1) 小甕 a 中甕 a 甕 a 把手 カマド？		
	製塩甕Ⅲ(3) 焼塩壺Ⅰ、Ⅱ b		
黒色土器	A	椀×杯×Ⅲ(4) 搬入椀Ⅲ	
緑釉	〔軟陶〕椀Ⅲ		
灰釉	壺Ⅲ	青磁	越州窯系 椀Ⅱ－1 a〔混入品？〕(1)
瓦類	塼(2) 軒丸〔コウロ館〕(1)		
土製品	台？(1) フイゴ羽口(6) ルツボ(1) 土錘(2)		
金属製品	鉄刀子(1) 鉄器(2) 鉄滓(3) 鉱物？(1)		
	弥生土器〈後期〉器台(1) 縄文土器〈晩期〉甕×鉢(3) 鉢(1)		

19S D080下層（青灰色粘土層） ●

須恵器	杯 a 杯 c 皿 a 大皿 a 大皿 c 壺 c 2、c 3 大壺 椀 C 高杯 壺壺 a (2) 壺 b (1) 横瓶？(1) 鉢 b (2) 鉢(1) 甕 a 甕 b ？
土師器	杯 a 杯 c〔ミ a〕 杯 c 杯 d〔ミ a〕 杯 e 皿 a 皿 a〔ミ a〕 大皿 c〔ミ a〕 皿 c ×大皿 c〔ミ a〕 椀 c〔ミ a〕 大椀 c〔ミ a〕 鉢(1) 高杯 b〔ミ a〕 壺 a〔ミ a〕 小壺〔ミ a〕 壺 a 3(1) 壺 c 3〔ミ a〕 大壺 c 3〔ミ a〕 甕 a 中甕 a 小甕 a 把手 カマド(1) 〈大 S E 400〉 椀 c〔混入品〕Ⅲ
	製塩甕(1) 焼塩壺Ⅰ 64 Ⅱ b 00
瓦類	軒丸〔老司〕(1) 軒平〔老司〕(1)
石製品	打製播器〔サヌカイト〕(1)
金属製品	鉄釘(2) 鉄滓(3)
土製品	フイゴ羽口(1)
	縄文土器〈晩期〉鉢×甕破片

19次灰色土層 ●

須恵器	杯？a 壺？ 壺片 壺(2) 杯 c 円面硯ⅠC b ニ(1) 甕片 把手？(1)					
土師器	丸底杯 a 杯 a〔ヘラ〕 杯 d〔器形〕(1) 小皿 a〔ヘラ、糸〕 脚付小鉢(1) 大壺 3 脚(1) 焼塩壺(5) 甕、鉢(1) 小壺(1) カマド？(1) 搬入杯〔糸〕(3)					
黒色土器	A	？椀 c (1)				
	B	椀 c (1) 托上椀(1)				
青磁	越州窯系	椀	Ⅰ(2) Ⅰ－2(1) Ⅱ(2) Ⅱ－3(1)			
			杯Ⅰ(1) 壺？Ⅰ(1) 椀×皿×杯Ⅰ(4)			
	同安窯系	皿	〔混入品〕(1)			
	高麗	椀	Ⅲ－1(1) Ⅲ－b② Ⅲ②	小椀	Ⅲ(1)	
白磁	椀	Ⅰ(1) Ⅱ04 Ⅱ？(2) Ⅱ－1 03 Ⅱ－2×4(1) Ⅱ－3(2) Ⅱ－3 b (1) Ⅱ－3？(1) Ⅱ－4(2) Ⅱ－4 b ② Ⅳ－Ⅷ(4) Ⅳ(4) Ⅳ－1 a 00 Ⅳ－2(1) Ⅳ～Ⅴ(4) Ⅴ－1(1) Ⅴ－1 a (1) Ⅴ－2(1) Ⅴ－2 a (4) Ⅴ－3 a (1) Ⅴ－4 b (1) 〔内タシ目〕(1) 博 0－Ⅲ(1) 破片(1)			
	皿	Ⅱ－1 a (1) Ⅱ×Ⅲ(4) Ⅴ(1) Ⅴ？(2) Ⅴ－2(1) Ⅵ(8) Ⅵ－1 b (1) Ⅵ～Ⅶ(9) Ⅶ(1) Ⅶ－1 b (1) 破片(1)			
		壺？(1) 鉢(1)				
青白磁	椀(1) 合子(1) 破片(1)					
緑釉	〔硬陶〕(2)	〔軟陶〕 椀？(4) 皿(1) 大形品(1)				
灰釉	椀皿(2)Ⅲ 壺(1)					
須恵質土器	鉢Ⅲ 鉢？〔糸〕(1)					
陶器	鉢	Ⅰ－1 a ② Ⅰ－1 b (1) A－a ″(2)				
	四耳壺	Ⅲ－1〔E－a b ″〕(1)				
	壺	Ⅲ④				
	B－a〔鳴釉壺×水注〕(1) F″－a ″ 〔甕Ⅳ？混入品？〕(1) a ″(2)					
瓦類	文字Ⅰ－1？(2) Ⅳ－1 b (1) Ⅴ－2(1) 軒丸〔老司〕(1)					
石製品	(1) 滑石製品(4) 石鍋(4) 砥石(1)					
金属製品	鉄器(3)					
土製品	フイゴ羽口(1)					

19次暗褐色土層 ●

須恵器	鉢 b (2) 高杯(1) 小壺(1) 壺、把手 壺 小壺 甕			
土師器	小皿 a〔ヘラ、糸〕 杯 a〔ヘラ〕 丸底杯 a 脚？(1) 小壺？(1) 脚(1) 甕 a カマド(1) 鉢？(1) 搬入杯〔糸〕②(3) 鉢把手(1) 焼塩壺Ⅱ b (2) 焼塩壺Ⅰ 00			
瓦器	椀 c (4)(5)			
黒色土器	B	椀 c (1) 〔ウルシ入〕(1) 台？②		
青磁	越州窯系	椀	Ⅰ－2(4)	
		皿	？Ⅰ(1)	
			壺？Ⅰ(1)	
			椀(1) 壺Ⅲ(2)	
白磁	椀	Ⅰ－4(1) Ⅱ(6) Ⅱ－1(7) Ⅱ－2×4(1) Ⅱ－3(1) Ⅳ(3) Ⅳ－1 a (4) Ⅳ－1 b (1) Ⅳ～Ⅴ(4) Ⅴ(4) Ⅴ－1(1) Ⅴ－2 a (1) Ⅴ－2 b (1) Ⅴ－3 a (1) 〔タテヘラ〕(1) 〔段 2〕(1)		
	皿	Ⅱ－1 a (1) Ⅱ×Ⅲ(3) Ⅴ(2) Ⅵ－1 a (2) Ⅵ－1 b (3) Ⅵ(5) 不明(4)		
		壺(1) 四耳壺？(1)		
緑釉	〔軟陶〕椀×Ⅲ(8) 〔硬陶〕椀Ⅲ(1) Ⅲ(1) 椀×Ⅲ(2)			
灰釉	壺×甕(7) 壺(1) 椀(2)			
須恵質土器	鉢〔片口？〕(2) 甕(1) 壺〔前川16〕(2)			
陶器	鉢	A″－a ″② Ⅰ－1 a ②	壺	Ⅲ④ Ⅰ(1)
		A－a b ″(1) C″(2) D(1) F－a ″(1)		
瓦類	文字Ⅰ－12(1) Ⅱ－3(1) Ⅴ－2(2) 軒平〔老司〕(1) 文様塼(1)			
石製品	石鍋(4) スクレイパー〔サヌカイト〕(1) 石斧(1)			
金属製品	鉄滓			
土製品	ルツボ(1) 土錘(1) 炉壁 瓦玉(1)			
その他	縄文土器〈晩期〉鉢、甕、弥生土器			

19次茶色粘土層 ○

須恵器	杯 c 皿 a Ⅲ 壺 3 壺Ⅲ
土師器	杯 a Ⅲ

22S D107 ×

土師器	小皿 a〔ヘラ〕 丸底杯 a (1) 杯 a〔ヘラ〕(1)	
白磁	椀	Ⅱ(1) 破片(1)
瓦類	文字Ⅰ－7 a	

22次黒色粘土層 ×

須恵器	壺 d×f(1)		
青磁	越州窯系	椀	Ⅰ－2(1)
白磁	椀	Ⅱ(4) Ⅳ(1) Ⅴ(2) Ⅴ－1(3) Ⅴ－2(1) Ⅶ－1(1)	
		破片(3)	
瓦類	文字Ⅲ－2 a		
金属製品	鉄器(1)		

22次黒灰色土上・下層 △

土師器	丸底椀a　椀c〔ヘラ〕　小皿c〔ヘラ〕		
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ(2)　Ⅱ-2(1)
白　磁	椀	Ⅳ(1)　Ⅶ(1)　Ⅶ-1，3×Ⅴ-4(1)	
	皿	Ⅵ(1)	
緑　釉	壺(1)		
瓦　類	長方塼？　文字Ⅵ-1(1)　Ⅱ-2(1)　Ⅱ-8(1)		
金属製品	鉄片		

22次暗灰青色土層 ×

須恵器	壺片(1)
土師器	大椀c、小皿c ？(2)

22次暗青色土層 ○

須恵器	壺片(1)	
土師器	丸底杯a　杯a　椀c　小皿a〔糸、ヘラ〕	
青　磁	越州窯系	椀×皿(1)
白　磁	椀	Ⅱ(1)　Ⅳ(4)　Ⅳ-1a(2)　Ⅴ(2)　Ⅴ-2(2)　Ⅴ-3c(1)　破片(2)
陶　器		壺片(1)

22次暗青色土下層・最下層 ○

須恵器	鉢(1)　壺b(1)　壺(1)		
土師器	丸底杯a(1)　小皿a〔糸、ヘラ〕　杯a〔糸〕　壺b(1)　器台(1)		
瓦　器	椀(1)		
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ-1b(1)　Ⅰ-2(2)
			Ⅰ(1)
白　磁	椀	Ⅳ-1(1)　Ⅴ(1)　破片(1)	
	皿	Ⅶ-2(1)	
陶　器		A〔壺？〕(1)	

22次灰青色土層 ○

土師器	小皿a〔糸・ヘラ〕	
白　磁	椀	Ⅰ(1)　破片(1)
木製品	陽物(1)　ヒョウタン(1)	

23ＳＸ100 ○

須恵器	高杯(1)　壺片(1)	須恵質土器	壺(1)
土師器	椀c(2)　杯a〔ヘラ〕　小皿c　丸底杯a		
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ-2(2)　Ⅱ(1)
白　磁	椀	破片(1)	
青白磁		破片(1)	
石製品	石錘(1)		
木製品	曲物底断片(1)　板材(1)		

23次茶色砂層 ×

須恵器	壺片(1)		
土師器	小皿a〔ヘラ〕(1)		
青　磁	越州窯系	椀	Ⅱ-2(1)
白　磁	椀	Ⅴ(1)　前川M類(1)	
		壺(1)　破片(1)	
石製品	石錘A(1)		

24ＳＸ110 ●

土師器	小皿a〔ヘラ〕(2)　丸底杯a(6)　椀c片(1)　壺？(1)		
黒色土器	A	椀c(1)	
	B	椀c(2)	
青　磁	高麗	椀	Ⅲ-2A(1)

24ＳＥ113盤上層 ●

須恵質土器	杯？(1)		
土師器	小皿a　椀c(1)		
白　磁	椀	Ⅳ(1)　Ⅴ-2(1)　破片(1)	
	Ⅲ	Ⅵ(1)	
		椀Ⅱ×Ⅲ Ⅵ(1)	
陶　器		A″-a(1)	
石製品	滑石　石錘片		
金属製品	鏃×釘(1)		
土製品	鋳型〔鈴〕(1)		

24ＳＥ113畦土 ●

須恵器	壺c(1)　円面硯(1)
土師器	杯a(1)　丸底杯a(2)　椀c　壺b　壺a　不明大形品　搬入杯？〔糸〕(1)
瓦　器	椀c(2)

黒色土器	A	鉢　椀破片	B　椀c、杯a
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ(3)　Ⅱ-2c
	高麗	椀	Ⅰ-1(1)　Ⅲ-2(1)
		椀	(1)
白　磁	椀	Ⅱ(7)　Ⅱ-1(1)　Ⅱ-3(1)　Ⅳ(4)　Ⅴ(1)　Ⅴ-2b(1)	
	皿	Ⅱ×Ⅲ(1)　Ⅵ(1)	
		破片(5)	
緑　釉	〔歌陶〕椀×皿(1)　破片(1)		
瓦質土器	鉢〔糸？〕⑧		
須恵質土器	壺〔前川6〕(1)　鉢(1)　壺b(1)　壺		
陶　器	盤	Ⅰ(1)	
	四耳壺	Ⅲ(1)	
	鉢	A″-a″(2)	
土製品	フイゴ羽口(1)		

24ＳＸ114 ○

土師器	小皿c？(2)　壺b1(5)　椀c(1)　杯a(3)　中椀c(3)		
黒色土器	B	椀c(1)	
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ(2)
			〔長沙窯系？〕(1)
石製品	滑石円板〔錘？〕(1)		
金属製品	鉄釘？(1)		

24ＳＫ115直上 ○

土師器	杯a　小皿c　鉢　壺		
黒色土器	B	小椀(1)	
青　磁	越州窯系		Ⅰ(1)
石製品	滑石片(1)		

24ＳＫ115 ●

土師器	杯a　小椀c2(1)　中椀c1　椀c　壺b1，b2　小皿c(2)	
黒色土器	A	椀(1)

24次暗褐色土層 ○×

土師器	杯a〔糸〕(1)　小皿a〔ヘラ、糸〕　鍋？(1)　大形品(1)		
瓦　器	椀〔畿内タイプ〕(1)		
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ(3)　Ⅰ-2(2)
			壺？(2)
	高麗	椀	Ⅲ-1(1)　Ⅲ-2A(1)　Ⅰ(1)　Ⅲ(1)
			破片(1)
白　磁	椀	Ⅱ-1(3)　Ⅳ(8)　Ⅳ-1b(1)　Ⅴ(1)　Ⅴ-1(2)　Ⅴ-2(2)　Ⅴ-4(1)　破片(4)　〔ヘラ片彫〕(1)	
	皿	Ⅳ？(1)　Ⅵ(7)	
須恵質土器	壺片(1)　鉢(1)　壺〔前川6〕(1)		
陶　器		B-c〔壺？〕(1)　A″-a(1)　E-b〔四耳壺Ⅲ？〕(2)	
	国産	壺破片〔常滑？〕(2)	
瓦　類	2次製品？(1)		
石製品	石錘(3)		
金属製品	鉄器(1)		
土製品	鋳型(1)		

24次灰褐色土層・灰褐色砂層 ●

須恵器	壺(1)　杯？片(1)		
土師器	丸底杯a(1)　器台(1)　小皿a、小壺(1)　脚(2)　不明〔壺？〕(1)　鉢×鍋(1)　搬入杯〔糸〕(1)　丸底杯c(1)		
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ(2)
			壺？Ⅰ×Ⅲ(2)
	高麗	椀	Ⅱ-1Ⅲ　Ⅲ-b(1)
白　磁	椀	Ⅱ(1)　Ⅳ(1)　Ⅴ〔外面片彫〕(1)　Ⅴ-1(1)　Ⅵ-1b(1)　破片(4)	
	皿	Ⅱ(2)	
須恵質土器	壺〔前川6〕(1)　鉢(1)		
陶　器		E？(1)　E-b〔四耳壺Ⅲ〕	
瓦　類	文字Ⅰ-8b(1)		
石製品	滑石製品(1)		
金属製品	鉄釘(2)　不明鉄器(2)		

24次灰茶色土層 ●

土師器	杯a(3) 小皿c(3) 小壺(1) 甕b2(2) 把手(1) 甕(1) 鉢(3) 鉢？(2)		
黒色土器	A	大形品(1)	
青磁	越州窯系	椀	Ⅰ(1)Ⅰ-2(2)Ⅱ-2b×c(2)Ⅱ-2d(2)Ⅲ-b～d(1)
			Ⅰ(2) 壺×水注Ⅱ(2) Ⅱ(4)
			椀〔越州窯系？〕(1)
白磁	椀	Ⅰ(1)	
緑釉	〔軟陶〕椀×皿(1)		
灰釉	？破片(1)		
瓦類	文字Ⅰ-4(1) Ⅰ-8b(1) Ⅰ-9(2) Ⅱ-1(1) Ⅱ-3(1) Ⅱ-8(1) Ⅲ-1(1) Ⅵ-4？(3) 「佐？」(1) 不明(1)		
石製品	不明製品(2) 滑石鍋(4)		
金属製品	鉄製小札(1) 釘？(3) 不明鉄器(1)		
土製品	炉壁？(1)		

25S X123 △

土師器	杯a片〔糸〕(2)		
白磁	椀	Ⅴ-2(1)	
	皿	Ⅸ-1(1)	
青白磁		破片	
陶器		A'-b(1)	
石製品	石鍋(1) 小形石鍋A-1(1)		
土製品	ルツボ(1)		

26S X252 ○

土師器	三足付小皿(1) 丸底杯a(1) 甕片(1)		
青磁	越州窯系	椀	Ⅰ(1)

26S K255 ×

須恵器	壺片(1)	
土師器	中椀c1(1) 杯a カマド？	
黒色土器	B	椀c(2)

26S X264 ○

土師器	小皿a〔ヘラ〕(2)		
青磁	越州窯系	椀	Ⅱ-3(1)
白磁	皿	Ⅵ(1) Ⅵ-1b(1)	
緑釉	〔軟陶〕破片(1)		

26S D250 ○

須恵器	壺c2(2)、c3 杯a(1) 杯c(2) 皿a(1) 甕破片 甕？(2) 甕a 壺蓋？(1)	
土師器	中甕a(1)	古式土師器(2)
黒色土器	A	〔内面暗文〕(1)
土製品	鋳型？(1)	

26S D261 ○

土師器	甕a破片(1) 壺〈8c〉 杯a×皿破片(1) 杯a〈678～674型〉(1)
瓦類	軒丸(1) 文様塼〔三角〕(1)

26S K265 ○

須恵器	破片	
土師器	杯a〔ヘラ〕(1) 杯a〈10c〉(1)	
白磁	椀	Ⅳ(1) Ⅴ(1)
瓦類	文字Ⅲ-8	
土製品	鋳型破片？（数個）	

26S X270 ○

須恵器	平瓶(1) 壺c2×c3(1) 杯c 甕破片 平瓶口？(1) 壺破片(1)
土師器	古式土師(1) 甕？〔丹後〕(1)
瓦類	平瓦(1)

26S E271 ○

土師器	杯a〔ヘラ〕(2)
瓦類	文字Ⅱ-3(1)

26S X272 ○

須恵器	皿a〈8c〉 甕破片(1) 杯c 甕		
土師器	甕a 杯a 椀c 中椀c		
黒色土器	A	破片	
	B	椀(1)	
青磁	越州窯系	椀	Ⅰ(1)

緑釉	破片〔軟陶〕(1)
瓦類	文様塼〔長方〕(1)

27S K201 ●

土師器	杯a〔糸〕 小皿a〔糸〕 甕(1)	
瓦器	椀(1) 小皿a(1)	
黒色土器	A	椀片
青白磁	小壺？(1)	
須恵質土器	鉢(1)	

27S D202 ○

須恵器	杯a(1)			
土師器	丸底杯a 小皿a(1) 脚(1) 器台(1) 椀c			
黒色土器	B	椀(1)		
青磁	越州窯系	椀	Ⅱ-2(1)	水注 Ⅲ(1)
白磁	椀	Ⅳ(2) Ⅳ-1a(2) Ⅴ-1(1) 破片(4)		
	皿	Ⅳ(1) Ⅱ？(1)		
灰釉	杯(1)			
須恵質土器	甕×壺片(1) 鉢(1)Ⅲ			
石製品	石鍋(1) 滑石製品(1)			
金属製品	鉄釘(2)			

27S K203 ●

須恵器	円面硯？(1)		
土師器	小皿c(1) 杯a〔糸〕 小皿a〔糸、ヘラ〕 高杯(1) 椀c〔ミガキc〕(1) 雑器片		
瓦器	椀c(3)		
黒色土器	B	椀c	
青磁	龍泉窯系	椀	Ⅰ-1(2)、Ⅰ-5b？(1)
	同安窯系	椀	Ⅰ-1b(5)
		皿	Ⅰ-1b
		椀(1)	
白磁	椀	Ⅳ(3) Ⅴ(1) Ⅴ〔クシ目〕(1) Ⅴ-1(1) Ⅴ-4×Ⅵ一Ⅲ(2) Ⅵ-1b(1) Ⅴ-2？(2) 破片(8)	
	皿	Ⅵ(1)	
青白磁	破片〔内クシ目〕(1) 壺？破片(1)		
瓦質土器	壺？(1)	須恵質土器	鉢Ⅲ(5)
陶器	鉢	Ⅲ(1)	
	盤	Ⅲ-b② Ⅰ-b？(1)	
		C'-ab(1) B'-a(1) A-ab〔雑〕(1) A'-ab(2)	
瓦類	文字Ⅱ-3(1) 瓦玉(1)		
石製品	石鍋(3) 石斧(1) 滑石製砥石？		
土製品	瓦玉(1)		

27S K204 ●

土師器	小皿a〔ヘラ〕(1) 丸底杯a(1) 甕b1、b2、杯a〈大SK678〉 椀c片(1)	
瓦器	椀Ⅲ	
白磁	椀 Ⅱ-2×4(1)	
金属製品	鉄器(1)	
瓦類	文字Ⅰ-8b(1) Ⅱ-6(1)	

27S K205 ○

土師器	杯a〔糸〕(3) 椀c片	
瓦器	小皿a〔ヘラ？〕(1)	
陶器	鉢	Ⅵ-1(1)

27S K206 ○

須恵器	甕a(1) 甕片(2) 杯蓋(1) 平瓶〔小形？〕(1) 壺×瓶類(1)		
土師器	丸底杯a(1) 鉢(1) 小皿a〔ヘラ、糸〕 椀c(1) 器台(2) 杯a〔ヘラ〕(1) 中椀c2(2) 甕a(1) 甕b1(1) 釜？(1) 甕把手(1)		
瓦器	椀片(2)		
黒色土器	A	椀片	
	B	椀(1)	
青磁	越州窯系	椀	Ⅰ(1) Ⅰ-2(1)
	高麗	椀	Ⅲ-1(1)
白磁	椀	Ⅱ(2) Ⅱ-2×4(1) Ⅴ(1) 〔内クシ、外タテヘラ〕(1)	
	皿	Ⅵ-1a(1) Ⅵ-1b(1)	
		破片(3)	

緑　釉	破片(1)		
瓦　類	文字Ⅰ-2(1)　Ⅰ-3(1)　文様塼〔長方〕(1)		
石製品	石鍋(1)		

27 S X 214

須恵器	甕b(1)　甕片(1)		
土師器	椀c　甕b1(1)　甕(4)　丸底杯a？　鍋？(1)		
瓦　器	椀(2)		
青　磁	越州窯系		壺？(1)
白　磁	椀	Ⅱ(2)　Ⅴ？(1)	
	Ⅲ	Ⅵ-1a(1)	
陶　器		B-a〔四耳壺？〕(1)	
金属製品	鉄器(1)		

27 S X 219　○

須恵器	杯C		
土師器	中椀c2　甕　丸底杯a？　椀片　杯a		
黒色土器	A	椀c	
青　磁	越州窯系	椀×皿	Ⅱ(1)

27 S K 220　○

須恵器	杯C　甕		
土師器	椀c(5)　中椀c　椀a(1)　甕b(1)　杯a〔ヘラ〕(3)　小皿c？(1)		
黒色土器	A	椀c(1)	
	B	椀c(2)	
緑　釉	椀片(1)		
瓦　類	軒平(1)		

27 S K 224　○

須恵器	破片(1)　甕片(1)		
土師器	小皿d(1)　小皿a〔ヘラ〕(2)　小皿c？(1)　杯a(2)　丸底杯c　丸底杯a×丸底椀a(1)　器台？(1)　椀c片(1)　大椀(1)　大椀？(1)　大形鉢(2)　甕片b1　甕？(1)　甕a〈8c〉(2)　小甕a(1)　カマド(1)		
	製塩甕(1)　焼塩壺Ⅱ-b(1)		
黒色土器	A	椀c片	
	B	椀c	
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ-1(2)　Ⅱ-1b(1)
緑　釉	〔軟陶〕椀？(2)		
灰　釉	壺(1)		
瓦　類	文字Ⅰ-7a(1)　文様塼〔長方〕(1)　大形塼		
金属製品	鉄器(2)　銅滓？(1)		
土製品	フイゴ羽口(1)　不明土製品(1)　鈴鋳型(1)　鋳型(1)　鋳型×ルツボ(1)		

27 S X 228　×

須恵器	壺c　小鉢b　甕	須恵質土器	甕×壺(1)
土師器	甕(1)　甕b1(1)　椀c(1)　台付鉢(1)　杯a片〔ヘラ〕		
黒色土器	A	椀片	
青　磁	越州窯系	壺	Ⅱ(1)
		椀	〔玉縁〕(1)

27 S X 229　×

須恵器	杯　壺		
土師器	皿b(1)　杯a？片　椀c片　甕b1　小甕a　鉢？(1)　大椀c(1)　台付鉢×皿(1)		
黒色土器	A	椀c	
金属製品	鉱滓(1)		
石製品	石鍋(1)		

27-1次暗灰色土層　○

須恵器	壺　甕　杯c		
土師器	椀c　丸底杯a　杯a〔糸、ヘラ〕　小皿a〔ヘラ〕　小皿c　小皿d(1)　丸底杯c？　カマド？(2)　甕b1、b3、b4　壺？(1)　小甕a　大形品(2)　不明破片(1)　鍋〔混入品？〕(2)		
瓦　器	椀c		
黒色土器	A	鉢　椀c	
	B	椀c	
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ(5)　Ⅰ-1b(1)　Ⅰ-2(3)　Ⅱ-2(1)
		皿	Ⅰ-3？(1)　椀×皿Ⅰ(1)
白　磁	椀	Ⅱ(2)　Ⅳ(1)　Ⅴ(9)　Ⅴ-1(5)　Ⅴ-2(1)　Ⅴ-2b(1)　Ⅴ-3(2)　Ⅵ・Ⅶ(2)　Ⅶ？(1)　破片(1)　〔輪花、タテヘラ〕(1)	
	皿	Ⅶ-1a(1)	
緑　釉	〔軟陶〕椀(2)　〔硬陶〕椀×皿(2)		
灰　釉	椀(1)　壺(3)　椀？(1)　不明破片(1)		
須恵質土器	椀〔糸〕(1)　鉢？(1)　壺〔前川6〕(1)　甕(1)		
瓦質土器	鉢(1)		
瓦　類	軒丸(1)　軒平〔老司〕(1)　軒平(1)　文字Ⅰ-1(1)　「平井」「賀茂」　塼(3)		
石製品	石鍋(4)　滑石製品(1)		
土製品	フイゴ羽口(2)　ルツボ？(1)　鈴鋳型(1)　蝶形巻鋳型(1)　不明土製品(1)		
金属製品	鉄器(1)		

27-1次暗灰色粘土層　●

須恵器	甕b(1)　甕片　大壺(3)　杯c　壺d(1)		
土師器	小皿a〔ヘラ〕(1)　小皿c　杯a〔ヘラ〕　丸底杯a(4)　丸底杯c　椀c　椀c〔ミガキc〕　中椀c1(1)　大椀(1)　丸底椀a　鉢〔大形〕(1)　把手(1)　鉢　鉢？(2)　把手付鉢？〔大形〕(1)　小壺(1)　甕a(1)　甕b　b1　b2　脚(1)　器台(4)	焼塩壺(1)	
瓦　器	椀		
黒色土器	A	椀c(1)	
	B	椀c　托上椀(1)	
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ-1a(1)　Ⅰ-2(2)　Ⅱ？(1)　Ⅱ-2c(1)　Ⅱ-2(2)　Ⅱ-2a(1)
		皿	Ⅰ(1)
		水注	Ⅲ(1)　水注×壺Ⅰ(2)　杯Ⅱ(1)　椀×皿Ⅰ(6)
			？椀(1)
	高麗	椀	Ⅲ-2B(1)
白　磁	椀	Ⅳ×Ⅴ(1)、Ⅱ-5(1)、Ⅳ(8)、Ⅳ-1a(6)、Ⅳ-2？(1)、Ⅴ(1)、Ⅴ-1a(1)、Ⅴ-2a(3)、Ⅴ-2b(1)、Ⅴ-3(1)　〔輪花〕(1)　〔タテヘラ〕(1)　博0-Ⅲ破片(2)	
	皿	Ⅱ-1a(2)　Ⅳ(1)　Ⅶ-1c(1)　Ⅶ-1c(2)　Ⅰ？〔輪花〕(1)	
	鉢	〔鉄絵〕(1)　水注　把手(1)　小椀　(1)　小壺蓋？(1)	
青白磁	椀〔輪花〕(1)		
緑　釉	〔硬陶〕段皿(1)　椀×皿(1)　〔軟陶〕椀(1)　椀×皿(5)　壺×甕破片(2)　大形品(1)		
灰　釉	椀(1)　椀？(2)　壺？(3)		
瓦質土器	壺(1)		
須恵質土器	鉢(3)　甕b(1)　壺〔前川6〕(1)		
陶　器	水注	無釉(1)	
金属製品	鉄滓(1)		
瓦　類	軒丸(1)　〔コウロ館〕(1)　〔老司〕(1)　文様塼(2)　文字Ⅰ-3(1)　Ⅰ-5(1)　Ⅰ-7b(1)　Ⅰ-8b(1)　Ⅱ-4b(1)　Ⅱ-5(1)　Ⅱ-6(1)　Ⅲ-3(1)　Ⅳ-4(1)		
石製品	石鍋A-1(1)破片(5)　滑石製品(2)		
土製品	鈴鋳型(2)　不明鋳型？〔円盤形〕(1)　瓦玉(4)　フイゴ羽口(2)　土錘(1)　鋳型片？(1)		

27-1次淡黄色粘土層

須恵器	杯c　甕b？　壺b？(1)　壺破片(1)　平瓶×壺		
土師器	甕a　甕b1、b2　小皿a(1)　小皿c　把手(1)　杯a　中椀c2　椀c　椀〔ミガキb〕　大形品(4)　鉢？(2)　カマド？(1)		
黒色土器	A	椀c(3)	
	B	椀c(2)	
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ(4)　Ⅰ-2(5)　Ⅱ(2)　Ⅱ-1b(1)　Ⅱ-2(2)
		水注	Ⅰ(4)　壺蓋　(1)　不明　Ⅱ(1)
緑　釉	皿c〔糸・軟陶〕(1)　椀〔軟陶〕(2)		
灰　釉	壺(1)　椀×皿(1)		
須恵質土器	甕(1)		
金属製品	鉄器(1)　銅？材料		
瓦　類	文字Ⅰ-4(2)　Ⅱ-1(1)　Ⅱ-2(2)　Ⅲ-3(1)　塼(1)		
石製品	石鍋(1)　滑石製品(1)		

27-1 次灰色砂層 ○

須恵器	壺b(1) 壺破片 甕a(1) 皿a 杯a 高杯 杯c 平瓶?(1) 壺c2、c3		
土師器	甕a 甕b1、b2 椀c 小皿c 杯a 高杯b 中甕a 椀?(1) 丸底椀a(1) 中椀c1 大形品?(1)		
	製塩甕(1)		
	古式土師器 高杯(1)		
黒色土器	A	椀c	
	B	椀c 鉢?(1)	
青磁	越州窯系	椀	I(2) I-1b(1) I-3?(1) II-2(1)
白磁	椀	I(1)	
灰釉	椀(1)		
瓦類	文字I-2(1) II-1(1) II-3(1)		
石製品	滑石製品(1)		
土製品	小仏像(観音立像)(1)		

27-1 次灰色砂礫層 ○

須恵器	杯c(2) 皿 甕a(1)		
土師器	甕a(1) 甕b(1) 小皿c ?(1) 杯a(1) 壺c		
青磁	越州窯系	皿	I-3(1)
瓦類	文様塼(長方)(1)(三角)(1) 塼(2)		
石製品	滑玉製石帯(丸銙)(1)		

27S D130上・中層 ○

須恵器	杯 壺破片	
土師器	杯a(ヘラ)(2) 丸底杯a 小皿a(糸)(1) 椀c 器台(1) 甕a	
瓦器	椀破片	
黒色土器	A	椀破片
白磁	椀	II(1)
		椀II×III VI(3)
	壺	(1)
瓦類	軒丸(1) 文字II-8(1)	
土製品	瓦玉(1)	

27S D130下層 ○△

土師器	甕b1(1) 丸底杯a(1)	
黒色土器	A	椀
	B	椀c
白磁	椀	IV-1(1) V(1)
	皿	II-1(1)
緑釉	破片(軟陶)(1)	
陶器	E(四耳III?)(1)	
瓦類	文字I-5(1) II-8(1) III-7(1) XIV(1)	
木製品	下駄大(1) 下駄小(1) 曲物IV(1) 棒状木製品B(1) E(2) 板状木製品(4) 建築部材?(1) 木柄?(1) その他(2)	

27S K155 ●

土師器	器台(1) 小皿a(ヘラ) 丸底杯a 杯a(ヘラ)[3] 甕b1	
瓦器	椀c(1)	
白磁	椀	II(1) IV(1) (青白磁?)(1)
	皿	VI-1b(1)
	鉢	(玉縁、内クシ、ヘラ描)(1) (玉縁、無文?)(1) (外反口縁)②
須恵質土器	鉢(1)	
陶器	A'-a・b(四耳壺III?)(1)	

27S D157 ○

土師器	大鉢(1) 丸底杯a(1) 脚(1) 小皿a(糸)(2)(ヘラ)(2)		
青磁	高麗	椀	III-2(1)
白磁	椀	II(1) II-1(4) IV(5) 博O-III(2) V-2a(2) V-4a(1)破片(6)	
	皿	II-1a(1) VI(3) VI-1b(1)	
	水注	[illegible]	
緑釉	椀(軟陶・糸)(1)		
陶器		B'-b (四耳壺III×IV)(1)	
瓦類	文字I-8b(1) I-8(1)		
石製品	石鍋(2) 滑石製品(1)		
土製品	紡錘硯VBa(1)		

27S X163 ●

土師器	大鉢(1) 脚付鉢?(2) 器台(1) 小皿a(ヘラ) 丸底杯a 杯a(ヘラ)(1)	
瓦器	椀(2)	
黒色土器	B	椀
青磁	越州窯系	壺?I(1) 甕?II(1)
白磁	椀	II(2) II-1(2) IV(1) V(2) V-1(1) V-2(1) 破片(1) 外面ヘラ(1)
	皿	II-1a(1) IV(3) V-2(1) VI(1) VI-1b(1) VII-1b(1)
	水注	(1)
青白磁	小壺(瓜割)(1)	
須恵質土器	壺(前川6)②(3) 椀(糸)(1) 鉢(2) 甕b	
金属製品	鉄釘?(4) 棒状鉄器(1)	
瓦類	塼(1)	
土製品	鈴鋳型(1)	

27S X164 ○

土師器	小皿a(ヘラ) 丸底杯a(1) 器台(1)
青磁	壺×水注(A'-b)(1)
金属製品	鉄釘(1) 鉄器(1)

27S D230上層 ○

須恵器	杯C		
土師器	器台(2) 鉢?(1) 小皿a(ヘラ)(2) 小皿c 杯a破片 甕b 甕61 高杯(1) 椀c 中椀c×小皿c 丸底杯c ?(2)		
黒色土器	A	椀c	
	B	椀破片	
青磁	越州窯系	椀	I(2) II(1) II-3(1)
			壺破片II(1)
白磁	椀	IV×V(1)	
緑釉	(軟陶)(1)		
灰釉	?甕破片(1)		
須恵質土器	鉢(片口)(2) 鉢(1) 壺×甕(1)		
金属製品	鉄器(2)		
瓦類	文字I-9(1) XIX(1)		
石製品	砥石?(1)		
土製品	不明土製品(1)		

27S D230下層 ○

須恵器	甕		
土師器	甕a 甕b1 小皿a(ヘラ) 杯a〈大SK678、SE400〉 丸底杯a 椀c 器台(1)		
黒色土器	A	椀c	
	B	椀	
青磁	越州窯系	椀	I(1) II-3(1)
			壺I(1) 壺?II(1)
白磁	椀	V(1) 破片(1)	
須恵質土器	甕(1) 鉢(1) 壺(前川6)(1) 甕b(1)		
瓦類	文字I-3(1) I-7b(1) II-4b(1) III-4(1) 不明(1) 軒平(コウロ館)(1)		
土製品	生産用具(1)		

27-2 次黒褐色土凹み ○

土師器	器台(6) 小皿a(ヘラ) 丸底杯a 杯a(ヘラ)(2) 甕破片(2)		
青磁	越州窯系	椀	I(1) II-3(1)
	同安窯系	椀	I-1b(1)
	高麗系	杯	III(1)
		椀	(1)
白磁	椀	II(8) II-1×2(4) II-1×3(4) II-2×4(1) II-3×4(2) IV(7) V(1) V-1?(1) V-1a(5) V-2a(3) V-3a(3) V-1×2b(2) V-4c(1) VI(1) VI-2(1) VII-2?(1) 破片(4)	
	皿	II?(1) II-1a?(1) II-1(1) IV?(1) VI(8) VI-1a(3) VI-1b(8)	
	水注	(瓜割)④② 把手(2) 注口(2) 口縁(1) 破片(1)	

		鉢(3)　鉢〔鉄絵〕(1)　その他(3)	
青白磁	椀他(6)		
灰　釉	壺(1)		
瓦質土器	鉢？(2)	須恵質土器	壺〔前川6〕(1)
陶　器	壺	？A′-b	
	盤	b(1)　E(1)	
		A′-a③　A′-b(2)　B′-ab〔四耳壺Ⅲ？〕(1)	
金属製品	鉄器(5)　鉄滓(1)		
石製品	石鍋A-1(1)破片(9)　滑石製品(5)		
土製品	不明鋳型(1)　円板〔小皿２次利用？〕(1)　炉盤？(2) 瓦玉(2)		

27-２次暗灰色土層　○

須恵器	壺ｄ？(1)　甕片(1)		
土師器	壺(1)　椀破片(1)　椀ｃ(1)　小皿ａ〔ヘラ〕		
青　磁	越州窯系	椀	Ⅰ(9)　Ⅰ-1ｂ(1)　Ⅰ-2(1)　Ⅱ(4)　Ⅱ-3(1)
			壺Ⅱ？(1)　水注Ⅱ(2)　蓋(1)
	長沙窯系	鉢？〔鳥彩〕(1)	
白　磁	椀	Ⅰ(3)　破片(2)	
	皿	Ⅳ(2)　Ⅵ？(1)	
青白磁	？(1)		
緑　釉	〔軟陶〕壺(1)　椀×皿(4)　〔硬陶〕(2)		
灰　釉	椀(1)		
須恵質土器	壺破片〔前川6〕(2)		
陶　器	A′-ｂ(1)　F？〔混入品か〕(1)A″-ab〔壺？〕(1)		
瓦　類	軒丸(1)　文様塼(1)		
土製品	ルツボ(1)		

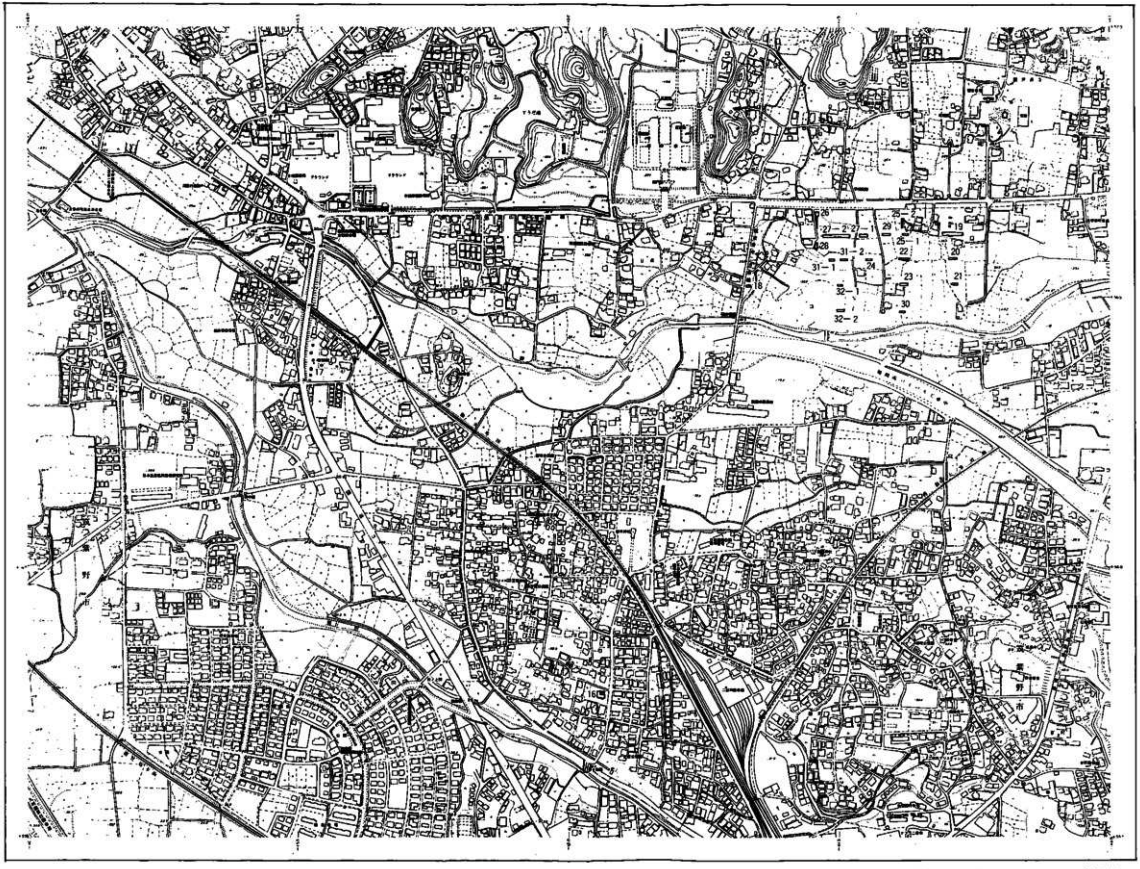


fig. 82　調査地点位置図（1/7000・数字は調査次数）

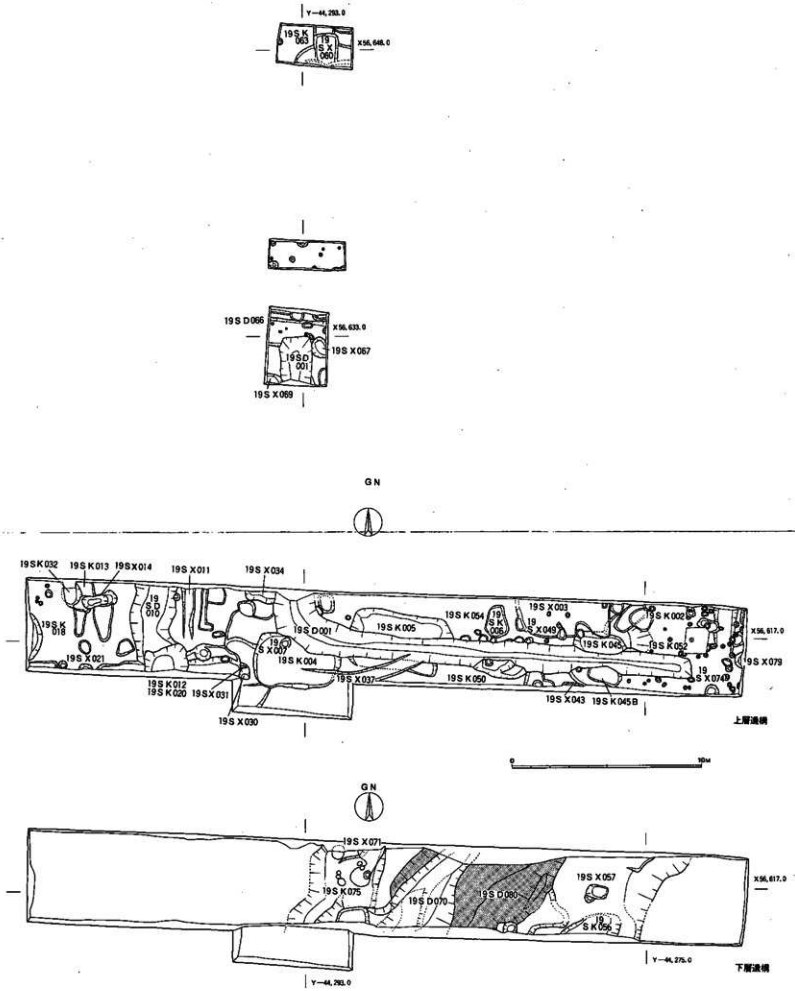


fig. 83　第19次調査遺構配置図

Ⅰ 17S E002
（北から）

Ⅱ 17S E001
（西から）

Ⅲ 17S E001
（北から）

Ⅰ　第19次調査上層遺構（西から）

Ⅱ　第19次調査上層遺構（東から）

Ⅲ　第19次調査下層遺構（西から）

Ⅳ　第19次調査下層遺構（東から）

Ⅰ　第19次調査

Ⅱ　第19次調査　19ＳＤ001（北から）

Ⅲ　19ＳＫ004陶磁器出土状態

Ⅰ　第22次調査（東から）

Ⅱ　第23次調査（西から）

Ⅲ　第24次調査上層遺構（東から）

Ⅳ　第24次調査下層遺構（東から）

Ⅰ　第25―2次調査
（北から）

Ⅱ　第26次調査
（北から）

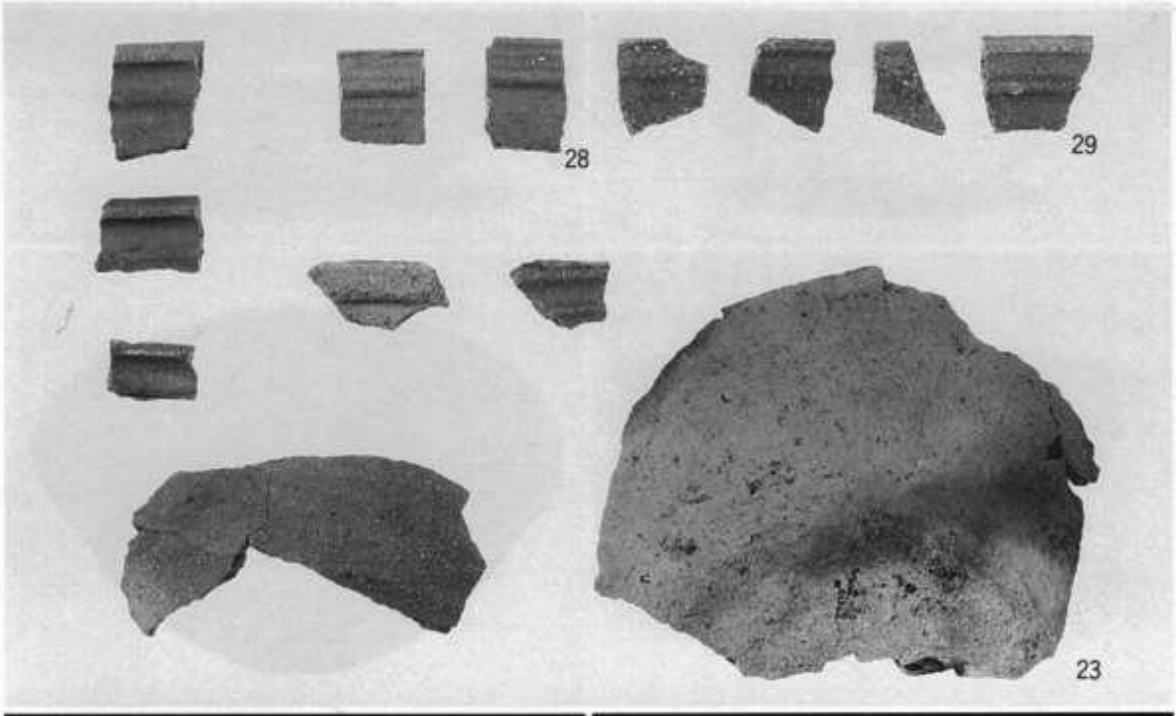
Ⅲ　第28次調査
（東から）

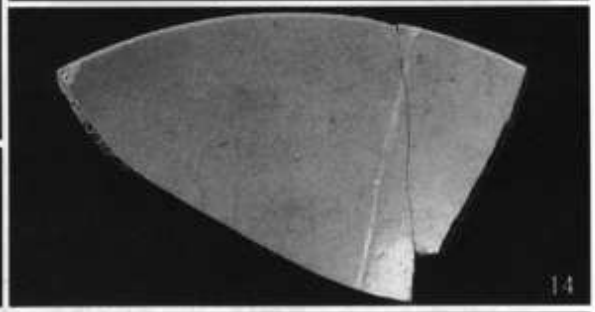
Ⅰ　第27—1次調査上層遺構（東から）

Ⅱ　第27—1次調査下層遺構（東から）

Ⅲ　第27—2次調査上層遺構（東から）

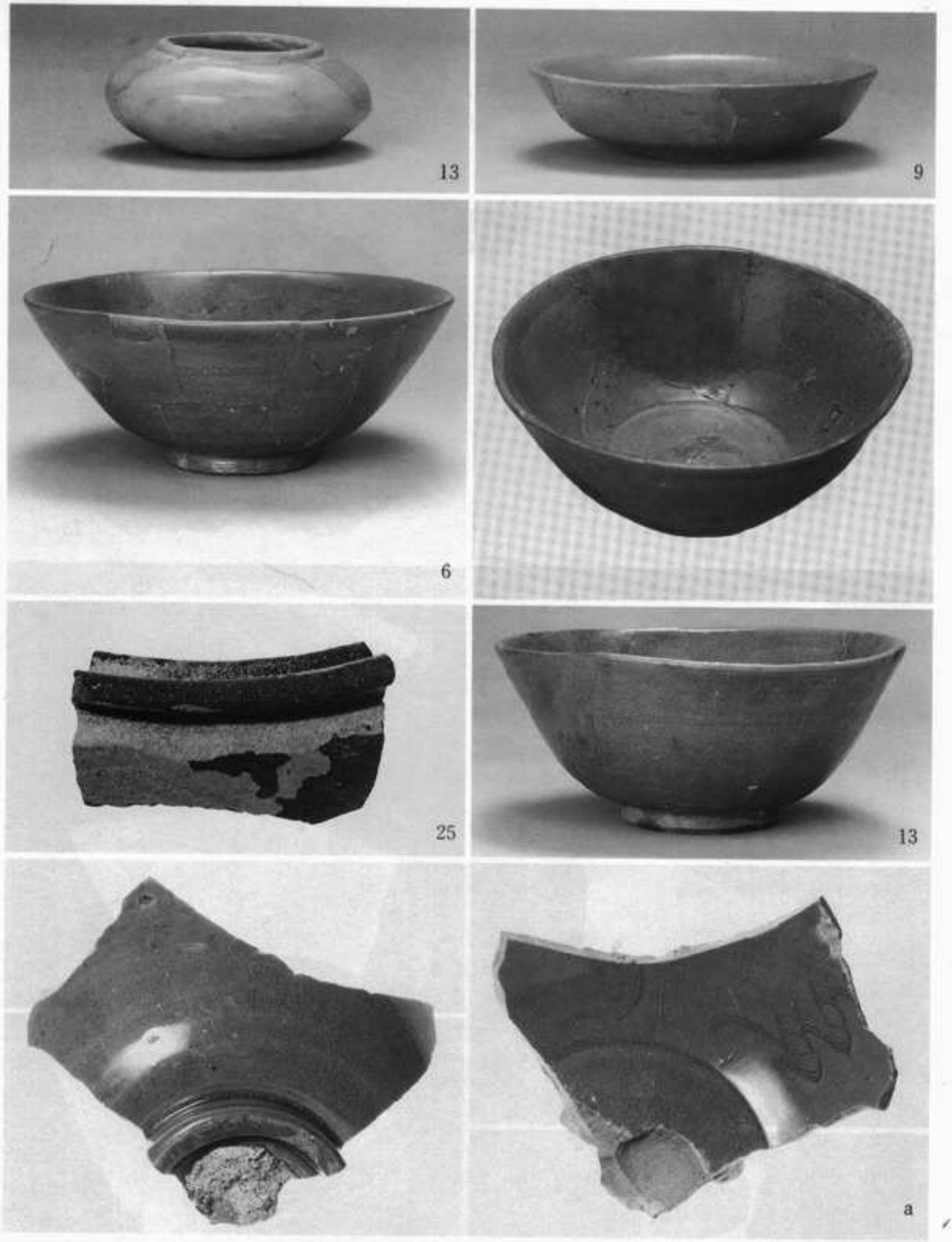
Ⅳ　第27—2次調査下層遺構（東から）





14：19ＳＫ005　他は19ＳＤ001上・下層出土土器

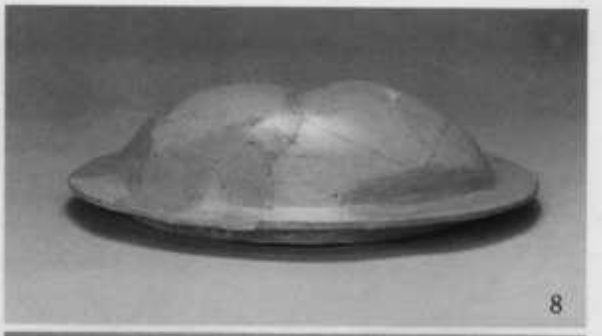
Pla. 16



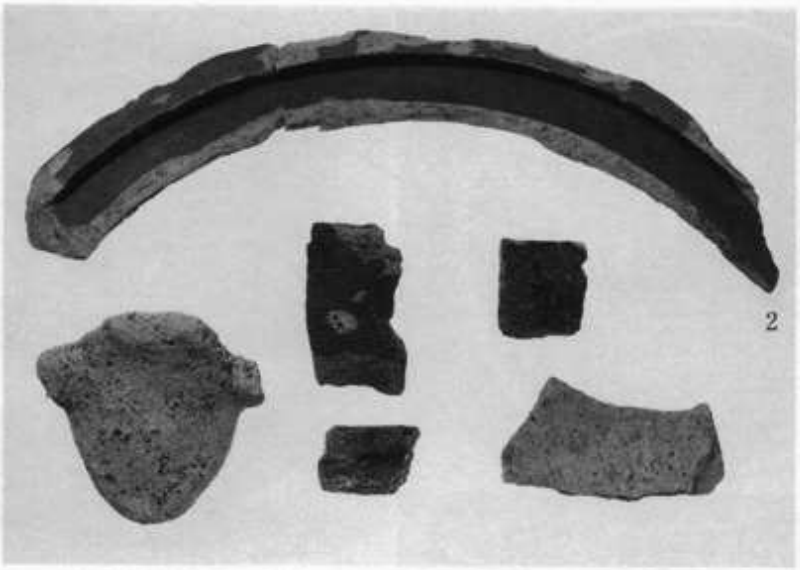
右列13：19ＳＫ004出土　他は19ＳＤ001上層出土土器

19SD001下層出土土器

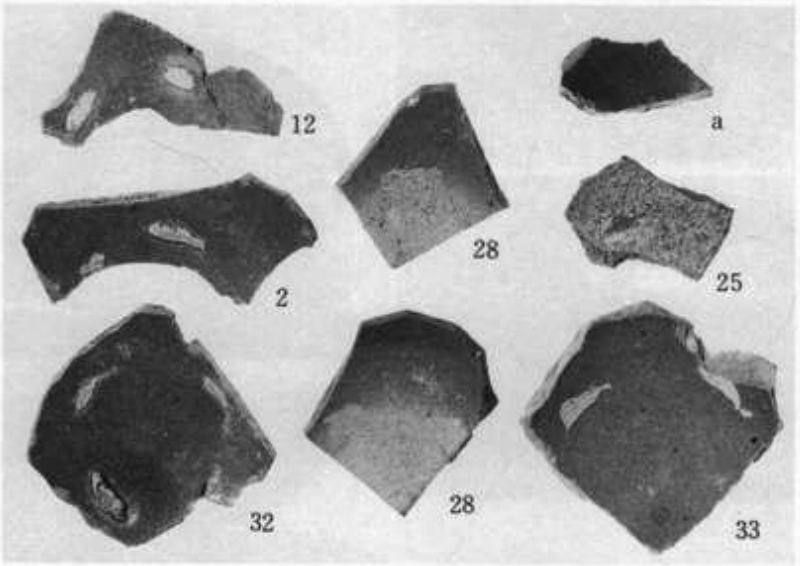
Pla. 18



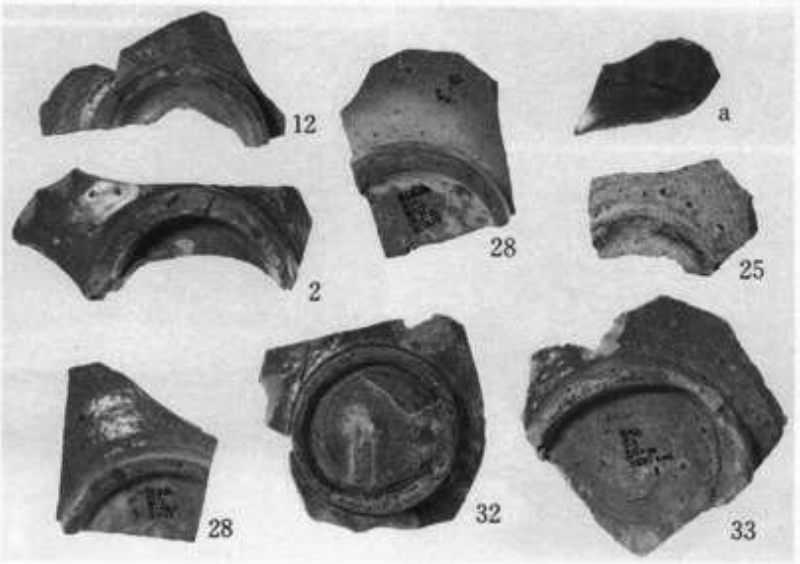
19SD001下層出土土器



Ⅰ　19ＳＫ004出土
土師器・瓦質土器

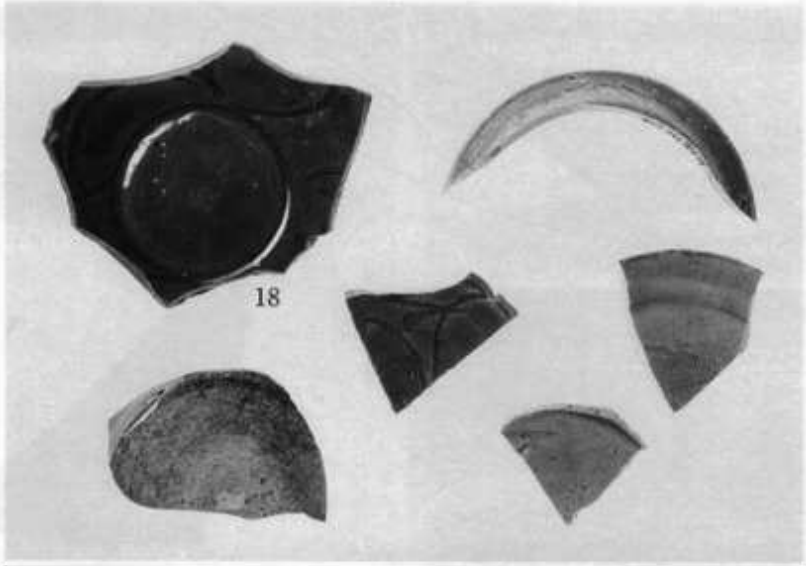


Ⅱ　高麗青磁　（内面）
第24次調査暗褐色土層（12）
他は第19次調査
表土（2）
黒灰色土下層（32、33）
灰色土層（25）
暗褐色土層（28）
19ＳＤ001上層（a）

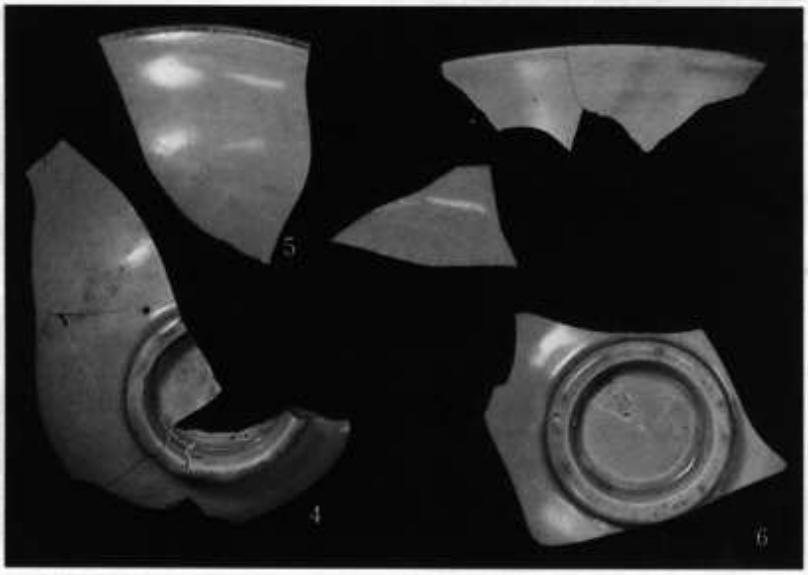


Ⅲ　高麗青磁（外面）

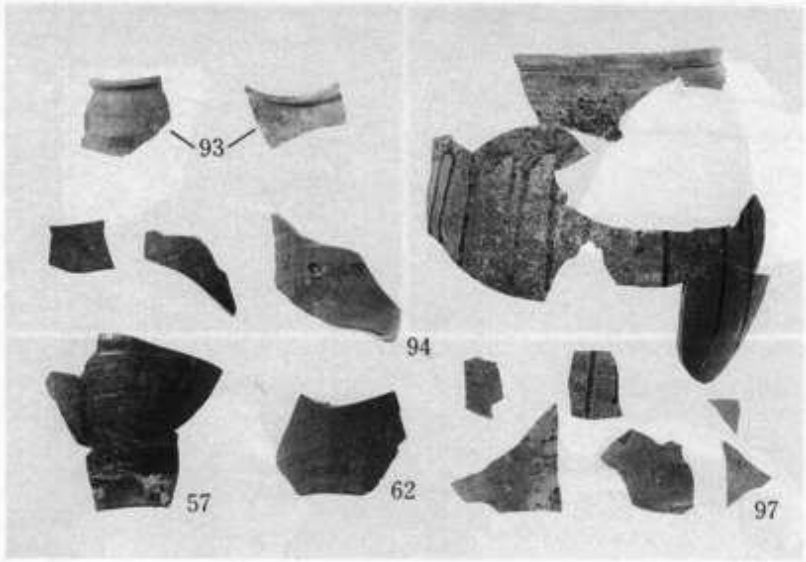
19ＳＫ004出土磁器



Ⅰ　19ＳＫ004出土
同安窯系青磁

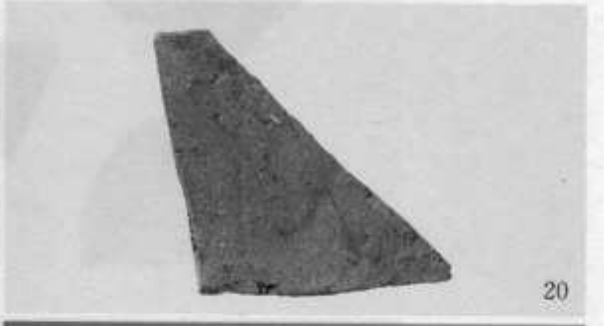


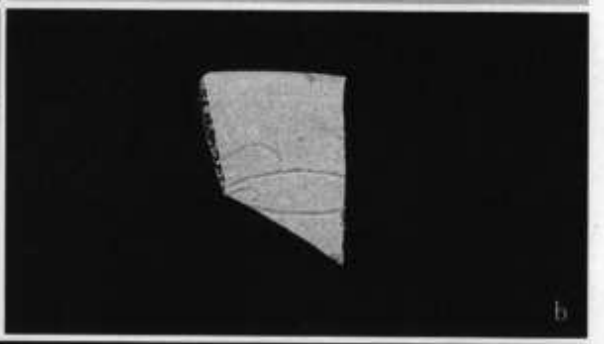
Ⅱ　19ＳＫ004出土
白磁



Ⅲ　19ＳＫ004出土
陶器

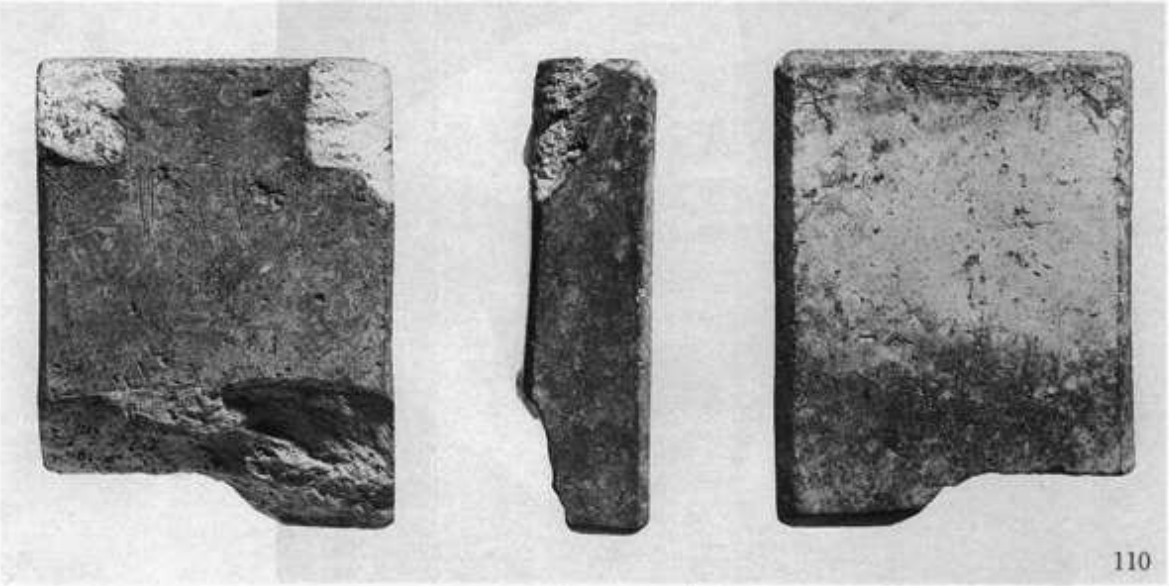
Pla. 22

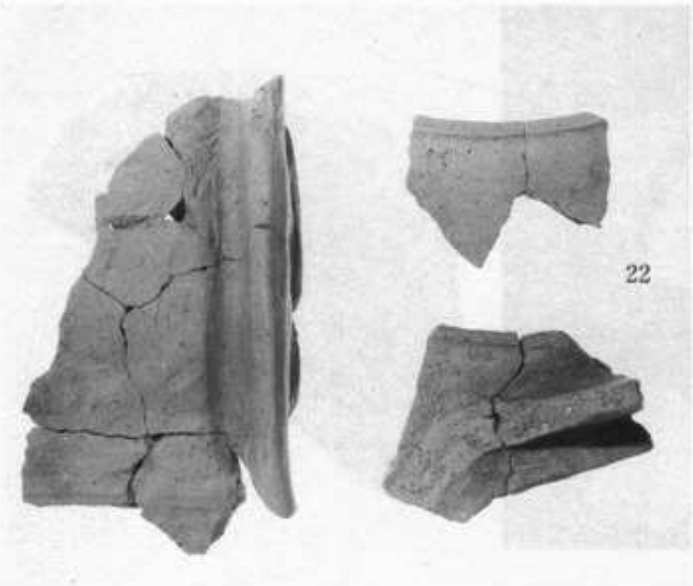




16

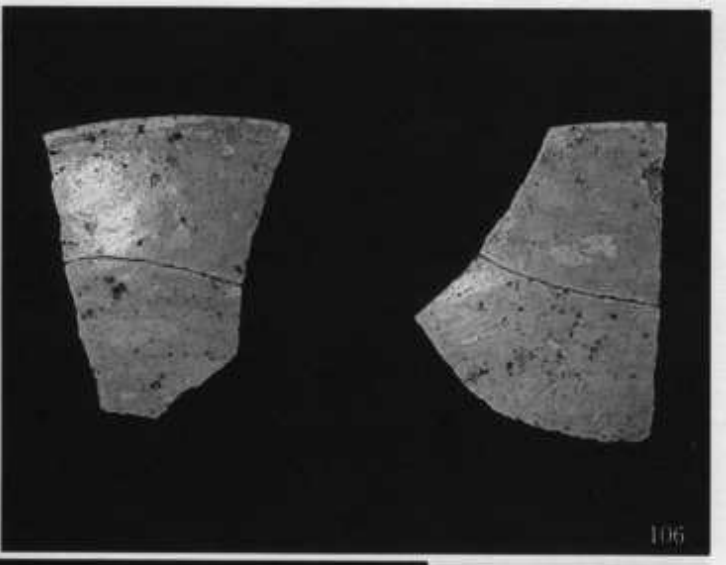
34

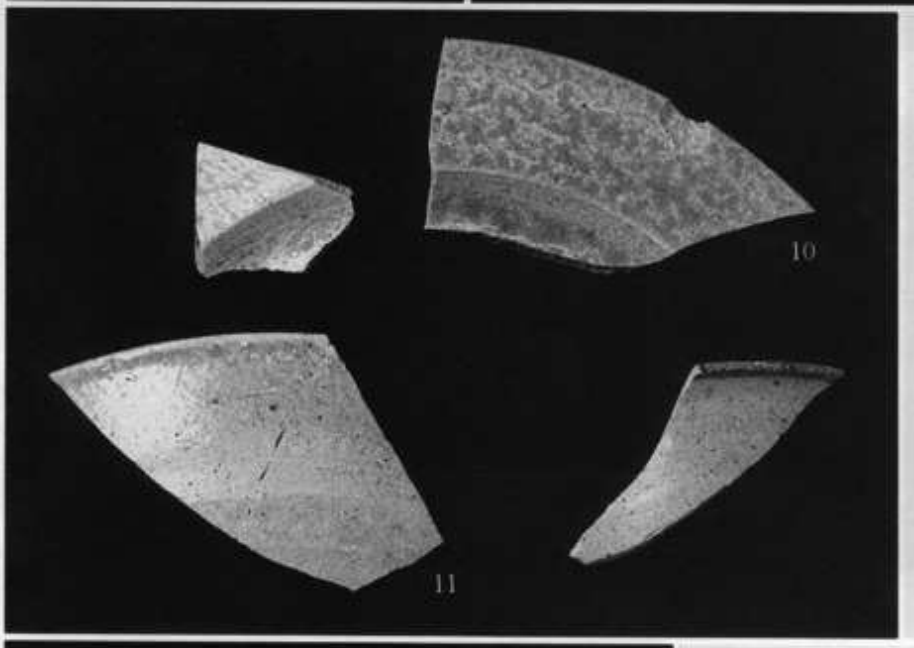

110

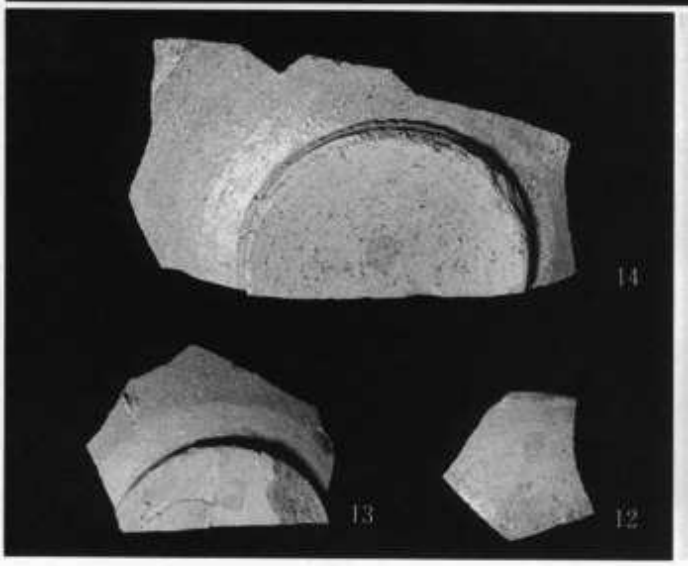

22

98

Pla. 24

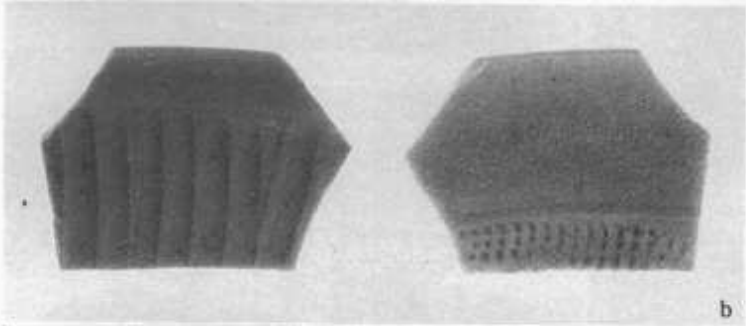


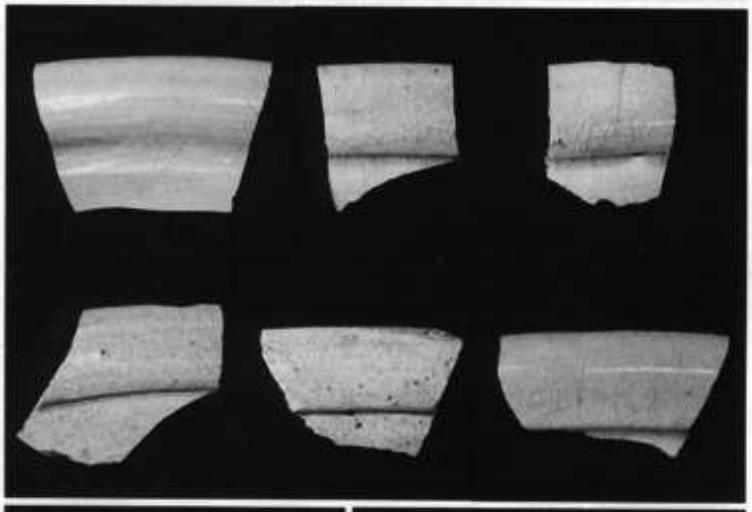




34

a

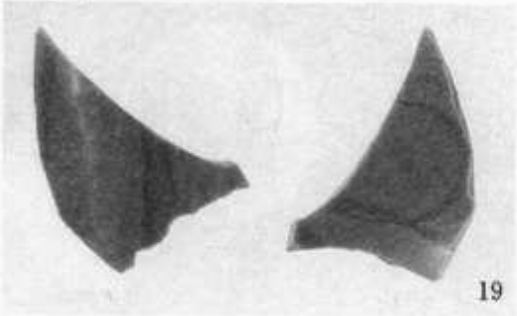

b



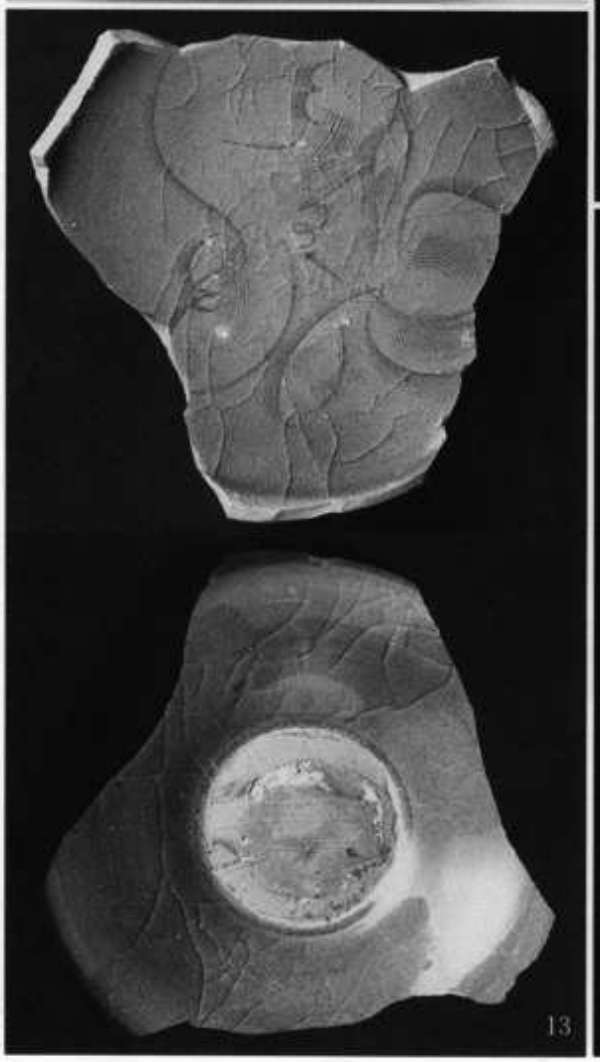
29

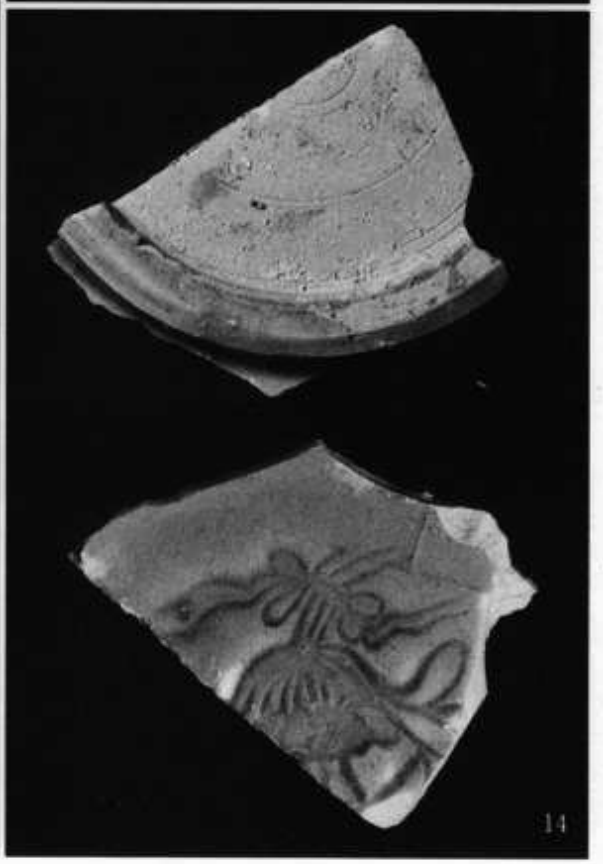
17

27


19

Pla. 26





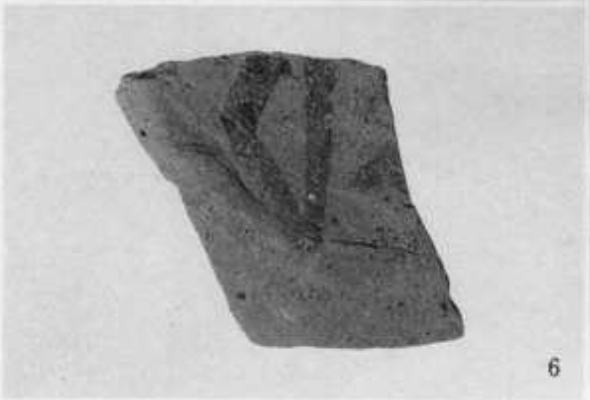
28

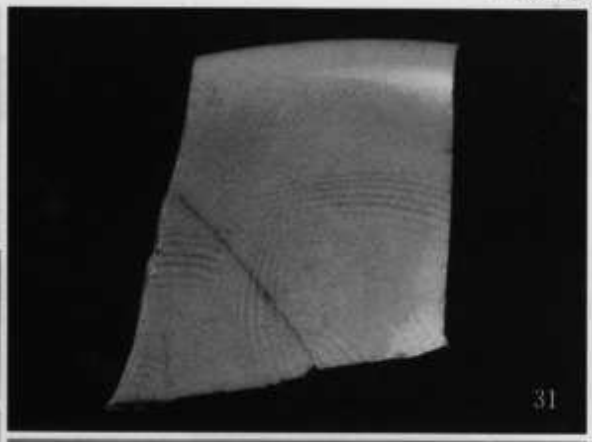
30

13

12

16


6


31

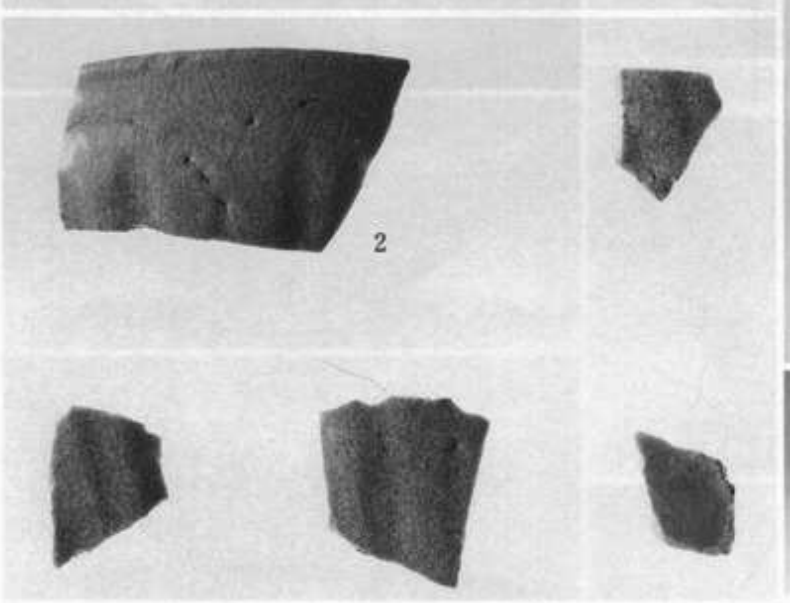
15

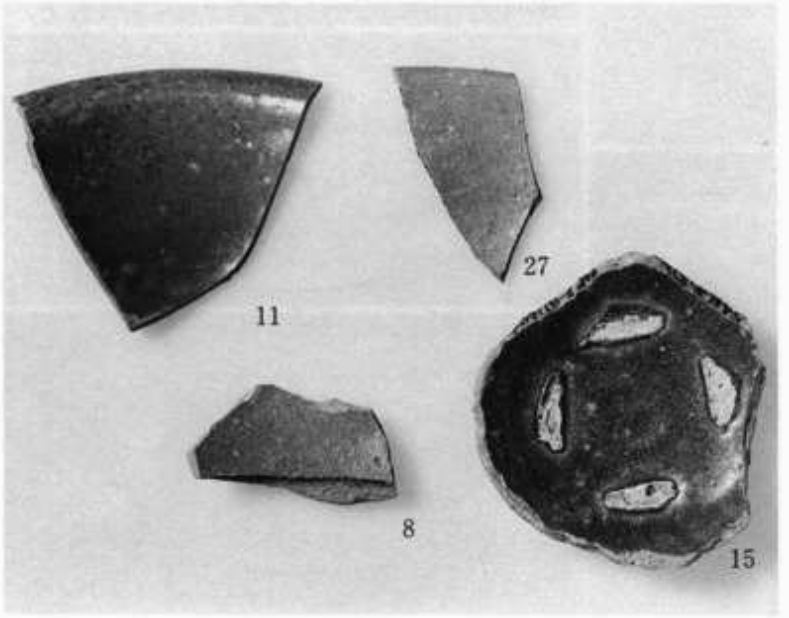
18

21

19

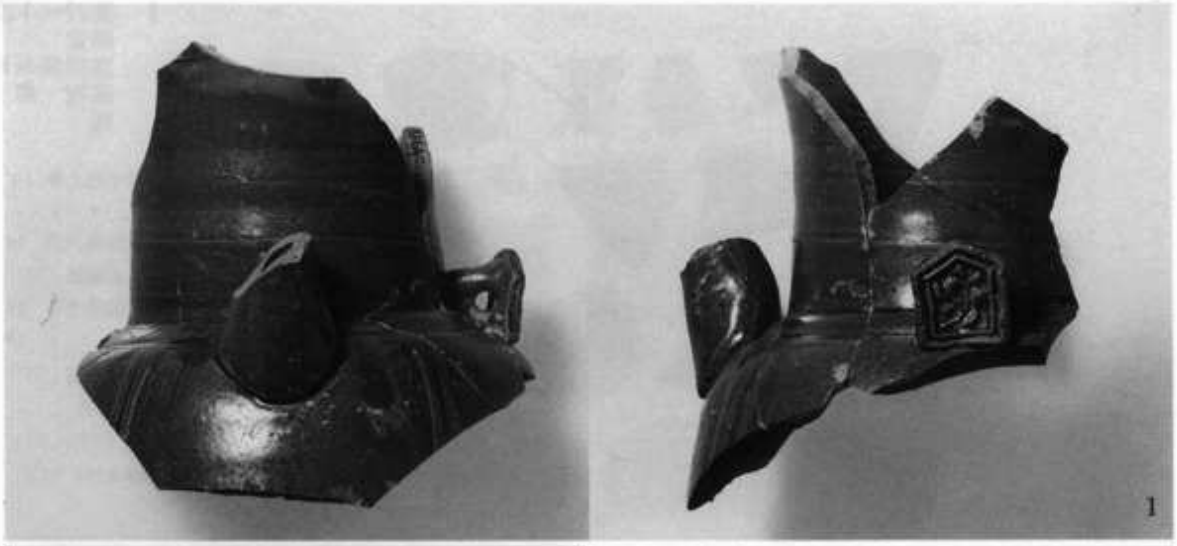
19



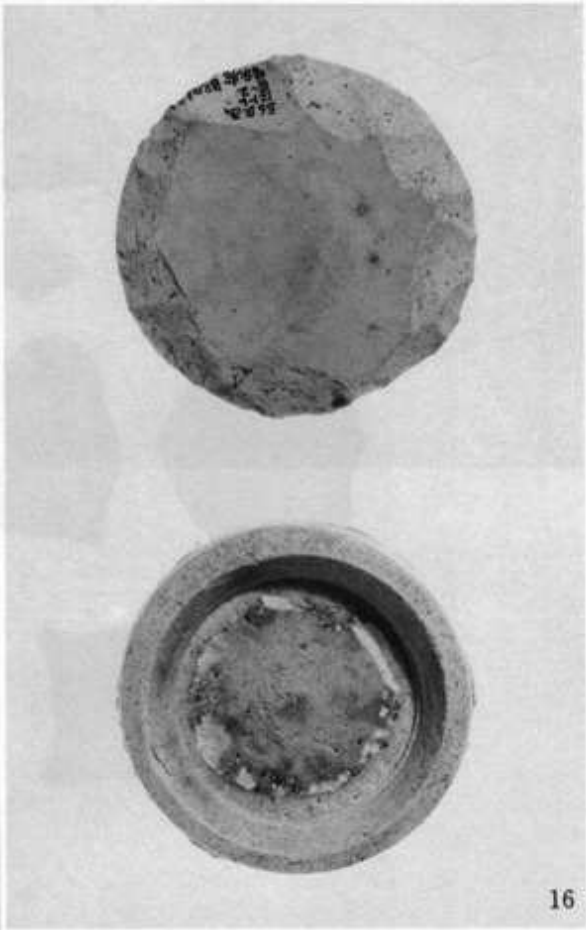


第24次調査
灰褐色土層、砂層（2・7）
灰茶色土層（11・13）
暗褐色土層（1）
排土（15）
24 S E 113（6・8）
24 S X 110（27）

土師器（1）
緑釉陶器（13）
高麗青磁（2・7・8・15・27）
越州窯系青磁（6）
〃　　？（11）


1

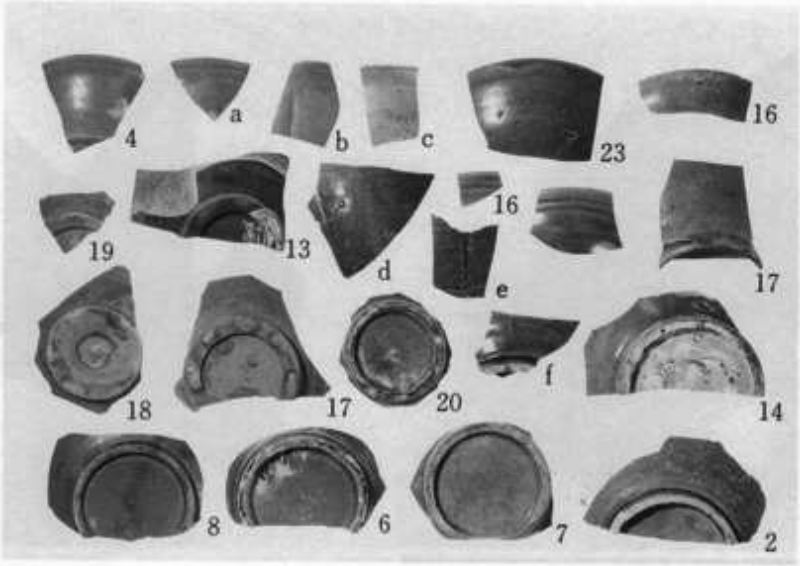
4


16

7

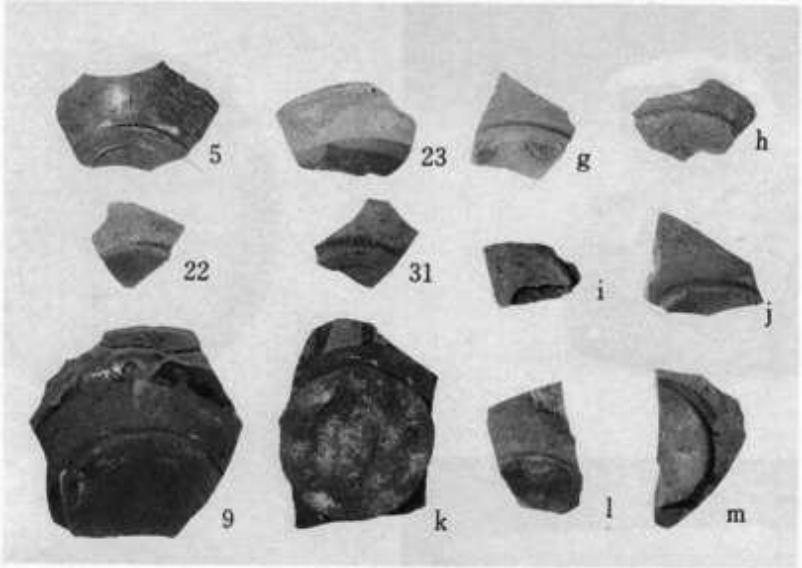
13

4



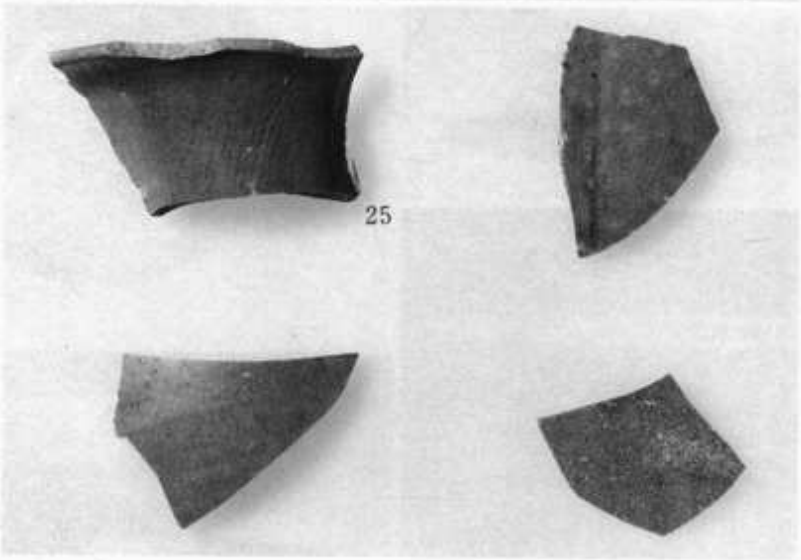
Ⅰ　第27－1次調査越州窯系青磁椀・皿Ⅰ類

淡黄色粘土層（4・6・7・8・c・d）
灰色砂層（13・14・a）
灰色砂礫層（16）
暗灰色粘土層（16・18・19・20）
暗灰色土層（17・f）
排土（17）
27 S X 222（2）
27 S K 206（23）



Ⅱ　第27－1次調査越州窯系青磁椀・杯Ⅱ類

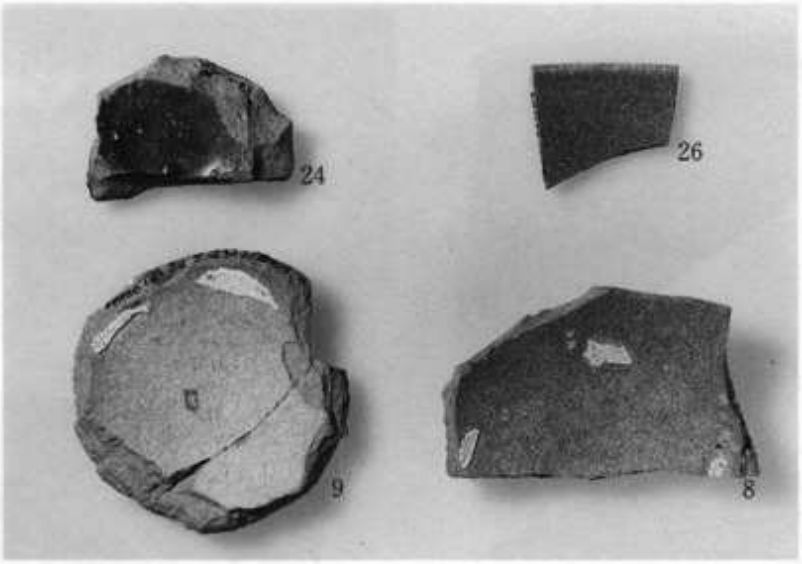
淡黄色粘土層（5・9・k）
灰色砂層（l）
暗灰色粘土層（22・23・i・m）
暗灰色土層（h）
排土（j）
27 S D 202（g）
27 S K 224（31）

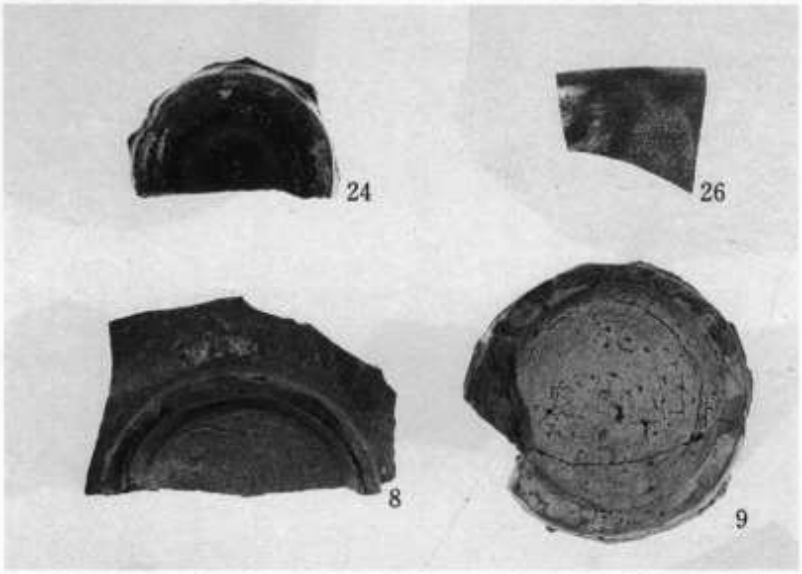


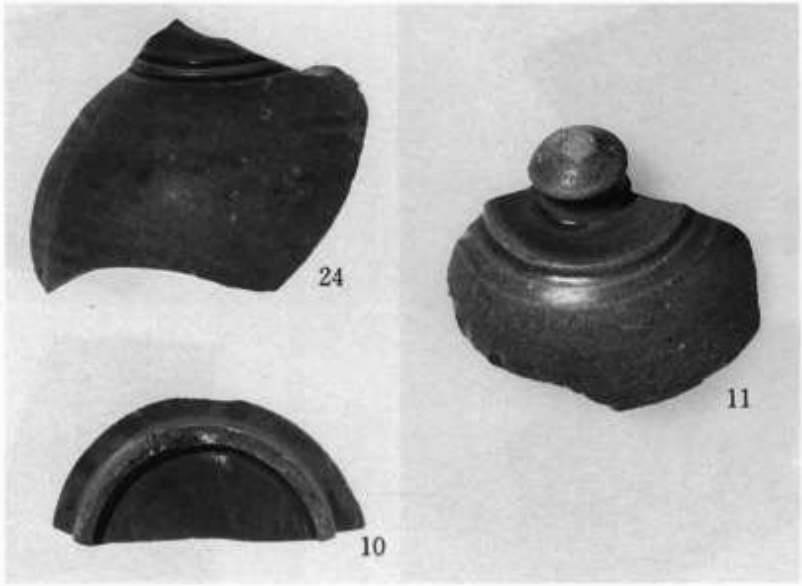
Ⅲ　第27－1次調査越州窯系青磁

水注（同一個体）

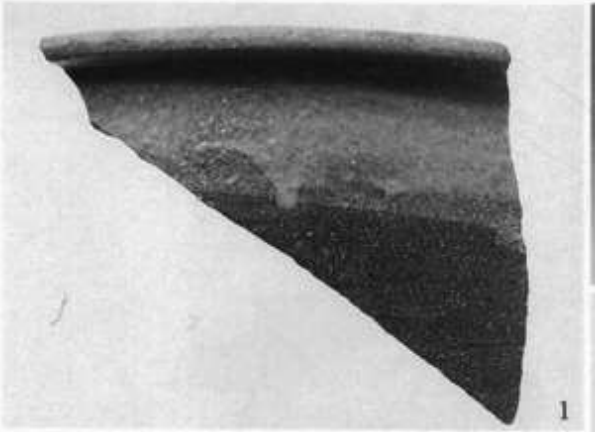
暗灰色・淡黄色粘土層

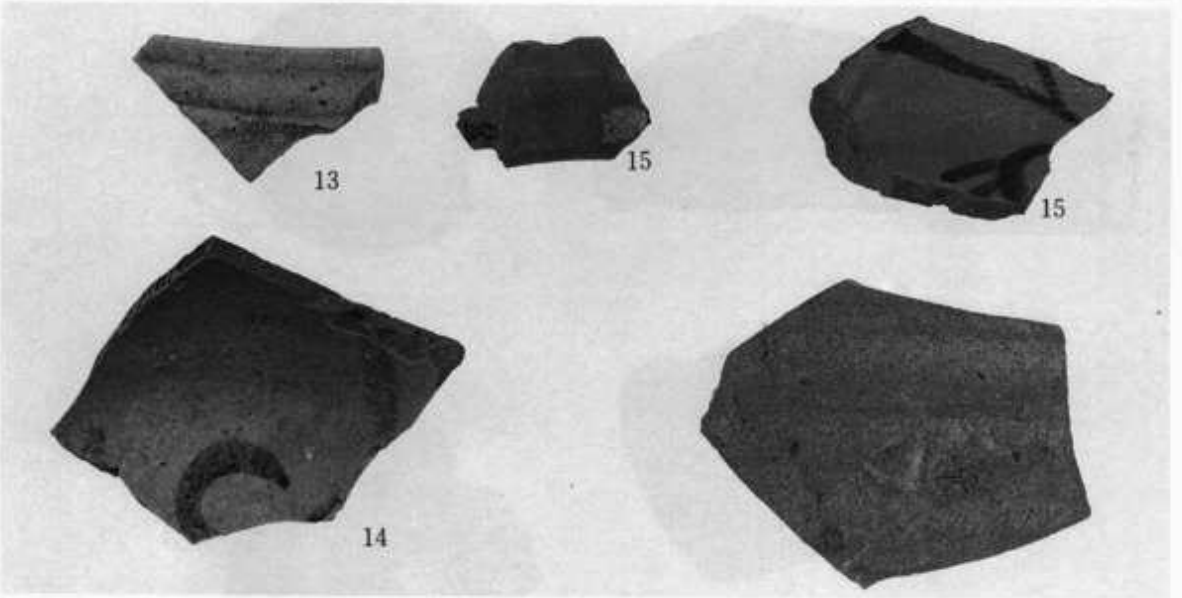

24
26
9
8

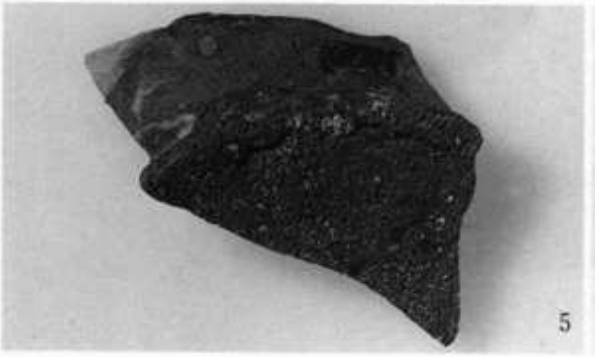

24
26
8
9

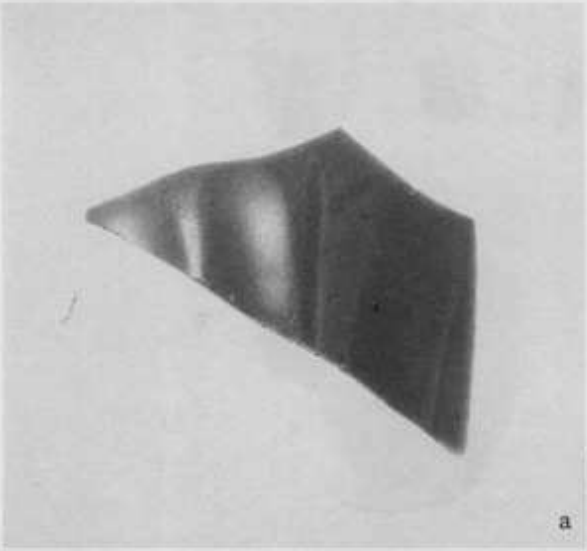

24
11
10

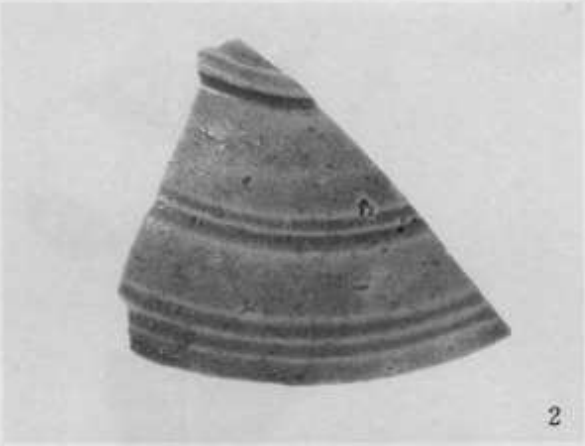
Pla. 32








a


2

3

5

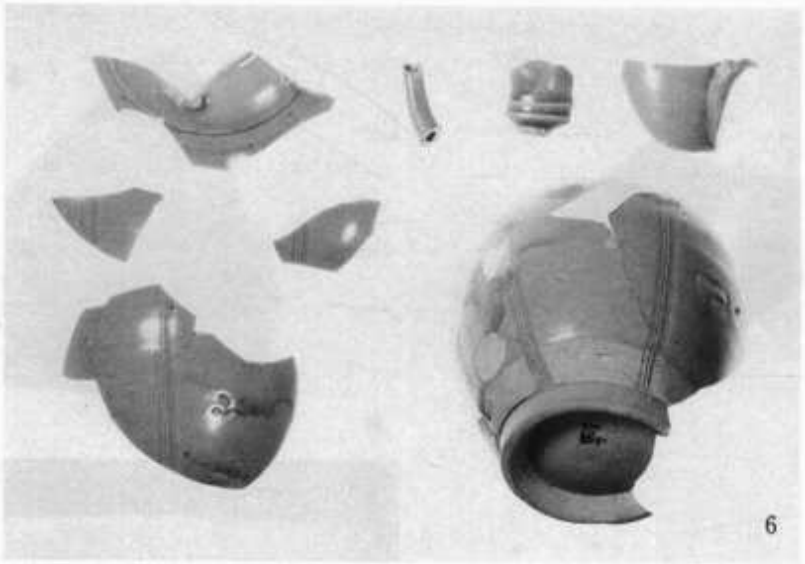
2

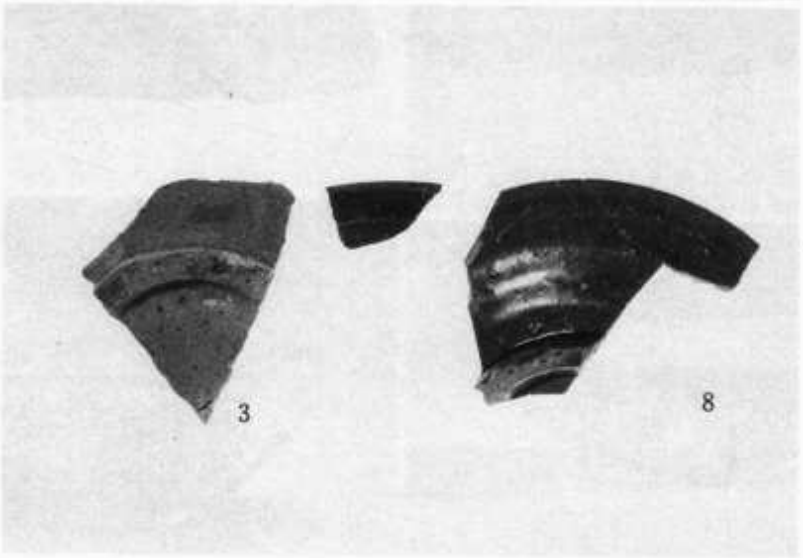
9

8

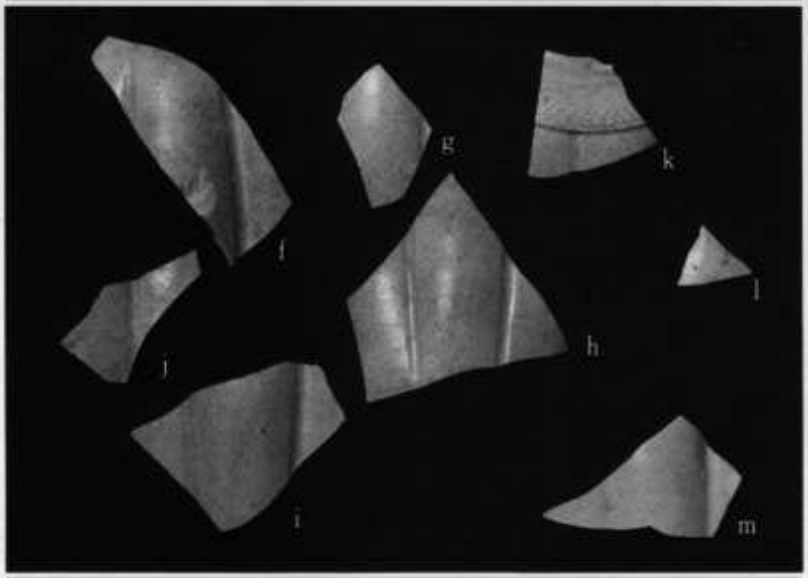
21

Pla. 34



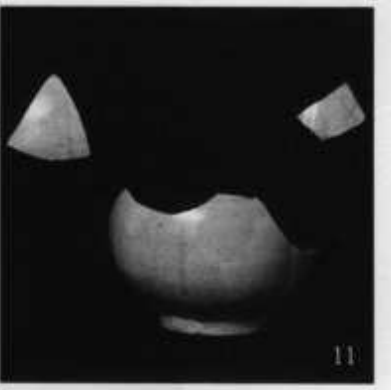


Ⅰ　27―2次調査
白磁

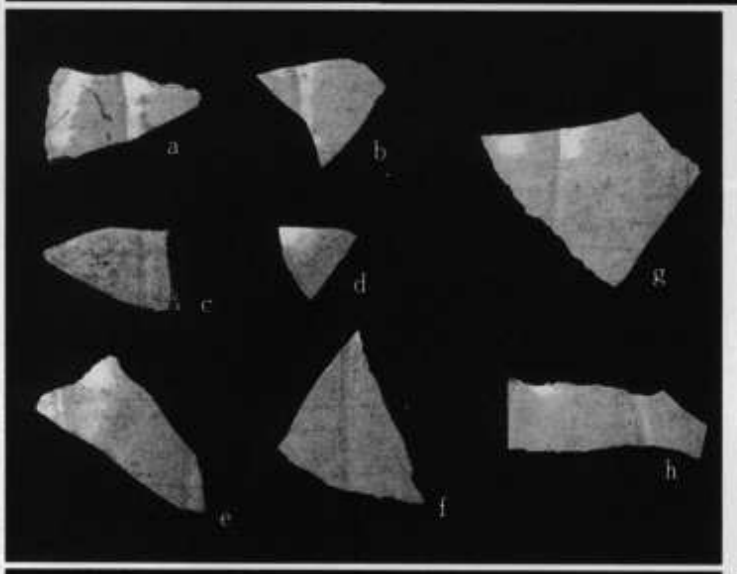


Ⅱ　白磁

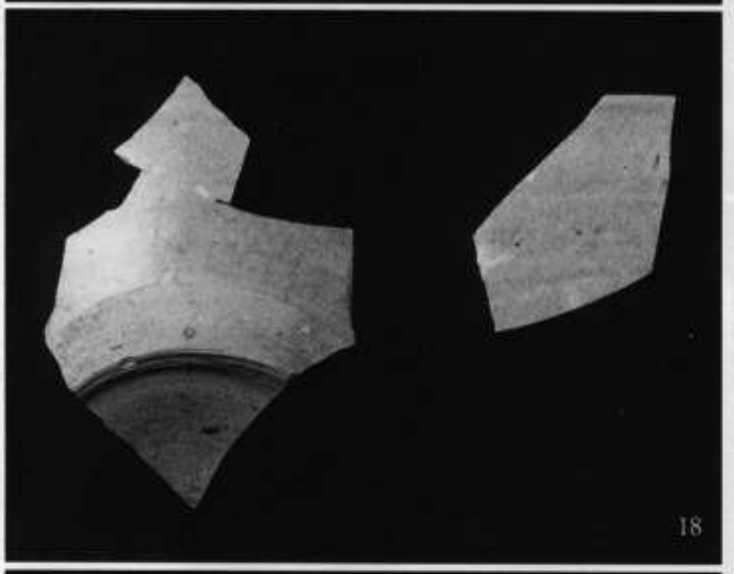
Ⅲ　白磁



Ⅰ　27—2次調査白磁

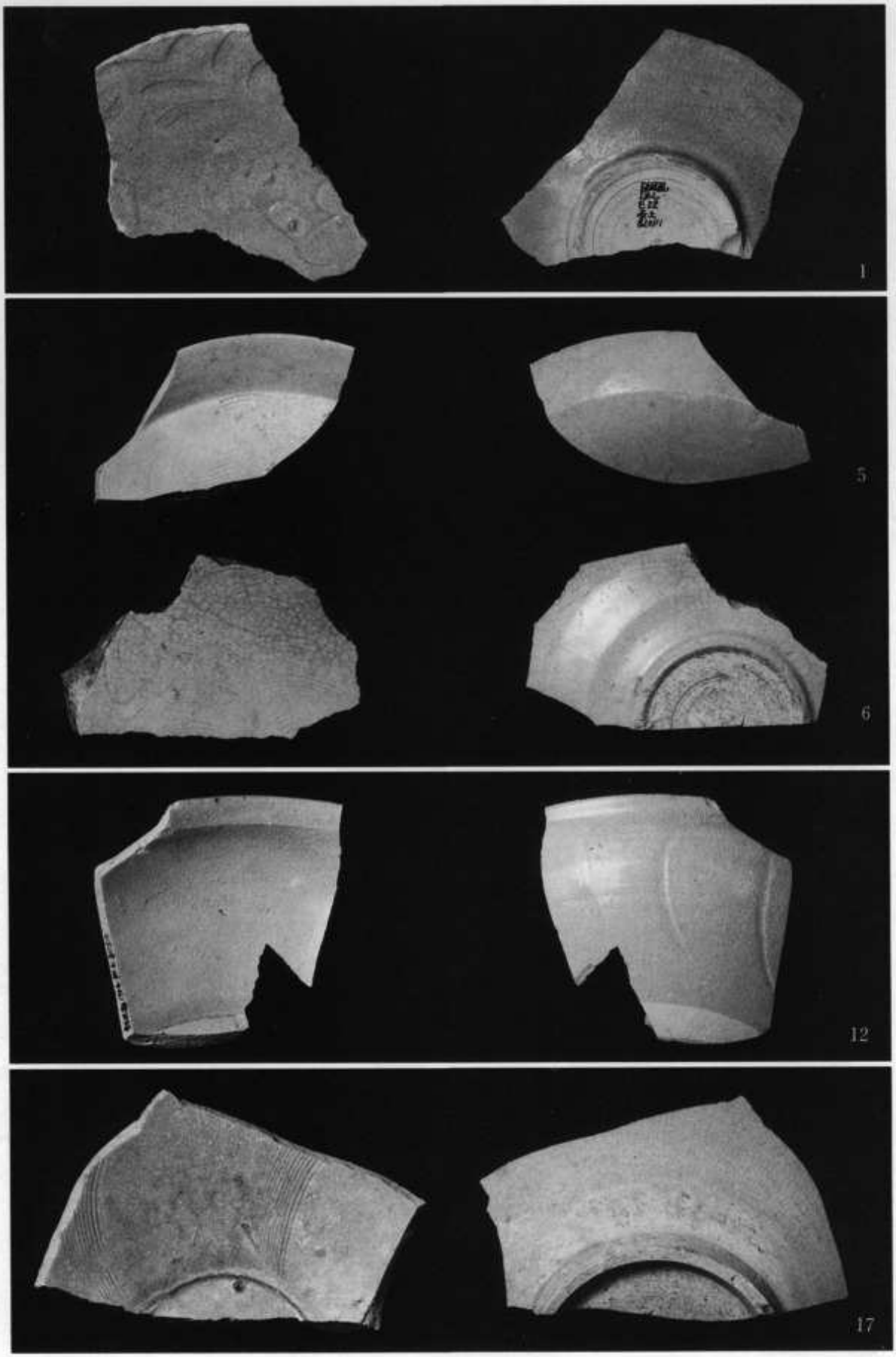


Ⅱ　白　磁



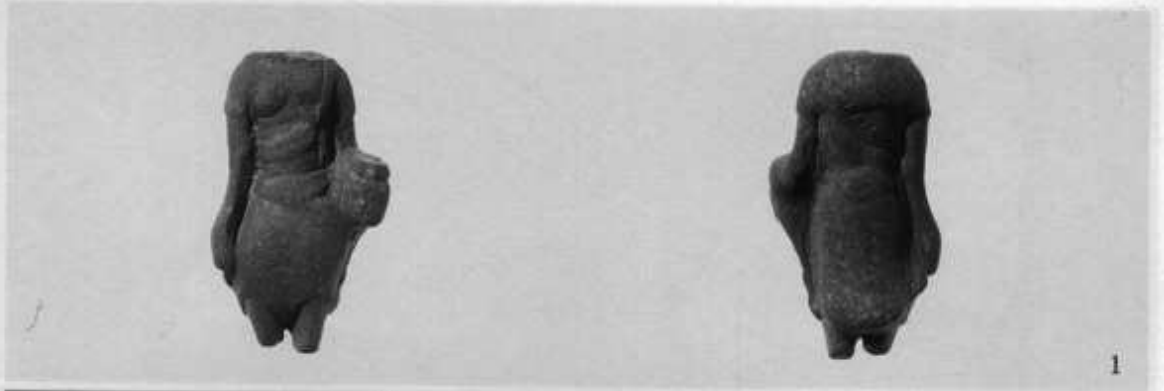
Ⅲ　白　磁

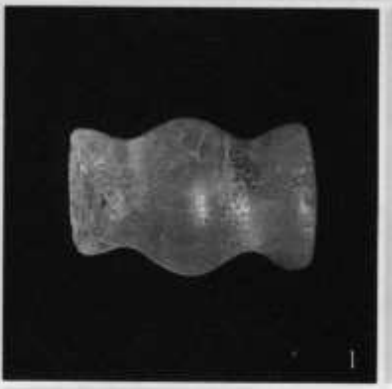
Ⅳ　白　磁

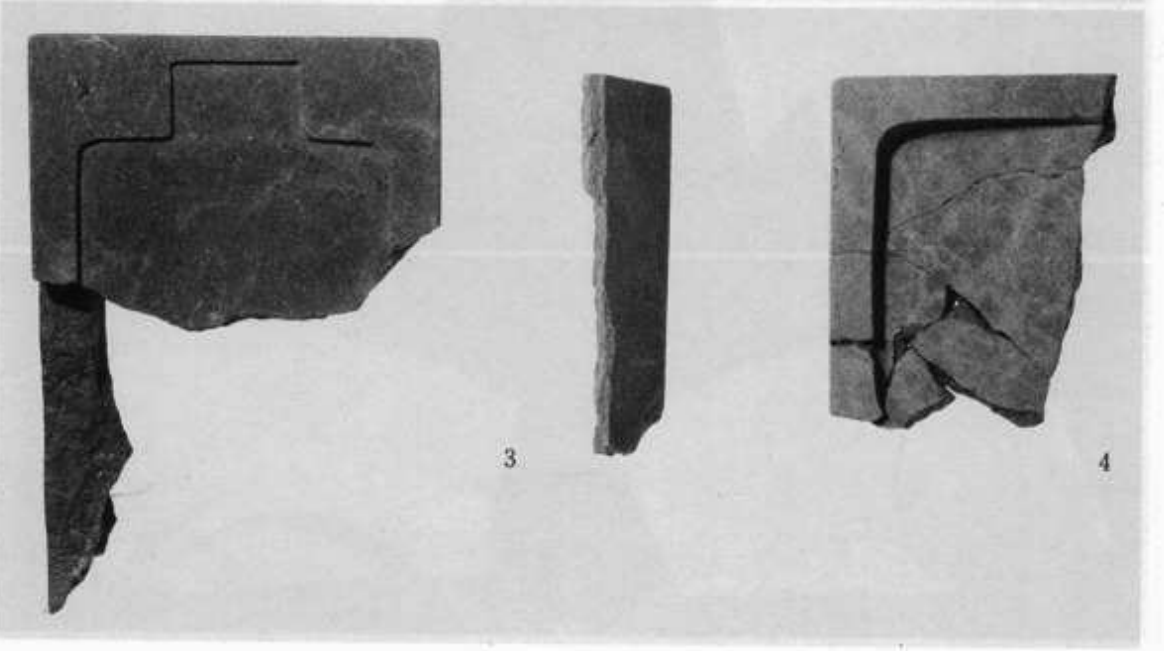


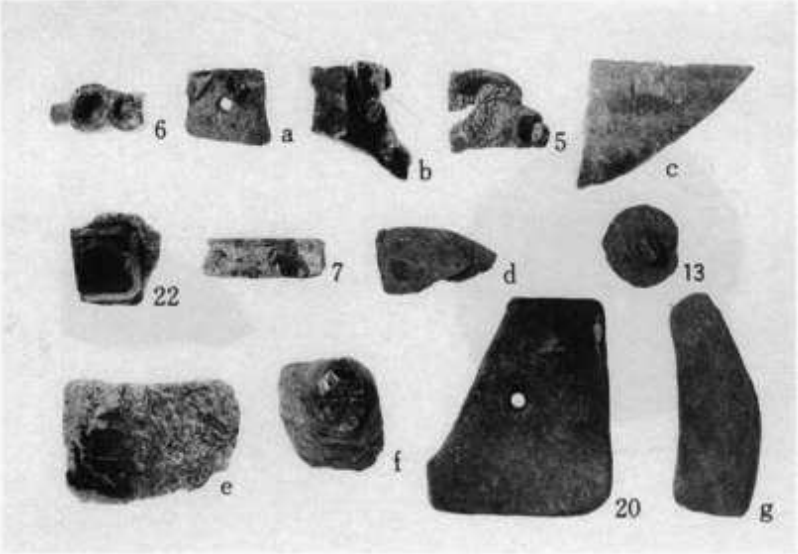
27—1・2次調査

Pla. 38



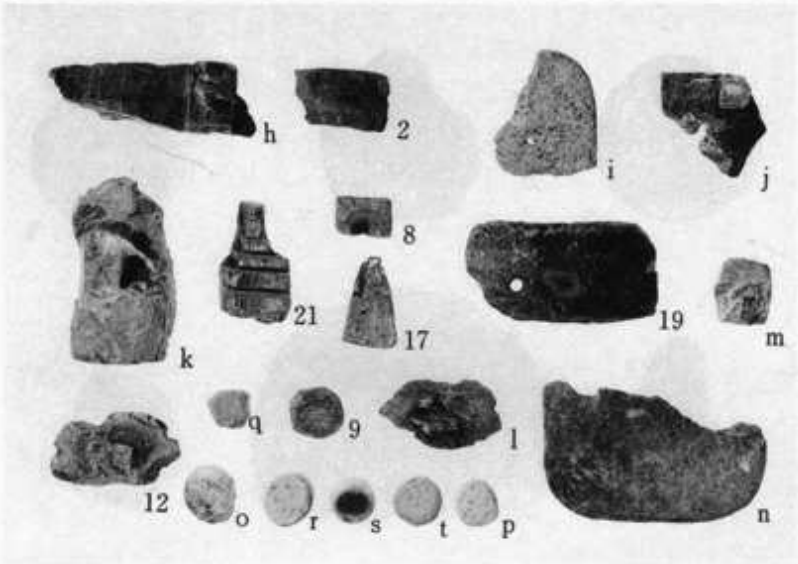






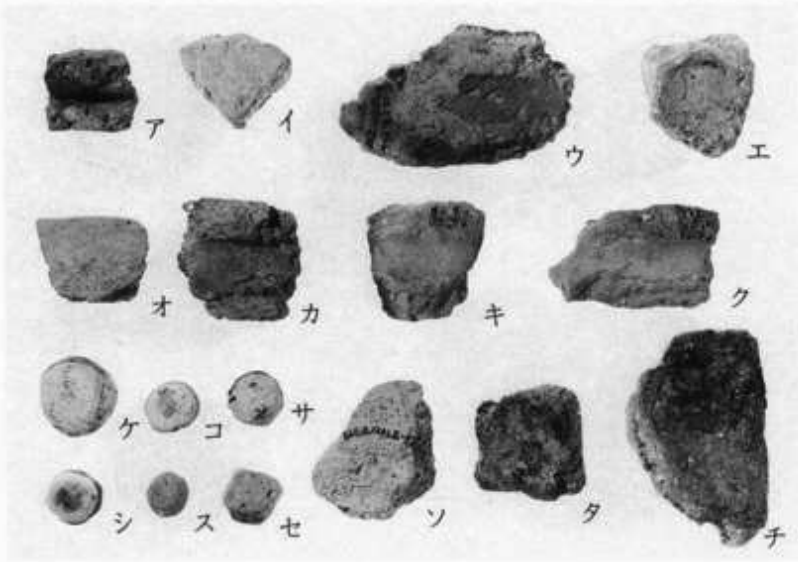
Ⅰ　第27－1
次調査

gは磨製石斧、他は滑石製品
暗灰色土層（6）
暗灰色粘土層（5・7・c）
淡黄色粘土層（22）
暗褐色土層（13・a・d・e・f）
灰色砂層（20）
茶色砂層（b）
27ＳＫ203（g）



Ⅱ　第27－2
次調査

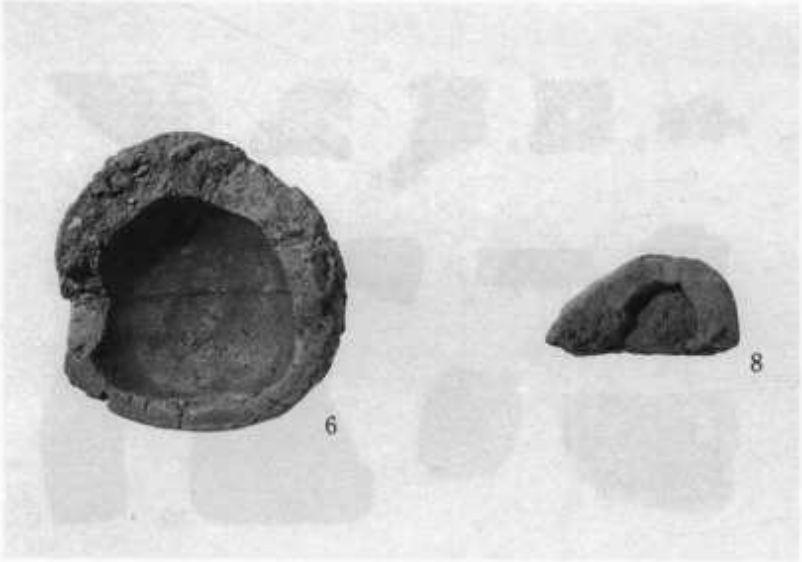
滑石製品（2・8・9・12・17・19・21・h～n）
瓦玉（p～t）
円盤形土製品（o）
黒褐色土凹み（8・9・h・n・o・p・r）
暗褐色土層（2・19・g）
排土（12・l）黄灰色土層（m）
表土（t）
27ＳＤ157（21）
27ＳＤ188（17）
27ＳＸ133（i）
27ＳＫ145（j）
27ＳＸ154（k）
27ＳＤ130（s）



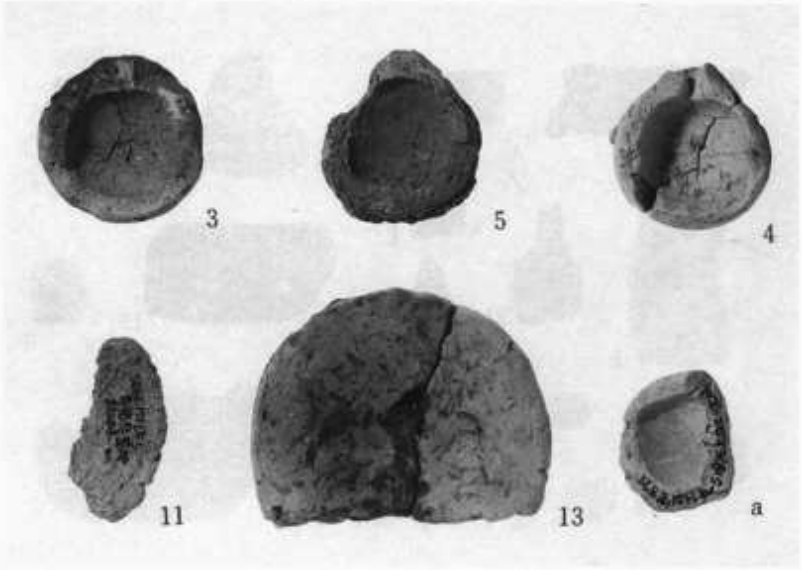
Ⅲ　第27－1
次調査

生産関係遺物
ルツボ（エ・チ）
フイゴ羽口（ウ・カ・キ・ク）
生産用具？(ア・イ・オ・ソ・タ)
瓦玉（ケ・コ・サ・シ・ス・セ）
暗灰色土層（イ・ク・ソ）
暗灰色粘土層（キ・コ・サ・ス）
暗褐色土層（ア・エ・シ・セ）
黄褐色粘土層（ウ・オ・カ・チ）
27ＳＫ203（ケ）
27ＳＸ221（タ）

Pla. 40

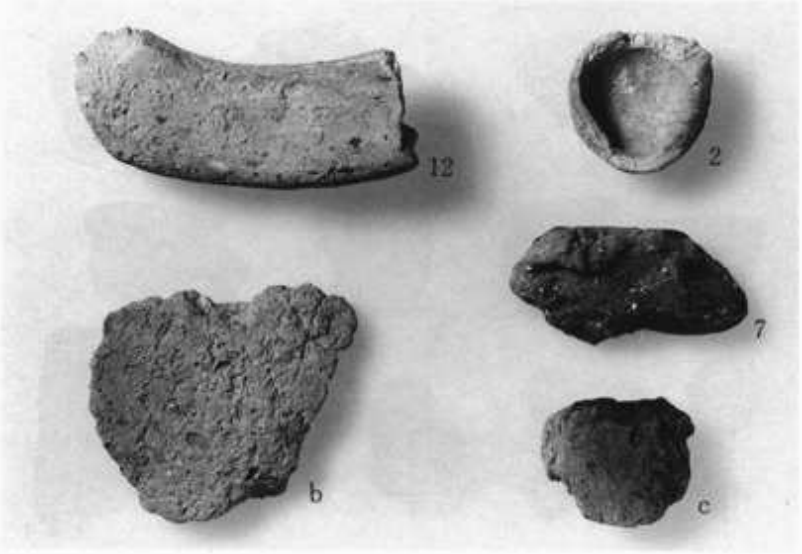


I



II

a：第27—1次調査暗灰色土層



III

b、c：27SK224

付　　編

付　編　Ⅰ

1．本文に使われた記号、分類の説明

遺構番号

条坊Ⅲから個有遺構番号を次のように改める。条坊Ⅱまで使用した遺構番号はそのままとし調査次数を前列に付加する。

条　19　SE　089

条坊　調査次数　遺構種別　個別遺構番号

『条坊Ⅰ』および『Ⅱ』で示していない分類事項については下記に出典を明示する。

井戸分類　横田賢次郎「大宰府検出の井戸ーとくに形態分類を中心としてー」『九州歴史資料館研究論集3』(1977)

文字瓦分類　石松好雄・高橋章「大宰府出土の瓦について(二)」『九州歴史資料館研究論集4』(1978)

軒瓦分類　高橋章「鴻臚館系瓦の様相」『九州歴史資料館開館十周年記念大宰府古文化論叢下巻』(1983)

製塩土器　森田勉「塩壺考」『大宰府古文化論叢下巻』(1983)

硯分類　横田賢次郎「福岡県内出土の硯についてー分類と編年に関する一試案ー」『九州歴史資料館研究論集9』(1983)

染付分類　小野正敏「15～16世紀の染付椀、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究No 2』(1982)

滑石製石鍋分類　森田勉「滑石製容器ー特に石鍋を中心としてー」『仏教芸術148』(1983)

2．土器分類の追加

『条坊Ⅲ』で新しく出現した分類番号については次の挿図番号を参照するとよい。

土師器

小杯c	fig. 37－13	高杯a	fig. 30－15	蓋b	fig. 30－4、
杯e	fig. 30－1、	高杯b	fig. 30－16, 34—34		

須恵器

大蓋c 3	fig. 32－46～49	壺b	fig. 35－66	鉢b	fig. 35－63
蓋c 4	fig. 31－31	壺c	fig. 32－88	皿c	fig. 37－8

黒色土器

小椀	fig. 54－8	杯c	fig. 29－7

瓦器

杯(小皿)a	fig. 62－9	杯(小皿)c	fig. 64－1

龍泉窯系青磁

椀Ⅰ2a′	fig. 8・15	杯Ⅰ2a′	fig. 11−15〜17	Ⅲ Ⅰ1c	fig. 40−13

越州窯系青磁

杯Ⅱ	fig. 65−23	壺蓋Ⅰ	fig. 66−11	水注Ⅱ	fig. 70−20、
ⅢⅡ（灯盞）	fig. 47−8	壺・水注Ⅰ	fig. 66−10		fig. 63−5
水注Ⅲ	fig. 62−1	椀Ⅱ1a	fig. 3−18 33−105		

高麗青磁

椀Ⅰ1	fig. 55−7	椀Ⅲ1A	fig. 44−4	椀Ⅲ3	fig. 44−5
椀Ⅰ2Bb	fig. 8−21	椀Ⅲ2b	fig. 40−35	椀Ⅲ2A	fig. 55−27
小椀Ⅲ	fig. 40−25	椀Ⅱ1	fig. 54−2	椀Ⅲ2B	fig. 65−26
杯Ⅲ	fig. 71−8				

白磁

椀Ⅱ3b	fig. 27−14	椀博多0−Ⅲ	fig. 65−14、	四耳壺Ⅲ1	fig. 10−9・10
椀Ⅱ4	fig. 27−13		71−7・12	四耳壺Ⅲ2	fig. 10−7・8
椀Ⅱ5	fig. 65−9	椀前川M	fig. 50−11		
椀Ⅴ1c	fig. 59−10	ⅢⅤ2	fig. 7−4		
椀Ⅴ4c	fig. 38−27	ⅢⅥ2b	fig. 64−7		
ⅢⅦ1c	fig. 65−5・6、71−1				

陶器

壺Ⅱ1	fig. 14−33・34	四耳壺Ⅱ	fig. 20−96	水注Ⅵ	fig. 13−30
壺Ⅱ2	fig. 14−35・36	四耳壺Ⅲ1	fig. 41−25	水注Ⅶ	fig. 13−32
壺Ⅲ	fig. 38−40	四耳壺Ⅳ1	fig. 21−98・99	盤Ⅲ	fig. 42−25
壺Ⅳ3	fig. 28−19	六耳壺Ⅳ2	fig. 24−107〜109	小皿	fig. 7−16〜19
壺Ⅳ3b	fig. 14−39	双耳壺Ⅺ1	fig. 20−95	花盆	fig. 7−20
壺Ⅳ4	fig. 39−16				

『条坊Ⅱ』付編16・17頁およびfig. 14は下記のように『条坊Ⅲ』から訂正する。
盤Ⅱ2a・bは盤Ⅰ2a・bに訂正する。

3．土師器の統計値

本文中「口径10.8−[11.5−11.7−11.9]−12.4cm」と記録しているもので両端の数値10.8〜12.4は計測値の範囲、[ ]内の11.5〜11.9は95％統計値、中央の11.7は平均値を示す。『条坊Ⅱ』では確率95％により計算した標式遺構出土土師器の法量表を載せているが、この表を参照して平均値の近い型式に比較しようとする土師器を同定できる。

4．標式遺構の追加（tab. 6）

８Ｃ前半から８Ｃ後半の基準資料が二、三増加したので『条坊Ⅱ』の標式遺構に追加を行なう。『条坊Ⅰ』34頁において７Ｃ後半～９Ｃ前半の基準となる遺構、土層、年代を提示しておいたが、今回は以前ととくに大きく変わるものではない。８Ｃ代においては土師器よりも須恵器の方が細部変遷をたどるのに有効である。

大85次ＳＤ2340下層*「天平六年（734）」銘木簡を出土している。須恵器蓋ｃ１、ｃ２、ｃ３があり、ｃ２の割合が多い。ｃ３はごく少量で小さな三角口縁をなすものはみられない。

条２ＳＤ001　須恵器蓋ｃ２、ｃ３があり、小さな三角口縁をなすｃ３が少量入る。上記大ＳＤ2340と類似するが蓋ｃ２の割合が減少するところからＳＤ2340の後半に位置づけられ８Ｃ中頃に近い年代と考えられる。

段階	型式・遺構		年代観
Ⅰ	政庁新Ⅰ期整地層		
			700
Ⅱ	大ＳＤ2340		725
Ⅲ		条２ＳＤ001	750
Ⅳ	大ＳＫ1280 大ＳＫ1285	条５ＳＫ015	775
Ⅴ	大ＳＥ1081	大ＳＫ1084	
			800
Ⅵ	大ＳＥ400		825

tab. 6　８Ｃの標式遺構

5．『条坊Ⅱ』18頁第11トレンチ（第11－２次調査）11ＳＫ050出土土器の訂正

fig. 24の陶器四耳壺17は古瀬戸系と報告したが、これは誤りで中国陶器四耳壺Ⅲ１類に訂正する。また年代は古瀬戸出現年代から13Ｃ前半と推定したが、土師器から大ＳＫ1204型・12Ｃ中頃が正しい。このことから付表50頁、ＳＫ050の陶器古瀬戸系四耳壺（１）も（中国製）四耳壺Ⅲ１（１）に訂正される。

＊　九州歴史資料館『大宰府史跡昭和58年度発掘調査概要』(1983)

付　編　Ⅱ

第16次調査出土遺物の補遺

『条坊Ⅱ』35頁６ＡＹＮ－Ｂ地域（第16次）調査において遺漏していた遺物をとり上げる。

出土遺物（fig. 84）

１は白磁皿で胎土は純白色に近くやや砂味をおびる。釉は水色味で柔らかい光沢を有し、貫入がある。体部外面下半から底部外面には施釉されない。化粧土がある。体部中位で鈍く屈曲し、口縁は外反する。高台部は内側を斜めに削り、畳付の外側は浮く。底部の形態はⅡ１ａ類に類似するが、径は大きく、胎土、釉調は異なる。外面下半以下は回転ヘラ削りされる。体部内面中位に段を有し、外面にはヘラ状縦沈線がある。16ＳＤ088出土。共伴土師器は大ＳＫ802型で11Ｃ中頃。この種のものは福岡城跡では北宋初期に分類されているが、大宰府出土例は現在の時点では11Ｃ以降に限られる。

２は白磁椀Ⅳ１ｂ類。高台部見こみは直径５㎝の円形焼台痕がみられる。その外周に黒茶色の粒子が付着する。16ＳＤ092出土。共伴土師器は大ＳＫ802型、ＳＤ1330型の２型式を含む。11Ｃ後半。

３は灰釉陶器椀。内外に施釉される。16ＳＫ090出土。共伴土師器は大ＳＤ205Ａ型で10Ｃ前半。４は須恵器壺または盤の獣脚で、16ＳＫ090出土であるが古期のものが混入したと思われる。

５は須恵質土器の鉢。胎土に黒色粒子を含む。内外面は横ナデの凹凸がつく。暗茶色土層出土。

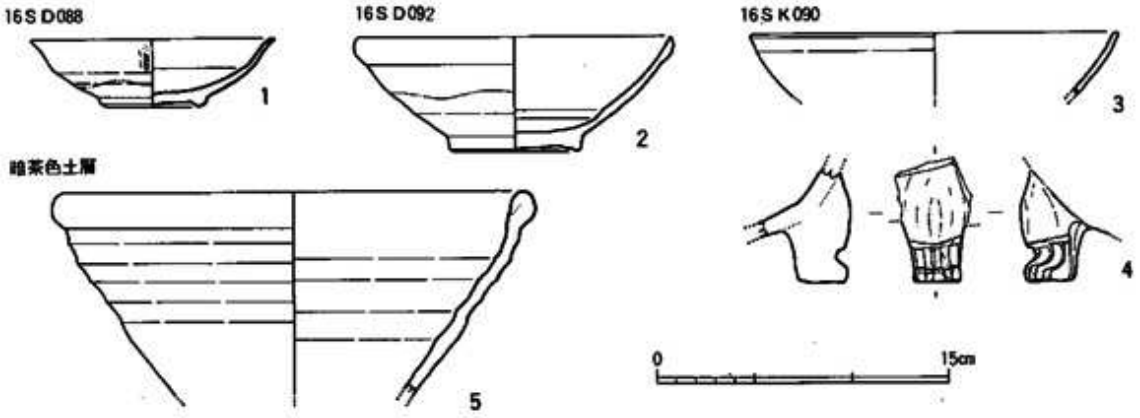


fig. 84　第16次調査（６ＡＹＮ－Ｂ地区）出土遺物実測図

出土遺物一覧表の追加（tab. 7）

『条坊Ⅱ』51頁に次の項目を追加する。

16ＳＤ088　○

土師器	丸底杯ａ〈大ＳＫ802〉小皿ａ〈大ＳＫ674・ＳＥ1083〉脚（２） 後堀器Ⅱ（１）　椀ａ・ｂ　杯ａ　丸底杯ｃ	
黒色土器	Ａ	椀ｃ
	Ｂ	椀
緑釉	椀（１）	
白磁	皿	（１）
		破片（２）
須恵質土器	獣脚（１）	
土製品	（１）	
金属製品	鉄釘（１）、鉄器片（１）	

16ＳＤ092　○

土師器	丸底杯ａ〈大ＳＤ1330〉小皿ａ〈大ＳＤ1330〉杯ａ〈大ＳＫ674・ＳＥ1083〉〈大ＳＫ802〉中椀ｃ２	
黒色土器	Ａ	椀ｃ
瓦器	椀ｃ	
緑釉	杯皿（１）	
青磁	越州窯系	Ⅰ（１）
白磁	椀	Ⅳ１ｂ（２）　Ⅳ（１）　その他（１）
		破片（２）
須恵質土器	鉢（１）	
金属製品	鉄釘（１）	

16ＳＫ090（追加）

須恵器	獣脚（１）　壺？（１）
灰釉	椀（１）

tab. 7

大宰府条坊跡Ⅲ
太宰府市の文化財第8集
1984・3・31

発行　財団法人　古都大宰府を守る会
太宰府市大字観世音寺544-3
(大宰府展示館内)

印刷　瞬報社写真印刷株式会社
福岡市中央区天神5丁目4番16号

太宰府市教育委員会の了解を得て財団法人　古都大宰府を守る会が増刷、頒布するものである。